

東長岡戸井口遺跡

東長岡住宅団地建設工事に
伴う埋蔵文化財調査報告書

第1分冊 本文編

1999

群馬県住宅供給公社
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

ひがし なが おか と い ぐち い せき
東長岡戸井口遺跡

東長岡住宅団地建設工事に
伴う埋蔵文化財調査報告書

第1分冊 本文編

1999

群馬県住宅供給公社
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

東毛地域に位置する太田市は、東国最大の規模を有する史跡天神山古墳があることで御承知のように、古墳時代に大いに栄えた地であります。また中世には、新田氏一族が活躍した地でもあります。この由緒ある歴史の地太田市の焼山南側の東長岡に、群馬県住宅供給公社が「東長岡住宅団地」の造成工事を行うことになり、当該地に埋蔵文化財が存在することが明らかとなっていたため、発掘調査が当事業団に委託されました。

当事業団では、平成7年度より発掘調査を始めましたが、試掘調査結果とは異なるところの遺構が沢山確認され、当初計画を大幅に変更し平成9年1月に調査が終了しました。関係方面に種々ご迷惑をおかけいたしました。発掘調査は旧石器時代の県東部における最大級の遺構を、また縄文時代の竪穴住居跡39軒、8世紀初頭頃開削された大規模用水路、平安時代の群馬県初めての土師器窯、奈良時代から平安時代にかけての竪穴住居跡124軒、掘立柱遺構30棟、墨書土器148点、鎌倉、室町時代の竪穴状遺構、井戸跡、水田跡、室町時代の館跡が調査され、大きな調査成果を上げることができました。

発掘調査した試料は、平成9年度より発掘調査報告書刊行のため整理作業に入りましたが、今年度ようやくそれが終了し、調査報告書を刊行する運びとなりました。

発掘調査から報告書刊行に至るまで、群馬県住宅供給公社、群馬県教育委員会文化財保護課、太田市教育委員会、地元関係者には、種種お世話になりましたことにたいして、衷心より感謝申し上げます。また、この度刊行される本報告書が群馬県並び太田市の歴史を明らかにするための史料として、大いに活用されることを願い、序とします。

平成11年12月25日

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 小 野 宇三郎

例 言

1. 本書は東長岡住宅団地建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査として実施した「東長岡戸井口遺跡」^{ひがしながおかと いぐち}の埋蔵文化財調査報告書である。

2. 遺跡は、群馬県太田市東長岡戸井口・同安良岡町前田地内^{ひがしながおかと いぐち やすらおかまち}に所在する。地番は下記のとおりである。なお、以下の地番は調査着手時のものであり、住宅分譲後の地番とは異なる。

戸井口1584-5・1585・15861・1586・6・1587・2・1589・1・1590・1591・1592・4・1592,5・1593・1594・1595-1・1595・3・1595-4・15961・1596・2・1597-2・1611-2・1612・1・1612-5・1612-4・1613・1・1614・1617・1618・2・1618・3・1619・1620・1621・1622・1623・1624・1・1625-1・1625-4・1626・2・1626・1・1627-1・1627-3・1628・1・1629-1・1630-1・1630-2・1648-2・1649・1648・23・1650・1651・1652・1653・7・1653・8・1654-3・1666・1667・1668-1・1668・2・1668-3 安良岡15-2・16-1・16-4・17-1・17-2・18-1・20-1

3. 事業主体 群馬県住宅供給公社

4. 調査主体 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

5. 調査期間 平成7年4月1日から平成9年1月31日

6. 調査組織 事務担当（平成7年度）

常務理事	中村英一	事務局長	原田恒弘
調査研究部長	神保侑史	管理部長	蜂巢 実
調査研究第1課長	真下高幸	総務課長	小渕 淳
係長代理	國定 均、笠原秀樹	主 任	須田朋子、吉田有光、柳岡良宏
主 事	高橋定義	嘱 託 員	大澤友治、土橋まり子
事務補助員	吉田恵子、並木綾子、今井とも子、吉田笑子 松井美智代、内山佳子、 星野美智子、羽鳥京子、菅原淑子、松下次男、浅見宜記、山本正司、石田克己、 若田 誠		

事務担当（平成8年度）

常務理事	菅野 清	事務局長	原田恒弘
副事務局長兼調査研究第1部長	赤山容造	調査研究第2部長	神保侑史
管理部長	蜂巢 実	調査研究第1課長	真下高幸
総務課長	小渕 淳	総務係長	笠原秀樹
経理係長	國定 均	係長代理	須田朋子
主 任	吉田有光、柳岡良宏	主 事	宮崎忠司
嘱 託 員	大澤友治、土橋まり子		

事務補助員 吉田恵子、並木綾子、今井とも子、吉田笑子、松井美智代、内山佳子、
星野美智子、羽鳥京子、菅原淑子、山口陽子、佐藤美佐子、松下次男、
浅見宜記、山本正司、若田 誠

調査担当（平成7年度）

専 門 員 木津博明 主任調査研究員 岩崎泰一 調査研究員 大竹正隆（現境北中教諭）

調査担当（平成8年度）

専門員 木津博明、岩崎泰一 調査研究員 熊谷 健

調査作業員（平成7・8年度）

佐波郡東村地区 大山貞一

佐波郡境町地区 細谷友江、高橋左近、北川 鎮、梅沢さと能、藤村春江、高橋恒幸、松波忠雄、
梅沢 亙、久保田みち子、小林みどり

新田郡尾島町地区 伊田ラク、中村みどり、大隅ノブ子、荒井光子、大関たつ代、田部井ふみ、茂木利雄

新田郡新田町地区 田辺弘子、広瀬林太郎、長山絹子、長谷川武、堀川初恵、斎藤清一、櫻井裕子、
湯地史子、古郡てるよ、大竹允子、高橋喜久枝、大竹達四郎、桜井次男、
小此木邦雄、小此木実、吉田治喜三、高田喜久雄、河内 保、新井郁男、吉郡勇司、
松島利得

邑楽郡大泉町 佐藤七平、古川 薫、古川加代子、金田昭二、鴨居 愛、

前橋市 高橋八重、福島美千代

太田市 柳 正幸、小林とみ江、片亀幸枝、森 幸枝、富岡リウ、武藤宮明、田山 操、須
永ふみ子、堀越ミチ、塚越金次郎、土居昭五郎、尾内秋雄、持田金敏、尾内久子、
田村晴江、小玉敦子、松井千恵子、福島玉江、石川裕子、青木正博、毛塚善之、
久保田敏彦、猿谷盛平、中野ステ、斉藤咲子、工藤貞司、横沢智子、岩崎のぞみ、
金野つな子、太田照枝、篠原栄子、佐藤セツ子、尾島可つ美、山口知恵子、
住谷信一、高橋扶美子、青山正義、八木田泰三、長翁理恵、斉藤美代子、高林祐至、
富岡幸代、後藤ミサ子、斉藤秀司、家中すみ江、川添一枝、村田芳子、高柳好江、
藤田美恵子、森いづみ、六本木由美子、武藤里見、武藤みさ子、蓮子玲子、
蓼沼幸子、小暮妙子、石坂由美子、君島律江、上原京子、今富奈々絵

栃木県足利市 中島文子、荒井恵子、藤倉淑美、

埼玉県行田市 小野田 肇

7. 整理主体 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

8. 整理期間 平成9年4月1日から平成11年6月30日

9. 整理組織 事務担当（平成9年度）

常務理事 菅野 清 事務局長 原田恒弘

調査研究第1部長 赤山容造 調査研究第2部長 神保侑史

管理部長 渡辺 健 調査研究第1課長 平野進一

総務課長 小淵 淳 総務係長 笠原秀樹

経理係長 井上 剛 係長代理 須田朋子

主 任 吉田有光、柳岡良宏、岡嶋伸昌

嘱 託 員 大澤友治、土橋まり子 主 事 宮崎忠司

事務補助員 吉田恵子、並木綾子、今井とも子、吉田笑子、 内山佳子、星野美智子、
羽鳥京子、佐藤美佐子、本間久美子、北原かおり、

安藤友美、狩野真子、松下次男、浅見宜記、吉田 茂、若田 誠

整理担当 主幹兼専門員 大江正行、木津博明

遺物写真撮影 専門員 佐藤元彦（墨書赤外撮影 大江正行）

整理補助員 高橋順子、田村栄子、原島弘子、蜂巢綾子、金子ミツ子、本暮芳枝、
須田はつ江、小久保ヒロミ、飯野睦美、船津博子、高橋初美、狩野由美子

整理嘱託員 長沼久美子、

整理補助員 高橋真樹子、岩淵節子、南雲富子、光安文子、富沢スミ江、小菅優子、
小材浩一、茂木範子、萩原妙子、田中富子、田中のぶ子、長岡和恵、木暮紀子
安藤三枝子、島村玲子、若海美奈子、南雲繁子、高橋美穂子、小保方香里

事務担当（平成10年度）

常務理事・事務局長・調査研究第1部長 赤山容造

調査研究第2部長 神保侑史 管理部長 渡辺 健

調査研究第1課長 平野進一 総務課長 坂本敏夫

総務係長 笠原秀樹 経理係長 小山建夫

係長代理 須田朋子 主 任 吉田有光、柳岡良宏

主 任 岡嶋伸昌、宮崎忠司 嘱託員 大澤友治、土橋まり子

事務補助員 吉田恵子、並木綾子、今井もと子、吉田笑子、内山佳子、佐藤美佐子、
本間久美子、北原かおり、本地友美、狩野真子、松下次男、浅見宜記、
吉田 茂、若田 誠

整理担当 専門員 岩崎泰一

遺物写真撮影 専門員 佐藤元彦

整理補助員 田村栄子、田中精子、長岡美和子、神谷みや子、掛川智子、小林恵美子、
大野容子

佐藤美代子、光安文子、千代谷和子、富沢スミ江、小菅優子、小材浩一、
高橋真樹子、田中のぶ子、高橋初美、田中富子、長岡和恵、安藤三枝子、
丸橋富美子、南雲繁子、高橋美穂子、鶴岡真希子、柳沢有里子

事務担当（平成11年度）

常務理事・事務局長 赤山容造 調査研究第1部長 神保侑史

調査研究第2部長 水田 稔 管理部長 住谷 進

調査研究第3課長 小山友孝 総務課長 坂本敏夫

総務係長 笠原秀樹 経理係長 小山建夫

係長代理 須田朋子、吉田有光 主 任 柳岡良宏、岡嶋伸昌

主 事 片岡徳雄 嘱託員 大澤友治、土橋まり子

事務補助員 吉田恵子、並木綾子、今井とも子、吉田笑子、内山佳子、佐藤美佐子、
本間久美子、北原かおり、狩野真子、松下次男、浅見宜記、吉田 茂、若田 誠

整理担当 専門員 岩崎泰一

遺物写真撮影 専門員 佐藤元彦

整理補助員 田中精子、長岡美和子、神谷みや子、掛川智子、小林恵美子、大野容子
佐藤美代子、光安文子、富沢スミ江、小菅優子、小材浩一、高橋真樹子、
田中信子、高橋初美、田中富子、長岡和恵、安藤三枝子、丸橋富美子、

南雲繁子、高橋美穂子、鶴岡真希子、柳沢有里子

10. 記録保存図発掘調査に伴う遺構等の記録図は1/20の縮尺を基本として作図したが、遺構種により一部1/10・1/40・1/60・1/100の縮尺で作図した。作図枚数は2,362枚である。
作図の多くは、技研設計測量株式会社に委託した。
11. 記録写真発掘調査中に伴う写真撮影は発掘調査担当者が撮影したが、空中写真撮影は技研設計測量株式会社に委託した。
12. 分析・委託
石材同定 飯島静男（群馬地質研究会）
地質調査・テフラ同定・植物珪酸体分析・花粉分析 株式会社 古環境研究所
樹種固定 株式会社 パレオ・ラボ
遺構・遺物トレース 技研設計測量株式会社
13. 発掘調査及び本書を作成するにあたり、群馬県教育委員会・群馬県住宅供給公社・太田市教育委員会・太田市土地開発公社・待矢場両堰土地改良区及び以下の方々に御指導・御鞭撻を戴いた。記して感謝の意を表したい。（敬称略）
大川 清・吉岡康暢・須田 勉・池上 悟・酒井清治・本澤慎輔・似内啓介・大金宜亮・橋本澄朗・中山 晋・上野修一・田熊清彦・芹澤清八・大橋泰夫・田代 隆・津野 仁・荒川竜一・岩上照郎・市橋一郎・大澤伸啓・足立加代・河野一也・新保昌弘・上野川 勝・高橋一夫・村田健二・井上尚明・伴野和信・昼間 孝・赤熊浩一・木戸春夫・粟島義明・渡辺 一・佐々木幹雄・荒川正夫・阿久津 久・瀬谷昌良・鈴木素行・服部敬史・有吉重蔵・雪田 孝・上敷領 久・荒井健治・塚原二郎・石田広美・糸原 清・山路直充・駒田利治・服部久美子・田崎通雅・遠藤政孝・松尾宜方・斎木秀雄・小林康幸・大竹憲昭・谷 和隆・堤 隆・守谷昌文・功力 司・増田 修・中島直樹・前原 豊・宮田 毅・大塚昌彦・瀧野 巧・
14. 本書の執筆は以下のとおりである。
巾 隆行—調査に至る経緯（第1章第1節第1項）
大江正行—樹種同定の結果に就いて（第5章第3節第1項）・遺物観察表（縄文以外）
岩崎泰一—基本土層・旧石器
木津博明—上記他・遺物観察（縄文）
墨書文字の一部に就いては高島英之氏（県文化財保護課）に釈読を賜わった。
15. 本遺跡の記録図・記録写真・出土遺物は、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が管理し、群馬県埋蔵調査センターに保管してある。

凡 例 1

1. 本書で使用した地形図は、太田市発行白図1：5,000を編集した。
2. 遺物観察表中「度目」「度目・量目」は、度が長さを示し、量は重量を示している。又、()は、完形品以外の推定値・復元値を示す。
3. 遺物観察表中の「色調」は、『標準土色帳』農林省農林水産技術会議事務局監修 財団法人日本色彩研究所色表監修 1976を使用して記載した。
4. 古代の土器種に就いて、原則として轆轤使用の製品を須恵器、非轆轤使用の製品を土師器等として扱った。
5. 古代土器の器種で、高台の付く物を埴、高台の付かないものを坏、口径に比較して器高の低いものを皿とした。この他、通有慣用的に使用している名称を用いた。
6. 各図版中に用いた表現方法等に付いては、第2分冊の巻頭に「凡例」として載せた。
7. 本遺跡の出土遺物の注記は、「ゴム印」に依り行い、ゴム印が押捺出来ない遺物に就いては、ポスターカラー等を用いて行った。注記は「東長岡戸井口」以下に各遺構名称等、必要記載事項を簡略させた状態で記した。

発掘調査報告書抄録

ふりがな	ひがしながおかといぐちいせき						
書名	東長岡戸井口遺跡						
副書名	東長岡住宅団地建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書						
シリーズ名	財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告書						
シリーズ番号	第257集						
編集者	岩崎泰一・木津博明						
編集機関	財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団						
所在地	〒377-8555 群馬県勢多郡北橋村大字下箱田784番地2号 TEL0279 (52) 2511						
発行年月日	平成11年12月25日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号				
東長岡戸井口	群馬県太田市 ひがしながおかまちあぎといぐち 東長岡町字戸井口 やすらおかまちあぎまえだ 同安良岡町字前田	207	00409	36°23'48 130°18'	19950401 19970131	31,524 46,832	東長岡住宅団地建設に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
		旧石器時代	ブロック・配石	石核・ポイント ナイフ形石器	旧石器は県東部で最大級の遺跡。縄文住居跡・土坑は環状分布。7C末～8C初頭の開削が見込まれる大規模用水路。 掘立は時期毎に郡単位に分布。土師器窯は群馬県下初例。墨書土器は148点出土。「主」が多い、「山田」も3点出土。1号堀は、As-BP降下直後堀内をを埋めて水田化する。水田跡は8面が確認されている。常滑大甕は竪穴状遺構と井戸跡からの双方から出土し、双間で接合している。館跡は3基、1基は14C前半か。他は、15Cを中心とする時期。 館内郭からは夥しい量のピツ屋敷跡が2カ所で発見されている。2号は4時期にわたり改修。左記の一括遺物がある。		
	集落	縄文時代	竪穴住居跡・土坑	縄文土器・土偶・石器			
		古墳時代	竪穴状遺構・井戸跡 土坑	土師器			
		奈良時代	竪穴住居跡・掘立	土師器・須恵器			
		平安時代	竪穴住居跡・掘立	土師器・須恵器・墨書			
		鎌倉時代	竪穴状遺構・井戸跡	青白磁合子揃・常滑大甕・土師質土器皿			
		室町時代	竪穴状遺構・井戸跡 掘立・地下式土坑 土墳墓・土坑・館跡	土師質土器皿・軟質陶器・焼締陶器・陶磁器・古銭			
		江戸時代	屋敷跡・溝条遺構 桶土坑・土坑・井戸跡・掘立・	土師質土器皿・軟質陶器・焼締陶器・陶磁器			
	生産	平安時代	土師器窯	細片の土師器			
			大規模用水路	土師器・須恵器			
		鎌倉時代	水田跡				
		室町時代	水田跡				
	江戸時代	水田跡					

目次

序

例言

凡例

目次

対照目次

第1章 調査経過……………1	第2節 溝条遺構……………18	第3項 中世……………40
第1節 調査に至る経緯……………1	第1項 近世……………18	第4項 古代……………42
第2節 調査経過……………2	第2項 中世……………19	第5項 縄文時代……………43
第1項 発掘調査経過……………2	第3項 古代……………19	第9節 第1号窯跡……………45
第2項 整理事業経過……………2	第4項 第1号堀の調査に就いて…20	第1項 第1号窯跡に就いて…45
第2章 遺跡立地……………3	第5項 第1号堀の性格に就いて…22	第10節 近世屋敷跡に就いて…46
第1節 遺跡立地……………3	第3節 住居跡……………25	第1項 第1号屋敷跡……………46
第1項 地質……………3	第1項 竪穴住居跡に就いて…25	第2項 第2号屋敷跡……………47
第2項 遺跡地周辺の微地形……………3	第2項 奈良・平安時代……………25	第11節 中世館跡に就いて…49
第2節 周辺遺跡……………4	第3項 古墳時代……………27	第1項 第1号館跡に就いて…49
第1項 遺跡地……………4	第4項 縄文時代……………28	第2項 第2号館跡に就いて…50
第2項 周辺遺跡……………4	第4節 竪穴状遺構……………30	第3項 第3号館跡に就いて…50
第3章 調査方法と 基本土層……………11	第1項 竪穴状遺構に就いて…30	第5章 理科学分析……………52
第1節 基準杭と調査……………11	第2項 中世の竪穴状遺構に就いて…30	第1節 理科学分析にあたって…52
第1項 基準杭の設定方法……………11	第5節 掘立柱建物跡……………31	第1項 理科学分析と発掘調査…52
第2項 遺構発掘調査……………13	第1項 発見された掘立柱建物跡 に就いて……………31	第2項 理科学分析と整理事業…52
第3項 遺構図化……………13	第2項 近世……………31	第2節 理科学分析……………53
第4項 遺構写真……………13	第3項 中世……………31	第1項 土層とテフラ……………53
第2節 基本土層……………14	第4項 古代……………32	第2項 花粉分析……………60
第1項 基本土層に就いて……………14	第6節 地下式土坑……………35	第3項 植物珪酸体(プラント・ オパール)分析……………65
第4章 発見された遺構・ 遺物に就いて……………16	第1項 地下式土坑に就いて…35	第4項 放射性炭素年代測定結果…69
第1節 発見された遺構・ 遺物に就いて……………16	第7節 井戸跡……………36	第5項 出土木製品の樹種同定…70
第1項 発見された遺構……………16	第1項 発見された井戸跡に就いて…36	第6項 石器石材鑑定結果に就いて…86
第2項 発見された遺物……………16	第2項 近世の井戸跡に就いて…36	第6章 鑑定結果の検討…88
	第3項 中世前半……………37	第1節 東長岡戸井口遺跡 出土材に就いて…88
	第4項 中世後半……………38	第7章 まとめ……………90
	第5項 古代……………38	
	第8節 土坑に就いて……………39	
	第1項 発見された土坑に就いて…39	
	第2項 近世以降……………39	

対 照 目 次

章 節	項 目	第 1 分 冊			遺 物		写真図版	
		挿図番号	頁 数	諸 原	挿図番号	観察表	遺 構	遺 物
1	経過		1～2					
	1 発掘調査に至る経緯		1					
	2 発掘調査と整理作業	図1	2					
2	遺跡位置		3～10					
	1 遺跡立地		3					
	2 周辺遺跡	付図2	3～10	表1				
3	調査方法と基本層序		11～15					
	1 基準杭とグリッド	図2	11～13					
	2 基本層序	図3	14・15					
4	1 発見された遺構・遺物に就いて		16～18					
	1. 発見された遺構に就いて		16	表2				
	2. 発見された遺物に就いて		16～18					
	2 溝状遺構	9～58	18～24		9～58	139～155		
	1. 近世		18					
	2. 中世		19					
	3. 古代		19					
	4. 第1号堀の調査に就いて	図4	20～22				13～18	
	5. 第1号堀の性格に就いて	図5	22～24					
	3 住居跡	59～372	25～29		59～372	155～220	32～91	139～184
	1. 住居跡に就いて		25					
	2. 奈良・平安時代		25・26					
	3. 古墳時代		27	表3				
	4. 縄文時代	図6	28・29					
	4 竪穴状遺構	373～398	30		373～398	221～223	92～94	185・186
	1. 竪穴状遺構		30					
	2. 中世		30					
	5 掘立柱建物跡	399～468	31～34		399～468	223～230	95～98	186
	1. 掘立柱建物跡に就いて		31					
	2. 近世		31				95・98	
	3. 中世		31～32				96・98	
	4. 古代	図7	32～34	表4			95～98	186
	6 地下式土坑	469～491	35		469～491	230～234	98～101	187・188
	1. 地下式土坑に就いて		35					
	7 井戸跡	492～591	36～39		492～591	234～254	101～103	189～207
	1. 発見された井戸跡に就いて		36					
	2. 近世の井戸跡に就いて		36・37					
	3. 中世の井戸跡に就いて		37・38					
	4. 古代の井戸跡に就いて		38・39					
	8 土坑	594～665	39～44		594～665	255～298	105～129	
	1. 発見されて土坑に就いて		39					
	2. 近世の井戸跡に就いて		38・39					
	3. 中世の土坑に就いて	図8・9	40・41					
	4. 古代の土坑に就いて		42					
	5. 縄文の土坑に就いて	図10	43・44					
	9 第1号窯跡	図11・683	45		683	312	104	
	10 近世屋敷に就いて		46～48					
	1. 第1号屋敷跡	図12	46				95	
	2. 第2号屋敷跡	写真1・図13	47・48				20	
	11 中世館跡に就いて		48～51				11・12・21	
	1. 第1号館跡	図13	48				11・12	
	2. 第2号館跡	図14・15	49・51				21	
5	理科学分析		52					
	1 理科学分析にあたって		52					
	1. 理科学分析と発掘調査		52					
	2. 理科学分析と整理事業		52					
	2 理科学分析		53					
	1. 土層とテフラ	図16～27	53～59					
	2. 花粉分析	写真2	60～64	表5～7				
	3. 植物珪酸体分析	写真3・図28～31	65～68	表8～10				
	4. 放射性炭素年代測定	図15	69	表11・12				

章 節	項 目	第 1 分 冊			遺 物		写真図版	
		挿図番号	頁 数	諸 原	挿図番号	観 察 表	遺 構	遺 物
	5. 出土木製品の樹種同定	写真4～12	70～85	表13				
	6. 石器石材の産出地に就いて		86・87					
6	鑑定結果の検討							
	1. 東長岡戸井口遺跡出土材に就いて		88・89					
7	まとめ		90					

項 目	第 2 分 冊				遺 物		写真図版	
	関連記載	挿図番号	頁 数	諸 原	挿図番号	観 察 表	遺 構	遺 物
第1号住居跡	27	59・62	56・58	97	59・62	155	32	139
第2号住居跡	//	60・63	57・58	97	63	156	32	139
第3号住居跡	//	61・64	59・60	97	67	156	32	139
第4号住居跡	28・29	65・67	59・60	97	67	156	33	139
第5号住居跡	25・26	66・68	59・60	97	68	156	33	139
第6号住居跡	28・29	69	61	97	69	156	33	139・140
第7号住居跡	//	70・72	62	97	72	156	33・34	140
第8号住居跡	//	71・73	62・63	97	73	157	34	140
第9号住居跡	//	74	64	97	74	157	34	140
第10号住居跡	//	75	65	97	75	157	34	140
第11号住居跡	25・26	76	66	97・98	76	157	35	141
第12号住居跡	//	77	67	98	77	157	35	141
第13号住居跡	//	78	68	98	78	158	35	141
第14号住居跡	//	79・80	69・70	98	79・80	158	36	141
第15号住居跡	//	81・83	70・71	98	81	158	36	141
第16号住居跡	//	82・84	70・71	98	82	158・159	37	142
第17号住居跡	//	85	72	98	85	159	37	
第18号住居跡	//	86・87	72・73	98	87	159	38	142
第19号住居跡	//	88	73	98	88	159	38	142
第20号住居跡	//	89	74	98	89	159	39	142
第21号住居跡	//	90・91	74・75	98	91	160	39	142
第22号住居跡	//	92・94	76・77	98	94	160	40	143
第23号住居跡	//	93・95・96	76～78	98・99	95・96	160・161	40	143
第24号住居跡	28・29	97～99	78～80	99	97～99	161	40	143
第25号住居跡	//	100	81	99	100	161	41	143
第26号住居跡	28・29	101・102	81・82	99	102	161	41	143
第27号住居跡	//	103	82	99	103	161	41・42	144
第28号住居跡	//	104	83	99	104	161	42	144
第29号住居跡	//	105	83	99	105	162	42	144
第30号住居跡	//	106	84	99	106	162	42	144
第31号住居跡	//	107・108	84・85	99	108	162・163	42	144
第32号住居跡	//	109	86	99	109	163	42	145
第33号住居跡	//	110・111	87・88	99	110・111	163・164	42・43	145・146
第34号住居跡	//	112・113	89・90	99	112・113	164・165	43	146
第35号住居跡	//	114・115	91・92	99	114・115	165	43	146・147
第36号住居跡	//	119	95	99	119	165	43	
第37号住居跡	25・26	116	93	99	116	165・166	43	147
第38号住居跡	//	118	94	99	118	166	44	148
第39号住居跡	28・29	117・120	93・95	99	117・120	166	44	147
第40号住居跡	//	117・120	93・95	99	117	166	44	147
第41号住居跡	//	121～123	96～98	99	121～123	166・167	44	148
第42号住居跡	//	124	98	99・100	124	167	44	149
第43号住居跡	25・26			100			44	
第44号住居跡	//							
第45号住居跡	//	125	99	100	125	167	45	149
第46号住居跡	28・29	126	100	100	126	167・168	45	149
第47号住居跡	//	126	100	100	126	167・168	45	149
第48号住居跡	25・26	127	100	100	127	168	45	149
第49号住居跡	//	128	101	100	128	168	45	149
第50号住居跡	28・29	129～132	101～104	100	129・131・132	168	45・46	149・150
第51号住居跡	//	133～135	104～106	100	133～135	168・169	46	150
第52号住居跡	//						46	
第53号住居跡	//	136	106	100	136	169	46	150

項目	第 2 分 冊				遺 物		写真図版	
	関連記載	挿図番号	頁 数	諸 原	挿図番号	観 察 表	遺 構	遺 物
第54号住居跡	28・29	137・138	106・107	100	137	169	48	151
第55号住居跡	〃	139~148	108~117	100	140・142~148	170・171	46~48	151~153
第56号住居跡	〃	149・150	117・118	100	149	171	48	153
第57号住居跡	〃	151・153	118・119	100	151	171	48	153
第58号住居跡	〃	152・154・160	118・120・125	100	152・160	171・173	48	153・156
第59号住居跡	〃	154~159	120~125	100・101	155~159	171~173	48	154~156
第60号住居跡	〃	163	127	101	163	174	49	157
第61号住居跡	〃	138	107	101	138	169・170	49	151
第62号住居跡	〃	154・161・162	120・126・127	101	161・162	173・174	48・49	156・157
第63号住居跡	〃	164・165	127・128	101	164・165	175	49	157
第64号住居跡	〃	154	120	101			48	
第65号住居跡	25・26	166~168	128・129	101	166・167	175	49	157
第66号住居跡	〃	166・168・169	128・129	101	168・169	175	49	157
第67号住居跡	〃	166・168・170・171	128~131	101	170・171	175・176	49	157・158
第68号住居跡	〃	172~176	131~135	101	172~174	176~178	49・50	158
第69号住居跡	〃	175~177	134~136	101	175・177	178	49	159
第70号住居跡	〃	180・181	137・138	101	181	179	51	159
第71号住居跡	〃	182	138	101	182	179	51	159
第72号住居跡	〃	183・184	138・139	101・102	183・184	179	51	159・160
第73号住居跡	〃	185~187	140~142	102	185~187	179・180	52	160・161
第74号住居跡	〃	188・189	143・144	102	188・189	180	52・53	161
第75号住居跡	〃	190・191	144・145	102	191	180・181	53	161
第76号住居跡	〃	192	145	102	192	181	53	
第77号住居跡	〃	193	146	102	193	181	54	161
第78号住居跡	〃	193・194	146・147	102	194	181・182	54	162
第79号住居跡	〃	195・196	148・149	102	195・196	182	54	162
第80号住居跡	〃	195~197	148~150	102	197・198	182・183	54	162
第81号住居跡	〃							
第82号住居跡	〃	176・178・179	135~137	102	178・179	178・179	50	159
第83号住居跡	〃	199・200	150・151	102	199	183	54	162
第84号住居跡	〃	201・202	152・153	102	201・202	183・184	54・55	163
第85号住居跡	〃	203	154	102	203	184	55	163
第86号住居跡	〃	204・205	155・156	102・103	204・205	184・185	55・56	163
第87号住居跡	〃	208	158	103	208	186	56	164
第88号住居跡	〃	209	159	103	209	186	57	164
第89号住居跡	〃	210~212	160~162	103	210~212	186・187	57・58	164・165
第90号住居跡	〃	213・214	163・164	103	213・214	187	58	165
第91号住居跡	〃	215・216	165・166	103	215・216	187・188	58・59	165
第92号住居跡	27	217・218	166・167	103	218	188	59	165・166
第93号住居跡	25・26	219・220	167・168	103	220	188・189	59・60	166
第94号住居跡	〃	221~223	168~170	103・104	221~223	189	60	166
第95号住居跡	〃	225	171	104	225	190	61	166
第96号住居跡	〃	204・206・207	155~157	104	206・207	185	55・56	163・164
第97号住居跡	〃	226・227	171・172	104	226	190	61	
第98号住居跡	〃	221・222・224	168~170	104	224	189・190	60	166
第99号住居跡	28・29	228~231	172~175	104	228・230・231	190・191	62	167・168
第100号住居跡	25・26	232	176	104	232	191	62	168
第101号住居跡	〃	233	177	104	233	191	63	168
第102号住居跡	〃	234	178	104	234	192	63	168
第103号住居跡	〃	235・236	178・179	104	236	192	64	168
第104号住居跡	〃	237・238	179・180	104	238	192	64・65	168
第105号住居跡	27	239・240	181・182	104	240	192・193	65	163
第106号住居跡	25・26	241・242	182・183	104・105	241・242	193	65	169
第107号住居跡	〃	245~247	184~186	105	245~247	194	65	169
第108号住居跡	〃	248	187	105	248	194	66	169・170
第109号住居跡	〃	249~251	188~190	105	250・251	194・195	66	170
第110号住居跡	〃	252~254	191~193	105	252~254	195・196	67	170・171
第111号住居跡	27	255~258	194~197	105	255~258	196	67・68	171・172
第112号住居跡	25・26	259・260	197・198	105	259・260	197	68	172
第113号住居跡	27	261・262・263	198~200	105	261・263	197	68・69	172
第114号住居跡	25・26	264	201	105	264	197	69	172
第115号住居跡	〃	265・266	202・203	105	265・266	197・198	69	172

項目	第 2 分 冊				遺 物		写真図版	
	関連記載	挿図番号	頁 数	諸 原	挿図番号	観 察 表	遺 構	遺 物
第116号住居跡	25・26	267・268	203・204	105・106	267・268	198	70	173
第117号住居跡	〃	269・270	204・205	106	270	198	70	173
第118号住居跡	〃	271・272	206・207	106	271・272	198・199	71	173・174
第119号住居跡	〃	273	208	106	273	199	71	
第120号住居跡	〃	274・275	208・209	106	274・275	199・200	72	174
第121号住居跡	〃	276・277	209・210	106	276・277	200	72	174
第122号住居跡	〃	278・279	210・211	106	278・279	200・201	73	174
第123号住居跡	〃	280	212	106	280	201	73	174
第124号住居跡	〃	281	213	106	281	201	73・74	174
第125号住居跡	〃	282	214	106	282	201	74	
第126号住居跡	〃	283	214	106・107	283	201	74・75	174
第127号住居跡	〃	284	215	107			75	
第128号住居跡	〃	285・286	215・216	107	285	202	75・76	174
第129号住居跡	〃	287	217	107	287	202	76	174
第130号住居跡	27	288	218	107	288	202	76	175
第131号住居跡	25・26	289・290	218・219	107	290	202	77	175
第132号住居跡	〃	291・292	219・220	107	291・292	202・203	77	175
第133号住居跡	27	293・294	220・221	107	293・294	203	77	175
第134号住居跡	25・26	295	222	107	295	203	78	
第135号住居跡	27	296～298	222～224	107	296・297	203・204	78・79	175
第136号住居跡	25・26	299～301	225～227	107	299・301	204	79	176
第137号住居跡	〃	299・300・302	225～227	107・108	302	204	79	176
第138号住居跡	〃	300・303	226・227	108	303	204	79	
第139号住居跡	〃	305	228	108	305	205	79・80	
第140号住居跡	〃	306	228	108	306	205	80	
第141号住居跡	〃							
第142号住居跡	〃	307～312	228～233	108	307・309～312	205～207	80・81	176～178
第143号住居跡	〃	313	234	108	313	208	81	178
第144号住居跡	〃	314・315	234・235	108	314・315	208	81	178
第145号住居跡	〃							
第146号住居跡	〃	316～318	235～237	108	316～318	208・209	82	178
第147号住居跡	〃	319・321～323	237～240	108	319・322・323	209	82・83	178
第148号住居跡	〃	324～326	240～242	108	324・326	210・211	83	180
第149号住居跡	〃	327	243	108	327	211	83・84	180
第150号住居跡	〃	320～323	237～240	108	320～323	209・210	82・83	179
第151号住居跡	〃	328	244	108・109	328	211	84	180
第152号住居跡	〃	329	244	109	329	211	84	
第153号住居跡	〃	286	216	109				
第154号住居跡	〃	330～332	244～246	109	330・332	211・212	84	180
第155号住居跡	〃	341・342	251・252	109	341・342	214・215	84・85	181
第156号住居跡	〃	338～340	248～250	109	338・340	213・214	85	181
第157号住居跡	〃	343	252	109	343	215	74	181
第158号住居跡	〃	344	253	109	344	215	85・86	182
第159号住居跡	〃	345・346	253・254	109	345	215	86	182
第160号住居跡	〃	347・348	254・255	109	348	215・216	86・87	182
第161号住居跡	〃	349・350	255・256	109・110	349・350	216	87	182
第162号住居跡	〃	351～353	257～259	110	352・353	216・217	87・88	182・183
第163号住居跡	〃	351・354	257・260	110	354	217	87・88	183
第164号住居跡	〃	356	260	110	356	218	88	183
第165号住居跡	〃	357	261	110	357	218	88	183
第166号住居跡	〃	358・359	261・262	110	358・359	218	89	183
第167号住居跡	27	360	262	110				
第168号住居跡	〃	361・362	262・263	110	361・362	219	89	183
第169号住居跡	〃	300・304	226・227	110	304	205	79	176
第170号住居跡	〃	363・364	263・264	110	364	219	89	183・184
第171号住居跡	〃	351・353	257・260	110	355	218	87・88	
第172号住居跡	〃	242・243	183・184	110	243	193	65	169
第173号住居跡	〃	365・366	264・265	110	366	219	90	184
第174号住居跡	〃	367	265	110	367	219	90	184
第175号住居跡	〃	368	266	110・111	368	219	91	
第176号住居跡	〃	369～371	266～268	111	369・370	219・220	91	184
第177号住居跡	〃	242・244	183・184	111	244	193	65	169

項目	第 2 分 冊				遺 物		写真図版	
	関連記載	挿図番号	頁 数	諸 原	挿図番号	観 察 表	遺 構	遺 物
第178号住居跡	25・26	331・333・334	245～247	111	333・334	212	84	180
第179号住居跡	〃	331・335・336	245～248	111	335・336	212・213	84	180・181
第180号住居跡	〃	331・337	245・248	111	337	213		181
第181号住居跡	27	372	269	111	372	220	91	184
第1号堀立柱建物跡	31	399	281	112				
第2号堀立柱建物跡	〃	400	282	112				
第3号堀立柱建物跡	32～34	401	282	112			95	
第4号堀立柱建物跡	〃	402・437	282・313	112	437	223	95	
第5号堀立柱建物跡	31	403	284	112			95	
第6号堀立柱建物跡	〃	404	284	112			95	
第7号堀立柱建物跡	31～32	405	285	113			95	
第8号堀立柱建物跡	〃	406・438	286・313	113	438	223・224	96	186
第9号堀立柱建物跡	32～34	407・439	287・313	113	439	224		
第10号堀立柱建物跡	31～32	408・440	288・313	113	440	224	96	
第11号堀立柱建物跡	〃	410・441	289・313	113	441	224		
第12号堀立柱建物跡	32～34	409・442	288・313	113	442	224	96	
第13号堀立柱建物跡	〃	411・412・443	290・291・313	113	443	224	96	
第14号堀立柱建物跡	〃	413・444	292・314	114	444	224・225	96	186
第15号堀立柱建物跡	〃	414・445	293・314	114	445	225	96	
第16号堀立柱建物跡	〃	415・446	294・314	114	446	225	96	
第17号堀立柱建物跡	〃	416・420・447	295・298・314	114	447	225・226	96・97	
第18号堀立柱建物跡	〃	417・448	296・315	115	448	226	97	
第19号堀立柱建物跡	〃	418・420・449	297・298・315	115	449	226・227	97	186
第20号堀立柱建物跡	〃	421・450	299・315	115	450	227		
第21号堀立柱建物跡	〃	419・420・451	298・315	115	451	227	97	
第22号堀立柱建物跡	〃	422	299	115			97	
第23号堀立柱建物跡	〃	423・452	300・316	115	452	227	97・98	
第24号堀立柱建物跡	〃	424・453	301・306	115	453	227	98	
第25号堀立柱建物跡	〃	425・455	302・316	115	455	228	98	
第26号堀立柱建物跡	〃	426・427	303	115			94・97	
第27号堀立柱建物跡	〃	416・420・456	295・298・316	114・115	456	228	96・97	
第28号堀立柱建物跡	〃	428・457	304・316	115	457	228	97	
第29号堀立柱建物跡	〃	429・458	305・316	115・116	458	228	98	
第30号堀立柱建物跡	〃	430・459・460	306・316・317	116	459・460	229	98	186
第31号堀立柱建物跡	〃	430・461	306・317	116	461	229	98	
第32号堀立柱建物跡	〃	431・462	307・317	116	462	229	98	
第33号堀立柱建物跡	31	431・463	307・317	116	463	229・230	98	
第34号堀立柱建物跡	31～32	432・464	308・317	116	464	230	98	
第35号堀立柱建物跡	32～34	433・465	309・317		465	230	98	186
第36号堀立柱建物跡	〃	433	309	116				
第37号堀立柱建物跡	〃	424・466	301・317	116	466	230		
第38号堀立柱建物跡	〃	429・430・467	305・306・317	116	467	230	98	
第39号堀立柱建物跡	31～32	432	308	116			98	
第40号堀立柱建物跡	32～34			116				
第41号堀立柱建物跡	〃	433・468	309・317		468	230		
第42号堀立柱建物跡	〃	454	316		454	228		
第1・2号柵状遺構		434	310	116			94	
第3・4号柵状遺構		435・436	311・312	116				
第5号柵状遺構		436	312	116				
第1号地下式土坑	35	469	318	116	469	230	98	187
第2号地下式土坑	〃	470～474	318～322	117	470～474	231・232	99	187
第3号地下式土坑	〃	475	323	117	475	232	98	
第4号地下式土坑	〃	476	323	117			99	
第5号地下式土坑	〃	477	324	117			99	
第6号地下式土坑	〃	478・479	325・326	117	479	232	99	187
第7号地下式土坑	〃	478	325	117			100	
第8号地下式土坑	〃	480～482	326～328	117	481・482	232・233	100	188
第9号地下式土坑	〃	486～488	330～332	117	486・488	233・234	100	188
第10号地下式土坑	〃	480・483～485	326・328～330	117	483～485	233	100	188
第11号地下式土坑	〃	487・489・490	331～333	117・118	489・490	234	100	188
第12号地下式土坑	〃	491	333	118			101	

第1章 調査経過

第1節 調査に至る経緯

群馬県住宅供給公社では、東毛地区の中心都市である太田市周辺の人口増加に対応するため、太田市東長岡戸井口付近に約3.5ヘクタールの規模で住宅団地を造成することを計画した。企画調整会議等を経た上で、平成5年6月になり用地取得を行うとともに、埋蔵文化財の取扱いについて県文化財保護課に事業照会が行われた。

住宅団地が計画された東長岡戸井口地区は周知の埋蔵文化財包蔵地にはなっていないものの、金山丘陵の西端に位置する焼山南面の微高地に立地しており、焼山には焼山古墳群が展開し、北側には文化財包蔵地である細田遺跡が存在するなど、当該地も遺跡である可能性が高いことが考えられた。このため、県文化財保護課では、事前に遺跡の有無の確認と遺構数量の把握を行うための試掘調査を実施することを確認した。

試掘調査は、平成6年9月26日から同年11月19日まで実施された。調査主体は、太田市が団地造成を積極的に誘致している関係上、市の教育委員会で実施することとなった。その結果、縄文時代から平安時代にかけての集落跡と、中世の館跡等が存在することが判明した。

試掘調査の結果から開発予定地全域に対する本発掘調査が必要になったため、住宅供給公社と協議し、平成7年度から本発掘調査を実施することで合意した。このため文化財保護課では本発掘調査を実施する機関の選定を行うこととなり、県文化財保護課と住宅供給公社及び太田市教育委員会で数回にわたる協議を重ねた。試掘調査を実施した太田市教育委員会で本調査を実施する方向で調整を進めたが、平成7年度の太田市教育委員会が実施する発掘調査事業が満杯の状況にあるため、本事業の取り込みができないことが判明した。このため、急遽、財産法人群馬県埋蔵文化財調査事業団と協議を行った結果、平成7度事業として取り込むことが可能との判断に至った。

遺跡名を「東長岡戸井口遺跡」と命名し、平成7年4月から本調査を開始することとなった。調査が進捗するに従い、試掘調査で予想された以上の遺構が密集していることが判明し、併せて関東ローム層中に旧石器時代の遺物が存在することが確認された。このため、調査経費の見直しや工事工程と発掘調査工程の調整等が必要となった。調査経費については、努めて合理的な発掘調査を実施することで見直しを行い、調査工程については住居跡等の遺構が極めて密集している南西地区を公園用地にして、調査対象地から除外するなどの工夫を行うことで進捗をあげることにした。その結果、3,000点を数える旧石器時代の遺物、縄文時代・奈良平安時代・中近世の住居跡176軒、堀立柱建物遺構42軒、井戸67基、土坑1,934基、溝や堀140条、地下式土坑12基、中近世の館跡に伴うピット10,000個以上という多くの遺構と遺物を検出して、平成8年12月までの1年9ヶ月で発掘調査を終了した。

整理事業は、平成9年度から平成11年度までの3年間で実施し、報告書を刊行して終了となった。

第2節 発掘調査経過

第1項 発掘調査事業経過

発掘調査は平成7年4月1日から実施したが、当初から調査区全体の遺構量の確認が迫られていたため、^{やすらおか}まず、調査対象区全域の表土層の除去を実施した。だが、調査区が広域に亘るため、安良岡地区に当たる部分（1・4区の）を残土置き場用地として確保した。この地の選定に当たっては試掘所見を拠り所とした。この部分は、縄文時代の住居跡が確認されていたが、大半が旧河川の砂礫層の堆積が広域に広がるとされていた。

一方、事務所用地の確保も急務の課題であり、ライフラインの都合上、5・6区の一部に用地を選定して、当該部調査の先行調査を実施した。

しかし、この事務所用地部分は試掘所見と裏腹に、縄文時代から近世に至る諸種の遺構遺物が出土し、更に、地山土内のローム土内から、旧石器時代と考えられる遺物が出土したことから、2m×4mのトレンチを設定して旧石器時代の試掘調査を実施した。この結果、調査した8割以上のトレンチから遺物が出土したため、急遽、同部を旧石器時代の調査に切り替え、本調査を実施した。調査終了後事務所の建て方工事を行ったが、完成した頃には、洋暦も8月になっていた。

この旧石器時代の遺構遺物の新たな発見は、調査区全体の旧石器時代の試掘調査が迫られ、更には、試掘調査所見を大幅に上回り確認された遺構量の問題から、調査期間の大幅な見直しが迫られた。

平成7年8月10日に、群馬県住宅供給公社・群馬県教育委員会・当団の三者により、調査期間の問題に就いて調整が図られ、調査期間を2ヶ年次に互体制と、火急なる旧石器時代の遺構遺物の分布範囲＝旧石器調査対象部面積の算定が求められた。

抑も、当該遺跡の調査完了が火急に求められていたため、可能な範囲で遺構の調査にも重機を用い、住居跡の調査も、軸直交方向のみの土層断面の作図に止め、トレンチに拠る先行調査とし、床面直上層1枚を残し円匙・鋤簾に依り掘り下げる調査とし迅速化を図った。

この結果、調査平面積31,524㎡、延べ調査面積46,832㎡に対して22ヶ月の調査期間とした。

第2項 整理事業経過

整理事業は、平成9～11年度の2年4ヶ月間に亘実施した。

平成9年度は、縄文～近世までの時代を対象にし、平成10・11年度は旧石器時代の整理事業を実施した。特に、前者は縄文土坑600基を含む膨大な遺構量のため、発掘調査同様に迅速化を図り、各土坑からは一括性を考慮しつつ最低限をやや下回る状態で行い、住居跡・近世遺構の整理にやや重きを置いた。これに依り種々の遺構から合計約6,000点の遺物を図化掲載した。

旧石器時代の遺物も迅速化の元行い、ブロック地点から合計1,000を図化し、不足部分に就いては写真による対応をした。

そして、旧石器時代編として第4分冊に掲載した。



図1 発掘調査経過概念図

第2章 遺跡立地

第1節 遺跡立地

第1項 地質

東長岡戸井口遺跡は、群馬県東部域（東毛）、太田市東長岡町・安良岡^{やすらおか}に位置する。旧称は山田郡東長岡村大字戸井口・同葦川村大字安良岡である。

当該地域の現地形は、古生層・第三紀層からなる八王子丘陵・金山丘陵、第四紀の渡良瀬川の度重なる流路変更により形成された扇状地・河岸段丘、利根川の変流に伴い形成された台地・自然堤防等が入り組む状態で非常に複雑な状態である。

遺跡地は、金山丘陵の南東麓に、金山丘陵の残丘として残る「焼山」・「伊豆山」^{いずのやま}の南端部及び南方に延びる第四紀に形成された低台地上に立地する遺跡である。遺跡地での標高は概ね43.50mである。

第2項 遺跡地近辺の微地形

古代『万葉集』に登載された「東歌」に見られる「爾比多山」^{にいたやま}は現在の金山（標高235m）に比定されている。この金山は、太田市のほぼ中央に、自然浸食によりヤツデ状に形成された支谷を刻み横たえている。浸食により形成された支谷は、西側で深く、東側では浅い状態で、基盤地質の堆積状態を示している。そして、焼山・伊豆山は、渡良瀬川の河川営力により金山丘陵本体から浸食された残丘で、独立丘陵状に残存している。

遺跡地は、この伊豆山の南麓から南方に長さ約1km・幅約570mで延びる舌状の低台地上で、伊豆山麓端部を頂点としている。この台地の西側は、渡良瀬川が第1次残丘を残し流下した段階で、開析した浅い谷地形を更に、金山西斜面の聖天沢・大谷津沢と双方に挟まれる2本の無明沢から発する、聖天沢・大谷津沢等の小河川が浸食し、小規模な盆地状の地形を形成している。この盆地状の部分には、旧耕地図に所謂「条里水田」の地割りが克明に残されている。この部分と台地との比高差は現状で1.5m～2.0m程である。

台地東側は、伊豆山の残丘を第2次浸食がほぼ現状を形成した後、渡良瀬川は第1面河岸段丘を形成している。その後、この段丘上を渡良瀬流路が縦走し（旧流路1）、幅の広い谷地形を残している。この谷地形が調査区の東端に当たっている。この谷地形との比高差は現状で1.5m程である。又、段丘面上の渡良瀬縦走域を金山西面から発する多くの沢が浸食している。

台地南端部の南方には、東国最大の規模を誇る天神山古墳を擁する新井台地が東西方向に延び、双方の間を聖天沢と大谷津沢が合流した流路が切り裂く様に流走している。しかし、この流路も後世の開発により、その地割りが耕地に代わり痕跡を留める程度である。この部分での比高差は1.2m～1.5m程である。

当該地区の地形形成には、渡良瀬川の営力に因るものがほぼ100%を占める状況である。現渡良瀬川は、室町時代の河道移動に伴う状態であり、現矢場川が旧渡良瀬川の流路と考えられており、旧国界はこの矢場川に拠っている。付図1には、昭和前半期の作図の耕地図の中から、旧流路・洪水の痕跡・用水等を判読して載せた。この図からは、「休泊堀」^{きゅうはくぼり}が自然河川の旧流路をバイパス状に流路の確保を行い、通水させている事が推定される。そして、旧河道（洪水も含む）によると考えられる流路痕が南北に蛇行して流下した自然の痕跡を多く留めている。これらの流路痕の時期推定は殆ど困難であるが、「休泊堀」の開削時期が戦国期に疑定されていることから、「休泊堀」との地割りの新旧関係から想定せざるを得ない状態である。

第2節 周辺遺跡 (付図1)

第1項 遺跡地

当該遺跡は、『群馬県遺跡台帳』(以下『台帳』)に依れば、「No879・古墳時代・包蔵地・太田市大字東長岡字戸井口1592～1596,1613～1630,1641～1653。」が該当する。当該のNo879は調査区の北半分に該当する。一方、『台帳』にはNo873が同戸井口地内に周知されているが、当該調査区の東南方向約500mの地点である。双方共前述の低台地上に立地している。

当遺跡周辺の遺跡分布状態は、変化の激しい地形上に散在的に認められている。現在、当該地域の遺跡分布状態を明確に示した公刊物は『台帳』以外無い。過去に太田市教育委員会・群馬県教育委員会・当団が発刊した各遺跡の報書等に記載された「周辺遺跡」では、遺跡分布の基本に当たる立地・地形等判然としないことが多く、また、現代まで氾濫を繰り返していた渡良瀬川の営力作用等により不分明な点も多い。この反映が塚回り古墳群の発見状況に顕現化されている。

又、本書を編集するに当たり、周辺遺跡の分布図を作成したが、なぜ此処にという疑問と、範囲認定に疑義があったため、改めて詳細な地形図の編集を試みた。この結果が付図1で、太田市発行の白図を編集して地形図とした。この図は、地形図に旧耕地図に認められる旧河川の流路を判読して合成させた。そして、各遺跡を登載したが、登載した遺跡は、表2中の文献1から3に記載、若しくは登載された遺跡に限定した。

目的は、自然地形と人工地形の判別。地形から見た遺跡の立地条件。このことを消去法的に試み、或る程度の自然水系と用水系の判別・遺跡範囲を探ることを目的とした。この結果、最大の問題点として、現地未踏査・旧流路の流水時期・地形の変容に集約される不確実な部分が多く残り、遺跡の範囲はある程度示せたが、出来得なかったことの方が重要な観点として挙げられる。

一方成果として、渡良瀬川及び各支流の網状流路により浸食され残された各台地が、或る程度明瞭な形で図上に顕せたこと。台地以外の部分が水田可耕地に推定出来たこと。旧水系が推定出来たこと。不確実ながらも遺跡範囲の上限に近い状態が示唆出来たことなどを挙げる事が出来る。

第2項 周辺遺跡

1. 旧石器時代 註4・5

付図1の遺跡位置図には、11箇所の遺跡乃至散布地を『太田市史』(以下『市史』)から登載した。

旧石器時代の本格的調査は当遺跡が最初である。市内に分布する旧石器時代の遺跡は、金山丘陵の北端側周辺に集中分布する傾向がある。これは、当遺跡での出土が示すように、自明の利であるローム土の分布する範囲に限定される。このローム土が分布する範囲は、渡良瀬川扇状地の岩宿面・扇状地I面に堆積が確認されている。しかし、扇状地I面で発見されている遺跡は大道東遺跡(No.143)のみである。東別所遺跡(No.2)は、洪積台地(飯塚台地)の東端側に位置している。又、小町田遺跡から出土している石器は、縄文草創期に時期比定されるが敢えてこの時代での表現をしてある。この小町田遺跡は扇状地I面から外れるものの、台地間際の部分であり、縄文草創期段階での生活域が捉えられる点は貴重な類例である。

この扇状地I面での当該期の遺跡分布は、未発見遺跡が多いと考えられ今後に託すること大であるが、当遺跡の如く、予期せぬ旧石器時代の発見の対処のためにも、今後、手段を講ずることが課題でもあろう。

2. 縄文時代

縄文時代の遺跡は主要13遺跡を付図上に図示した。この縄文時代も前代同様に渡良瀬川扇状地の岩宿面・

表1 周辺遺跡

	遺跡名	摘要	文献		遺跡名	摘要	文献		遺跡名	摘要	文献
1	葦 東長岡戸井口遺跡	当該遺跡	本書	71	強 西長岡横塚古墳群	古墳後期	市史	141	毛 猿楽遺跡	奈良～平安	市史
2	九 東別所遺跡	旧石器	市史	72	〃 西長岡天神山古墳群	〃	〃	142	〃 案前遺跡	古墳～平安	〃
3	葦 伊豆山遺跡	〃	〃	73	〃 米沢二ツ山古墳	〃	〃	143	〃 大道東遺跡	旧石器～平安	〃
4	〃 細田遺跡	旧石器～古墳	〃	74	強 寺山古墳	古墳前期	〃	144	〃 小丸山西遺跡	旧石器	〃
5	〃 内並木遺跡	旧石器	〃	75	毛 東今井口古墳	古墳後期	〃	145	〃 寺中遺跡	奈良・平安	〃
6	〃 金井口遺跡	〃	〃	76	〃 巖穴山古墳	古墳後期	〃	146	〃 推定旧東山道	奈良～	本書
7	〃 小丸山遺跡	〃	〃	77	〃 推定山田郡衙	・・奈～平	〃	147	〃 反丸遺跡	古墳中～後期	市史
8	毛 雷電山遺跡	〃	〃	78	〃 推定新田郡衙(七堂遺跡)	・・奈～平	〃	148	〃 流作場遺跡	古墳後期	〃
9	強 強戸口峯山遺跡	〃	〃	79	強 寺井庵寺(交替帳弘輪寺か)	白鳳～平安	〃	149	〃 落内遺跡	古墳後～平安	〃
10	〃 成塚住宅団地遺跡	〃	〃	80	毛 吉沢窟跡支群	・・奈～平	〃	150	〃 村上遺跡	旧石器	〃
11	太 八幡山遺跡・八幡山古墳	〃	〃	81	〃 吉沢萩原窟跡支群(萩原窟跡)	・・奈～平	〃	151	太 金山城	中世	地図
12	九 天神山古墳	古墳中期	〃	82	〃 古水窟跡支群	・・奈～平	〃	152	強 雷電山砦跡	〃	〃
13	〃 女体山遺跡	〃	〃	83	〃 東今泉菅ノ沢窟跡支群	・・奈～平	〃	153	〃 瑞光寺跡	〃	〃
14	毛 丸山古墳群	古墳後期	〃	84	葦 東金井東大沢窟跡支群	・・奈～平(市史)	154	毛 萩原館跡	〃	〃	
15	〃 只上・猿楽古墳群	〃	〃	85	〃 東金井大日沢窟跡支群	・・奈～平	〃	155	〃 新田丸山の砦跡	〃	〃
16	〃 市場古墳群	〃	〃	86	〃 東金井聖天沢窟跡支群	・・奈～平	〃	156	〃 矢田堀城跡	〃	〃
17	葦 安良岡古墳群	古墳	〃	87	〃 東金井寺ヶ入窟跡支群	・・奈～平	〃	157	〃 呑嶺館跡	〃	〃
18	〃 矢場古墳群	古墳	〃	88	〃 東金井亀山窟跡支群	・・奈～平	〃	158	〃 狸ヶ入館跡	〃	〃
19	旧 塚井古墳群	古墳	〃	89	太 太田大谷津沢窟跡支群	・・奈～平	〃	159	〃 今泉館跡	〃	〃
20	〃 塚回り古墳群	古墳	〃	90	葦 東長岡焼山窟跡支群	・・奈～平	〃	160	〃 胎藏寺跡	〃	〃
21	毛 吉沢古墳群	古墳後期	〃	91	毛 狸ヶ入II遺跡(狸ヶ入窟跡)	・・奈～平	〃	161	葦 矢部城跡	〃	〃
22	〃 矢田堀古墳群	〃	〃	92	強 駒形神社埴輪窟跡	古墳後期	〃	162	〃 国済寺城跡	〃	〃
23	〃 菅ノ沢古墳群	〃	〃	93	〃 西長岡窟跡支群	・・奈～平	〃	163	〃 市場城跡	〃	〃
24	〃 狸ヶ入古墳群	〃	〃	94	〃 寄合窟跡支群	・・奈～平	〃	164	〃 富田館跡	〃	〃
25	葦 大日沢古墳群	〃	〃	95	〃 菅塩窟跡支群	・・奈～平	〃	165	〃 雀の宮屋敷跡	〃	〃
26	〃 亀山古墳群	〃	〃	96	〃 北金井窟跡支群	・・奈～平	〃	166	〃 植木野城跡	〃	〃
27	〃 寺ヶ入馬塚古墳群	〃	〃	97	〃 成塚窟跡支群	・・奈～平	〃	167	〃 緑心寺跡	〃	〃
28	〃 寺ヶ入古墳群	〃	〃	98	鳥 鶴生田窟跡支群	・・奈～平	〃	168	休 矢場城跡	〃	〃
29	〃 焼山北古墳群	〃	〃	99	〃 長手窟跡支群	・・奈～平	〃	169	〃 大倉城跡	〃	〃
30	〃 焼山南古墳群	〃	〃	100	〃 金井口埴輪窟跡	古墳	〃	170	〃 竜舞館跡	〃	〃
31	太 熊野古墳群	〃	〃	101	太 舞台A・D遺跡	古墳後～平安	〃	171	〃 慈眼寺跡	〃	〃
32	〃 東山古墳群	〃	〃	102	〃 浜町遺跡	古墳前～平安	〃	172	九 観音寺跡	〃	〃
33	〃 高山古墳群	〃	〃	103	〃 屋敷内遺跡	古前・中世～	〃	173	〃 新井館跡	〃	〃
34	九 新井古墳群	〃	〃	104	九 運動公園遺跡	古墳前期	〃	174	〃 矢島城跡	〃	〃
35	〃 新島・小舞木古墳群	〃	〃	105	〃 中西田遺跡	古墳前～平安	〃	175	沢 高林城跡	〃	〃
36	〃 内ヶ島古墳群	〃	〃	106	〃 房塚遺跡	古墳中期	〃	176	〃 牛沢城跡	〃	〃
37	〃 飯田古墳群	〃	〃	107	〃 女体山古墳東方遺跡	縄文後～晩	〃	177	〃 長福館跡寺	〃	〃
38	〃 東別所古墳群	〃	〃	108	沢 古戸遺跡	縄文早	〃	178	〃 岩松氏館跡	〃	〃
39	〃 飯塚古墳群	〃	〃	109	〃 東矢島庵寺	奈良～	〃	179	宝 由良城跡	〃	〃
40	〃 西矢島古墳群	〃	〃	110	〃 石田川遺跡	古墳前期	〃	180	〃 古源氏館跡	〃	〃
41	〃 東矢島古墳群	〃	〃	111	〃 米沢仲遺跡	古墳前期	〃	181	〃 新田館跡	〃	〃
42	沢 高林福島古墳群	古墳前～後期	〃	112	葦 磯之宮遺跡	弥・古前・平	〃	182	〃 脇屋館跡	〃	〃
43	〃 高林西原・鶴巻古墳群	古墳後期	〃	113	〃 堂目木遺跡	平安	〃	183	鳥 大島館跡	〃	〃
44	〃 高林不動古墳群	古墳前～後期	〃	114	〃 下宿遺跡	縄文草	〃	184	〃 鳥山城跡	〃	〃
45	〃 牛沢小谷古墳群	古墳中～後期	〃	115	〃 焼山遺跡	旧石器～弥生	〃	185	〃 大光寺跡	〃	〃
46	〃 富沢古墳群	古墳前～後期	〃	116	〃 焼山南遺跡	旧石器～縄文	〃	186	〃 鶏足寺跡	〃	〃
47	〃 細谷古墳群	古墳前～後期	〃	117	〃 推定東山道	奈良～	〃	187	〃 長楽寺跡	〃	〃
48	〃 朝子塚古墳	古墳前期	〃	118	〃 太田工業高等学校北裏遺跡	古墳前期	〃	188	強 大字強戸字田谷	中世館跡か	耕地図
49	〃 東下田島古墳群	古墳後期	〃	119	〃 東長岡金井町遺跡	古墳前・平安	〃	189	毛 大字毛里田字本郷	〃	〃
50	〃 西下田島古墳群	〃	〃	120	〃 矢場川遺跡群	古前～奈～平	〃	190	葦 大字東長岡字星の宮	〃	〃
51	宝 宝泉茶臼山古墳	古墳中期	〃	121	鳥 大島口遺跡	縄文前・古墳	〃	191	〃 大字東長岡字八幡	〃	〃
52	〃 由良古墳群	古墳後期	〃	122	〃 八幡遺跡	奈良・平安～	〃	192	九 大字九合字高田	〃	〃
53	〃 藤久古墳群	古墳前～後期	〃	123	〃 寺裏遺跡	古墳後期	〃	193	太 大光院	〃	〃
54	〃 脇屋古墳群	古墳後期	〃	124	〃 釣堂庵寺	奈良～平安	〃	194	強 大字強戸字寺前(瑞光寺)	〃	〃
55	鳥 大島古墳群	古墳後期	〃	125	〃 成塚住宅団地遺跡	縄文・奈良～	〃	195	鳥 大字鳥山字河畑	居館か庵寺か	〃
56	〃 武反田・貧乏塚古墳群	〃	〃	126	〃 成塚石橋遺跡	古墳中期	〃	196	〃 大字鳥山字道木	古代居館か	〃
57	〃 長手口古墳群	〃	〃	127	〃 峯山遺跡	旧石器	〃	197	〃 大字大島字宮下	中世館跡か	〃
58	〃 下強戸・鶴生田古墳群	〃	〃	128	〃 鷲ノ宮遺跡	奈良	〃	198	〃 松尾神社古墳	古墳後期?	〃
59	〃 鳥崇神社古墳	古墳中期か	〃	129	休 小町田遺跡	旧縄文中後～	〃	199	〃 入谷遺跡	白鳳～	〃
60	〃 亀山古墳	古墳中期	〃	130	〃 賀茂遺跡	縄・古中～平	〃	200	〃 推定邑楽郡衙	奈良～平安	〃
61	〃 鶴山古墳	〃	〃	131	〃 確神社の礎石	奈良・平安	〃				
62	強 成塚古墳群	古墳前～後期	〃	132	〃 清水田遺跡	縄文・古～平	〃				
63	〃 大鷲向山・上強戸古墳群	古墳後期	〃	133	〃 塚井遺跡	古墳後期	〃				
64	〃 大鷲山古墳群	〃	〃	134	〃 雷遺跡	縄文前・中	〃				
65	〃 北金井御嶽山古墳群	〃	〃	135	〃 上川遺跡	縄前～後・古	〃				
66	〃 北金井谷戸入古墳群	〃	〃	136	宝 川窪遺跡	古墳前～平安	〃				
67	〃 菅塩山古墳群	〃	〃	137	〃 舞台C遺跡	古墳後期	〃				
68	〃 菅塩祝入古墳群	〃	〃	138	〃 堂原遺跡	縄文後期	〃				
69	〃 西長岡東山・西山古墳群	〃	〃	139	〃 五反田遺跡	古墳前～平安	〃				
70	〃 西長岡宿古墳群	〃	〃	140	〃 諏訪下遺跡	古墳前期	〃				

凡例
 市史 『太田市史』資料編 原始古代 太田市 平成8年
 〃 『太田市史』資料編 中世 太田市 平成9年
 地図 『太田市文化財地図』改訂版 太田市教育委員会 平成3年
 耕地図 県立文書館 所蔵

第2章 遺跡立地

扇状地Ⅰ面と大間々扇状地の岩宿面・藪塚面A・洪積台地に占地していることが看取される。この扇状地Ⅰ面・藪塚面Aはほぼ同時期の形成地形であることから、縄文時代に至っても尚周辺環境も類似する傾向あったのかもしれない。時期的には、低台地では中期後半から後期初頭が多く、前期前半もやや多い傾向が認められる。だが、当該時代の遺跡数が非常に少ないことは、前代同様に未確認の遺跡が多いことを示唆しているものの、実態も少ない傾向にある可能性も否定し得ない。

3. 弥生時代

当該時代は磯之宮遺跡の1例のみを図示した。この時期は東毛地区では遺跡の数が極端に少ない傾向にあり、この傾向を端的に現している。

磯之宮遺跡では住居跡と判断された遺構が発見されている。非常に遺存状態が悪いため、住居跡の性格付は判断し難く、出土遺物が後期初頭の壺・甕で、遺存がやや良好であることから当該期の生活域乃至墓域等として考えられる。選地は地形分類上後背低地に該当するが、遺跡としては韮川流域の自然堤防様微高地(低台地)上にあたる。東毛域での当該期の遺構の発見例が少ないのは、選地に起因するのかもしれない。

4. 古墳時代

太田市域の顕著な遺跡に古墳が挙げられる。市域南西側の朝子塚古墳(No.48)・南東側の天神山古墳(No.12)は関東地方を代表する古墳である。

当該期を概括すれば、古墳は各所に築造され、扇状地Ⅲ面から後背低地と占地は広範囲に及んでいる。

前期古墳の分布は、由良台地域に集中する傾向が認められ、他は各地に散在する状態である。特色として、前方後方墳の多さにある。藤本観音山古墳(No.168)・鶴巻山古墳(No.16)・寺山古墳(No.74)・屋敷内B遺跡(仮称1号墳)が挙げられる。同期の集落遺跡発見例も同様であるが、規模・内容は言及出来ないまでも市域には多い。また、西毛地区に比較すればその発見例は多い。

中期では、天神山古墳・宝泉茶臼山古墳に顕現され、大型前方後円墳が鳥之郷地区を中心するように集中している。この中で、鳥崇神社古墳(No.59)は、旧耕地図上で見ると、北西方向に主軸を採り、小規模河川乃至用水の旧流路痕を埋め戻し築造している。しかし、『市史』では、主軸を北に採り中島施設を伴う古墳として紹介されているが、旧耕地図には上述の状態の中島も無く主軸方位も異なっている。

市域南方では、前代の朝子塚古墳以降中小古墳の発達が目立っているが、中小古墳の範囲にとどまっているようである。天神山古墳周辺では、女体山古墳以外の発展は見られない。この両古墳は前代の核になる古墳もなく唐突に構築され、これが最大の特徴である。

市域西方では、矢場古墳群での中小古墳の発展が挙げられるが、消滅した2～4基の前方後円墳が内容不詳のままである。しかし、規模の点から発展的展開とは考え難い。

当該期、天神山古墳が突出した存在であるが、以降鳥之郷地区の発展系列に特徴付けられ、前代から見れば、北側での勢力台頭として捉えられる。この地域では、No.196が台地内部の中央部で、前出鳥崇神社古墳・亀山古墳(No.60)・鶴山古墳(No.61)(以下「鳥之郷3墳」と略記)に近接し、長方形を呈する地割りである。この方形地割りを市域の当該種=中世城館と比較すると、中世居館は台地の縁辺・先端・後端に沿い構築されるが、No.196の如くの占地は認められない、同様な選地採るのは寺院跡が想定されるが、基本形状は正方形を採るのが基本であろうし、軸方位が南北ではなく、約45度東に振れている。この軸方位は、5～6世紀の住居跡の軸方位と類似していることが指摘出来る。これらのことから、この地割りは中世より古く、この鳥之郷3墳に近い時期の構築物の痕跡(鳥之郷3墳の被葬者の居館か)と思われる。

この時期の集落は、面的に広く調査されている成塚住宅団地遺跡(No.126)・房塚遺跡(No.106)等が挙げら

れるが、総じて遺跡数は少ない。

成塚住宅団地遺跡では、台形区画の堀に囲まれる「豪族居館」の発見がある。この居館からの出土遺物からでは、主体者の性格を推定するには困難であるが、鶴山古墳等の被葬者を推定するには不十分過ぎる内容である。やはり、同地域の成塚古墳群（No62）を築造した共同体の首長クラスが擬せる程度と思われる。また、この区画域が居館跡とする性格付けの遺構・遺物等の根拠が不分明であり、現状では、特殊な台形区画の溝状遺構としか分析出来ない。

当該期の特徴は、天神山古墳・鳥之郷3墳の台頭のように、新たな地域での台頭はその周辺地区での諸背景の充分条件が整ってことを示しており、この充分条件が治水・生産基盤・要路確保等に他ならない。この時期が第1次開発（4世紀段階の集落が確実に把握し得ていない事と、浅間山C軽石被覆水田の実体が現段階で不分明なことから、今日の段階では「第1次」とするが、実体は「第2次」的かもしれない。）の完成期として捉えられ、同地域に発達した網状流路を利用した水田開発・用水の整備もこの時期に現在の原形が完成したことが考えられる。

後期では、集落の発展的展開が認められ、人口の増加も著しかったことが推定される。古墳は、市内各地に分布しており、各地で古墳群を形成しほぼ大字単位乃至大字に多いところでは複数の分布が認められる。そして、全体的に小円墳横穴式石室の構造の古墳群が多く、小規模な前方後円墳を1～2基伴う古墳群も在る。

一方古墳の数量では、恐らく後の山田郡側の金山東麓周辺が群を抜いている。又、この時期に開窯する太田古窯跡は、この金山東麓と八王子丘陵の南東麓、則ち、後代に設置される山田郡衛の推定地は窯跡群の中間位置に設定され、窯跡は山田郡側にその主体が立地している。

当該期古墳築造もピークを迎える。金山丘陵・八王子丘陵の山麓には多数の横穴式石室を伴う古墳が築造され、群集墳としての様相を呈する。特に金山東麓（山田郡）のに分布する、矢田堀古墳群以下（No22～33）が連続と続く状態で分布している。また西麓側（新田郡）でも大島古墳群以下（No55～58）が分布している。

又、八王子丘陵側の西麓（新田郡）では、強戸地区には成塚古墳群以下（No62～72）が位置する。そして、東麓側（山田郡）では、吉沢古墳群（No21）が分布している。これらの他、低台地でも多くの後期古墳が築造されている。特に、九合地区での分布が目立っている。新井古墳群以下（No31～41）が分布している。特に前代から継続的に前方後円墳の密集する東矢島古墳群（No41）は顕著な存在と言い得る。

後期古墳も中でも毛里田地区に顕著な状況が窺える。庚申塚古墳（No14）・今泉口八幡山（No75）は家形石棺を安置する前方後円墳で、方墳の巖穴山古墳（No76）があり、後二者は須恵器作部の管掌者としての性格が推定される。そして、この地区に上述の山田郡衛が設置されている。

他方、後の新田郡衛の設置される強戸地区には、米沢二ツ山古墳（No73）が在るものの、他に顕著な古墳は認められないが、後代の攪乱等に因り消滅している可能性も否めないであろう。やはり、金山・八王子丘陵の西斜面に古墳群の分布が顕著で、低台地・微高地に中小古墳群が分布するが、前代から継続的な状況を呈する古墳群は認められない。

この様に、市域の北側での後期古墳の発展が顕著である。このことに就いては、徳江秀夫氏の既説が有り、耕地・池溝開発による首長層の発展を古墳をして顕現とするが、他の産業、仮に工業（窯業・鉄生産・鉄器生産等）・商業（流通＝後の東山道の掌握権）・中央の東北経営等からの分析がやはり必須の要素であろう。前述の新田・山田両郡衛が設置される背景は、これら、古墳時代の精算としての選地要因が内在している。

集落は市内の各所で発見がある。後期古墳の分布域は勿論であるが顕著な集落の分布は不分明であるが、付図1に示した低台地・微高地の範囲は既掘遺跡が該当する。集落立地の条件の要件は果たしているものの、

第2章 遺跡立地

渡良瀬川寄りでは河川氾濫との拘わりも重要である。塚廻り古墳群 (No.20) の如く、洪水により冠水し易い地区が有ったであろうが現状では確認し難い。特殊な集落として、大道東遺跡 (No.143) は、選地的に須恵器工人の集落に推定されている。又、特殊と言い得る住居跡に楽前遺跡 (No.142) 第96号住居跡の竈は、東北特有な形態である。何故この住居跡はこの様な竈を備えるのかは不明であるが、東北地方との交渉を物語る結果と考えられる。

6世紀後半に開窯のある「太田金山古窯跡群」は金山・八王子丘陵の東斜面に分布が認められており、吉沢支群・菅ノ沢支群などの支群構成をもつまでの規模で操業している。製品は高崎市佐野遺跡でも長脚2段の高坏が発見されており、太田市及び周辺地域での集落内での須恵器保有率が非常に高い。

5. 奈良・平安時代

当該初期には中央主導の律令体制が敷かれ、太田市域は新田・山田・邑楽郡の「郡郷制」下に組みされる。この直前段階の「評里制」段階の実態は現段階では不明である。この「郡郷制」の郡域はなかなか分明にし難いのが実態である。今回、付図1を編集するに当たり、地形・地勢を復元・編集を目的で作成した。そして、上記3郡の郡界が、当時の地形に添う状態であったであろう事から、近世・中世の史料を元に復元を試考した。この3郡の郡界は当該期以降の周辺遺跡を述べるには本来的に必須条件である。復元試考には諸史・資料を駆使したが頁数の関係上方法の概略を述べておく。

先ず、近世段階の「村」の村域から始めたが、詳細には限界がある。そして、各「村」の村社 (賀茂・長良神社) の分布、中世文書史料の「郷」「御厨」関係の記事・記述の地名等を対比させ、諸条件を抽出これを試考の条件材料とした。

付図1は、太田市白図 (5千分の1) を2.5万分の1に編集し等高線のみを図化した図と、耕地図の旧河道・水流痕等地勢復元材料を図化した図、更に、現段階の周知遺跡の分布から、低地・微高地・低台地・台地を分別し、上記諸条件を充足させる為の素図を作成し各郡域を推定した。しかし、結果的に判断が着かない2カ所 (付図1中の「伊」「呂」部分のA・B・C) は複数を示した。以下、この試考郡域を基に記す。

先ず、3郡の中心を成す郡衛の推定位置は、それぞれNo.77・78・200が該当するが、時期に依る移動等ここでは考慮していない、既説・私説を拠り所としている。東山道は図中に示した既説と、今回の旧地勢から直線走行の地割からの推定を図示した。

当該期の直前に顕著な遺跡としての寺井廃寺遺跡 (No.79) は、藪塚扇状地A面麓端の東端に占地しており、湧水等に因る浅い開折谷に因り残された低台地を選地している。この低台地は北西から南東に走行する状態で、県内の初期寺院の中では特徴的な選地である。この特殊な地形条件上に占地する要因は判然としない。この寺院跡は『上野国交替実録帳』 (以下、『交替帳』と略記) の「定額寺」項の「放光寺」 (山王廃寺遺跡) を除く「法林寺・弘輪寺・慈光寺」3ヶ寺に該当するであろうことは以前から述べられてきたが、具体的な査証による比定は出来ないのが実態であった。しかし、「弘輪寺」の記事中の「築垣」項には、「(前略) 東北長拾七丈 南東広七丈二尺 (後略)」から伽藍地の区画を規制する地形が東北・南東の様に上述の当該寺院の選地要件に適合するかの状態で、県下の初期寺院には、この築地を規制するような必然性が有る寺院の選地は当該寺院跡しか該当しない。このことから、寺井廃寺遺跡が『交替帳』に記述の有る「弘輪寺」に該当する蓋然性は高い。又、伽藍の記述から塔・金堂を備える「法林寺」が上植木廃寺遺跡。大堂を備える「慈光寺」が金井廃寺遺跡^{註1}が比定される。

他方、式内社は、山田郡の「賀茂明神」の比定社が桐生市広沢・太田市丸山・同竜舞 (旧郷社) 3カ所に鎮座するが、当初の形態はやはり郡衛至近の丸山賀茂神社を比定しておきたい (市史は竜舞賀茂神社を比定)。

そして、「寮米保」の設置以降社格の昇叙により代表的な存在になったと考えておきたい。又、邑楽郡の式内社「長柄明神」も上述同様に推定邑楽郡衛に至近の大泉町古水長良神社、又は、千代田町長柄地区長良神社（旧郷社）を疑定しておきたい。

集落遺跡は前代同様な状況と考えられるが、用水・灌漑に依る耕地の拡大期、微高地等への進出が想定される。又、1遺跡内でも、古墳時代の住居跡と当該期の住居跡では、床面標高値が当該期の方が10～20cm程高いレベルに構築している。この傾向は小町田遺跡で顕著で、住居構造の変化だけとは考え難く、自然の要因が大きな要件に推定される。またこの遺跡では、「神殿」「寺」「矢田」等を含む多くの9世紀後半～10世紀前半墨書土器が出土している。また、楽前遺跡第26号住居跡からは「院」「稲」を墨書する8世紀後半の須恵器坏が出土し、第86号住居跡からは須恵器小形輪花文埴が出土している。

金山・八王子丘陵に構築された窯跡群もこの頃にピークを迎えている。推定される窯跡の数も県内でも乗附古窯跡群を越える第2位級と考えられる。

水田跡は市内では古水地区でトレンチに依り確認されているが、市内に残る条里遺構は古代の査証は得られていない、古水地区のB軽石下水田も、同地域に残る条里遺構とは異なる方向の水田跡である。又、後述の嘉應2年に記された「新田庄田畠在家注文」（以下、「注文」と略記）中の水田面積と、条里遺構の遺存する地区で、双方の地名が一致するであろう地区での水田面積と条里遺構面積には差が大きすぎる。このことは、条里遺構と呼称するものは古代の遺構ではなく、時代の降った所産であろうことが推定される。そして通有、条里遺構の発掘調査では、発見される古代の水田跡と条里遺構は一致しないのが恒である。

このことから、市内域の条里遺構は古代の遺構とするには否定的である。

6. 鎌倉・室町時代

平安時代末期、仁安3年に記された「源義重讓状」・「源義重置文」・「注文」は、新田庄を研究する場合基本となる史料であり、従前より、先学により種々の研究が為されてきている。今回、これらの史料中に記されている郷名で、付図1中に該当するものを示した。これらの郷名比定で付図1の部分には、「注文」に記される水田面積に添う状態の比率で低地の分布が認められる。又、文永年間に記されたと推定されている岩松持国「新田庄知行分目録」には、「注文」の写的に記されているものの、幾つかの新たな郷名・村名が記されているが基本的に違いは無い。このことは、現在まで遺名として残るのと同様と考えられる。この双方の記述内容からは耕地の飛躍的な拡大は認められないが、後者の史料の性格が幕府への納税申告の基本台帳的なため、記述された水田面積は信憑性に疑問も有ろう。

この頃の顕著な遺跡はなかなか認め難いが、当遺跡で出土した常滑大甕と同期の製品が散見されるものの、具体的な遺構は判然とせず、舶載磁器類の出土もあるが、伝世等の問題もあり細片の為時期決定に判断を狂わせている。これは、中世前半の遺構は各地区の調査でも遺物の出土が有っても遺構が発見されない傾向に一致しており、これを以て特徴とも言い得る。しかし石造物では、太田市内各所に鎌倉期の五輪塔が分布しているが、精神文化の範囲の遺跡であるため、生活遺跡等とは異なることから当時の復元には限界がある。

城館跡ではなかなか当該期での存続を認定し難いが、14世紀を前後する頃の城館跡は逆台形乃至台形を呈する特徴が、桐生梅原館跡・足利鏝阿寺（足利居館を寺院にしている）・佐野工業団地館跡で認められ、同様の形状を呈する地割が耕地図中に認められる。これらの地割が付図1中のNo.188・189が該当し、竜舞館（No.170）も同様な形状と考えられる。

中世後半の室町時代になると、金山城に代表される城館主体に調査が及んでいる。発掘調査での出土遺物も増加すものの、館の堀跡等館跡に拘わる遺跡が多くを占めている。これは、前半期に比較すれば、遺構認

第2章 遺跡立地

定対象が急増していることの反映である。当遺跡でも中世前半期の遺構が発見され出土遺物がしっかりしていることは稀少であるものの、これを凌駕する後半期の遺構量は古代をも凌駕する状況である。

遺跡では浜町屋敷内遺跡 (No.103) では、多量も建物跡・井戸跡・地下式土坑が発見され、土師質土器皿・軟質陶器類・石鉢・穀臼・茶臼等が多く出土している。しかし、当該遺跡は市史では「今井屋敷」とし、当時の居住域の形態を想定している。この遺跡の特徴に多量の井戸跡・茶臼が挙げられ、通有遺跡と異なる状況が看取され、報告でも何らかの生産遺跡を促している。

城館跡も前代より顕著に築造されており、市史では42カ所の城館砦を搭載するが、付図1に示した、確実性の高い城館を推定させる地割は10カ所に及んでいる。文明元年(1469)に築城される金山城は当該地域の要となる。この築城以前より岩松氏の被官、国人などに依り館の備えを堅固にしたと考えられる。この金山城の築城の背景は、新田・山田両郡の支配が確立した事を物語っており、後述する「新田堀」の新田郡側への通水はやはりこの頃に開削が有ったと想定される。

7. 江戸時代

この時代の特定遺跡を挙げる事が出来ない。しかし、『上野国郡村誌 山田郡』の「東長岡村」の項目には、「物産」の項目に「瓦五千枚、近町へ輸売ス」が記されている。現在は何処で焼造されたかは確認がとれないが、恐らく焼造された瓦は「十能瓦」であったと推定され、当遺跡でも出土が多い。また、「吉澤村」・「八重笠村」の項でも瓦の生産が特産品に挙げられている。

中世には生産を推定させる「小泉焼」は、水田下位層の有機質を含む粘土を使用している。この水田下位層の粘土は、当遺跡の1区低地部を被覆していた粘土の使用が推定され、燃料材の確保を勘案すれば当遺跡から伊豆山周辺での生産が想定される。焼造された瓦は枚数が少ないことから、広域に販路を有するとは考え難く、近在の有力層、旧太田町程度が供給範囲と考えられる。

この他、『上野国本山々伏名所記』(寛政67年之頃書改)には、「東長岡 明王院」が認められる。当該地域では調査区の南側に現在も在住の長翁さん宅には、屋敷の一角にお堂を備えており、現在の御当主の先代までは修験行者であったことを確認している。当遺跡の第2号屋敷跡の溝条遺構からは、輪宝墨書の土師質土器皿が出土している。この屋敷跡と現長翁さん宅は至近の位置関係であることから、この屋敷跡は、長翁さんの旧宅跡であることが類推される。

又、「長翁」の「翁」の字は「秋本の殿様に拝領した」との事で、元は「長尾」である。現在、「長翁」さんは、東長岡地区に3軒が在る。

「長尾氏」は、由良成繁の次男顕長が足利長尾氏に入り長尾顕長を名乗るが、天正12年(1584)金山・館林両城の北条氏への明け渡し後足利に移り、同18年(1590)に牛久(茨城県)に由良国繁が転封している。当該地区に「長尾」の遺名が残り、弘化2年(1845)館林藩主秋本志朝の入封以降明治4年(1871)の廃藩までの間に、長尾から長翁に改姓している。恐らく、長翁家は長尾顕長の子孫と考えられるものの、菩提寺光運寺、旧住宅の度重なる火災により関係文書等は残念ながら焼失している。

第3章 調査方法と基本土層

第1節 基準杭と調査

第1項 基準杭の設定方法

平成2年、北陸新幹線建設工事が具体化し、当団による発掘調査が本格的に開始されるに至った。この北陸新幹線の走行路線域は、2市2町にまたがり北走後西走する経路を採っている。この状況の中統一した仕様によるグリッドの設定が急務となり、これらの悪条件を打破するグリッド仕様が要求された。そして、仕様の完成により具体的な形として、一事業を団として、初めて統一されたグリッドによる調査を実施した。

当遺跡の調査はこの仕様を準用する可く方針を勘案した。しかし、当遺跡の調査区が広域で1地点に集合していることから、北陸新幹線の仕様を当遺跡の発掘調査にそのまま利用せず、一部を読み替え今回の調査で使用した。グリッドは第2図に示した法則に従い呼称・読み替えて用いた。

尚、要点は下記のとおりであるが、基本方針は、国土座標第IX系を用いることを団内で統一している。

1. 10kmグリッド・特大グリッド・「地域」

国土座標第IX系原点を起点にして、10km単位の方眼により県下を網羅し、1～92の「地域」の設定を行い、特大なグリッドを設定した。この10kmグリッドの構想は、北陸新幹線の大区画（1kmグリッド）の設定の背景として作成されたが、「地域」が未設定であったのと、これ自体今迄公表されていなかった。今回の調査で北陸新幹線グリッド仕様を利用する場合、改めてその必要性があり今回「地域」の設定を行った。

なお、この10kmグリッドは、国土地理院発行1：20万・1：2.5万群馬県該当部を編集し、地上距離と地図上の距離を補正して図上で設定してある。

2. 1kmグリッド・「地区」・大グリッド・大区画

上述した10km方眼の「地域」中を、1km単位の方眼で1～100の「地区」を設定し、大区画＝大グリッドの設定を行った。この大グリッドは10kmグリッドを十等分した。座標値はkm単位の関数同士の交点当たる。

3. 100mグリッド・「区」・中グリッド・中區画

上述1kmグリッドを更に十等分したグリッドが当該である。則ち、100m単位の方眼で100の「区」を設定し、中區画＝中グリッドの設定を行った。この中グリッドの原点は、大グリッド同様に座標値では○00m・△00mの交点当たる。

4. 5mグリッド・小區画

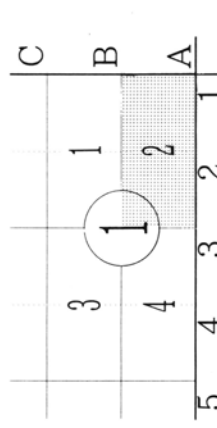
100mグリッドを更に20等分したのが最小単位のグリッドである。則ち、5mで1～200のグリッドの設定を行った。名称は交点からY軸に20単位、X軸に20単位とし、原点から西に向かい、北側に20進法により名称を付した。本来は、Y軸方向に5mピッチで1から20、X軸方向に5mピッチでAからT、それぞれ20単位の名称設定により、それぞれの交点記号名称により「グリッド名称」とするが、今回の調査では、調査面積が広域なこと、発見遺構が多量に及ぶこと・出土遺物も大量に及ぶこと・基本整理（遺物の注記）に、経費を出土総量に見合う支出が能わないこと等、諸般の事情により、敢えてグリッド1単位に対して記号化を計かり、可能な限りの効率化の一端として採用した。

5. 区の読み替え

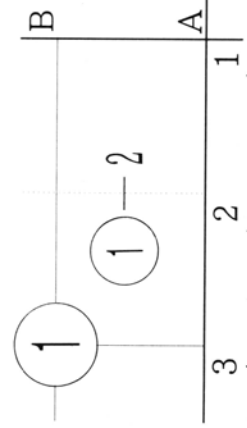
今回の調査対象部は、6地域84地区81～85・91～95区、94地区4区に該当する。この中で中グリッドは広い調査区内で11ヶ区が該当するため、調査中の混乱・効率化に鑑み、1～11区の任意名称に替え、この下位

	100	90	80	70	60	50	40	30	20	10	X=+34000
	99	89	79	69	59	49	39	29	19	9	+33900
	98	88	78	68	58	48	38	28	18	8	+33800
	97	87	77	67	57	47	37	27	17	7	+33700
	96	86	76	66	56	46	36	26	16	6	+33600
	95	85	75	65	55	45	35	25	15	5	+33500
	94	84	74	64	54	44	34	24	14	4	+33400
	93	83	73	63	53	43	33	23	13	3	+33300
	92	82	72	62	52	42	32	22	12	2	+33200
	91	81	71	61	51	41	31	21	11	1	+33100
											X=+33000

3. 100方眼 (中グリッド) 「区」



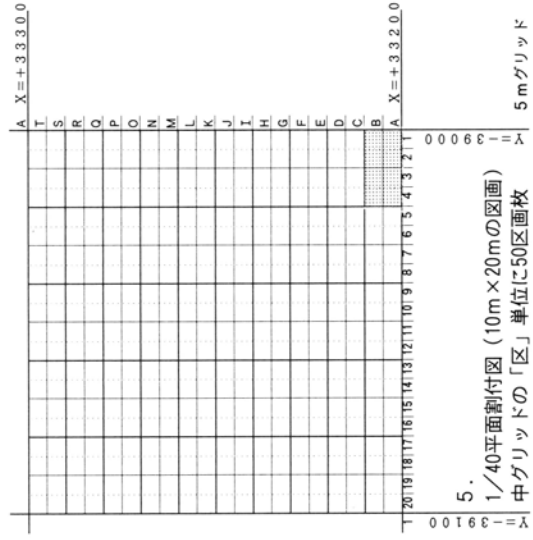
6. 1/20平面割付図 (5m×10mの図画)
中グリッドの「区」単位に200区画枚



7. 1/20平面割付図 (5m×10mの図画)

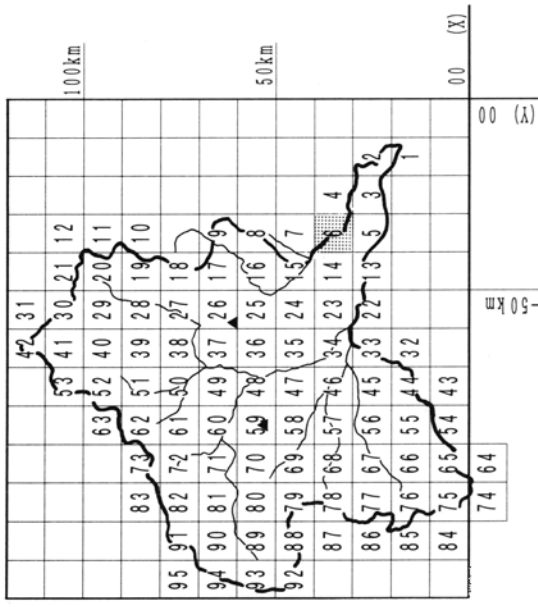
	100	90	80	70	60	50	40	30	20	10	40
	99	89	79	69	59	49	39	29	19	9	39
	98	88	78	68	58	48	38	28	18	8	38
	97	87	77	67	57	47	37	27	17	7	37
	96	86	76	66	56	46	36	26	16	6	36
	95	85	75	65	55	45	35	25	15	5	35
	94	84	74	64	54	44	34	24	14	4	34
	93	83	73	63	53	43	33	23	13	3	33
	92	82	72	62	52	42	32	22	12	2	32
	91	81	71	61	51	41	31	21	11	1	31
											30

2. 1km方眼 (大グリッド) 「地区」

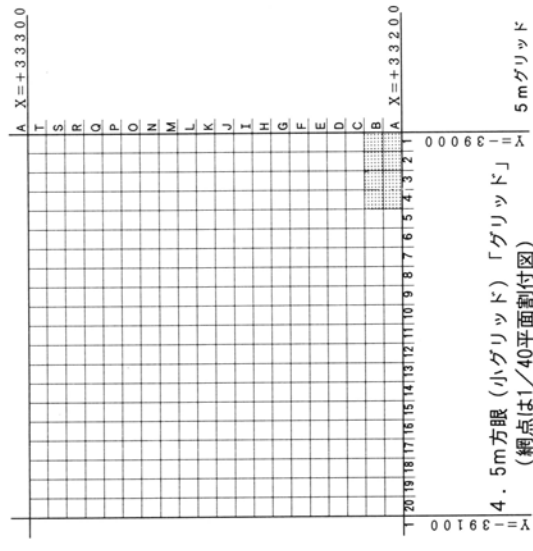


5. 1/40平面割付図 (10m×20mの図画)
中グリッドの「区」単位に50区画枚

図2 グリッド設定概念図



1. 1.10km方眼 (特大グリッド) 「地域」



4. 5m方眼 (小グリッド) 「グリッド」
(網点は1/40平面割付図)

のグリッドに1～200のグリッド名称を付した。これにより、数字とアルファベットの混用は行わなかった。

例として、9区の原点部は9区1グリッドになり、東接のグリッドは6区20グリッド、南接グリッドは10区81グリッド、西接グリッドは9区2グリッド、北接のグリッドは、9区21グリッドになる。(第2図-5参照)。

第2項 遺構の発掘調査

表土掘削・平面精査により確認された種々にわたる遺構数は、次章を参照されたいが、発掘調査の主作業になる遺構の掘り下げは、調査効率向上のため、4分割法は用いず主に2分割法により実施した。

例えば、住居跡及び住居の竈跡は、主軸の直行軸にトレンチを設定し、予め堀方面まで掘り下げ、土層断面図を作成後、覆土をスコップにより粗掘りし移植鍬等に扱ひ精査した。この粗掘り・精査の工法は土坑等にも行った。溝状遺構等は、土層断面作成必要箇所にはトレンチを設定し、掘り下げ・作図後、全体の掘り下げを行ったが、可能な限り大小のバックフォーにより実施した。

又、調査区北側部の縄文時代の包含層に就いては、ほぼ全体を大型バックフォーにより掘削・遺物採取し、排土内からも遺物の採集をした。

全体に調査効率向上の名目上粗雑な調査になったが、調査区内全面の地山露呈は完遂した。

第3項 遺構図化

発見された遺構は、1:40・1:20を基本として、1:10・1:50・1:60・1:100のそれぞれ縮尺により、使用目的に応じて遺構の図化を行った。

1:40・1:20の平面作図は当該調査の基幹であることと、広域な面積が作図対象となるため、作図諸作業の効率化をはかり、各中グリッド単位に双方の作図割付を行った。これが図2-6・7である。

1:40作図は、当団仕様の作図用紙の有効図化範囲に、200㎡=8ヶグリッド分を1単位として、中グリッドに50単位枚割付を図2-4・5の状態に割り付けた。

又、1:20の作図は、1:40の割付を4等分し、50㎡=2ヶグリッド分を1単位とし、中グリッドに100単位枚割付とした(第2図-6・7参照)。

そして、各割付平面図は例として、9-①が、9区-1～4・21～24グリッドの1:40遺構平面図を現し、9-①-1が9区-1・2グリッドの遺構平面図を現している。

但し、これら割付平面図には大形の個別遺構(住居跡・掘立柱建物跡・井戸跡・地下式土坑等)は輪郭のみを記録し、それぞれの遺構平面図により記録を計った。

第4項 遺構写真記録

遺構写真記録は、ヴロウニー判6×9のフィルムで、白黒ネガ・カラーポジの2種、35ミリ判フィルムで白黒ネガ・カラーポジ・カラーネガの3種を用いたが、専らにヴロウニー判の2種を用い、35ミリ判はサブとして撮影した。又、必要に応じてヴロウニー判6×9のフィルムのカラーネガでの撮影も実施した。このほか、委託業務にした、航空写真撮影は、4×5・ヴロウニー判6×6フィルムにより、白黒ネガ・カラーポジを使用している。フィルムの粒子はiso100以下の粒子状態のフィルムを使用した。

尚、35mmカラーネガは調査の進行状況・遺構の調査状況等、メモ的に用いた。

第2節 基本土層

第1項 基本土層に就いて

30,000m²を超える広大な遺跡地内には、河川の変流に伴う複雑な地形発達が看取された。発掘調査からえられた所見では、槍先形尖頭器やナイフの出土した地点で As—Opk 降下前後の台地縁辺(台地1)を確認したほか、徐々に低地が後退する様子を確認した。遺跡北端の低地では縄文時代・中期前半の土器が多量に出土しており、これより以前の台地(台地2、As—YP 降下以前に離水)の浸食を確認している。遺跡の基本土層は地点地点で大きくことなるため、ここでは台地をロームの堆積する地点と河川性の堆積物が堆積する地点に分け、遺跡の基本土層を記していきたい。

台地1 砂礫層を基盤に「暗色帯」以上のロームが堆積しており、焼山から延びる台地(沢口氏の言う岩面)の標準的土層を示していた。また、この台地は暗色帯の堆積後に河川氾濫に伴う浸食作用を受けており、ナイフや槍先形尖頭器を組成する石器群(第1文化層、A・B地点の石器群)が、台地縁辺に分布していた。遺跡の所在する太田市域はテフラの給源から遠く、このため明確なテフラの堆積は見られない。

この台地部分には後世の耕作その他で基本的に縄文以後の包含層を欠いており、また、堀の西側では耕作がVI層まで達し旧石器包含層を大きく壊していた。

〈台地1の基本土層、No.1・No.2〉

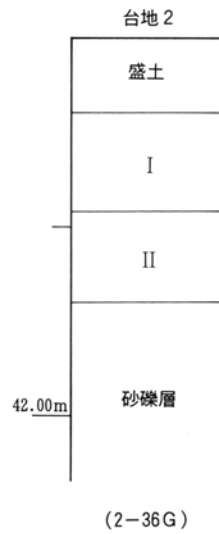
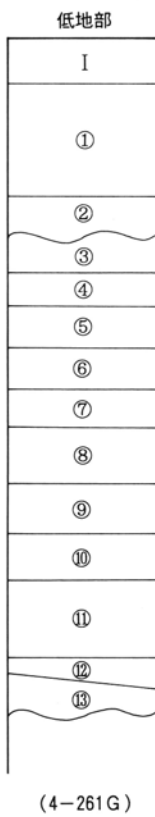
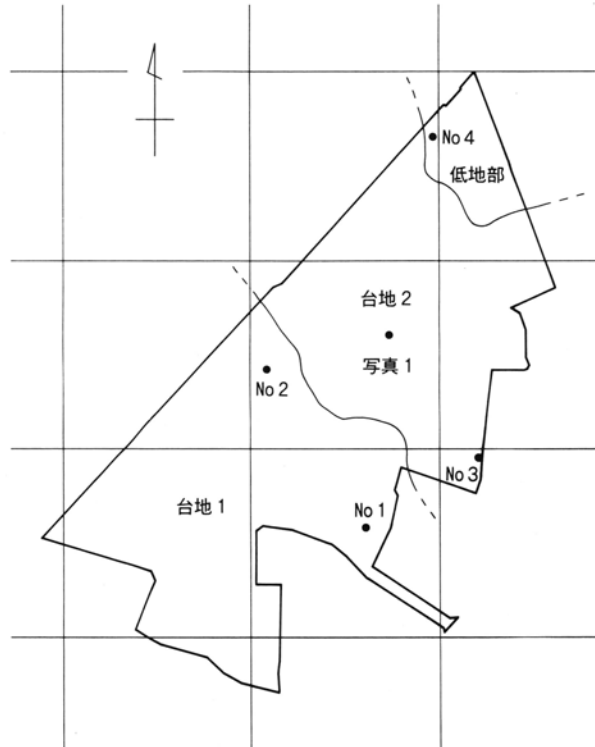
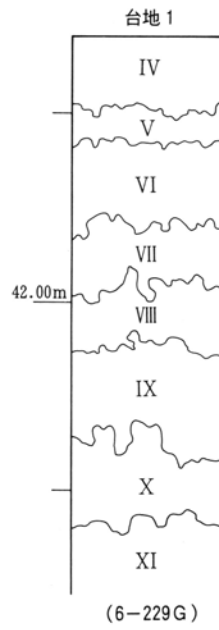
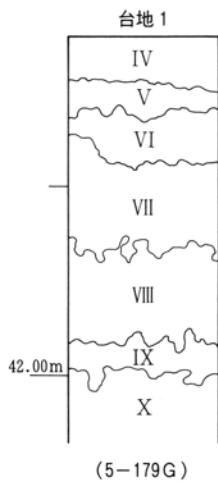
I層 表土層	VIII層 暗褐色硬質ローム層(上位暗色帯)
IV層 黄褐色ローム層	IX層 明褐色軟質ローム層
V層 暗黄褐色軟質ローム層	X層 暗褐色軟質ローム層(下位暗色帯)
VI層 黄褐色軟質ローム層	XI層 暗褐色ローム層
VII層 黄褐色硬質ローム層	XII層 砂礫層

台地2 台地1の北東側に続く洪積台地。As—SP 降下前後に離水したのち、As—YP が降下するころまでには台地の形成が終了している。この地点の土層堆積は、下層より砂質土とシルトがラミナ状に堆積、基本的に河川氾濫に伴う堆積を示していた。上位部分には As—YP の部分的堆積を確認しており、ラミナ状の堆積は見られないことから、少なくともこの時期には離水・陸化していた可能性が強い。台地の形成過程を確認するため設けたトレンチの断面では、複数の地点で砂礫層を確認(写真参照)している。この砂礫層は氾濫性の堆積物で、礫形状は数cmと小さい。3区・中世の館跡に礫層が露出する地点が見られ、位置的にはこの砂礫層に繋がる可能性が指摘されよう。

〈台地2の基本土層、No.3地点〉

I層 表土層	III層 砂礫層
II層 黒褐色土(褐色土を斑状に含む)	

低地 調査区最北端で確認した。この地点にも河川起源の厚い氾濫性堆積物が堆積しており、上層には表土層が約15cm、As—Bを含む黒色土が約5~10cmほど堆積していた。氾濫性堆積物は深い所で約3mに達しており、上層の約1mが砂質シルトの互層、それより下層では砂と砂礫が互層堆積していた。この砂層(*層)には流木が多量に出土している。この低地の形成時期の詳細は不明だが、この低地では縄文時代中期の土坑を確認したほか、包含層中より多量の土器が出土しており、少なくとも中期段階には低地が埋まりはじめていたもの、と判断できよう。



〈低地部〉			
1層	表土層	1層	灰褐色土 (少量のAs-Bを含む)
2層	灰褐色 (As-Bを含む)	3層	灰褐色粘質土
4層	暗褐色粘質土	5層	灰褐色粘質土
6層	暗褐色粘質土	7層	灰褐色粘質土
8層	灰褐色粘質土	9層	灰褐色砂層
10層	灰色砂層	11層	褐色土
12層	黑色泥土	12層	灰褐色砂質土

図3 基本土層図

第4章 発見された遺構・遺物に就いて

第1節 発見された遺構・遺物に就いて

第1項 発見された遺構

当遺跡の発掘調査で発見された遺構は、旧石器時代・縄文時代・古墳時代以降近世に至る各時代の遺構が発見されている。しかし、弥生時代については具体的な遺構の発見に至っていない。

これらの各時代での発見された遺構は、古墳時代以前・以後では大きな異なりが認められる。前者中、縄文時代では、竪穴住居跡・土坑・ピットを以てほぼ九分九厘の遺構種とするが、後者では、前者に更に、溝状遺構・掘立柱建物跡・竪穴状遺構・井戸跡・地下式土坑・土坑墓・火葬跡等を加えた種々の遺構が発見されている。又、中近世では、それらをユニットの構成遺構とする館跡・屋敷跡が発見されている。

これらの諸遺構は夥しい量の発見があったが、便宜をはかり表2に一覧化させた。

表2 発見遺構一覧表

	近世	中世	奈・平	古墳	縄文	不詳	計
溝	116	18	4	×	×	2	140
住居	×	×	124	13	39	0	176
竪穴	×	19	1	×	4	0	24
掘立	5	6	30	×	1	0	42
地下	×	12	×	×	×	0	12
井戸	30	21	15	1	×	0	67
土坑墓	7	4	?	×	×	0	11
土坑	620	375	276	5	658	0	1,934
(ピット)	(約1,000)						
計	778	455	450	19	702	2	2,406

第2項 発見された遺物

発見された遺物は、上述各時代毎にその特徴を示す遺物種の出土がある。ここでは、各時代毎にその時代を象徴する遺物乃至貴重遺物・特殊遺物に就いて述べておく。

近世（江戸時代）

当該期では、後述の第2号屋敷の第3期段階を構成する86・91・94溝状遺構からの一括遺物（第37～50図）が有り、土師質土器皿・在地軟質陶器を主体に、陶磁器の出土がある。又、6区1～3井戸跡からは、多くの棧瓦・十能瓦と共に、桶・俎板等の木器が出土している。木器には器種不明なものも多いが、屋敷の内郭乃至至近の位置からの出土であることから、生活遺物としての性格は判断出来るものの、今後の類例を待つ結果である。

瓦類は、共伴の軟質陶器の胎土に類似している、このことから、瓦類の実測図には「小泉焼か」の注記をしたが、前述した近世東長岡村の産物に「瓦」が記載されており、小泉村に次ぐ生産量から、出土した両瓦も当該地区で焼造された可能性が濃厚である。そして、旧村域からは、当該遺跡の1区低地で出土した粘土の特徴と、小泉焼の賦存粘土の共通性、焼成材の入手等から類推すると、当遺跡の北側至近の位置での生産が想像される。

中世（前半）

鎌倉時代を主とする当該期、ほぼ完器に近い状態まで接合出来た12世紀末～13世紀初頭の常滑焼大甕（第377図）があり、第3・5号竪穴状遺構・9区第3号井戸跡の3者の遺構から出土し接合している。

9区161号土坑からは、方形気味の土坑底面直上から青白磁香合（第647図-9）が出土している。出土状態は、蓋を逆位にし、その中に身を乗せる入子状態で、底面の中央やや東寄りから刀子（第692図-13）と共に出土している。

中世（後半）

室町時代を主とする。当該期としては、第2号地下式土坑から15世紀前半の上野型・下野型の土師質土器皿多数共伴して出土しているのが特筆される。

古代

古代、奈良・平安時代は住居跡を中心に希少な基石乃擬基石が出土している。特に第114号住居跡からは9点が出土し（第315図-3～13）、水晶を円盤状に磨き成・整形し黒色の有機質（黒漆か）を塗布している。同様な基石が10区204号ピット（第608図-29）から出土している。又、基石状に成形されたものが第66号住居跡（第169図-3）・第84号住居跡（第202図-14）・第106号住居跡（第242図-5）・第116号住居跡（第268図-3）・第147・150号住居跡（第319図-11）・第148号住居跡（第326図-9・10）から出土している。

当遺跡で特徴的な遺物として、須恵器双耳坏乃至碗が、第15号住居跡（第81図-4）・第80号住居跡（第189図-1・2）・第94号住居跡（第223図-12）・第159号住居跡（第345図-7）・9区第551号土坑（第663図-10）から6点出土している。

一方、二次的な状態での遺物の特徴として、多量に出土した墨書土器類の多さを挙げる事が出来る。実測図編の巻末に再掲載したが、総数172点を数え、内「主」乃至「主」と思われる文字が45点有る。しかし、墨書土器の量に比較して、硯類の出土が少なく、円面硯が第68号住居跡（第174図-12）・第80号住居跡（第197図-5）で出土した2点と、風字硯が9区遺構外（第745図-7）の1点、転用硯が9区第542号土坑（第662図-16）の1点しか出土がない。時期別の分類と傾向については未分析だが、アンバランスな点が指摘出来る。

このほか、9区3号井戸跡からは鎌の柄（第585図-1）が出土し、特殊な銅器に9区第78号土坑から出土した鈴（第692図-6）、装飾用の釘が第96号住居跡から出土している（第687図-7）。

古墳時代

当該期は特筆される遺物の出土は無いが、出土状況により特殊性が認められる。9区9号井戸跡は希少な古墳時代中期末の井戸跡であるが、この井戸跡の底面より若干遊離した覆土面から第560図-1～3が置かれた状態で出土し、壁面中に掘られた足場状の窪みの1箇所から第559図-15がやはり置かれた状態で出土している。この状況からは、廃棄に伴う何らか所産が推定されるものの、この状況だけの現状では具体的な意図の判断は避けておきたい。

縄文時代

当該時代では、1区低地の包含層から出土した土偶（第719図-10）が挙げられる。当該1区低地は、地山砂礫層上に堆積した暗褐色粘質土乃至暗褐色土（砂礫混入）中より、層中位に前期黒浜期、上位に中期阿玉台・加曾利E期の土器片を主体に称名寺期の土器片が混ざる状態で遺物が出土している。そして、この包含層を被覆する状態、暗紫褐色粘土層（有機質を多量に含む）が堆積している。この層中よりの土器片の出土がある。土偶は、この両層を重機で調査中（包含層は重機で掘削調査し、土中より遺物を採集する方法を採った）に出土している。出土層位は暗褐色土層中からと推定される。又、当該部の北側台地寄り部分には、純粹な阿玉台期の包含層が灰色シルト層直上に形成されている。これが報文中の「土器溜まり」とした廃棄遺構である。面的には広域にわたっていたが、上述の様に重機調査のため辛くも該当部のみを精査した。この

第4章 発見された遺構・遺物に就いて

土器溜まり部分の土器は、被覆土の土圧により非常に脆弱で水洗いも儘ならぬに状態になっていた。接合関係の確認も行ったが接合を認め得る割れ口の状態ではなかった。

当該時代の特徴として、石器の出土量が非常に少ない点が指摘できる。特に加曽利E期では、通有の打製石斧の量が極端に少なかった。石器の図化は出土した大半を掲載したが、打製石斧・剥片石器・石鏃等は出土した全てを図化掲載した。

以上出土した遺物の特筆される部分であるが、各時代の詳細に就いては心苦しいが掲載図から判読して戴きたい。

第2節 溝状遺構

第1項 近世

当遺跡で発見された溝状遺構（以下、□溝に略記）の大半は当該期の所産と考えられるが、幾つかの主要な溝状遺構には、前代に当たる中世から踏襲されて使用されている溝状遺構も有る。また、ほぼ同位置での構築が繰り返されている溝状遺構も認められている。

発見された溝は、大・中・小の規模に分類され合計116条が発見されている。

大規模な溝は、二者の存在が有り、灌漑用水として構築されたものと、前代の遺構を利用して排水乃至灌漑用水として再構築的に構築されたものが有る。

両者の内前者が、44・45号溝・62号溝・20号溝が挙げられる。後者は、102溝が挙げられる。この102溝は、前代の館跡の堀（72溝）を掘り返す形で構築し、比較的長期に亘り使用し、埋没後、更に同位置で平行する状態で中規模の溝状遺構を数次に亘り短期間に構築する状況が有り、複雑な状況を呈している。この状況が最も顕著なのが第2号館跡の堀跡とこれを切る溝状遺構の一群である。

中規模の溝状遺構には、灌漑用水的に構築され、土地の区画界として利用されている溝状遺構も有る。また、区画溝として構築し屋敷の外郭溝とし排水溝とする溝も有る。

前者には20号溝・40号溝・41号溝・99号溝・122号溝・125号溝などが挙げられる。後者では、1～5号溝・80～92号溝が挙げられる。

この後者の一群は、後述する第1号屋敷跡・第2号屋敷跡の外郭を構成する溝状遺構で、1～5号溝が前者を南に開く状態で「コ」の字状に囲んでいる。後者は数時期に分別される状態で長方形に囲む外郭溝を構成している。

小規模な溝状遺構は、最も多様な状態で、小規模に長短を加味し、更に相互間の状況を考慮しなければならない。

大規模では、比較的大規模な土地の区画のために掘削されたもの。排水を意図に構築されたものが有る。短規模では、屋敷の外郭を画するもの。耕作に伴うもの等が挙げられる。全体的には、耕地の区画が主要と考えられる。

これらの溝状遺構は、調査区内で粗密が有り、9区周辺内での発見が最も多く、次いで5・6区周辺での発見が多い。この双方での分布の多いのは、上述した溝状遺構により区画された屋敷跡の存在と、第1号堀内での当該期の水田耕作に原因することが考えられる。

第2項 中世

当該期は18条が発見されている。前述した近世の如く多数の溝が発見されなかったため、規模での分類は大・小の二者程度が限界である。

大規模な溝状遺構は、後述する第1～3号館跡の外郭堀と、第1号館跡内で発見された51A・51B号溝の5条でしかない。この51A・51B号溝は、第1号館跡の北辺堀と同位の軸方位を指しており、51A号溝は人為層による埋戻がされている。恐らく、館の構えの改修に伴う所産とも考えられるものの、北接する位置に改めて同規模の遺構を構築する意図が不明である。或いは、北辺のみ二重の構造に構築したのかもしれない。孰れにしても、この第1号館跡に係わる遺構であることが判断される。

大規模溝以外の溝は非常に少なく、2区H号溝状遺構が第1号館跡の北側の中世遺構群を囲い込む状態で「L」字状に構えている。この中世遺構群中の2区91号土坑（以下、「2-91坑」の如く略記）は狭長な土坑であるが、図中では溝にも想定される。この土坑は、調査時の軸方向に設定した土層断面では、人為層が水平堆積様に認められたことにより、周辺の土坑等考慮して土坑扱いにしたが、軸の指向方位は、前述の51A号溝と同位である。そして、2-61坑の西端で2H号溝が不明瞭になっている部分で立ち上がる状態であることは、両者の何らかの関係を示唆しているものと考えられる。又、人為層を判断させた土層には、多量の地山ローム土を互層単位に混入する状態であったことから、単なる人為層と判断しかねる状態とも言い得る。

中世の溝は上述の極限られたものしか発見出来なかった。

第3項 古代

古代の溝状遺構は奈良・平安時代の所産で第9号溝状遺構・第42+65号溝状遺構・第117号溝状遺構の3（4）条があるのみである。

第9号溝状遺構は、調査区中央を縦断する1号堀に併走する状態から南方に走行して調査区外に延びている。形状は、6区内の残存状態の良好な部分では、幅員1.6m程で薬研堀状態である。又、同区の部分では、確認面上で覆土のローム質の混入が多い部分が非常に硬化していた。この硬化状態は、道跡を思わす状態であった。そして、調査区中央より北側では、灰黄褐色シルトにより埋没していたが、状況的に洪水に原因すると判断され、溝が半ば埋没しかけた段階で、シルトが一気に流入したのと考えられる。これは1号堀の古期の段階で起きている（第1図中A-A'の北東側よりの洪水覆土層）洪水に原因している。出土した須恵器片からは（シルト直上層中より出土）8世紀末頃に洪水が発生していることが推定される。

この第9号溝状遺構は、走行経路から、当初1号堀の水を引き込む目的の小規模用水路として開削され、東南方向の谷地を受益地として開削されたものと考えられる。この場合、この谷地の小規模開発程度の状態であったであろうと考えられる。又、前述した硬化面等の状況から、洪水により埋没後溝状遺構を利用した道として利用されていたことが推定される。

第42・65号溝状遺構は、調査時期が異なったため別名称になっているが、元来は同一の溝状遺構である。

走行はほぼ東西走するが、調査区西端側では北東方向に緩やかに方向を変えた状態が東西走の状態に成っている。詳細な状態は遺存不良な為判然としないが、出土遺物の土錘と同質の土錘が10世紀前半の第142号住居跡から多く出土していることから、当該溝も同様な時期が推定される。この時期、集落（？）が縮小傾向の兆しが窺知される。走行方向から通水目的の溝状遺構とは考え難いことから、何らかの区画に伴う施設が想定され、10世紀の或る段階の集落（？）の範囲を示しているかの可能性もあろう。

第4章 発見された遺構・遺物に就いて

第4項 第1号堀の調査に就いて

第1号堀は調査区を東西に二分する状態でほぼ南北に構築されている。調査着手以前の太田市教育委員会の試掘調査所見では、「旧河道」として調査対象外であったが、調査着手以前よりローム台地を開削する旧河道とは考え難いことから、何らかの遺構であろうことは想定されていた。そして、調査着手当初、県教育委員会から「早期に再試掘調査を実施して遺構か否か判断して欲しい」旨打診があり、調査の要否が迫られた。

本調査の当事者として、表土層除去段階で当該堀の最北端側に重機に依りトレンチ調査を実施した。この結果、多量の砂礫層により埋没する数条の溝条遺構が重複する状態が認められ、このことから遺構であろうことが判断されたが、湧水量が著しく壁面崩壊の危険性があったため詳細観察には至らなかった。そして、県教育委員会に当該堀が遺構であろうことを通知したが、冬季に改めて再試掘を実施して、具体的な遺構の性格を判断することを添えた。

その後、冬季に第1面調査と併行して再試掘調査を実施した。調査はA～Pトレンチの16本を設定し、遺構面把握のために実施した。この結果、確認面に最低3面の調査必要面を認め、都合4面の調査が必要であることが判明した。この4面は、第1面が確認面の近世の遺構・第2面が中世水田跡・第3面が浅間B軽石降下面・第4面が地山面の調査である。以下、各面単位毎に記述する。

第1面（近世遺構の調査）

第1面の調査は、当該堀跡を利用して造られた水田跡を切る溝条遺構群の調査である。

溝条遺構は、調査工程の都合により周辺を調査後暫くの期間において、当該堀に重複する10条の溝条遺構（第9・46・A～F号溝・第40・41溝）の調査を実施した。この調査は、遺構覆土の底面・壁面と露呈させるため、結果的に不確実な状態を以てしての作図には危惧観が有ったのと、期間的制約による判断により、調査は簡略化させて実施した。方法は、平面形状確認後、確認状態の平面図を60分の1で作図し、トレンチによる断面調査のみとし、断面図の作図に止めた。

この10条の溝条遺構の中で、第9号溝条遺構は前項で述べた古代の溝条遺構である。第40号溝条遺構は第33号溝条遺構が合流する状態で、合流部の部分は溝底が極度な段差を備え、合流に伴う水量調整の機能を具備する構造になっていた。

これらの溝条遺構は、当該堀跡形成していた低地部分を利用して、近世段階でも水田耕作を行うための用水路としての性格が推定される。

第2面（中世水田面）（付図38）

第2面の調査は、第1面の調査時実施した再試掘所見に基づき調査を実施した。

試掘段階のトレンチ土層断面では、6～7面に達する水田跡が確認出来たが、各トレンチ間の土層断面では、水田跡を示す鉄分の凝集層が安定・非安定の土層状態があり、一概に面として全面露呈出来る状態ではないことから、最も状態の良好な面の露呈を行った。調査は重機を多用し如連で精査する方法を採った。このため、精緻な調査ではなく部分的な掘り過ぎ等が有る。この露呈を行った面が付図38である。

当該の水田面は北端側で標高42.20m、南端側で41.80mを測り勾配率3/1000である。水田面の状況は、上述の如く掘り過ぎが有るものの、2カ所で畦状の痕跡乃至状況が認められた。この畦状の部分は、図中北側の北西走行部で掘り過ぎにより窪んだ状態の南側で15cm程の段差が生じている。この段差の北側に畦が推定される。南側では、第59・60溝条遺構が発見された部分で、両溝条遺構の周辺と南側やはり段差が生じている。この部分にも畦が推定出来る。

この、南側部分で発見されている溝条遺構は層位的には当該面より新しい時期の所産あるが、降っても近

世前半位と考えられる。また、両溝条遺構が西側の壁面に削り出した突出部は、近代まで地割りに大きな影響を残しており、調査着手直前までこの部分が堀跡の地割をクランク状に通る道となっていた。

この溝条遺構以外で、当水田面を切り構築された遺構に第4号土墳墓(第592図)がある。この土墳墓は残存が不良ではあったが、少量の骨片と元豊通寶1点出土している(整理時所在不明)。この土墳墓は、元豊通寶を出土することから、通有知見から当該土墳墓が中世後半(15世紀頃)の所産に比定される。このことから、当該水田跡は中世後半以前の相対年代が与えられる。しかし、具体的な出土遺物が無いため詳細には決し難い。

第3面(浅間山B軽石降下面)(付図39)

第3面は下位洪水層を切り構築している。当該面はB軽石降下面を主体とする遺構面を露呈させた。

露呈させた当該面は、水路状の流路とこれを構成する底面・テラス面・上位平坦面が発見されている。

露呈された底面は平坦であるが、南半部では溜まり状に窪んだ部分が認められた。しかし、この部分では特殊な付随遺構等の施設は認められなかった。断面は箱堀を呈しており、底面部分だけは黒色粘質を使用し、上位に立ち上がるに従い壁面では、発色が褐色味を帯び砂質味を帯びていく状態である。北端での標高は41.20m、南端部で41.00mで比高差が20cmしかなく、勾配率1.5/1000で上位面の1/2である。平面での状態は、蛇行状に流路を採るが、直線走行がクランク状に接続する状態である。

また中央部では、東側に幅6m、長さ15m程の平坦面が発見されたが、特殊な付随遺構等の施設は認められなかった。しかし、このテラス状の平坦面の底面側は直線走行する状態であることから、人為性が強く感じられ、何らかの機能を有していたことが推定される。

この底面の土質の状態からは常時水流があるものとは判断しがたいものの、屈点の壁面の状態からは、有る程度の水流があったことを裏付けている。

一方、B軽石降下以後(粕川テフラ層を含む)、この水路はロームブロックを多量含む黒色砂質土により埋め戻され、この上面に水田跡を示す鉄分の凝集層が認められていることから、水田化を目的にした開墾が行われたことが判断される。これ以降、水田としての土地利用が継続される。

出土遺物は、B軽石降下面の下位層から第6図-1~11に示した9世紀後半の土器群が、5区-34グリッド周辺の上位平坦面から出土している。

第4面(地山面)(付図40)

第4面は地山面を露呈させた。しかし、当該面を覆う洪水層は南北端の壁面の土層断面には、数次に互状態が看取される。第3面のB軽石降下面の水路は当該洪水層を切り構築されている。

露呈された地山面は形容し難い状態であって、露呈された地山も粘土層・シルト層・砂層・礫層があった。この状況は洪水の水の営力により地山諸層が流出した状態である。これにより、部分的に残る旧底面(中央部以北の南側半分)は、テラス状に残存する状態であった。残存する底面では、北側で粘土層底面上を礫が水流により転がることにより生じた、細い溝条の縞を幾重にも刻んでいる。この部分の南側では、砂礫層を浸食し形容し難い状態にまでになっている。中央より南側では、シルト層の底面がやはり水流による浸食で溜まり・溝条の状態になっているが北側程の浸食ではない。底面の標高では、北側で40.70m、南側で39.70mで勾配率約8/1000であり、上位面の勾配率よりかなり高い状態である。推定される構築当初の底面は、北端部が溝条の縞を除いた平坦な状態が旧態と判断され標高41.20m、南端側での部分は42.20mである。

壁面の状態は、部位によりことなるが、中央以北南半西壁面には、袋状の半月形の土坑状の掘り込みが多数確認されており、粗大なロームブロックを含む黒褐色土が覆う状態で堆積が認められる、更にこの層を洪

第4章 発見された遺構・遺物に就いて

水層が堆積していた。この状態は、掘削途中に洪水が発生したことが推定される。だが、北側土層断面からの所見で、洪水が最低3回発生していることから、どの段階かの判断は出来かねるが、西壁部の著しく西側に膨れる状況は洪水後の改修とも類推されるが根拠に乏しい。また半月形の掘り込みは、住居跡の隅部で時折認められる「タヌキボリ」に類似している。この状態での掘削の痕跡がロームブロック・黒褐色土の混土层であろう。この「タヌキボリ」は壁面の各所で認められる。また、中央部の直ぐ北側東壁面はほぼ垂直状態に立ち上がっており、この部分の底面を含め大規模に浸食されている。これは水流に因る所産の痕跡と解され、調査時この壁面崩壊土が巨大なブロック状で出土している。

中央南側の南半部では、やはり西壁面にピット状の掘り込みが多く認められる。唯、これが認められる部分の壁はほぼ垂直に立ち上がる状態であることから、壁面の保護等の何らかの施設があったことが推測される。出土遺物は、最下層の砂礫層内から第7図-1～8が出土している。

第5項 第1号堀の性格に就いて

遺構認定に就いて

当該1号堀は、前述した状況が調査所見の一部であるが、ここではこの堀の性格に就いて記述しておく。

まず、当該堀が遺構か否かの問題である。調査担当は遺構認定の前提に立ち調査実施したが、一方、団内には「自然河川」の論も有る。

第4面の調査で発見されている半月形の袋状の状態は、「タヌキボリ」の残形として考えられることから、人為の遺構の一部として判断される。この堀方が堀の各所で認められることから、全体が人為に依り掘削されたことが判断される。だがこれだけでは部分的な状態の状況とも考えられる。しかし、堀全体の状況を見ると、平面形が多角形状を呈しており図4に示した多角形状の構成が窺知され、更に、台地上を縦位の方向に延びており、堀の横断面では、東西壁面の地山は対応関係にある。この状態が人為に掘削の計画性の具体状況として判断している。

翻って、前橋市から赤堀町間を経路する「女堀」は、大規模用水の人為掘削によるが、報文中の「工区」の認定に内容不足を感じたため、「構築基準^{註2}辺」の造語の設定時に「女堀にける基準構築^{註2}辺」として既説した。状況的にはこの直線がなす多面体構造は、「女堀」同様の工区設定がなされた結果の状況が看取される。

実態的には、「大工区（地形）・中工区（地域）・小工区（地区）・極小工区（部分）」の4段階の工区分がされる。当該の堀の調査部分はこの中の、「極小工区」が4つ接続する状態である。

上述のことから、当該堀は大規模用水路として構築された遺構とする根拠である。

大規模用水路としての取水・経路・受益地

前段では内的要因を述べたが、ここで外的部分に就いて述べておく。



図4 極小工区画推定図
(1:800)

当該堀の調査区外の状況は、北側200mで既掘細谷遺跡（周辺遺跡No4）の状況は、縄文時代の住居跡が砂質ローム状の土壤に切られ、縄文時代の遺跡がこの砂質ロームにより幅20～30mで分断された状態であったことが調査を実施した岡部修一氏より御教示を受けた。この状態は、当該堀のシルト層の状況と判断される。この砂質ロームの分布幅と地上の地割りに残る一段低い部分の幅はほぼ一致している。そして、この部分より北側には、観音堰までの間を大谷幹線「五ヶ村用水」が流走している。そして、この「五ヶ村用水」の経路には一段低い地割りが重複している。現在は土地改良等により旧形状を大分逸しているが、一部では旧状を留めている。

他方、当該堀の南側の延長には、現在でも周辺部より極度に低い地形状態が認められ、調査区の東側で「七ヶ村用水」がこの一段低い部分の地割り延長部分に重複して流走している。この「七ヶ村用水」は、「休泊用水」の新観音堰から取水しており、「五ヶ村用水」が細谷遺跡と当遺跡を迂回する状態でこの新観音堰に合流している。この状態は、「五ヶ村用水」が当該堀の埋没している部分を東側に迂回している状態で、「七ヶ村用水」が当該堀の南方部分を補っている状態と言い得る。

地形上では、焼山の南方に延びる低台地を南北に切る状態で当該堀が構築されている。この以北の「五ヶ村用水」は、『太田市史 自然編』に拠れば、大間々扇状地第1面の旧河道の凹みを利用して構築されたと解される。確かに金山丘陵の東麓に旧河道状に凹み、「五ヶ村用水」が経路をとるが、当該遺跡の状態を考慮すればそれだけが全てでは無く、人的用件もかなり加わっているものと考えられるものの具体的な査証は無い。だが、この旧河道とするものは大間々扇状地I面上で、付図1に示した他の旧河道と比較した場合、ほぼ直線的な状態で、金山東麓を浸食したとしても、明瞭な蛇行痕跡を留めたと思われるものの想像とは異なる。

現「五ヶ村用水」の取水堰は、「新田堀幹線・大谷分水」で、「新田堀幹線」は渡良瀬川の「太田頭首工」から取水しているが、これは、渡良瀬川の旧「待堰」を取水堰とする「新田堀」から分水された「五ヶ村用水」である。この「待堰」は南流域の「矢場堰」と一対をなし下流の「市場堰」・「借宿堰」と共に旧館林藩領の重要な灌漑施設で、現「待矢場両堰土地改良区」の4750haが受益面積で国内有数の改良区である。この待・矢場堰の設置時期は、元亀元年（1570）頃に金山城主由良成繁により整備されたとしている。

この「大谷分水」周辺旧状（図5）と地形上（付図1参照）からは、「新田堀」が直接「五ヶ村用水」に通水させていたかの状態が推定される（旧河道の低地部分）。このことは、現「新田堀」の新田郡への給水が元来の経路では無く、現「五ヶ村用水」への経路が開削の目的であったと考えられ、この場合、受益地はほぼ「七ヶ村用水」と同様の、内ヶ島・龍舞の谷地が想定される。そして、新田郡側への給水は、恐らく中世後半段階と推察される。

これは、承安2年（1172）園田氏・新田氏の対立状態から推察するしかなく、対立状態の「押妨」から水争的な状況は思われず、台頭する新田氏の押領等の状態と思われる。また、一連の新田義重「譲状」・「置文」・「新田庄田島在家注文」（以下「注文」と略記）に記載される各地の地名で、古代新田郡域を出るのは「にいかわ」（新川）（現勢多郡新里村か）のみであることは、旧藤姓の勢力域を駆逐

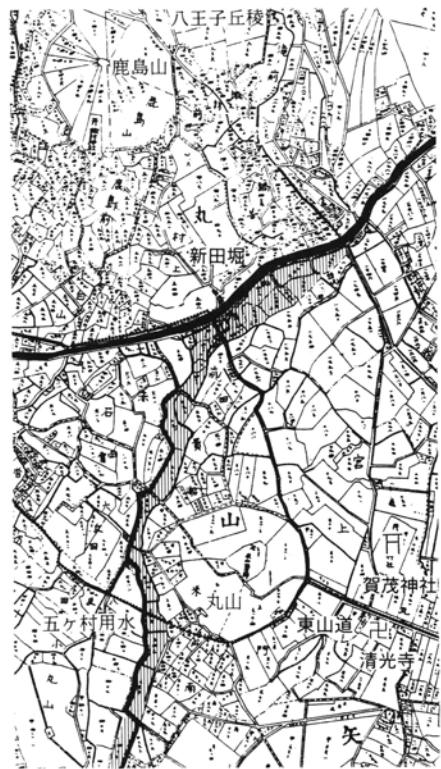


図5 旧新田堀流路推定図

第4章 発見された遺構・遺物に就いて

するかの状況であることから、園田氏（藤姓）との間にも緊張状態は続いたと考えられる点にあり、新田氏内部や対外部との背景関係が三者の文書の記させる状況であったと考えられる。

そして、「注文」に記述される水田面積は、付図1の各郷比定地の低地範囲部分との関係に整合性が認められ、金山東側谷地の「長手郷」、金山南方の「大嶋郷」・「浜田郷」・「東牛澤」、八王子丘南方で八瀬川に至る間の「成塚郷」が比較的水田面積が広いことなどは、付図1が如実に示している。この状況は、古代からの灌漑技術の到達点の状態で、「新田堀」の新田郡への通水による結果とは考え難い。また、「一井郷」の如く周辺の各郷に比較して水田面積が広いのも、「一井郷沼水」（重殿湧水）の水源に依ることが推定出来る。元享二年（1322）の大館宗氏・岩松政経との「沼水」相論に対する「関東下知状写」の内容は、「沼水」が独立する水源として表現されていることから、やはり、14世紀初頭段階での「新田堀」の新田郡への給水はされていなかったと推定される。応永11年（1404）「新田庄惣領知行分郷々公田百町注文」の目録が作成されている。この目録に記載が認められる郷名で、「注文」に記載のある郷名の水田面積を積算すると合計160町を越えており、「新田堀」によると考えられる水田面積の増加は認められない。だが、この目録自体が課税対象の土地面積の鎌倉府に対して申告する性格上、先に「百町」の数字合わせが有り、それにより各郷での面積を未記入にしているかもしれない。やはり、広域（山田・新田郡）な利害を統治し得る領主の出現まで「新田堀」の開削が待たれるとしておきたい。現状では、大永2年（1522）古河公方足利高基より横瀬左衛門六郎宛の書状に記述される、「広沢郷用水の事（後略）」が史料上の上限であろう。

又、大同年間に開削の伝承をもつ「広沢用水」（別称、大同堀）は、渡良瀬川扇状地の第Ⅰ面を走行し、現在は「新田堀」と「待堰」の西方で合流し延長距離は約9kmである。待堰から「大谷分水」・「五ヶ村用水」・「七ヶ村用水」を経て竜舞地区の谷頭までの延長距離は11kmで、この両者を一つの用水とした場合総延長20kmになる。しかし20kmの大用水堀は、当該第1号堀の8世紀後半には洪水により度重なり埋没している状況から、7世紀末～8世紀中頃での開削を推定せざるを得ないが、技術的な可否の判断もある。

好意的に解釈すれば、山田郡の建郡に伴い、郡を挙げての事業として計画されたことも想像される。また、久寿3年（1156）に立荘された「園田御厨」、「寮米保」の双方を縦走する大動脈としての存在になり、双方の御厨立荘の最大背景にこの大用水路に依る開発結果とも想定されよう。また、正史上唯一の山田郡の記事、『続日本紀』承和2年（835）七月甲子の条「（前略）以空閑地山城國愛宕郡二町。上野國山田郡八十町賜諱田邑。」（国史大系）。これは、田邑（道康）親王（後の文徳天皇）の諱田として80町の閑地が開発されることを意味している。この背景に当該堀の第3面の状況（洪水埋没後の復旧）も想像され、広大な空閑地開発が土地政策に加わっていくことを示しており、山田郡司某に課せられた難題でもあったことと考えられる。

孰にしても「新田堀」の開削時期の決定要素に、当該堀との関係が非常に重要になってくると思われるが、「新田堀」自体、史料以外で具体的な物証を以ての時期決定は現段階では不能と言わざるを得ず、識者の解釈方法と自らの決心、自信を拠り所とするしかない。

太田市内は近世「館林藩領」内に占める。この「館林藩領」は前述「待矢場堰」を主体とし灌漑用水整備による支配がほぼ確立していたが、その母胎は、戦国期由良氏の支配に遡る。特に、山田郡側では、前述四カ所の堰と、北から広沢・新田・五ヶ村・休泊・三栗谷用水、葦川・矢場川による灌漑が管理されている。この中で「休泊堀」は、元龜元年（1570）大谷新左衛門（休泊）（長尾顕長下臣）に依り開削された用水の伝承をもつ。この「休泊堀」の開削は、旧河道の蛇行流路を繋ぐ状態で開削したと考えられる（付図1参照）。そして、この様な状態で、渡良瀬川扇状地第Ⅱ面の灌漑用水の整備も、度重なる渡良瀬川の氾濫・洪水による被害を復旧・改善を重ねつつ、用水整備が進められたことと推定される。

第3節 住居跡

第1項 竪穴住居跡に就いて

竪穴住居跡（以下住居跡・住と略記）は総数176軒が発見され、後述する竪穴状遺構にも住居跡と考えられる竪穴状遺構が有り、これを含める合計は181軒である。

発見された住居跡は、縄文・古墳・奈良・平安時代の4時代に帰属するものである。これらの住居跡は、縄文時代が北側・中央部寄りに集中し、同部には同期の土坑も集中している。古墳時代は調査区内の南側に集中する状態で、奈良・平安時代の分布域に重複する状態である。奈良・平安時代は、調査区南半分分布するが、第1号堀を境に東西に分断する様に分布している。特に9区内に集中する傾向が顕著であり、掘立柱建物跡（以下、掘立と略記）の分布が重複する。

調査方法は第1章第2節で述べたとおりである。これにより、出土遺物の一括性もどちらかと言えば、一括収納に近い状態であるが、比較的良好な資料に就いては可能な範囲に於いて現場記録に留めた。

第2項 奈良・平安時代

発見された住居跡の中で当該期が最も多く発見されている。時期は8世紀中頃～10世紀末頃で、特に9世紀が多く、4つの纏まりでの分布が認められる。

発見された住居跡は119軒を数え、8世紀35軒・9世紀59軒・10世紀22軒で、この各世紀での細分では、8世紀：前半6軒・中頃11軒・後半16軒・細分不可2軒。9世紀：前半18軒・中頃19軒・後半16軒・細分不可6軒。10世紀：前半10軒・中頃5軒・後半5軒・末1・細分不可1軒。

この細分は出土遺物様相によるが、出土遺物が少量の場合は、住居形状・新旧関係等により求めたが、住居形状に拠る場合は遺物年代との隔たりがある場合がある。以下各時期毎に所見・特徴等を整理し記述する。

8世紀の住居跡

当該期の住居跡は、調査区内を南北に縦走する第1号堀に依り分断される状態で、調査区内の東西に分かれて発見されている。西側の分布状況は、総住居跡分布域内の北寄り側に分布が認められ、前半期は最北側に寄り、中頃は南北に分離するかの如くに見られ、後半期は散在とも言い得る状況でもある。

この面的分布に就いては、何らかの状況に寄る反映とも想起されるが、概して、総住居跡分布域内の中央が空く状態に成っているのが注意される。これは、約100年間に構築された住居が、或る特定の場所を避けることにより生じたのか、結果的に空く状態に見えたのであろうが、後述する住居跡・掘立が、この空間の周辺を取り巻く様に密集する状態で分布することから、やはり人間の意志の結果と判断しておきたい。

住居跡の構造は、後述の古墳時代の住居跡と対比すれば、顕著な差違に柱穴の有無である。これは通有例同様である。細部では、傍竈坑もそれぞれに有無があるが、その理由は不明と言わざるを得ない。

住居跡の平面形状は縦長方形・横長方形・矩形がある。全体的に均整のとれた形状を呈している。

一方、当該期のみの特徴ではないが、住居の右上壁が、左壁に対して斜角で交差する状況が認められる。心象には、軸左が右側より長く、対壁の短辺とを結ぶ状態で竈設置壁がある状態である。この例として11号住居が挙げられる。

竈は調査した全てで改築が認められる。この改築も最低限でも数次に及んでおり、その結果の形が「掘方」に具現されていると判断される。竈の構造上の点として、後代に比較すると袖の作りが屋内側に大きく据えられている。これも通有例に等しいが、燃焼空間形状が丸味が強い竈が多い点が指摘出来る。

第4章 発見された遺構・遺物に就いて

住居の掘方は、五者の在り方がある。a 住居の中央部が顕著に掘削されるもの。b 壁西側が顕著に掘削されるもの、c 所々に土坑様の浅い掘り込みが認められるもの。d 不規則な掘削を思わせるもの。e その他。である。この五者の在り方は、後代の住居でも同様である。その他の中で特筆したいのがaを顕著にした状態で、14号住に代表される様に、中央部の掘削範囲が広く隅部に達し、隅部に若干地山を掘り残している。この地山の掘り残しの上面が概して床面に成っている住居跡が多い。この状況に近い住居跡は、当該期だけではなく、他時期でも認められるが、四隅に確実に残す住居跡は稀で、隅部の一つや、壁下に小テラス状に残す住居跡が多い。これは、構築途中で床面の深さを一端決定したかの状況であって、掘方掘削終了後の所産とは考え難い。恐らく、掘削途上での床面設定の目安的に設けられたものと考えられる。筆者の知見の及ぶ範囲では、この小テラスは当遺跡の特徴的な現象として捉えることが出来る。

9世紀の住居跡

当該期の住居跡は、調査区内南西部に8世紀の住居跡の分布に重複する状態で分布している。だが、8世紀で認められた、第1号堀東方での分布は認められず、同堀の西側のみでの分布状況である。

また、8世紀で認められた「空き」の部分は、当該期に至り更に顕現化している。これは、当該小期毎の住居跡の分布が、5ヶ所に群在する状態に認められ、各々間には更に「空き」の部分が生じている。この単位の中では、大形の住居跡を含む纏まりは3群に限られ、他2群は中小規模の住居跡が展開する。この傾向は中頃・後半期に継続され、群単位毎のそれぞれの性格が異なることを推察させる要件が内在している。その中でも特に顕著な一群は、公園用地の南側・西側の一群で、大形の住居跡が多く発見されており、前代より継続されている傾向である。このことが8世紀から継承された「空き」部分の顕現化の要因の一つとして推定させ、小単位の住居跡の纏まりが「集落」の最小単位の共同体構成として捉えられる。

後述する掘立柱建物跡群は、最古の段階の一群が9世紀後半の142住に切られている。

また、大形の住居は掘立の平面積に近似する傾向が認められ、双方間の特性として捉えられる。そして、前代の項でも述べたが、大形住居跡の分布と掘立の分布は、公園用地周辺に「コ」の字状に分布し、内側を「空き」の空間を演出している。更に、大形住居と掘立は9世紀以降併存して建てられたことが指摘出来る。

当該期の住居跡の構造は、前代と大きな異なりは認め難い。形状も縦長方形・横長方形とが主体、矩形が少ない。傍竈坑も有無が有るが、当該期の住居跡には整った様式で具備するのが多い点がやや異なっている。しかし、後半期に至り備えない傾向が指摘出来る。

竈は、前代より袖が少し縮小した状態で確実に屋外方向への掘り込みが多く成っている傾向が指摘出来る。

10世紀の住居跡

10世紀の住居跡は、調査区南西部の住居跡集中地区の南西側に寄って発見されている。また、前代で顕著であった群在化傾向は顕著ではなく、散在状態の範囲が限定出来る状態程度である。

住居跡の構造は、傍竈坑の消滅化傾向が指摘出来る。

竈は、前代では壁中央寄りから右隅側に寄る傾向があったが、当該期に至り、右隅側に更に寄り構築している。そして、右隅部直下に備えた傍竈坑も殆どが消滅乃至小規模化している。そして、この状態が極度に達したのが、隅部に45度方向に軸を採る竈を備えた120号住である。また、竈自体の燃焼部幅も減少し、細身の燃焼部に変化し、煙道部まで長く延びる一定乃至先細り状の構造になっている。この他では、掘方の特徴も前代を継承している。

現状では、この竈配置を採る住居跡が当遺跡での最終形態である。

第3項 古墳時代

古墳時代の住居跡は、中期後半から後期前半の5世紀後半から6世紀前半にかけての総数13基が発見されている。これら住居跡は正方形基調が主体であり、孰も竈を具備している（130号住は未確認）。

規模では、概ね三者が有り、大形・中型・小形に分類される。大形は一辺5.5m以上、中形は一辺4.5m以上5m位まで、小形は一辺それ以下である。

また、これらの住居跡の指向方向では二者に分類され、東～北へ45度前後の住居跡と、同様に65度前後乃至それ以上の数値を採る住居跡である。この前者をA群、後者をB群とし、規模を加味すると以下の分類になる。

A大：1号住。A中：2・92・105・111・130・133号住。A小：3・113号住。

B大：168号住。B中：181・167号住。B小：135号住。以上のとおりである。

このA・Bの2群は、出土遺物から前者が5世紀後半和泉式の様相が認められ、後者は、鬼高I式の様相認められることから、A群→B群への変遷が判断される。

住居跡の竈は、A群とB群の双方対比をし得る状況ではないが、113号住（A小）の竈は、遺存は不良ではあったものの、2～3期の改築が看取され、最終使用時の状態の所見として、炉的状态の使用状況も考慮される状態で（第二分冊に別添図示した覆土の平面分布図参照）、出現期の竈様相に類すると考えられる。

他の竈からは、113号住と同様な状況は認められなかったが、全体的に遺存不良なため詳細は言及し得ない。

掘方の傾向では、A群が比較的大雑把な傾向を受けるが、B群は、色々盛り込んだ状態でやや複雑な観を受ける。共通の特徴として、四辺乃至三辺の壁下を深く掘り込み、四辺対角線構築による所産と考えられる。そして、支柱穴の位置は壁から四尺の位置程に設定されるのが主体的である。

住居跡の平面規模では、30cm・36cmの公約数による方眼検討すると表3のとおりである（計測は床面）。住居の規格性に就いては論議があろうが、掘方＝掘削構築時の形状決定が、四辺直下の掘り込みが顕著なことから、次の事が指摘出来る。柱穴位置の決定には、住居の対角線の交点を中心とする、円と対角線の交点に求めている。これ自身、住居の平面形状・規模の決定は構築以前＝計画段階自身の存在を類推させる。そして規模の類似性から、構築以前に規模決定に伴う共通の「長さの単位」の存在が窺われる。更に、上屋構造の部材等、長さ決定の要件を考慮すれば、住居構築に尺度の使用が強く示唆される。

第3表 古墳時代住居跡要目一覧表

住居番号	分類	公約数	尺・規模	柱位置	M・規模	摘要
第1号住	A大	30	20尺×20尺	5尺×5尺	6.45×6.74	最大級
第2号住	A小	36	13尺×12尺	3.5尺×3.5尺	4.86×4.86	
〃	〃	30	15尺×15尺	4尺×4尺	〃	
第3号住	A小	〃	不詳	不詳	不詳	
第92号住	A中	〃	16尺×16尺	4尺×4尺	5.22×5.1	
第105号住	〃	〃	〃	〃	5.0×5.18	
第111号住	〃	〃	〃	〃	5.3×5.18	プロトタイプ
第113号住	A小	〃	14尺×14尺	〃	4.12×4.37	
第130号住	A中	〃	不詳	不詳	不詳	
第133号住	〃	〃	13尺×11尺	柱穴未確認	3.82 α ×3.28	
第135号住	B小	〃	14尺×14尺	〃	4.66×3.78 α	
第167号住	B大	〃	16尺×16尺	4尺×4尺	5.6×5.6	
〃	〃	36	14尺×14尺	3尺×3尺	〃	
第168号住	B中	30	18尺×18尺	4尺×4尺	5.22 α ×3.97 α	3/8調査
〃	〃	36	16尺×16尺	〃	〃	
第181号住	〃	30	16尺×16尺	柱穴未確認	4.68 α ×4.22 α	

第4章 発見された遺構・遺物について

第4項 縄文時代

縄文時代の住居跡は41軒が発見されているが、住居に類すると考えられる竪穴状遺構（22号竪穴・23号竪穴）を含めると合計43軒が発見されている。

これらの時期別内訳は、前期13軒（黒浜期）・中期25軒（阿玉台期7軒・加曾利E 3期11軒・同E 4期5軒）・後期2軒（称名寺期）である。以下、これらの住居跡の所見を概括的に述べておく。

前期（黒浜期）

前期黒浜期の住居跡は、台形基調に平面形状を採り、軸長と直交辺長の比に依り隅丸方形に傾いている。軸長の長い台形を呈する平面形状は、30・36・51・57・60号住が有り、同様に台形基調状で軸長の短い隅丸方形は、29・32・33・59・62号住が有る。この中で、59号住・62号住の両者はこの後者にあたるが、短軸台形隅丸、隅丸方形の基調双方のどちらに基調を採るのか断じ難い。

住居跡の分布状況は、1区低地に寄る状態で調査区北側に集中している。後述の称名寺期の分布域に重複する状態である。

中期（阿玉台期）

中期では、当該阿玉台期・加曾利E期が発見されている。

当該阿玉台期の住居跡は5軒が発見されている。前期（黒浜期）、後述する、加曾利E期・称名寺期の分布域の中間で、後述二者に重複する状態で分布している。

住居跡は孰も小規模であり、炉を伴う住居跡は無かったが、23号竪穴とした住居跡は、埋甕炉的状态であったが、被熱・酸化土が明瞭ではなかったため具体的ではないが、住居内での配置状況からは炉跡の可能性が考えられる。しかし、他の4基から炉跡が発見されていない状況からは、居住期間が短期であったか、元來住居内に炉を備えなかったかであるが、この双方の状況を検証する状況は未確認であったため断じ難い。

中期（加曾利E期）

当該期に住居跡の発見は11軒で、縄文時代の住居跡の中では最も多い。だが、27A住?27B住とした住居跡は、規模・形状から阿玉台期に想定されるが、出土遺物に当該期の土器片が含まれていることから当該期に含めた。また、発見された住居跡は大形小形の規模が明確に分離される状態である。

これら11軒の住居跡の中で、明瞭な形で発見されたのは5軒のみで、他は、埋甕・ピットの配置関係から推定した。

これら11軒の分布域は、1号堀を挟む状態で調査区中央で、分布径約140mに達し、環状分布の状態が看取される。この分布域の中で、北側に当たる部分が空白状になるのは、分布域が、微地形状緩やかに凹地状に窪み、東接する1区低地に向かい凹地が開く状態に成っておりこれに起因してのことと推定される。この状況は、所謂、馬蹄形貝塚の形成上の地形占地要件と同様であることが指摘される。

住居跡の構造上の特徴として、大形住居の4・10・26・99号住の在り方が特徴的である。これらの中で、前三者は規模に比較した場合、支柱穴等の上屋構造を支える施設の遺構が少ないことと、99号住はこの逆に、ピットの配置状態から、東に開く片流れ状態（分布域中央に向かい妻側を備える構造）の上屋構造が推定される。この構造の模式平面は第229図中に示した。

中期（加曾利E 4期）

当該期の住居跡は具体的な発見では無く、埋甕・ピット等により、調査後の状況から想定されたにすぎない。発見数は5基である。これは、前段階の加曾利E 4期の住居跡が、比較的掘り込みが浅いという状況に起因する事が類推されるが、この要因自体は不分明とせざるを得ない。

しかし、称名寺期に帰属させた55住は、基部の敷石下から、当該期の埋壘が出土している（第143-3）。そして、この住居跡から発見されたピットの配置状態は前後二時期に互配置関係が検証出来、古期の段階にこの埋壘が敷設されたことが類推できた。このピットの配置状態からの住居の形状は第139図中に示した。この推定に妥当性が有るならば、土器形式の変遷と住居形態変遷の両者推移関係究明に資料を投じるものと思われる。

後期（称名寺期）

当該期の住居跡は総数4軒が発見された。前述55号住が当該期の住居形状の全容を示す唯一の例である。他の3基は舌部を有する基本形状は同様であったと考えられる。

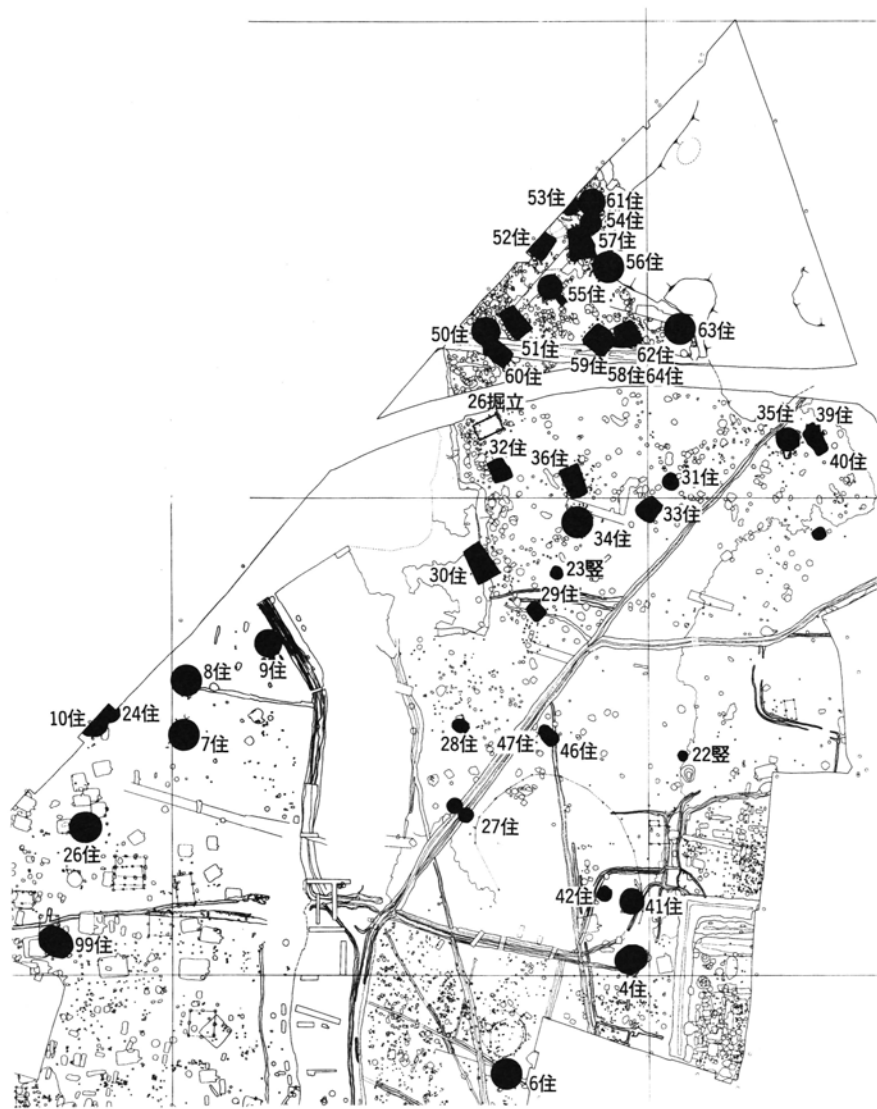


図6 縄文時代住居跡配置概念図（1：1,600）

55号住は柄鏡状を呈する住居跡で、基部周辺の床面状況から、敷石住居であることが推定される。しかし、礫の認められなかった部分では、地山ローム土を使用するが、平坦で敷石痕跡は認められなかった。又、基部敷石下から、埋壘が発見されている。炉跡は、中央に設置されている。炉は、楕円形状に深く掘り込み、底面付近では短辺側が丸味を帯びた長方形を呈している。しかしこの形状は、土層断面の状況から数次に互改修による所産と考えられる。支柱穴は壁に添う状態で6本が発見されている。この支柱穴の床面には、据えられた柱材を巻き込む状態で、小形の同様な特徴を備える深鉢が敷設されていた状態で出土している（第145図-1～3）。そして、これらの支柱穴を結ぶ六角形状を呈する壁溝側には、土器片の小口を床面上にやや突出させる状態で埋設されていた（第141図青色版）。また、前述したしおり、ピットの配置状況から、二次期に互改築を想定させる状況であった。

堀方は全体に顕著な状況ではなく、舌部が顕著であったのみで、恐らく、改築に伴う舌部追加に伴うものと考えられる。

第139図右上に図示したが、当該の住居跡は加曾利E 4期に円形状で、当該期に至り舌部を敷設し柄鏡状に改修したことが推定される。

第4節 竪穴状遺構

第1項 竪穴状遺構に就いて

竪穴状遺構（以下、竪穴と略記）は、方形の住居跡様で竈を備えない落ち込みに対して冠称させた。落ち込みは縄文時代から中近世に至る各時代の覆土特徴を具備するものを対象とし、調査結果所見より、更に、床面の確認出来るものに就いて当該の扱いとした。唯、柱穴・火処が確認されずともこれも含めた。

具体的な性格等については、各時代・個別により異なるが、概して判然としない住居跡様の遺構の総称として専らに用いた。

竪穴状遺構として冠称させたものは、縄文時代2基・奈良・平安時代3基・中世18基の合計23基が発見されている。

本節では、中世の当該種に就いて以下に記しておく。

第2項 中世の竪穴状遺構に就いて

中世所産の竪穴状遺構は、第1号館跡・第2号館跡の内外で19基が発見されている。しかし、個々の遺構は、双方の館跡との時期的問題により新旧関係がある。

館跡内郭での発見は、第1号館跡で1・2・17・18号竪穴。第2号館跡で13～16・21号竪穴9区80号土坑（調査時土坑扱い）。館跡外部での発見は、第1号館跡周辺で19・20号竪穴。第2号館跡周辺で3～8・12号竪穴が発見されている。

これら18基の内、18号竪穴を除く17基が方形基調であり、15・17号竪穴を除く他は、長方形基調である。

また、長方形基調の中でも、比較的定形化した竪穴と不整形に偏る竪穴も有り、これが3・7号竪穴で、3号竪穴からは、12世紀末様の常滑大甕の出土がある。そして、定形化している竪穴は館跡内でも、館跡周辺でも比較的多く発見されている。この定形の一群は、17号竪穴での出土遺物と、館跡内の諸遺構との切り関係から、14世紀後半から15世紀前半を中心とする年代観が与えられる。通有知見からも妥当性は得られる。

これらの中で特筆されるのは、3号竪穴・5号竪穴で、3号から12世紀末様の常滑大甕が底面直上から出土し、5号からは遺構確認面直下から同一固体の大形破片1点が出土している。そして、この大甕の同一固体が9区5号井戸跡の底面直上から出土している（大形破片で個体の4割程度）。接合の結果、口縁部・肩部を一部欠損するもののほぼ完形品に近い状態で復元されている（第二分冊 第377図）。この接合関係の結果、縦しんば5号竪穴を除き、3号竪穴・5号井戸は同時期に存続していた可能性は非常に大である。そして、双方には12世紀末～13世紀初頭の年代観が与えられる。更に、上述した不整長方形様の竪穴は、この3号竪穴と同様な年代観が与えられる可能性が濃厚である。

館跡内で発見されている竪穴は、性格を検証し得る状況が認められたのは、17号竪穴のみである、この竪穴では、底面上に比較的扁平な礫を中心に据え、周囲に放射状に礫を配置している。覆土からは、鉄滓がやや多く出土している。調査は雑に行っているため、底面でのスケール等の検出は行っていないが、鍛冶に関わる性格も考慮される。しかし、規模的に小規模であることから疑問が残る。

他方、館跡周辺の竪穴では、12号竪穴（第二分冊 第265図）で炉跡と考えられる施設が出土している。この炉跡は地山を円錐状に掘り窪めた地床炉で立ち上がりは、被熱により酸化していた。だが、著しい酸化状態ではなかったため、常時炉としての機能を果たしたかは疑問があるが、生活の場＝居住用の竪穴と考えられる。この2基以外は具体的な査証は認められなかった。

第5節 掘立柱建物跡

第1項 発見された掘立柱建物跡に就いて

調査区内で発見された掘立柱建物跡（以下、掘立と略記）は総数42基を数え、各時期別では、縄文時代1基・古代30基・中世6基・近世5基である。しかし、第2号館跡内郭から発見された夥しい量のピット（約2,700基）は、調査時に幾棟かの掘立も想定されたが、确实性に疑問があったため（ピットの数量が多いため如何様にも解釈されるであろうことから）敢えて掘立名称は与えなかった。この第2号館跡内で建てられたであろう掘立を含めれば発見数は相当数に上がったと考えられる。

この42基の掘立の内、縄文時代の26号掘立は、掘立柱建物跡の名称を冠したが、ピット列が掘立状に成ったために掘立の冠称を与えたが、堅穴の壁が失われている遺構の可能性もあるが一応掘立扱いとした。

発見された41基（26号掘立を除く）は、公約数30cmをしてその設計を個別図中に示した。この公約数30cmは、所謂、尺（唐尺・天平尺・曲尺）に相当する想定で、調査段階でそれぞれに推定し写真記録に撮り入れた。

そして、各掘立の柱穴の土層断面では、柱痕が認められたピットも有り、抜き取り時の変形も有ろうが、断面図中からは、凡そ、径30cm程の柱を推定させる状況を看取させた。この柱の太さ規模も上述≒1尺に相当する規模であり、全ての柱穴での状況ではないが、構築以前での柱材の企画性が窺えるのと、30cm≒1尺を単位とする常用尺の存在は、地方に於いても上述の状況を踏まえても确实性は高い。

また、28号掘立P₄の現地表面からの土層断面には、確認面より上位に多量の塊状の焼土が認められた。恐らく、当該の掘立が火災により焼失したことが類推された。

この状況は、当該の掘立でしか認められなかったが、唯一、焼失を推定させた例である。

第2項 近世

近世所産の掘立は5基が挙げられる。1・2・5・6・33号掘立が該当する。これらの中で、1・2号掘立は第1号屋敷跡から発見され、1号掘立は母屋に相当する建物と推定されるもの、2号掘立は、1号に重複する状態である。しかし、双方の新旧関係は不明である。

他の3基は孰も点在する状態である。この中で、6号掘立は2間×1間の身舎の北側に、7尺幅で奥行き3尺5寸の張り出す状態の施設を備えている。北側に取り付くことから入口施設とは積極的に考え難いが、特段性格を推定させる状況は無く不明と言わざるを得ない。

また、9区内で発見された第2号以下の屋敷跡は、掘立を伴わないことから、礎石立建物を推定している。そして、周辺に点在する掘立は、これら屋敷跡との時期差を推定させるものの、性格・構築主体者の質的差違も考慮せねばならないが、これを検証させる査証は未確認であった。

第3項 中世

中世の掘立は6基が発見されたが、惜しくも館跡内郭での発見には至っていない。また、他の遺構種の量に比較した場合、数量的に少なく、前述した、第2号館跡の状況も有るが、第1号館跡では、調査区界東壁際で4乃至5本のピット列が認められたが、具体物としての発見には至っていない。

第2号館跡の北側で発見された7号掘立は、2間×3間の身舎の東側、桁中央外側に6尺幅で入口を想定させる柱穴が発見されている。惜しむらくは、調査区界が東至近であったため、別な遺構の部分の可能性が

第4章 発見された遺構・遺物に就いて

あり言及し得ない状況である。

この7号掘立の西方110m程では、10・11号掘立が発見されている。各々2間×2間の総柱、2間×3間で、前者が8尺、後者が7尺等間の柱間を備えている。また、11号掘立は、南梁側が復列の柱穴配置が認められるが、構造的な施設とは考え難く補修に伴う所産と考えられる。

この10号掘立同様に総柱建物の8号掘立は、7尺等間の2間×3間の建物で、単独の存在とは言え周辺には多数のピットが発見されており、特殊性を備える建物の可能性も考慮されよう。

34・39号掘立は、多数のピットの中から机上で推定したが、他にもやはり多くのピットが発見されている。また、34号掘立は、総柱建物の想定は可能である。

当該期の掘立は、館内部での建物の実態が究明不可能であった。

第4項 古代

古代の掘立は30基が発見されている。この30基は、住居跡が集中して発見されている調査区西側の公園用地周辺に密集する状態である。これらには、単独の掘立と重複が認められる掘立の二者が有り、前者は9基で、他は何らかの状態で重複している。この重複には、ほぼ同位置で若干方向を変える程度の掘立と、数棟世代でのアトランダムな状態での重複に分類され、前者は五箇所11基、後者では四箇所12基での重複関係が認められ、双方間の重複も認められる。この重複関係の前者は、同位置での建替を解釈させる。後者は近接部での立替と移動・新設に伴う結果的な状況と把握される。

これらの掘立を主軸（指向方向）から検討し作成した図7のと通りの4分類に分別される。この中A群（軸指数-90度程）1基、B群（軸指数-93・-3度程）15基が該当し最多である。C群（軸指数-86・-4度程）5基、D群（軸指数-110・-20度程）5基、である。

この4群分類で、同分類同士での切り合い関係が有るのがB群で、このB群と切り合い関係が認められるのがC群であるが、双方の新旧関係に就いては調査段階では具体的な検証は出来なかった。だが、19・25号掘立に看られる大規模柱穴の在り方がA群とすると、C群は小規模柱穴をして建物を構築することから、A群の先行が推定出来る。更に、A群が同一部分に継続的に構築を繰り返すことと、C群の占地が同一部分に再構築することが指摘出来る。このことから、占地要因の共通性の点からもB群→C群の変遷が考えられる。

また、D群の柱穴の規模が小規模であることから、上述の要件からB群の後出に考えられ、B群→C群→D群の変遷が類推される。そして、A群分類の13号掘立は、群中最大規模の柱穴を備える。堅固な建物を想像するに易いが、この建物自体が、この掘立群中でも象徴的な存在と考えられ、初出の建物であったと考えられる。

則ち、A群→B群→C群→D群の順で変遷したことが推定され、時期が降るに従い柱穴規模が小規模化していることが指摘出来る（図7参照）。

建物としては、南北棟2間×3間が10棟（4棟？）、東西棟2間×1間が1棟、同3間×2間が7棟、同2間×2間が2棟、同3間×3間が4棟、その他1棟である。建物別での群分類との関係は特別に認められず、各群分類別での特徴は認め難い。

建物自体の柱間取りは、全体に統一性が認められない。その中で、最も多出するのが2間×3間の8尺等間で8基（B群4棟・C群3棟・D群1棟）、同7尺等間が4棟（群棟）、3間×3間の6尺等間2基（群棟）、2間×3間で桁行8尺-7尺-8尺が2基（群棟）である。これら以外は全て異なり、2間×3間でも6尺等間（群棟）・7尺×6尺×7尺（群棟）・8尺×6尺×8尺（群棟）・8尺×9尺×8尺（群棟）、2間×2



図7 掘立柱建物跡配置概念図 (1:400)

第4章 発見された遺構・遺物に就いて

間で9尺・6尺等間各々1基（群棟）、3間×3間で8尺・7尺等間各々1基（群棟）、5間×2間で梁行6尺で桁幅が不定1基（20号+23号）の状態であるが、南北棟の2間×3間の建物が主体を構成している。

これら群別の掘立の床面積規模を見ると、A群—13号掘立・B群—3号掘立・C群—38号掘立（?）・D群—37号掘立若しくは23号掘立（20号掘立+23号掘立）が挙げられる。

これらの掘立群の時期は、出土遺物から概ね8世紀後半～9世紀後半の年代観が得られるが、住居跡との新旧関係から、A群—9世紀前半～中頃。B群—9世紀中頃～後半。C群—9世紀後半。D群—9世紀後半～10世紀前半以前の所産と推定される（表4参照）。

このことから、掘立群は9世紀中頃から後半にかけて集中的に建替が繰り返されていることが指摘できる。

一方、B群の16・19・25号掘立は、19号掘立を中心に「コ」の字状の対称配置を採っていることから、この3棟が同時存続したことは確実であろう。そして、前方の109号住と西方の17号・18号・21号・27号掘立は東西に直線的配置を採っていることから19号の一群と併存することが推定される。更に、双方の間で後方には、幢竿支柱を想定させるピットが2基有り、傍らの第24号井戸跡（上部方形堀方がB群の軸方位と同位を指している）・179号住等とした方形遺構をして一群を捉えることが可能である。

これらの掘立は、住居と併存する状態であり、これらを9世紀中頃～後半頃の住居跡と共に図示したのが図7である。この図上では、9世紀中頃～後半の住居跡で中規模・大規模なものは、掘立の分布域の内側に分布する状況が看取され、小規模住居跡は、掘立群分布域の外側に分布する傾向が窺える。

また、9世紀前半頃の住居跡も同様な傾向を示すものの、中規模を越えるものではなく、掘立が構築される以前の8世紀後半遺構の住居跡は、掘立が最も密集し重複関係の顕著な部分（32号・34号・35号・39号掘立）に大形住居跡も密集しており、特に69号住は、一辺8mを越える当該期最大規模が推定される住居跡で、32号掘立とほぼ同規模である。このことは、竪穴住居から掘立への移行は同規模の占有面積を以て行われたことが指摘出来る。

表4 古代掘立柱建物跡一覧表

名称	群	桁×梁	桁柱間	梁柱間	新旧関係及び住居の時期	摘要	名称	群	桁×梁	桁柱間	梁柱間	新旧関係及び住居の時期	摘要	
3号	B	3×2	7尺等間	7尺等間	85住を切る	10C前	25号	B	〃	8尺等間	8尺等間	108住を切る	9C前	
4号	C	〃	〃	〃	〃	〃	南面庇	27号	B	3×3	6尺等間	6尺等間	160住を切る	8C後
9号	D	〃	〃	〃			28号	〃	3×2	8尺等間	8尺等間	142住に切られる	10C前	
11号	C	2×2	9尺等間	9尺等間			29号	〃	2×3	〃	〃			
13号	A	3×2	8尺7尺8尺	8尺等間			30号	〃	〃	〃	〃			
14号	〃	2×3	7尺等間	7尺等間	94住を切る	9C中	31号	C	2?×3?	〃	〃			
15号	C	2×1	6尺等間	6尺等間	84住を切る	〃	南面庇	32号	B	3×3	7尺等間	7尺等間	67住を切る	9C中
16号	B	2×3	8尺7尺8尺	8尺等間	146住を切る	8C中	34号	C	2×2	8尺等間	7尺8尺	68住を切る	8C後	
17号	〃	3×3	6尺等間	6尺等間	160住を切る	8C後	35号	B	3×3	〃	8尺等間	66住を切る	9C前	
18号	〃	〃	〃	〃	155住を切る	9C後	36号	C	2?×3?	8尺+尺+尺	6尺+尺			
19号	〃	3×2	8尺等間	8尺等間			37号	D	2×3	8尺9尺8尺	8尺等間			
20号	D	2×2	6尺等間	6尺等間			38号	C	2?×3?	8尺等間	〃			
21号	B	3×2	7尺6尺7尺	〃			39号	B	2×2	6尺等間	6尺等間	68住を切る	8C後	
22号	D	2×3?	8尺等間	8尺等間			40号	?	?	?	?			
23号	〃	5×2	〃	6尺等間	156住を切る	9C中	41号	?	?	?	?			
24号	〃	2×3	8尺6尺8尺	8.5等間										

第6節 地下式土坑

第1項 地下式土坑に就いて

地下式土坑は12基が発見されており、当遺跡で中世遺構の拠点的存在である第1・2館跡の内郭乃至周辺で発見されている。このことから、館との密接な係わりが窺える。

この12基中出土遺物が得られている地下式土坑は9基があり、この遺物の年代観から、14世紀中頃～15世紀後半頃迄の年代観が得られる。

平面形状では以下の4分類がされる。A類 隅丸方形を基調にするもの、第1～4・5号。B類 A類に類するが、長軸が極度に長いもの、第5・7号。C類 円形を基調にするもの、第12号。D類 方形を基調にするもの、第8～11号。

これらの中で、確実に天井部が確認されたものは、A類第1～3・6号、B類、C類であり、D類では、1基も確実視出来なかった。この要件として、第1に遺存が他に比べて残り悪いとは言い難いが、発見深度が浅かったことが最大で、覆土からはローム天井の痕跡が認められなかったことにある。だが、深度が浅いことから、天井にローム土を使用したことは考え難い点が指摘出来る。

これらD類の発見位置は、第2号館跡の北側で堀に並列する状態であり、館としては、土塁の存在が確認されている部分である。これは後述するが、内郭の堀に平行する部分は、当該のD類以外に遺構が発見されず、空白ベルトになっていることから、土塁の存在が確実であることと、表土掘削時に、厚さ5cm程で土塁の痕跡が認められたことである。この土塁の想定される部分に当該遺跡が分布することから、土塁を利用しての構築も類推される。しかし、D類中の地下式土坑から発見された遺物は、凡そ14世紀後半を示しており、このD類の一群は、土層断面中に多量にローム土ブロックを含有する土層が顕著に認められており、このことが直接土塁を利用しての構築とは言い難いまでも、概然性は認め得る範囲である。

他方、当該D類が地下式土坑ではないことも考慮されるが、その場合、竪穴状遺構としての性格が考えられるものの、出入口部を舌部状に構築する類もないことから、当該種の遺構として把握した。実態的には、A～C類の一群とは異なる構築方法を採用のものとして捉えておきたい。

発見された地下式土坑の各々の時期は以下のとおりである（出土遺物のあるもの）。

A類 1号—15世紀前半か。2号—15世紀前半。3号—14世紀以降。

D類 8号—15世紀後半。9号—14世紀末。10号—14世紀後半。11号—14世紀後半

B・C類は出土遺物がなく不詳と言わざるを得ないものの、これらが集中して分布していることと、周辺及び調査区内の状況からやはり14世紀代での構築が想定される。

しかし、5～7号の周辺には、12世紀末～13世紀初頭の常滑大甕を出土した第3・5号竪穴状遺構・9区5号井戸跡。13世紀の青白磁合子を出土した9区161号土坑等の、中世前半の遺物を伴う遺構が集中することが指摘出来る。そして、第2号館跡の堀の改修時期（「折部」の構築）を15世紀末とした場合、この時期を下限とすることが出来、各遺構の配置関係から、13世紀代の構築も考慮されると考える。

遺構としての性格は、通有、墓の一型態的に捉えられることが多いが、県下の類例からは、「墓」としての機能は考え難く、地下での空間確保という点（温度・湿度等）、出入口底面の硬化黒色土、底面直上での遺物が殆どない点、人骨等の出土が無いことから、土倉としての性格が推定される。

また、ある程度の群集毎に底面深度が異なるのは、掘削時の湧水が考えられ、井戸より深く構築されるものは無かった。この湧水を嫌うかの如く状況も当該遺構種の性格を考える上での要件でもあろう。

第7節 井戸跡

第1項 発見された井戸跡に就いて

調査区内で発見された井戸跡は総数67基を計える。これら67基の井戸跡は、古墳時代中期から近現代に至る所産である。そして、発見された位置は、5区・2区の中央に南で、古代以降の遺構が顕著に分布する範囲に限定され、特に9区での発見例が多く、28基で42%の占有率を占めている。

調査は、一部の井戸跡に限り重機により周辺より掘削し調査実施した。これは、雨期に当たる6月・7月の調査工程上の措置であった。このほか一部をやはり工程上の都合により委託しているが、他は精査に心懸けた。

第2項 近世の井戸跡に就いて

近世に所産時が推定され井戸跡（以下、井戸・井と略記する）は30基を計え、中・近世として判然としなかった9区22号を含め都合31基が該当する。

これら31基の分布状態は、5区3基、6区12基、7区1基、9区13基、11区1基であり、6区及び9区での密集状態が窺える。この6区及び9区での密集状態は、それ自体近世段階の生活活動が顕著であったことを示すが、他の遺構種と共に構成される。屋敷跡が発見されている区域に集中していることが指摘出来、生活に伴う井戸跡であることが判断される。

6区分布状況

6区は第1号屋敷跡が発見されている。この屋敷跡に位置関係から確実に伴うと考えられるのは2号井戸のみで、若干隔てた3号井戸は、時期的に併存すると考えられるが、配置関係上やや問題があるものの、出土遺物には生活に伴う遺物種が主体であることから、何らかの理由により結果と推定される。

この3者の井戸は、地山井筒円筒型であるが、その掘方の特徴として、比較的細く深い点を挙げる事が出来る。

また、出土遺物では、木器の豊富な点が挙げられ、特に手桶の出土が多く、個体量は底板の4点が最大を示しており、曲物の底板3枚も出土している。このほか希少なものに俎1点が2号井戸から出土している。

そして、3号井戸の出土遺物の器種揃えが豊富で、注目されるのは水滴(染付磁器)・大形德利(染付磁器)、絵皿(陶器唐津系)、石硯2点、瓦(本瓦・棧瓦・十能瓦)、五輪塔地輪5点、石燈籠中台(胎藏界大目大目真言)等がある。この器種揃えは該期の井戸の中でも特殊な存在である。

このほか、1号堀内で発見された井戸跡(6～11号井戸)は、1号堀が近世段階では一段低い谷地形状を呈していたと考えられることから、低位部での井戸掘削を目的にしたものと考えられる。だが、これらがなぜ集中しているのか、その理由は不明瞭だが、1号堀内は、近世頃も水田としての土地利用が継続していたと考えられることから、水田・畑耕作に利用されたことが想起される。

このほかの井戸跡は、散在的な傾向がある。この散在性は、これ自体が当該期の特徴とも言い得る。

9区内の分布状況

9区内で発見された当該期井戸跡は13基である。これらの中で第2号屋敷及び周辺に分布するのは10基に及び、占有率77%を計える。他の3基は散在する状態で分布している。

第2号屋敷及び周辺に分布する井戸跡の中で、配置関係から屋敷に確実に伴うと考えられるのは、4・6・7・11・13の5基のみである。そして、第2号屋敷I期(後述)に6号井戸、同II期に7号井戸、同III期に11号井戸、同IV期(新)に4号井戸、同IV期(旧)に13号井戸、の使用が想定される。この五者の井戸

跡は第1号屋敷跡で認められた同様な形状ではなく、孰れも地山井筒ではあるものの、各々の断面形状が異なっている、6号は太目の井筒、7号は4号と同様な太さであるが浅目、11号は改築でも思わすかの如き状態で、4号は深く細いが、深度的には、6号と同様、13号は1号屋敷の井戸と同一形状である。この内4号は、1号屋敷の三者と同様な構造であることが指摘出来るが、深度自体は、構築時の水位との関係もあり、一概に言及出来ないまでも4号と第1号屋敷の井戸跡と同類であることは注意される。そして、13号は上述のとおりであることから、第2号屋敷IV期(旧)と第1号屋敷がほぼ同時期であることが示唆される。

上述した以外の他の8基は、この第2号屋敷跡の周辺に分布している。この8基の井戸跡も恐らくは屋敷の存続期の所産と考えられる。

出土遺物では、11・15号が注目される。上述のとおり11号は屋敷III期段階の井戸跡であるが、出土遺物の内容は、6区3号井戸程の遺物種揃は無いが出土量は9区内で最も多い。注目される遺物としてシノ笛が上げられる。このシノ笛は下半部分が出土しているが、歌口側は未発見であった。

また、15号井戸からも比較的多くの遺物が出土している。この双方の出土遺物は生活具が主体であるが、少量の瓦も含まれている。瓦の出土することから、屋敷の建物が一部でも瓦葺きであった可能性も示唆されるが、量的に少なく判断し難い。

当該期の井戸跡は前述したように、屋敷跡の一部の施設としての存在と、散在的狀況を示す二者に分かれるが、前者の様に大規模な居住様式の場合は、周辺遺構の関連性から性格も判断される。しかし、後者の如き状態では、単に単独で機能を果たしたとは考え難い点から、やはり、周辺に居住の施設が存在した可能性を考慮せねばならない。今回の調査では、この点に関する調査所見が得られぬまま、調査後結果的に単独状に存在するかの如くで報告せざるを得ない。今後の調査では、この徹を踏まえて望みたい。

第3項 中世前半

中世の井戸跡は21基が発見されている。当遺跡の中世の遺跡内容は、中世後半の第1・2館跡の在家的存在の遺構と、中世前半と考えられる竪穴状遺構等である。特に中世前半の遺構は、通有出土遺物が少ないか認められず、なかなか、具体的な発見例が少ない。逆に、遺構として姿を残しづらい構造が中世前半期の特徴として考えられる。

中世前半当該の中世井戸跡の中には、微量ではあるが、13世紀前半を示す遺物のみが出土した井戸跡が9区5・14・26号井戸跡から出土している。他のこの時期以外の遺物を含まないことから(古代の遺物は含まれる)ある程度は確実視される。

この三者の井戸跡は、9区5・14号が近接はしているが、他は単独で隔離した状態で分布している。これらの井戸跡の形状は三者三様であるが、孰れも地山井筒で、6区16・9区5・26号は円筒形であるが、9区14号は、底径に比較し地上径が非常に大きくロート状を呈することから「撥釣瓶」形の構造が推定される。時期が異なるが同様な井戸跡は2区2号・10区3号と可能性があるものに8区4号・9区26号がそれぞれ挙げる事が出来る。

出土遺物は、非常に少ないものの当該期の特徴をよく備えた、土師質土器が6区16号・9区14号から出土しており、第3・5号竪穴状遺構出土の常滑大甕と接合関係にある9区5号井戸跡、渥美系大甕片が出土した9区26号井戸跡がある。しかし、微量な出土量であることから後二者所産には疑問を残すことが問題点である。だが、土師質土器皿が示す要件から、確実に当該期の生活が当遺跡であったことが窺知される。

第4章 発見された遺構・遺物に就いて

第4項 中世後半

中世後半の井戸跡は16基が発見されている。内14基は館跡内部乃至その周辺に分布し、1号館跡内部で2基、周辺（北側）に3基が、2号館跡内部に8基、周辺（北側）1基が発見されている。このほかは散在的に分布する井戸跡の周辺には目立った遺構は無い。そして、館内部で発見されている井戸に就いては、館の全貌が不明な為に発見位置＝配置意図は不明である。ただし、1号館内3区1号、2号館跡9区3号は、推定される土塁際で館の北西隅部周辺に当たっていることが共通点として挙げられる。

構造では全てが地山井筒形で、2区2号・6区17号・10区3号が「撥釣瓶」形が想定され、他は円筒形である。この円筒形の中には、深度が浅く井戸としての性格付に疑問があるが、調査時に湧水量がやや多かったため、敢えて井戸として扱っている。この「撥釣瓶」形は、底径に比較し地上面径が大きく、平面形が長楕円形状を呈す形状のものを該当させた。これは、他の円筒形は構造上釣瓶の運動が上下のみに限定されるものの、台形状に開く構造の当該の構造は、振子＋上下動に対応しする構造にあると推定したことによる。出土遺物では、6区18号でやや多く出土しているが、他の井戸では出土量は微量であった。このことから遺物により年代が把握出来るのは2区2号が15世紀後半、3区1号が15世紀、6区15号が15世紀後半、6区17号が14世紀中頃か、6区18号が14世紀後半に推定出来る。

当該期の井戸跡は、総じて館内部からの発見が主体である。しかし、出土遺物の年代観と館形状の問題がある。この点に就いては後述したい。

第5項 古代

古代の井戸跡は15基が発見されている。発見された井戸跡は第1号堀以西で、住居跡の分布範囲内での発見である。

これらの井戸跡中で、出土遺物により時期が確定視されるのは孰れも9区内で、3号が9世紀前半、9号が5世紀後半、10号が9世紀中頃、12号が10世紀中頃、23号が9世紀後半、24号が9世紀中頃に推定される。このほかの井戸跡は、出土量が少ないため確定させ難いが、多くの井戸跡は、9区21号（8世紀後半か）以外9世紀の所産と考えられる。

これらの井戸の分布状況で最も特徴的なのが、9区12号で、10世紀の住居が群在する中央寄りの位置で発見されている。住居は新旧があるが、最大12軒で1基の井戸の使用が計算される。この様に、同時期乃至近い時期の住居との相関関係は、井戸を中心とした共有単位が想定出来る。そして、この状況は、同様に9区10号で認められ、調査区南部の一角で9軒の住居の中央に位置するが、調査区際に相当するため住居の数量には問題を残す。また、5世紀の井戸跡の9区9号は、同時期頃に推定される105・111・113・133・130号住の中央に位置している。しかし、他の井戸跡は共有単位が把握し難い。

当該期、当遺跡を特徴付ける柱建群がある。この掘立群は、9区と8区の界周辺に集中分布しており、この一角内の9区23・24号井戸は、この柱建群と併存すると考えられ、傍の特殊な154・179・180号住をした特殊な遺構も備えるかの如くである。

この特殊としたのは、覆土上半が、水成堆積様の細かいシルト状の土で覆われていたのを竈を備えない堅穴状の構造であることによる。調査時は、竈が重複により破壊されているという先入観で調査実施したため、名称をそのまま住居としたが、覆土の疑問は調査時から抱いていた。

そして、9区24号は、方形の掘方を伴ないそこから上述の特殊な154・179・180住側に細い溝を設けている。この双方は、調査時の状況から二者一体の遺構と考えられ、具体的な性格は判然としないが、井戸の機能上、

180号住としたものは、「池」等も考えられる範囲である。

これらのことから、ある段階では、9区24号井戸を中心に、傍の180号住と16～19・21・25号堀立で何かの状況があったことが示唆される。また、9区2号・8区4号も堀立群と係わりのある井戸と考えられる。

古代の井戸の場合、居住のベースたる住居跡、または堀立等の遺構の共有遺構としての存在が判断されたが、地下水脈に変化が生じなければ、住居の存続より長期に亙り使用されていたことも考慮される。

第8節 土坑に就いて

第1項 発見された土坑に就いて

調査区内で発見された土坑総数は1934基を計える。しかし、名称未設定になっている土坑も現段階であり、更に、ピット（柱穴様遺構）とした遺構にも土坑に含められるものもある。元来、ピットと土坑の区別が厳密ではない為に生じた結果でもある。筆者の発掘調査では、通常両者を合わせ「穴」として扱い、それに「坑」の遺構名称を付加しているが、今回の発掘調査では、遺構確認段階から柱穴様遺構が無数に確認された為、この種の遺構をピットとして扱ったが土坑との区別は明確ではなかった。ここでは、土坑数を上記1934基として記述を進めたい。そして、ピット名称を付した遺構は約10,000基ある。

発見された土坑は、前述遺構種同様に、縄文時代から近世に至る各時代の土坑が発見されている。時代毎の数量は以下のとおりである。

縄文時代658基、古墳時代5基、奈良・平安時代276基、鎌倉・室町375基、江戸時代以降620基である。これらの時代毎の分別は、主として覆土の状態によるが、遺物の一括性を加味させた。以下時代毎に概略を記す。

第2項 近世以降

近世以降の土坑は620基が発見されている。これらの土坑は、当該期の生活拠点となった。第1・2号屋敷跡周辺に集中している。特に第2号屋敷跡は3次期互る改築等の痕跡が示す如く、長期間に及ぶ拠点であったため、自と周辺に構築された遺構も多く、特に当該の土坑が主体を占めるのは通有事例に類している。だが、第2号屋敷跡が礎石立建物が推定される逆に、第1号屋敷跡は、堀立柱建物であることに起因するの、土坑よりピットの発見が多く、土坑は少数しか発見されなかった。

土坑は、平面形状上円形・正方形・長方形・長々方形（後述）が発見されており、前代よりの大きな変化は無い。

だが、中世で顕著な存在であった、長々方形土坑は、横断面形状に変化が起き、中世の長々方形の横断に対して、直立乃至外傾していることが大きな変化である。このほか、当該期の屋敷跡に直接的な関係を示す土坑がある。これは、「桶」を据えた土坑で、9区76～80・87・181・191・192・202・247土坑がある。これらの一部に就いては微細図を掲載（第369図）した。そして、79土坑は、桶の側板が一部炭化した状態で、覆土には被熱変色した橙褐色土が塊状に認められた。明らかに焼失したと考えられる状態であるが、焼失規模は不明である。この土坑は、この桶埋設の掘方としての性格であるが、桶を据えた遺構自体の性格は不明であるが、通有「肥桶」と呼ばれる施設の可能性も有る。

また、この土坑は、2ヶ一対を成すかの状態である。しかし、単独で存在するものも有る（9-202坑）。

このほかの土坑は、付帯状況に特殊性が認められず、性格を判断し難い。

第3項 中世

当該期の土坑は375基が発見されているが、一部には近世土坑の覆土評課誤認により、当該期に含まれている可能性が有り、この逆も然りである。調査担当者の認定に拠ると判断して戴きたい。

これらの土坑は形状で大きく三者に分類出来、円形状・方形・長々方形で、主体的な数量では後者の長々方形である。そして、この長々方形の土坑は、当遺跡では、当該期の主体遺構で第1・2号館跡・9区で多数が発見されている。

この長々方形土坑の特徴として、1、横断面が内傾する。2、人為埋土である。3、掘方状の堀込みをもつものも多い。4、幅・長は、30cm (15cm×2) の公約数により分化出来ること。等を挙げることが出来る。この中の2・3は、当該種の性格を如実に語っていると考えられる。2は機能付乃至機能終了後に埋戻しているか、埋戻すことにより使用出来るものと考えられる。3は、住居の荒堀に伴う堀方と同様か、上述の2の問題を数次行うことにより生じるのかであるが、9区の土坑には、掘方状の面が薄層の黒色土が間層状に認められていることか、後者に拠ると考えられる。

第2号館跡では、この土坑が、軸方位で群単位に五者が捉えられ、図9にはA～E群とし分別表示した。また、多数のピットもこの群単位同様の方向性を具備している。

そして、堀も多角形状を呈する状況を、この分類に合せると土地の区画が変遷していることが窺地される。このことから、長々方形土坑は、土地区画の方向性を示していることと、土坑の軸方位の相違は、土地区画が変化しているであろうことを示していると推定される。

土坑群の方向から土地区画（土坑の群類別を冠する）にA～Eの段階を付し、各時期を推定すると、土地区画Eは館の「折」を備える特徴から、16世紀代に推定され、各群より出土せる遺物等から、土地区画A=14世紀後半。同B=15世紀前半。同C=15世紀中頃～後半。同D=15世紀末～16世紀前半が推定される。

他方、歌舞伎遺跡でも、当該種の土坑を総括してまとめほぼ同じ所見が得られている。^{註3}このことから、土坑本来の性格は不分明だが、土地区画を推定させる反面を持ち合わせている。



図8 第1号館跡土坑配置概念図 (1:400)

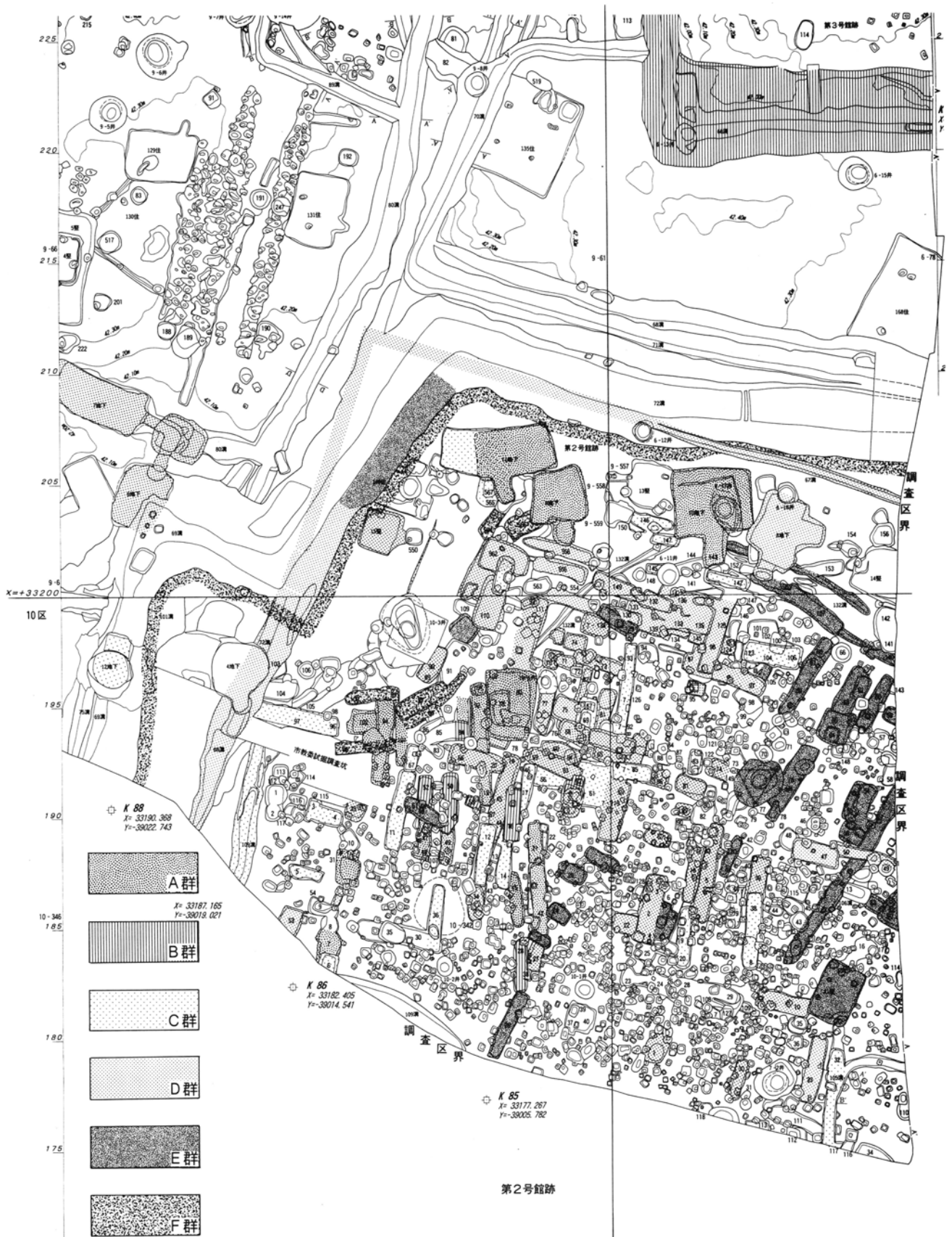


図9 第2号館跡土坑配置概念図(1:250)

第4項 古代の土坑

古代の土坑は、住居群域と同様に分布する。隔絶した位置での発見は無い。このことは、生活に共ない何らかの必然性により構築された事を示唆している。発見された総数は281基。これらの土坑は表に示した。通有当該種の性格は特徴的状況がない限り性格付は困難である。図らずも当遺跡に於いても状況は同様である。ここでは、特殊性の認められる土坑に就いて以下に記しておく。

9区332号土坑 この土坑は長方形基調を呈し、規模は長1.42m、幅0.85mを測る。軸方位は北-75度-西を指す。覆土は黒褐色土にロームブロックを含んでいる。この土坑は、西壁下付近に須恵器坏1、土師器坏1、中央寄りに須恵器坏1を底面に置いた状態で出土している。恐らく埋納されたものと思われるが、中央寄りの須恵器坏は口縁部を欠損する個体で、埋納の本意には特殊な背景があると思われる。時期は出土遺物から8世紀中頃と考えられる。

9区530号土坑 この土坑は長方形基調で北壁が丸味を強く帯びる。規模は長1.27m、幅0.6mを測る。軸方位は北-7度20分-東を指す。覆土は黒褐色土に少量のロームブロックを据える程度であった。

この土坑は南壁際から須恵器坏4点、埴1点が出土している。この中で、逆位2点、転倒3点の状態で底面より遊離する状態で出土している。この内2点には「百」の墨書が記され、同一筆跡と思われる墨書土器が149住から出土している。碗は底面が硯に転用されている。この5点の土器は、埋納に伴い新に入手したのではなく、生活等で使用されてから土坑に埋納されている。状況的には、このほかに特徴的なことは、唯、覆土にロームブロックが含まれることと、土器の出土状態からは、土坑は人為により埋め戻されたことは判断出来る。時期は遺物から10世紀前半頃と考えられる。

9区486号土坑 前述332号土坑と接続する状態で発見されてるが双方の新旧関係は不明である。

平面形は不整円形と言う可き形状で均整を欠いている。規模は長0.85m、幅0.67mを測り、軸方位は北-5度-東を指す。覆土は前述332号土坑同様であった。

この土坑も完形の土師器内黒坏が出土しているが、底面での出土ではなく、覆土中に遊離する状態で出土している。この遺物から9世紀中頃の所産の土坑と考えられる。

9区551号土坑 この土坑は、隅丸長方形を呈し、規模は長1.79m、幅1.40mを測る。軸方位は北-14度-西に採る。重複関係は、切り合い関係にある552号土坑とは不明であるが、土層断面では552号土坑が新しいかと思われたが判然としなかった。この為、双方の分層線は明確にはさせなかった。また、住居跡との関係は、179住を切り構築しているが、180住切られる状況である。

底面南西部には、不完全燃焼土ブロック（完全に橙色色変している状態ではないこと）が出土している。この焼土ブロックは、本址が直接的に被熱した状態ではなく、埋設に伴ない二次的に混入したと思われる。

出土遺物は北東隅部で墨書「主」?を伴う須恵器坏、中央部で須恵器双耳坏、傍で須恵器坏が底面直上で出土している。時期は9世紀前半頃と考えられる。

8区58号土坑 この土坑は15号堀立に東接する如くの位置で発見されている。覆土の上半部は層厚数cm単位のロームブロック等を混入する版築土で、非常に硬質であった(第414図中はある程度集約する分層様で表した)。堀方は、底面の北西側が一段深くなる構造で、柱穴状の覆土が認められた。このことから、調査段階では、堀立の柱穴と考えたが、これに組み合う柱穴もない為、単独の柱穴と考えた。しかし、単独での存在理由が不明確過ぎることから、堀立群に伴う何らかの施設の一部と考え、1本立ちの幢竿支柱と考えた。また、9区331・333土坑(9-295グリット付図39)は、規模は小さいものの、堀立柱穴を思わず覆土であった。双方の配置関係や周辺での堀立等との位置関係から、この2つの土坑状のものも幢竿支柱穴と考えている。

第5項 縄文時代

縄文時代の土坑は調査区北側の1～4区に集中して発見され、5・6・8区でも発見されている。発見総数は658基である。土坑の遺構発見面は、ローム土中であることから、全体的に浅い状態の土坑も多く、土坑判定に憂慮される状態も有ったが、周辺に土坑が多く発見されている場合は積極的に土坑の認定を行った。

これらの土坑は、発見されている住居跡の時期と同様であるが、切り合い等の諸条件により時期の断定は困難な土坑も多い、出土遺物は各土坑の出土遺物の中から最も新しい時期を示す遺物を以て図化してある。このため、土器による時期決定は確実性に乏しい状態もある。

時期的には、中期加曽利E3期が最も多く感じられる。このことは住居跡の数量からも判断される。これに次ぐのが前期黒浜期と判断される。そして、阿玉台・称名寺期である。

これらの土坑は平面分布上、住居跡と同様の傾向で分布上、馬蹄形に分布し南東方向に開く状態が看取される。主体を構成する土坑の時期は加曽利E期である。

又、5区366グリッドを中心にする部分では、平面規模が小さいながらも、深度が比較的深く(径40～60cm 深度70cm程)、断面円筒状を呈する土坑が集中する部分が認められ、「ウッドサークル」を想定して精査・調査を実施したが、西側が水田の開田による攪乱が著しかったため、環状の分布に成らず、集中する傾向のみが看取されている。

当該時代の土坑に就いては頁数関係上、微細図の掲載が能わなかった。以下に特徴的な状況の土坑について記しておく。

4区2号土坑 この土坑は、4区2・3グリッドにかかる状態で36号住の傍らで発見されている。形状は円形を呈する袋状土坑で、確認面での規模は長径1.28m・短径1.18m・深度0.38mを計測する。覆土の堆積状態は、通有自然堆積を称させる状態であったが、調査時の所見では積極的に自然堆積を断定させる条件は認められなかった。時期は称名寺式の深鉢片が数点出土していることから、土器の示す時期を以て想定しておきたい。

当該の土坑を特徴付ける状況は内傾する壁面に有る。この壁面には構築当時の掘削工具痕跡が縦位に明瞭に、ほぼ壁面全体に残されていた。工具痕は幅8cm程で、蛤刃状の彎曲した刃部を有する石器による掘削を思わせる状態で、脹は枯れ気味で、曳け傷等の刃部の凹凸は認められない、綺麗に揃った刃部構造の工具により掘削された状態であった。この状態からは、磨製石器をしての掘削を推定される。更に、掘削の状態からは、縦斧の状態を心象させるものの、削る勢いが縦位に力強く、底面まで一気に直線的に削る状態から、膝柄の横斧でも柄の短い工具を推定される、掘削主体はやはり磨製石斧が推定される。

同様な工具痕を残存する土坑に1区81号土坑が挙げられる。この土坑は隅丸長方形状を呈し、同82号土坑と重複している。この土坑では、内傾乃至直立する部分の壁面のみに残存している。

1区100号土坑 当該土坑は、1区低地の中央部のやや高い部分で、1区217グリッドで発見されている。規模は長径94・短径87cm・深度86cmを計測する。この土坑の時期は、加曽利E3式の深鉢の細片が数点出土している。覆土は黒色粘質が堆積していた。この土坑の特徴は、覆土内から多量のクルミの種子が出土していることである(写真図版199参照)。このクルミの種子は割られた状態では無い物が多く出土していることから、当時は果肉が付いた状態で、当時も水位の高い状態が考えられる部分であることから、恐らく、果肉を腐らせる意図で当該土坑に埋めたことが推定される。

この他の土坑は状況的に、通有の土坑として扱われる性格・状況であった。



第9節 第1号窯跡

第1項 第1号窯跡に就いて

第1号窯跡（以下、1号窯）は、調査区内西側の公園用地西端隅際で、9区353グリッド内で発見された。調査着手以前は、鉄道と道に挟まれた畑で、南側にはシュロの木が鉄道に併走する状態で縦列に植えられていた。この三者に囲まれた状態の畑には、表面採集時に多量の土師器が採集出来、住居跡等の遺構が存在するであろうことが類推出来た。詳細には、当該1号窯周辺に密であったことが記憶に明らかであった。

表土層掘削後、平面精査の段階では、地山ローム土が被熱による赤橙色に変色した状態で、何らかの落ち込みを伴うであろうことが判断でき、隣接79号住竈であろうことを想定した。しかし、竈を想定した場合、位置的に不可思議であることから、何らかの被熱処理遺構であろうことが判断された。

調査実施は、確認から1年以上の時間が経過したことにより、その間の降雨・冠水・草木の攪乱等自然現象に曝され、確認時の状態は望めなかった。調査時の平面状態は、焼土を多量に混じえる土坑様に認められ、これに重複する土坑（後に32号掘立の南東ピットであることが判明）・中近世ピットがやや多く認められた。第638図左上の平面図が、確認時の平面状況である。

調査は、「キ」の字状に切開したが、土層断面C-C'は、調査進行上の状況により設定した。軸線を想定したA-A'は、32号掘立による攪乱が顕著で、断面上方は、やはり攪乱12層土があり、全体に遺存が不良であることが明らかになったが、残存部分では、当該の構造を推定させる状況が臚げながらも看取された。

形状は、不整形形状を呈する土坑様の堀方を備え、規模は残存長1.33m、幅1.33mを計測する。残存深度は0.24mである。

構造は、不整形形状の堀方の底面から壁面を覆う状態で13層土（均質な粗粒焼土主体・土師器坏・甕の細片多く混入）により焼成部壁・底面を構築している。しかし、この13層土の評価自体を壁土とするのではなく、壁・上部構造の崩壊等に拠る解釈も考慮されようが、焼土自体の均質な粒状からは崩壊等は考え難い。この壁の厚さは断面で20～25cm程で、底面は6cm程の層厚が計測される。

焚き口・煙道は不分明であるが、規模・残存状況から双方の施設は想定し難い。このことから、土器焼成が、伏焼き等の推定が可能なものの、初期確認時状況や壁体に含まれる焼土量からは、その点も疑問である。

結果的に、調査の所見は、構造解明にいたれていないが、当該を窯跡として判断している所見は、前述した表面採集所見と、住居跡等から出土している9世紀前半の土師器坏の中で、少量のみの胎土が、同甕類の胎土と一致しない。則ち、少数の坏だけに認められる固有な胎土の土師器坏が存在する。そして、この胎土と同様の土師器坏が前述の表採資料中に多い。この胎土は可塑性の少ない生地土（原土）100%で使用したと考えられ、赤褐色の粒子を含んでいるが殆ど夾雑物を含まず、焼成後の焼き上がりがくすんだ黄褐色を呈し、通有土師器の色調とも一別出来る発色をしている特徴が挙げられる。また、この生地土を推定させる粘性の強いシルト質ローム土が1号堀の壁面で確認されている。これにより当該を土師器窯跡に認定している。

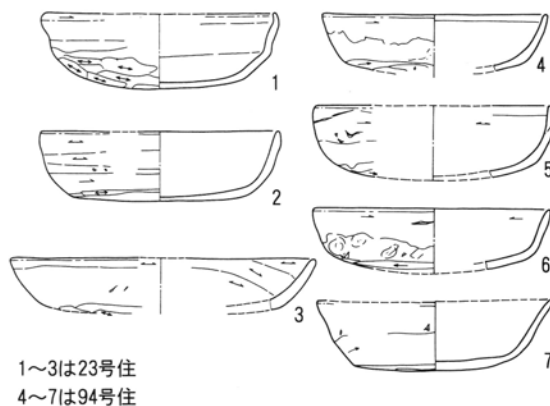


図11 推定第1号窯跡製品実測図（1：4）

第10節 近世屋敷跡に就いて

第1項 第1号屋敷跡

第1号屋敷跡は6区中央北側で第1・2号溝に依り囲まれる、第1・2号掘立、6区2号井戸跡含める集合遺構である。

また、この北側に第15・18・21・25溝に囲まれる第1・2号柵状遺構を含める大規模な遺構である。

この屋敷跡は、掘立を母屋とする構造から近世でも比較的古期の所産であろうことが想定されるもの、2号井戸が18・19世紀を中心とする時期であることから推定される時期に齟齬が有る。この齟齬は、掘立構造が近世の古期に設定する事に依る結果か、この第1号屋敷跡の初原が掘立で、後に礎石建ち建物を代々建物を建て替え、或段階が2号井戸の示す時期と考えられる。

この屋敷跡の北側の1・2号柵は、円形基調の柵に北東側に開口する入り口を備える構造になっている。この2基の柵跡は、新旧関係が認められ、内側の2号柵が新しい。この2号の各ピットは、重機で表土掘削している段階でも他のピットと明瞭に区別出来る状態で認められた。これを端緒として円形状を呈する柵跡の発見に繋がった。

6区2号井戸は、当該の屋敷跡に伴うと推定されるが、近接する同3号井戸跡も当該に含まれると考えられ、出土遺物に多量の瓦が含まれることから、この段階が廃絶された段階と考えられる。これらのことから、当該屋敷跡は長期間に亘り、使用されていた可能性があることを想定しておきたい。

後述屋敷跡も長期に亘り改築がある。



図12 第1号屋敷跡全体図 (1:400)

第2項 第2号屋敷跡に就いて

当該屋敷跡は9区の南西部分を中心に発見されている。発見されている遺構は、第1号屋敷跡とは異なり、掘立等の建物を想定させる遺構が発見されていない。このことは、前述した、近世初期～前半期は、掘立構造を想定させる遺構として発見される場合が多いが、近世後半期は礎石立ち建物に変化する様相に起因しているものと考えられる。

この第2号屋敷は具体的な遺構としては、屋敷を囲繞する堀、桶を据えた土坑（第639図参照）（内1基は燃焼に因り炭化した桶材が出土している。）、井戸跡、畠跡等が発見されている。これらの遺構の中で、堀跡は数条が発見されており、それぞれに切り合い関係が有ることから、時期を異にする区画が在ったことが判明している。そして、図13中に図示したが4時期の変遷が窺える。この4時期の変遷に従い、上述の諸遺構が伴い変遷している。この変遷状態は、概ね、3：2の比率の長方形区画の堀が拡大していく状態であるが、時期が降るに従い区画の堀の形状に複雑化の傾向が窺え、特に、東側への意識傾注が窺える。この傾向は、屋敷内の空間利用が、多岐に及ぶような複雑な状況を呈して行く過程を反映しているものと考えられる。この多岐に及ばず状況は、拡大化の現象が示す理から、繁栄する様の過程の結果として捉えられる。しかし、東側への意識傾注は判然としないが、東側への特殊な意識の現れであろうことは想像される。

この変遷の時期は明瞭に示せないが、第Ⅲ期の91溝（86溝・94A溝）からの良好な一括出土遺物からは、19世紀後半頃の時期が推定される。

また81溝からは、輪宝を墨書した土師質土器皿が出土している。この土師質土器皿の明確な時期は未だ示せる編年観が残念ながらないが、恐らく18世紀末頃と考えられ、輪宝という特殊な墨書は宗教行事を行った結果の所産と推定される。この輪宝墨書からは、密教僧・修験者等の存在が窺える。この内修験者は調査区と県道を隔てた長翁さんの祖先が修験者だった事が判明しており、火事により移転して現在が在ることを伺っている。このことから、直接的では無いが、恐らく当該の屋敷跡は修験者の暮らした「房」的な性格があったことが類推される。

そして、写真2に示した『封内経界図誌』「新田郡東長岡村絵図」には、当該の屋敷跡と思われる建物が描かれている。この絵図は、幕末に館林藩転封された、秋本志朝の命により、描かれており、日光例幣氏街道、神明宮、光運寺等が描画されている。

前述第1号屋敷跡と思われる建物も認められる。

これらのことから、当該屋敷跡は建物が未発見であるが、存在は確実視される。

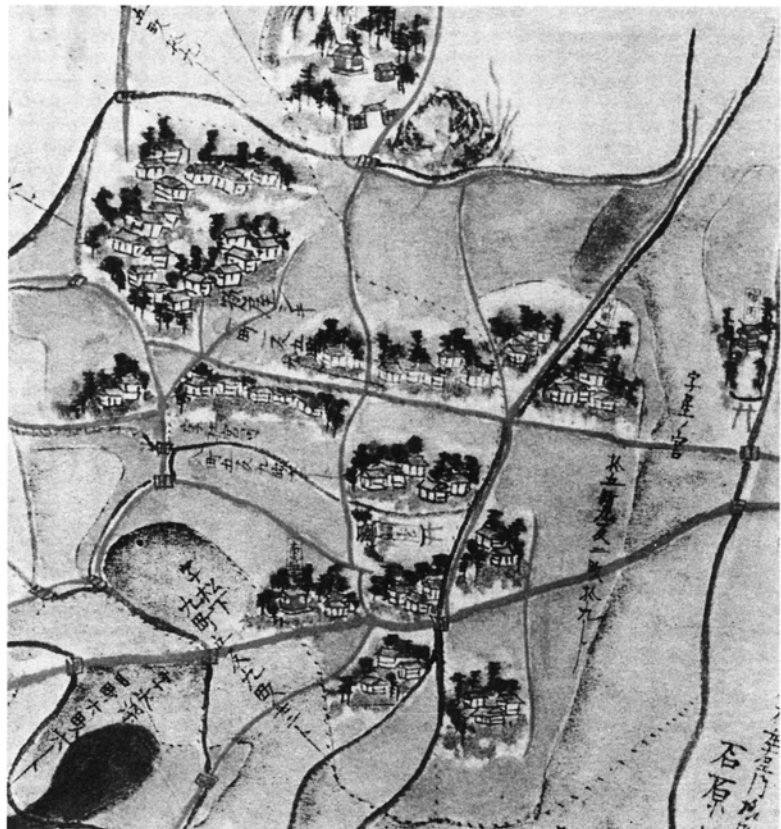


写真2 『封内経界図誌』に見る「東長岡村絵図」

第4章 発見された遺構・遺物に就いて

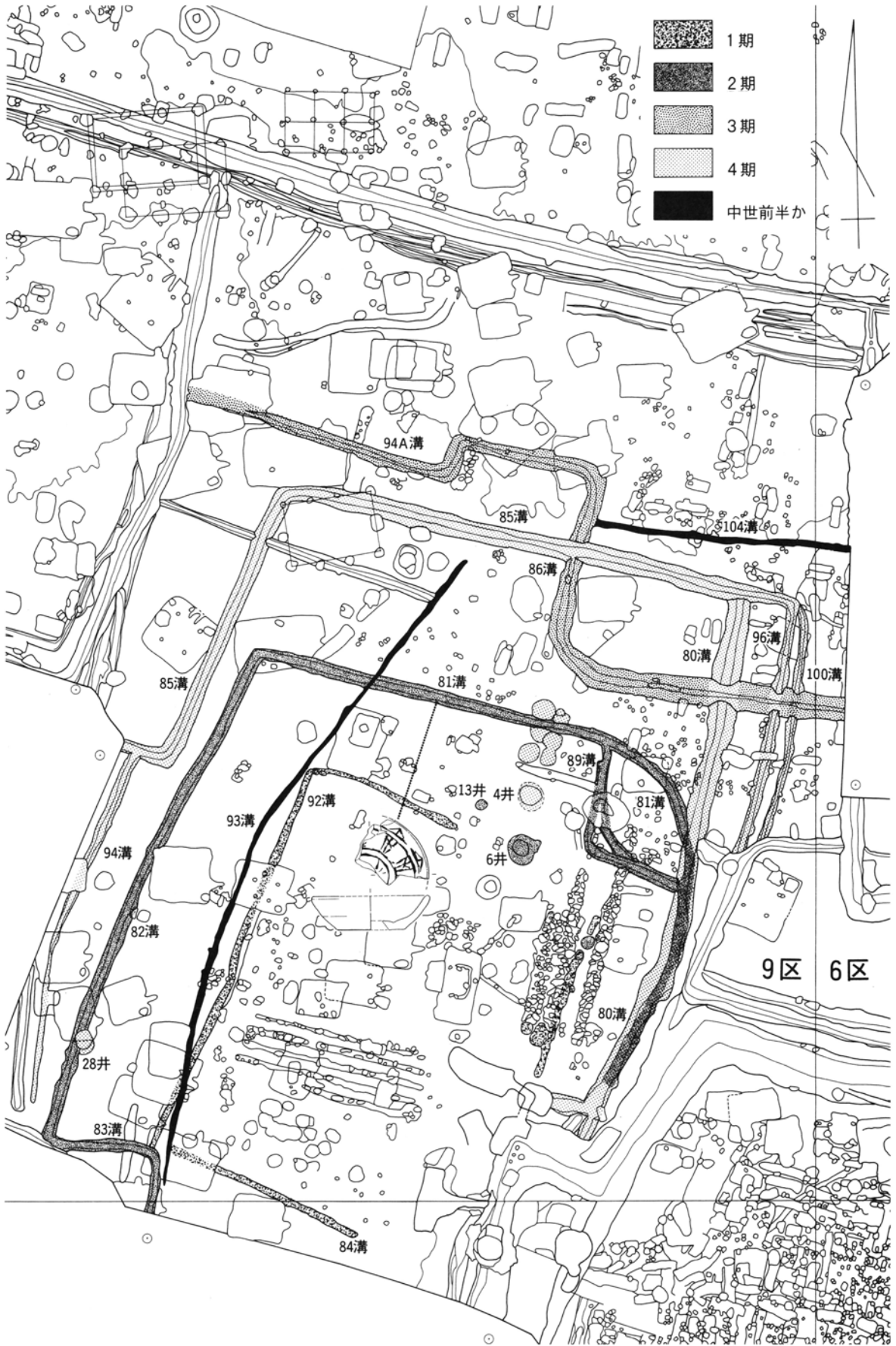


図13 第2号屋敷跡概念図 (1 : 400)

第11節 中世館跡に就いて

第1項 第1号館跡に就いて

第1号館は調査区東端2・3区にまたがり発見されている。発見された館跡は全貌ではなく、北西側的一部分であった。

館跡内部から発見された遺構は、大規模な溝2条(51A・51B溝)、竪穴状遺構3基、地下式土坑1基、井戸跡2基、ピット10基である(近世遺構は除外)。

また、これらの中の個別遺構に就いては前節を参照して戴きたい。

館の堀跡(第31号溝状遺構)は、断面が「V」字状を呈し、幅3.1m、深さ2.1mを測る。走行方位は、南北走する部分で北-3度30分度-東、東西走部分は、南北走部分に直交する方位を指している。

堀の土層断面は第16図に掲載した。覆土は砂礫を多量に混入し、下層は特に内部側より多量に埋まる状態であった。この砂礫を多量に混入する要因は、地山VII層(ローム土)直下には、砂層・砂礫層・礫層が厚く堆積しており、堀はこの砂礫層を掘削している。

そして、内郭堀添いに幅1.5m程は、遺構が見られず、帯状の無遺構部分が存在している。この無遺構状態と、覆土の堆積が内部側から埋まっていることから、掘削された砂礫は、土累として利用されていたことが推定される。

この堀と平行する51A・B溝は当該期に推定されるが、当該の館に先行すると考えられ、館の構えの改修を示す遺構と考えられる。

館が部分的な調査のため構え全体の構造は不明である。発見されたピットも堀立を推定させる例もあるが、不確実なためあえて結線をしなかった。

時期は、3区38土坑(14世紀後半)、3区33土坑(15・16世紀)、第2号地下式土坑(14世紀末~15世紀前半)、第17号竪穴状遺構(15世紀前半)、3区1井戸(15世紀中頃)などから、14世紀後半~15世紀代に盛期が認められる。



図14 第2号館跡縄張り推定図(1:2,500)

第4章 発見された遺構・遺物に就いて

第2項 第2号館跡に就いて

第2号館跡は、調査南端で6・7・9・10区に跨る位置関係にある。出土状況は第1号館跡同様に館の北西側部分が発見されたのみで、全貌は不明である。

当該の館跡を蔵する堀は第72号溝状遺構であるが、調査所見では、部位により後世の溝が幾度となく重複して掘削されている。この状況は第17図全体で窮知される。

この72溝は大きく中世・近世の二者に分別され、中世部分は、底面から一部分にしか覆土の残存が認められず、大半は近世段階での埋設土である。また、D-D'間では5条の切り合い関係が認められ、同部の溝を必要とする地勢の様子が窺える。

館の形状は72号溝が示す西側に折が認められ、横矢懸りの構造を具備している。内郭で発見された主要遺構は、竪穴状遺構5基（10区80土坑を含める）、地下式土坑4基、井戸6基等である。

また、72溝等と重複し、72溝より古期の段階のB-B'の39~42層の土層は、72溝構築以前の遺構乃至整地層又は土累が考えられ、72溝が示す構造は、前代からの何らの施設を改築することにより出来たものとも思われる。

土塁の存在に就いては、表土層除去時に、内郭北東隅部で、薄く残存する状態で認められた。このほかは他の部分で認められなかったが、第1号館跡堀同様に、内郭堀添いに土坑・ピットの認められる状態が帯状に回ることから、内郭全域に土累が存在したことは確実視される。

内郭の施設は、ピットが3,000基発見されているものの、数量が多過ぎる為逆にどの様にもなってしまうため敢えて建物跡の復元は行わなかった。だが、ピットは、数基単位状に切り合って認められたことから、建物も、同一部分乃至幾度となく建替えられたことが判断される。また、これらのピットは、土坑の軸分類と同様の指向方向を示し分類が可能である。このことから、ピットと長々方形土坑には、切り合い関係があるが、土坑側が古期に当たるものが多い。恐らく数十棟単位の建物の切り合いがあったものと推定される。

館の時期は、内郭内土坑の出土遺物・ピット・地下式土坑等からの出土遺物は、14世紀末頃から、15世紀後半頃に盛期が認められる。また図14は現状の地勢から第2号館の縄張域を推定したものである。

第3項 第3号館跡に就いて

第3号館跡は調査区東南部の6区に位置している。発見された遺構は一部に過ぎないが、調査所見として、南北長42.0m、南辺長31m（推定値）、北辺長26m（推定値）の規模で台形平面を呈し、東辺は1号堀を利用する構造であることが推定出来るものの、小規模であることに問題はある。

堀は66溝、129溝、131溝、(?)により構成されると考えられるが、北辺部は溝の切り合いが著しいのと、66溝の如くにトレースする状態で近世溝が構築されていることから、不確実な点は含まれている。しかし、内郭南辺には、地山面を堀添いに幅2m程で深さ30cm程の掘込み地業が認められている。

この地業は上位構造物の為の地業であることから、土塁や柵列を構えたことが想定される。このことからすれば、館の機能は想定される。図15には縄張を推定した。

この第3号館跡と同様な台形状を呈する平面形態の館跡は、桐生梅原館跡・佐野工業団地遺跡・足利鏝阿寺（足利館跡）、及び付図1内No.189遺跡＝強戸田谷館(?)＝矢田堀城か（太田市史通史編中世）がある。これらの内前二者は出土遺物から14世紀中頃には機能乃至埋設している。鏝阿寺も、足利義兼の居館を寺院地としていることから、これらの年代観から、当該館跡も同様な年代観が想定される。しかし、具体的な内部での遺構が未発見であったことから今後の調査等に期待したい。

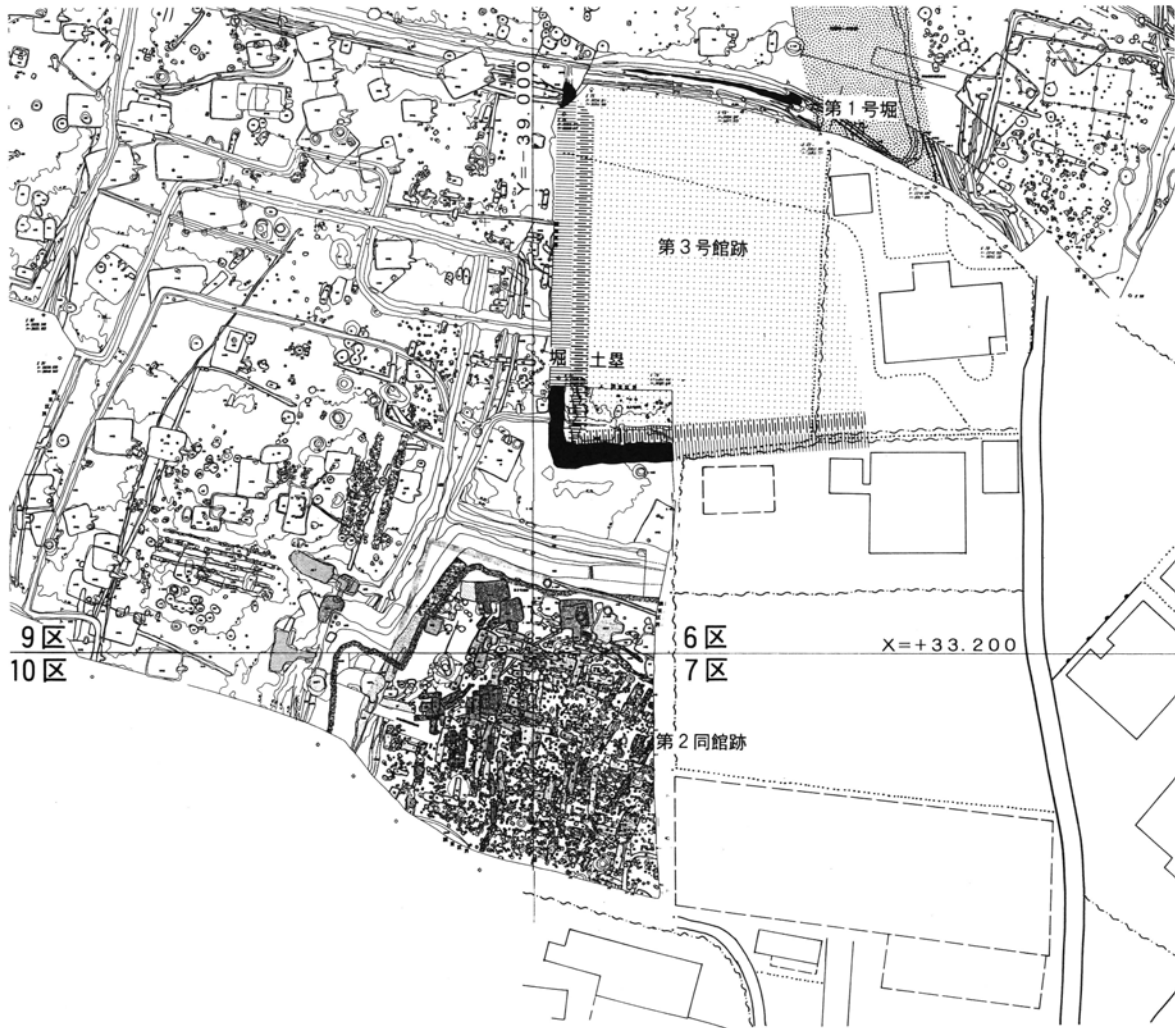


図15 第3号館跡縄張り推定図(1:800)

註及び主要参考文献

註

- 註1 拙著「上野国の初期寺院」『シンポジウム 関東の初期寺院』資料編 関東古瓦研究会 平成9年(1997)
 註2 拙著「構築基準辺に就いて」『国分僧寺・尼寺中間地域3』財団法人群馬県埋蔵調査事業団 平成元年(1988)
 註3 大江正行「土地利用の変遷」『歌舞伎遺跡』一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 財団法人群馬県埋蔵調査事業団 昭和57年

参考文献

- 1 『太田市史』通史編 自然・原始古代 太田市 平成8年(1996)
- 2 『太田市史』通史編 中世 太田市 平成9年(1997)
- 3 『群馬県史』資料編5 中世1 群馬県 昭和53年(1977)
- 4 『群馬県史』資料編6 中世2 群馬県 昭和59年(1983)
- 5 『群馬県史』通史編3 中世 群馬県 平成元年(1988)
- 6 『足利市史』第一巻通史編 原始～近代(二) 昭和52年(1976)
- 7 『上野国郡村誌 山田郡』群馬県文化事業振興会 昭和62年(1987)
- 8 『太田市文化財地図』改訂版 太田市教育委員会 平成3年(1991)
- 9 『待矢場両堰土地改良区史』待矢場両堰土地改良区 平成8年(1996)

第5章 理科学分析

第1節 理科学分析にあたって

大江正行・木津博明・岩崎泰一・熊谷 健・大竹正隆

第1項 理科学分析と発掘調査

当遺跡の発掘調査は、旧石器時代から近世に至る多種多様の遺構・遺物の発見が続いた。この中で、旧石器時代の調査、第1号掘跡、I区低地部の調査に伴い、理科学分析を行った。

この上記三者の調査に伴う理化学分析の目的は、調査精度の確認が主たる目的であった。

旧石器時代の調査に伴う理科学分析は、出土石器群の層位（ローム土の層序）及び含有乃至堆積テフラの同定であった。これは、テフラによる層序の年代観の確認と、出土石器様相の年代観との正合性を確認する目的で、「テフラの同定」を実施した結果、調査所見による出土石器の年代観は確認された。

このテフラ同定と同様に、第1号掘跡に就いては、下層で発見されたテフラと表土層下位の間で認められた、水田跡と判断した土層（8～9面）の被覆土層を「プラント・オパール分析」により追証を試みた。

これは、調査効率の促進も急務であったことから、層間10cm程の水田跡を平面露呈させることが技術的、経費的にも困難であったため、最も安定している水田跡面の、1面に調査を絞り調査実施することによる調査所見の確認を目的とした。結果は、後段の詳細を参照されたいが、概して、水田跡を即断する結果ではなかった。

一方、I区低地部は、夥しい量の縄文土器が出土している。この土器の出土層位は、有機質粘土層により被覆され、下位は流木（樹皮を完全に残す状態）を多く含む灰色シルト層乃至、砂礫層の堆積が認められた。この有機質粘土層の上位には、（調査区法断面）粘質性の強い黒色乃至暗褐色土の堆積が認められたため、水田跡の痕跡を留めるのか又、地山砂礫層に達する間の土層中に含まれるであろう、花粉分析をすることにより、縄文集落をとりまく環境確認するために「花粉分析」を実施した。この結果縄文時代前期頃には、ナラ類中心の落葉樹林の分布。同後期頃には、同様にナラ類の樹林と、水湿地の存在を示す傾向が窺知された。このことは、調査所見の有機粘土の堆積環境等の推定所見と一致した。

これらの発掘調査際に行った自然科学分析の結果は後節に掲載した。分析は、各分野の専門業者に委託した。

第2項 理科学分析と整理事業

発掘調査終了後に実施になった整理事業では、記録資料・出土資料を整理し、当該報告書を編んだ。この間大江正行により古墳時代以降の遺物の観察が行われ、木津により縄文時代、岩崎泰一により旧石器時代の遺物の観察を行った。この遺物観察の結果に就いては観察表等として掲載した。

この観察の対象には、木器類・土器類・石器類等が含まれ、特に大江により木器の樹種同定を行ったが、大別分類程度にしか至らなかったため、正確を期するため、木器類に就いては、観察用プレパラートを当団で作成し、「樹種同定」を委託した。

そして、旧石器時代・縄文時代以降の石器・石製品・石造品に就いて安易な判断がしかねる部分があるので「石材鑑定」を実施した。これらの成果に就いては第1項同様に後節に掲載した。（木津）

第2節 理科学分析

第1項 土層とテフラ

株式会社 古環境研究所

はじめに

群馬県域には、赤城火山や榛名火山さらに浅間火山など多くの火山から噴出したテフラ（火山砕屑物、いわゆる火山灰）が分布している。これらのテフラの中には、すでに噴出年代が明らかにされているものがあり、それら示標テフラとの層位関係を求めることによって、遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代に関する資料を収集できるようになっている。そこで多くの遺構や遺物が検出された東長岡戸井口遺跡においても、地質調査、火山ガラス比分析、テフラ検出分析さらに屈折率測定を合わせて行って示標テフラの層位を明らかにして、石器包含層の堆積年代や土層の堆積年代に関する資料を得ることになった。

土層の層序

調査分析の対象となった地点は、5-4・5-5グリッド深掘地点、6-369グリッド北壁、6-366グリッド西壁、5-41グリッド東壁、旧河道第1地点、旧河道第2地点、1区96グリッド、4区261グリッド、6区276グリッド、6区293グリッドの10地点である。以下、地点ごとに土層の層序について記載する。

(1) 5-4・5-5グリッド深掘地点

この地点では、下位より灰色砂礫層（層厚100cm以上）、黄色土（層厚22cm）、暗灰褐色土（層厚22cm，X層）、灰褐色土（層厚20cm，IX層）、黄褐色土（層厚11cm，VII層）、若干色調の暗いVI層（層厚12cm，V層）、黄褐色土（層厚16cm，IV層）が認められる（図16）。

(2) 6-369グリッド北壁

石器が検出されたこの地点では、下位より黄褐色土（層厚5cm以上，VII層）、赤味を帯びた黄褐色土（層厚20cm，VI層）、灰色土（層厚7cm，V層）、黄色土（層厚10cm）、黄色粗粒火山灰混じり黄色土（層厚5cm，以上IV層）、暗灰色土（層厚9cm，III層）が認められる（図17）。これらのうち、VI層からIV層にかけての層準から石器が検出されている。

(3) 6-366グリッド西壁

礫群が検出されたこの地点では、下位より黄褐色土（層厚9cm，VII層）、赤味を帯びた黄褐色土（層厚15cm，VI層）、黄色土（層厚19cm）が認められる（図18）。これらのうち、VII層から礫群が検出されている。

(4) 5-41グリッド東壁

この地点では、台地を覆うローム層のうち最上部の土層をよく観察することができた。ここでは、下位より黄色粘質土（層厚10cm以上）、灰色砂層（層厚1cm）、黄色粘質土（層厚11cm）、灰色砂質土（層厚17cm）、黄灰色砂質土（層厚16cm）、黄色軽石に富む黄灰色砂質土（層厚10cm，軽石の最大径2mm）が認められる（図19）。最上部の黄色軽石は、その岩相から約1.3～1.4万年前に浅間火山から噴出したと考えられている浅間板鼻黄色軽石（As-YP，新井，1962，町田・新井，1992）に由来すると考えられる。

(5) 旧河道第1地点

この地点では、12層中にテフラ層が認められた（図20）。テフラ層の認められる付近の土層の層序は、下位より暗灰褐色土（層厚3cm以上，13層）、黒色土（層厚0.3cm）、成層したテフラ層、暗褐色砂質土（層厚4cm）、青灰色細粒火山灰層（層厚0.8cm）、黒褐色土（層厚0.5cm）、黄灰色砂層（層厚4cm）、暗灰色砂質土（層厚15cm，以上12層）である。

第5章 理科学分析

(6) 旧河道第2地点

ここでは、下位より暗灰色砂質土(層厚5cm, 12層)、褐色土ブロック混じり暗灰色砂質土(層厚11cm, 11b層)、灰色砂質土(層厚5cm, 11a層)、灰色砂質土(層厚4cm, 10層)、黄灰色砂質土(層厚7cm, 9層)、灰色砂質土(層厚18cm, 8層)、暗灰色砂質土(層厚9cm, 7層)、灰褐色砂質土(層厚6cm, 6層)、灰色砂質土(層厚10cm, 5層)、暗灰褐色砂質土(層厚3cm, 4b層)、とくに砂を多く含む暗灰褐色砂質土(層厚3cm, 4a層)、褐色砂質土(層厚3cm, 3層)、褐色砂質土(層厚8cm, 2層)、褐色砂質土(層厚7cm, 1層)である(図21)。

(7) 1区96グリッド

この地点では、下位より灰色粘質土(層厚16cm)、灰白色粗粒火山灰に富む黒色粘質土(層厚8cm)、灰色粘質土(層厚3cm)、黒灰色粘質土(層厚8cm)、暗灰色粘質土(層厚11cm)、盛土層(層厚46cm)が認められる(図22)。

(8) 4区261グリッド

ここでは、下位より砂混じり灰色粘質土(層厚15cm以上)、褐色土(層厚20cm)、灰色砂質土(層厚13cm)、灰褐色砂層(層厚13cm)、灰色粘質土(層厚14cm)、白色砂混じり灰色粘質土(層厚9cm)、暗灰色粘質土(層厚10cm)、灰色粘質土(層厚10cm)、暗灰色粘質土(層厚9cm)、灰色粘質土(層厚10cm)、灰白色粗粒火山灰に富む灰色土(層厚12cm)、白色粗粒軽石混じり灰色土(層厚31cm)、暗灰褐色作土(層厚11cm)が認められる(図23)。これらの土層のうち、灰色粘質土とその上位の灰白色粗粒火山灰に富む灰色土の間には、軽微な不整合が認められる。

(9) 6区276グリッド

この地点では、下位より黒灰色土(層厚2cm以上)、かすかに成層した桃黄色粗粒火山灰層(層厚7cm)、褐灰色砂層(層厚8cm)、青灰色細粒火山灰層(層厚0.8cm)、黒色土(層厚0.6cm)、黄灰色砂層(層厚3cm)、褐灰色土(層厚1cm)、黄灰色細粒火山灰層(層厚0.2cm)、暗灰色砂層(層厚2cm)、黄灰色砂層(層厚0.3cm)、褐灰色土(層厚0.4cm)、褐灰色砂層(層厚4cm)が認められる(図24)。かすかに成層した桃黄色粗粒火山灰層については、その岩相から1108(天仁元)年に浅間火山から噴出した浅間Bテフラ(As-B, 新井, 1979)に同定される。またその上位の青灰色細粒火山灰層は、層相から1128(大治3)年に浅間火山から噴出したと考えられている浅間粕川テフラ層(As-Kk, 早田, 1991, 1995)に同定される。さらに上位にある黄灰色細粒火山灰について、詳細は不明であるが、1281(弘安4)年に浅間火山で発生した噴火(荒牧, 1968)に由来している可能性も考えられる。

(10) 6区293グリッド

ここでは、基盤の砂礫層中に水流によって円磨された黄色軽石のレンズ層が認められる。軽石の最大径は41mmである。

火山ガラス比分析

(1) 分析試料と分析方法

石器包含層の堆積年代に関する資料を得るために、5-4・5-5グリッド深掘地点、6-369グリッド北壁、6-366グリッド西壁の3地点において、基本的に5cmごとに採取された試料のうち、5cmおきの18試料について火山ガラス比分析を行い、示標テフラの降灰層準を求めることを試みた。火山ガラス比分析の手順は、次の通りである。

1) 試料15gを秤量。

- 2) 超音波洗浄装置により泥分を除去。
- 3) 80°Cで恒温乾燥。
- 4) 分析篩により1/4—1/8 mmの粒子を篩別。
- 5) 偏光顕微鏡下で250粒子を観察し、火山ガラスの形態別比率を求める。

(2) 分析結果

火山ガラス比分析の結果をダイヤグラムにして図25～27に、その内訳を表1に各々示す。5—4・5—5グリッド深掘地点では、VIII・IX層基底の試料番号12、10、6、4に透明なバブル型ガラスが少量認められた。またV層最上部の試料番号4と2には、分厚い中間型ガラスがとくに多く認められる。

6—369グリッド北壁では、VI層最上部の試料番号7より上位で多くの中間型ガラスが認められた。したがって、層相からテフラの降灰層準が認められた試料番号3以外に、試料番号7の層準にも中間型ガラスで特徴づけられるテフラの降灰層準があると考えられる。

6—366グリッド西壁では、試料番号5より上位で中間型ガラスの量が増加する傾向が認められた。またIV層に相当する試料番号3や1には、軽石型ガラスが多く含まれている。その産状から、中間型ガラスが急増する試料番号5付近や、軽石型ガラスの比率が増加するIV層の試料番号3付近にテフラの降灰層準があると考えられる。

テフラ検出分析

(1) 分析試料と分析方法

1区96グリッド、4区261グリッド、6区293グリッドの3地点において採取された合計15試料について、テフラ検出分析を行い、示標テフラを検出して土層の堆積年代に関する資料を収集することにした。なお4区261グリッドにおける分析試料は、基本的に5 cmごとに採取された試料のうち5 cmおきの試料を選択した。分析方法は次の通りである。

- 1) 試料15 gを秤量。
- 2) 超音波洗浄装置により泥分を除去。
- 3) 80°Cで恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下でテフラ粒子の量や特徴を観察。

(2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を表2に示す。1区96グリッド試料番号1では、軽石粒子を検出することはできなかった。4区261グリッド試料番号1には、比較的良好に発泡した淡褐色軽石が比較的多く含まれている。班晶には斜方輝石や単斜輝石が認められる。また軽石の最大径は21mmである。この軽石は、その岩相から1108(天仁元)年に浅間火山から噴出した浅間Bテフラ(As—B, 新井, 1979)に由来すると考えられる。本遺跡においては、As—Bの下位に4世紀中葉に浅間火山から噴出した浅間C軽石(As—C, 新井, 1979)や6世紀初頭に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr—FA, 新井, 1979, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 1992)起源の軽石の検出が期待されたが、試料番号1より下位に軽石粒子は検出されなかった。これらは試料番号1と2の土層間の軽微な不整合に起因していると推定される。

6区293グリッド試料番号1には、よく発泡した黄色軽石がとくに多く含まれている。軽石の最大径は41mmで、班晶には斜方輝石や角閃石などが認められる。

屈折率測定

(1) 測定試料と測定方法

示標テフラとの同定精度を向上させるために、火山ガラスに富むテフラの降灰層準の存在が指摘された試料を中心に、屈折率の測定を行って示標テフラとの同定の精度を向上させることにした。測定の対象となった試料は、5-4・5-5グリッド深掘地点試料番号12、10、8、6、4、6-369グリッド北壁試料番号7、5、3、6-366グリッド西壁試料番号5、1区96グリッド試料番号1、6区293グリッド試料番号1の11試料である。測定は、温度一定型屈折率測定法（新井，1972，1993）により行われた。

(2) 測定結果

屈折率測定の結果を表3に示す。5-4・5-5グリッド深掘地点試料番号12には、重鉱物として斜方輝石や単斜輝石さらに角閃石が認められる。ただし特徴があるのは、むしろ火山ガラスで、透明で平板状のいわゆるバブル型ガラスの存在である。この火山ガラスの屈折率(n)は、1.499-1.501(中央値:1.500)である。この火山ガラスは、その特徴から約2.4~2.5万年前に南九州の始良カルデラから噴出した始良 Tn 火山灰(AT, 町田・新井, 1976, 1992, 松本ほか, 1987, 池田ほか, 1995)に由来すると考えられる。

試料番号10には、ATに由来すると考えられる火山ガラスのほかに、重鉱物として斜方輝石や単斜輝石さらに角閃石が認められる。含まれる斜方輝石の屈折率(γ)は、1.702-1.708である。この斜方輝石の屈折率から、この試料には約1.9~2.2万年前に浅間火山から噴出したと考えられている浅間板鼻褐色軽石群(As-BP Group, 新井, 1962, 早田, 1996)の中部に由来する斜方輝石が含まれていると考えられる。試料番号8には、重鉱物として斜方輝石や単斜輝石さらに角閃石が認められる。含まれる斜方輝石の屈折率(γ)は、1.702-1.709である。この斜方輝石についても、屈折率から As-BP Group の中部に由来すると考えられる。

試料番号6には、ATに由来すると考えられる火山ガラスなどのほかに、重鉱物として斜方輝石や単斜輝石が認められる。含まれる斜方輝石の屈折率(γ)は、1.704-1.710である。この斜方輝石の屈折率から、この試料には、約1.7万年前に浅間火山から噴出した浅間大窪沢第1軽石(As-Ok1, 中沢ほか, 1984, 早田, 1996)が含まれていると考えられる。さらに試料番号4には、ATに由来する火山ガラスのほかに、若干屈折率の高い火山ガラスが含まれている(火山ガラス全体の屈折率:1.500-1.505)。また重鉱物として、斜方輝石や単斜輝石が含まれており、その屈折率(γ)は1.706-1.711である。ATを除くテフラ粒子については、その特徴から As-YP に由来すると考えられる。

6-369グリッド北壁試料番号7には、ATの火山ガラスのほかに若干屈折率の高い火山ガラスが含まれている(火山ガラス全体の屈折率:1.500-1.503)。重鉱物としては、斜方輝石のほかに単斜輝石やごく少量の角閃石が認められる。斜方輝石の屈折率(γ)は、1.704-1.709ある。火山ガラスや斜方輝石の屈折率などから、この試料には、As-Ok1に由来するテフラ粒子が混在していると考えられる。また、試料番号5に含まれる火山ガラスの屈折率(n)は、1.503-1.504である。また、重鉱物としては、斜方輝石や単斜輝石のほか、ごく少量の黒雲母が認められる。斜方輝石の屈折率(γ)は、1.705-1.710である。層位と火山ガラスや斜方輝石の屈折率などから、この試料には As-Ok1 に由来するテフラ粒子が多く含まれていると考えられる。さらに、試料番号3に含まれる火山ガラスの屈折率(n)は、1.502-1.505である。また、重鉱物としては、斜方輝石や単斜輝石のほか、ごく少量の角閃石が認められる。斜方輝石の屈折率(γ)は、1.707-1.711である。これらの特徴は、層相から行われた As-YP への同定を支持している。

6-366グリッド西壁試料番号5に含まれる火山ガラスの屈折率(n)は、1.500-1.505である。またこの試料には、重鉱物として斜方輝石や単斜輝石が認められる。斜方輝石の屈折率は、1.704-1.709である。斜

方輝石の屈折率から、この試料には As—Ok1 が含まれていると考えられる。

1区96グリッド試料番号1には、斜方輝石のほか単斜輝石が認められる。斜方輝石の屈折率 (γ) は1.707—1.710である。この試料については重鉱物の組み合わせや斜方輝石の屈折率から、浅間火山起源のテフラの混入の可能性が考えられる。ただしこの土層については、遺物との層位関係から縄文時代後期ころの可能性が予想されているものの、この時期の大規模な浅間山の噴火はこれまで知られていない。As—YP のテフラ粒子の二次的な混入も考えられるが、浅間火山のテフラ層序をみる必要もあるかも知れない。

6区293グリッド試料番号1には、斜方輝石のほか角閃石や少量の単斜輝石が認められた。軽石の火山ガラス (n)、斜方輝石 (γ)、角閃石 (n_2) の屈折率は、各々1.505—1.508、1.707—1.710、1.672—1.677である。この軽石は、重鉱物の組み合わせや屈折率などから、約3.1—3.2万年前に赤城火山から噴出した赤城鹿沼テフラ (Ag—K, 新井, 1962, 鈴木, 1976, 町田・新井, 1992) に由来すると考えられる。

示標テフラとの同定と石器の層位について

テフラ組成分析と屈折率測定を合わせて行った結果、いわゆるローム層中では、VIII・IX層基部に AT、VIII・IX層からVII層にかけて As—BP Group、VI層最上部付近に As—Ok1、さらにIV層中に As—YP の層位があると推定される。これらの示標テフラとの層位関係から、6—369グリッド北壁付近でVI層からIV層にかけて検出された石器は、As—BP Group 中部より上位で As—YP との間に層位があると考えられる。また6—366グリッド西壁付近で検出された礫群の層位は As—BP Group 以上の層位で、As—Ok1 より下位にあると考えられる。

まとめ

東長岡戸井口遺跡において、地質調査、火山ガラス比分析、テフラ検出分析、さらに屈折率測定を合わせて行った。その結果、下位より赤城鹿沼テフラ (Ag—K, 約3.1—3.2万年)、始良 Tn 火山灰 (AT, 約2.4—2.5万年前)、浅間板鼻褐色軽石群 (As—BP Group, 約1.9—2.2万年前)、浅間大窪沢第1軽石 (As—Ok1, 約1.7万年前)、浅間板鼻黄色軽石 (As—YP, 約1.3—1.4万年前)、浅間Bテフラ (As—B, 1108年)、浅間粕川テフラ (As—Kk, 1128年) などの示標テフラやその粒子を検出することができた。東長岡戸井口遺跡で検出された旧石器時代の石器と礫群の層位は、各々 As—BP Group 中部より上位で As—YP との間および As—BP Group 中部以上の層位で As—Ok1 より下位にあると推定された。

文 献

- 新井房夫 (1962) 関東盆地北西部地域の第四紀編年。群馬大学紀要自然科学編, 10, p.1—79.
 新井房夫 (1972) 斜方輝石・角閃石によるテフラの同定—テフロクロロジーの基礎的研究。第四紀研究, 11, p.254—269.
 新井房夫 (1979) 関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層。考古学ジャーナル, no.157, p.41—52.
 新井房夫 (1993) 温度一定型屈折率測定法。日本第四紀学会編「第四紀試料分析法—研究対象別分析法」, p.138—148.
 荒牧重雄 (1968) 浅間火山の地質。地団研専報, no.14, 45p.
 池田晃子・奥野 充・中村俊夫・筒井正明・小林哲夫 (1995) 南九州, 始良カルデラ起源の大隅軽石と入戸火砕流中の炭化樹木の加速器質量分析法による ^{14}C 年代。第四紀研究, 34, p.377—380.
 町田 洋・新井房夫 (1976) 広域に分布する火山灰—始良 Tn 火山灰の発見とその意義—。科学, 46, p.339—347.
 町田 洋・新井房夫 (1992) 火山灰アトラス。東京大学出版会, 276p.
 町田 洋・新井房夫・小田静夫・遠藤邦彦・杉原重夫 (1984) テフラと日本考古学—考古学研究に關係するテフラのカタログ—。古文化財編集委員編「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学」, p.865—928.
 松本英二・前田保夫・竹村恵二・西田史朗 (1987) 始良 Tn 火山灰 (AT) の ^{14}C 年代。第四紀研究, 26, p.79—83.
 中沢英俊・新井房夫・遠藤邦彦 (1984) 浅間火山, 黒班—前掛期のテフラ層序。日本第四紀学会講演要旨集, no.14, p.69—70.
 早田 勉 (1991) 浅間火山の生い立ち。佐久考古通信, no.35, p.2—7.
 鈴木正男 (1976) 過去をさぐる科学。講談社, 234p.
 早田 勉 (1996) 関東地方—東北地方南部の示標テフラの諸特徴—とくに御岳第1テフラより上位のテフラについて—。名古屋大学加速器質量分析計業績報告書, 7, p.256—267.

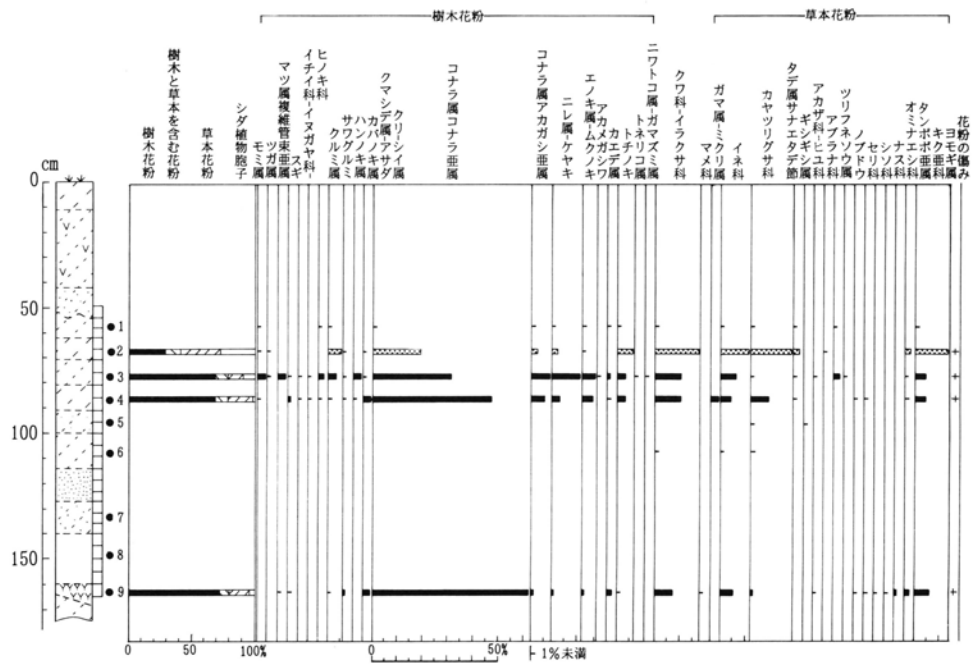


図28 4区261グリットにおける花粉組成図 (花粉総数が基数)

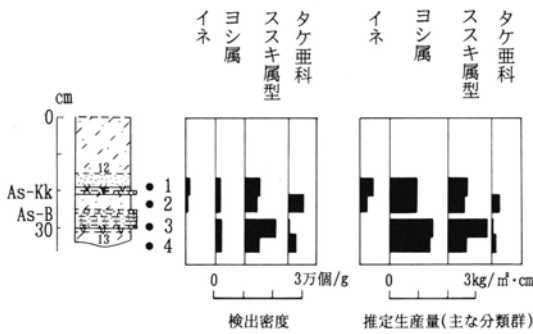


図29 1号堀No.1における
プラント・オパール分析結果

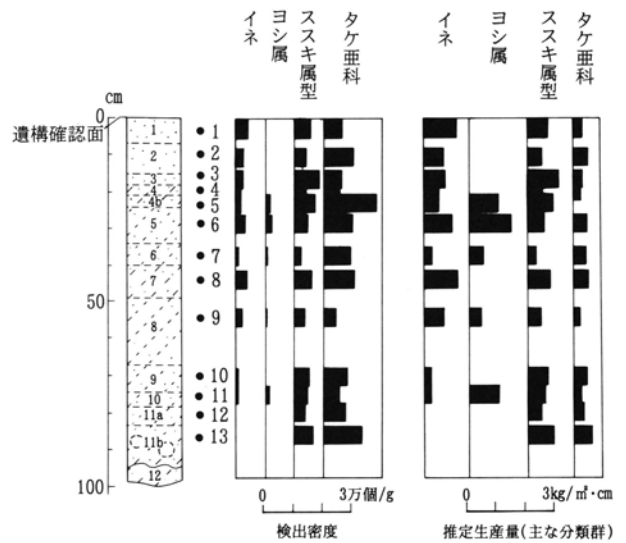


図30 1号堀No.2におけるプラント・オパール分析結果

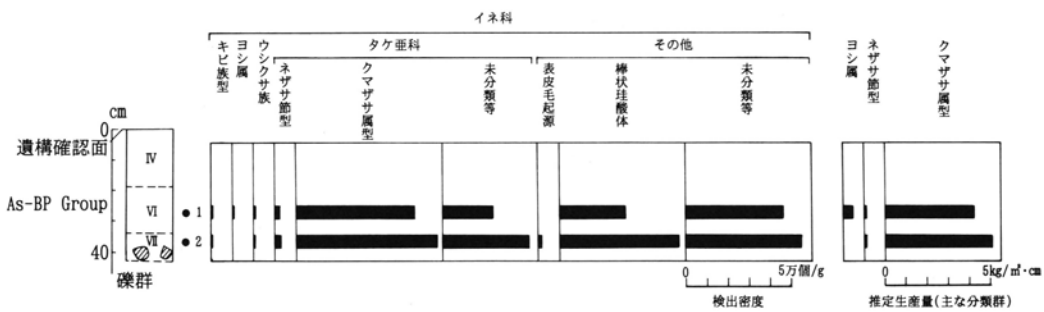


図31 6-366グリットの植物珪酸体分析結果

中沢英俊・新井房夫・遠藤邦彦 (1984) 浅間火山, 黒班〜前掛期のテフラ層序, 日本第四紀学会講演要旨集, no.14, P.69-70.
 早田 勉 (1991) 浅間火山の生い立ち, 佐久考古通信, no.35, P.2-7.
 鈴木正男 (1976) 過去をさぐる科学, 講談社, 234 P.
 早田 勉 (1996) 関東地方〜東北地方南部の示標テフラの諸特徴—とくに御岳第1テフラより上位のテフラについて—, 名古屋大学加速器質量分析計業績報告書, 7, P.256-267.

表5 東長岡戸井口の火山ガラス比分析結果

グリッド	試料	bw	md	pm	その他	合計
5-4・5-5	2	0	14	0	236	250
	4	1	10	0	239	250
	6	1	2	0	247	250
	8	0	1	0	249	250
	10	2	0	2	246	250
	12	2	0	0	248	250
	14	0	2	0	248	250
6-369	1	0	13	3	234	250
	3	0	16	2	232	250
	5	0	15	2	233	250
	7	0	10	4	236	250
	9	1	5	1	243	250
6-336	1	0	26	8	216	250
	3	0	19	8	223	250
	5	0	14	1	235	250
	7	0	1	2	247	250
	9	0	2	1	247	250

数字は粒子数, bw:バルブ型, md 中間型, pm:軽石型.

表6 東長岡戸井口遺跡のテフラ検出分析結果

グリッド	試料	軽石の量	軽石の色調	軽石の最大径
1-96	1	-	-	-
4-216	1	++	淡褐	2.1
	3	-	-	-
	5	-	-	-
	7	-	-	-
	9	-	-	-
	11	-	-	-
	13	-	-	-
	15	-	-	-
	17	-	-	-
	19	-	-	-
	21	-	-	-
6-293	1	++++	黄	4.1

++++:特に多い, ++++:多い, ++:中程度, +:少ない, -:認められない。最大径の単位は, mm.

表7 東長岡戸井口遺跡に於ける屈折率測定結果

グリッド	試料	重鉱物	gl (n)	opx (γ)	ho (n ₂)
5-4・5-5	4	opx>cpx	1.500-1.505	1.706-1.711	-
	6	opx>cpx	1.499-1.503 (1.499-1.501)	1.704-1.710	-
	8	opx>cpx (ho)	-	1.702-1.709	-
	10	opx>cpx (ho)	1.499-1.501	1.702-1.708	-
	12	opx,cpx,ho	1.499-1.501 (1.500)	-	-
6-369	3	opx>cpx (ho)	1.502-1.505	1.707-1.711	-
6-369	5	opx>cpx (bi)	1.503-1.504	1.705-1.710	-
6-369	7	opx>cpx (ho)	1.500-1.503	1.704-1.709	-
6-366	5	opx>cpx,ho	1.500-1.505	1.704-1.709	-
1-96	1	opx>cpx	-	1.704-1.710	-
6-293	1	opx>ho,cpx	1.505-1.508	1.707-1.710	1.672-1.677

gl:火山ガラス, opx:斜方輝石, cpx:単斜輝石, ho:角閃石, bi 黒雲母, 屈折率の測定は, 温度一定型屈折率測定法 (新井, 1972, 1993)

第5章 理科学分析

第2項 花粉分析

試料

試料は、1区96グリッドの試料1と試料2、および4区26グリッドの試料1～試料9の計11点である。このうち、1区96グリッドの試料2は縄文時代後期、4区26グリッドの試料9は縄文時代前期、試料4は縄文時代後期の遺物包含層である。試料採取箇所を分析結果の柱状図に示す。

方法

花粉粒の分離抽出は、基本的には中村（1973）を参考にし、試料に以下の順で物理化学処理を施して行った。

- 1) 5%水酸化カリウム溶液を加え15分間湯煎する。
- 2) 水洗した後、0.5mmの篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法を用いて砂粒の除去を行う。
- 3) 25%フッ化水素酸溶液を加えて30分放置する。
- 4) 水洗した後、氷酢酸によって脱水し、アセトリシス処理（無水酢酸9：1濃硫酸のエルドマン氏液を加え1分間湯煎）を施す。
- 5) 再び氷酢酸を加えた後、水洗を行う。
- 6) 沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色を行い、グリセリンゼリーで封入しプレパラートを作製する。

以上の物理・化学の各処理間の水洗は、1500rpm、2分間の遠心分離を行った後、上澄みを捨てるという操作を3回繰り返して行った。

検鏡はプレパラート作製後直ちに、生物顕微鏡によって300～1000倍で行った。花粉の同定は、島倉（1973）および中村（1980）をアトラスとし、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類した。複数の分類群にまたがるものはハイフン（—）で結んで示した。なお、科・亜科や属の階級の分類群で一部が属や節に細分できる場合はそれらを別の分類群とした。イネ属に関しては、中村（1974, 1977）を参考にし、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して分類し、個体変化や類似種があることからイネ属型とした。

結果

出現した分類群は、樹木花粉20、樹木花粉と草本花粉を含むもの2、草本花粉16、シダ植物孢子2形態の計40である。これらの学名と和名および粒数を表1に示し、主要な分類群を写真に示す。以下に出現した分類群を示す。

〔樹木花粉〕 モミ属、ツガ属、マツ属複雑管束亜属、スギ、イチイ科—イヌガヤ科—ヒノキ科、クルミ属、サワグルミ、ハンノキ属、カバノキ属、クマシデ属—アサダ、クリーシイ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属—ケヤキ、エノキ属—ムクノキ、アカメガシワ、カエデ属、トチノキ、トネリコ属、ニワトコ属—ガマズミ属

〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕 クワ科—イラクサ科、マメ科

〔草本花粉〕 ガマ属—ミクリ属、イネ科、カヤツリグサ科、タデ属サナエタデ節、ギシギシ属、アカザ科—ヒユ科、アブラナ科、ツリフネソウ属、ノブドウ、セリ科、シソ科、ナス科、オミナエシ科、タンポポ亜科、キク亜科、ヨモギ属

〔シダ植物孢子〕 単条溝孢子、三条溝孢子

(1) 1区96グリッド

試料1ではイネ科やキク亜科など、試料2ではイネ科やカヤツリグサ科などが検出されたが、いずれも少

量である。

(2) 4区26グリッド (図28)

試料9では樹木花粉の占める割合が極めて高く、コナラ属コナラ亜属が60%以上の高率を示す。他に樹木花粉ではクリーシイ属、カエデ属などが伴われる。草本花粉ではイネ科、ヨモギ属、キク亜科などが出現し、樹木花粉と草本花粉を含むクワ科-イラクサ科がやや出現する。試料8～5では花粉がほとんど検出されなかった。

試料4では樹木花粉が優占するが、コナラ属コナラ亜属の出現率がやや減少し、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属-ケヤキ、エノキ属-ムクノキ、トチノキが微増する。イネ科、カヤツリグサ科、ガマ属-ミクリ属の草本花粉とクワ科-イラクサ科も増加する。試料3では樹木花粉の優占は変わらないが、コナラ属コナラ亜属がやや減少し、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属-ケヤキ、エノキ属-ムクノキが増加する。草本花粉ではガマ属-ミクリ属、カヤツリグサ科が減少する。試料2では、草本花粉とシダ植物胞子の占める割合が高くなり、樹木花粉はやや低率となる。樹木花粉ではコナラ属コナラ亜属が優占し、ハンノキ属、トチノキが伴われる。草本花粉ではカヤツリグサ科、イネ科、ヨモギ属の出現率が高くなり、タデ属サナエタデ節が伴われる。クワ科-イラクサ科も増加する。試料1では樹木花粉のコナラ属コナラ亜属が比較的高率で検出された。

花粉分析から推定される植生と環境

縄文時代前期頃は、遺跡周辺にはナラ類を主とする落葉広葉樹林が分布しており、林縁などではクワ科-イラクサ科やイネ科、ヨモギ属なども見られたものと考えられる。なお、花粉粒が傷んでいることから、やや乾燥した堆積環境が推定される。縄文時代前期～後期頃は、ほとんど花粉が検出されないことから、花粉が分解する乾燥した環境か分別を受ける堆積環境にあったものと考えられる。

縄文時代後期頃は、周辺にナラ類を主とする落葉広葉樹林が分布しており、トチノキが生育する適潤地やガマ属-ミクリ属やカヤツリグサ科が生育する水湿地も見られたものと推定される。また、カシ類も増加したものと考えられる。

縄文時代後期以降は、森林としてはナラ類を主とする落葉広葉樹林が分布し、ニレ属-ケヤキ、エノキ属-ムクノキ、トチノキ、カシ類などが生育する適潤地も部分的に見られたものと推定される。また、林縁などではカヤツリグサ科、イネ科、ヨモギ属などの草本やクワ科-イラクサ科が生育する開けた乾燥地が拡大したものと推定される。

縄文時代後・晩期には、堆積環境の変化を伴う気候の変化が示唆されており(辻, 1989)、本遺跡においても同様の変化が認められた。今後、周辺地域における資料の増加が求められる。

参考文献

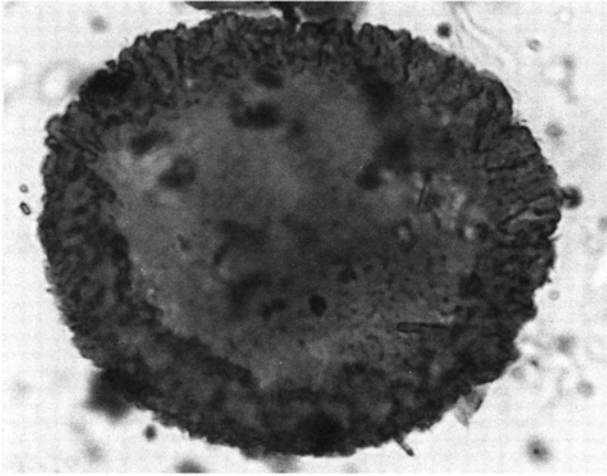
- 中村純 (1973) 花粉分析. 古今書院, p.82-110.
 島倉巳三郎 (1973) 日本植物の花粉形態. 大阪市立自然科学博物館収蔵目録, 第5集, 60p.
 中村純 (1980) 日本産花粉の標徴. 大阪自然史博物館収蔵目録第13集, 91p.
 辻誠一郎 (1989) 開析谷の遺跡をとりまく古環境復原: 川口市赤山陣屋跡遺跡における完新世の古環境. 第四紀研究, 第27巻4号, p.331-356.

第5章 理科学分析

表8 花粉分析結果

分類群		1区96グリッド		4区261グリッド								
学名	和名	1	2	1	2	3	4	5	6	7	8	9
Arboreal pollen	樹木花粉											
<i>Abies</i>	モミ属			1	1	9	1					
<i>Tsuga</i>	ツガ属					1	1					
<i>Pinus subgen. Diploxylon</i>	マツ属複雑維管束亜属	1					9					2
<i>Cryptomeria japonica</i>	スギ						3	4				2
Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae	イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科						1	2				1
<i>Juglans</i>	クルミ属						2	3				
<i>Pterocarya rhoifolia</i>	サワグルミ			2			7	1				
<i>Alnus</i>	ハンノキ属	1		4	6	11	3					3
<i>Betula</i>	カバノキ属	1			1	1	2					5
<i>Carpinus-Ostrya japonica</i>	クマシデ属-アサダ						10	1				
<i>Castanea crenate-Castanopsis</i>	クリ-シイ属					1	3	9				11
<i>Quercus subgen. Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属	2	3	36	24	110	165					223
<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属		1	8	3	24	18					4
<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>	ニレ属-ケヤキ	1		3	2	39	11					4
<i>Celtis-Aphananthe aspera</i>	エノキ属-ムクノキ			3	1	17	13					4
<i>Mallotus japonicus</i>	アカメガシワ						2					
<i>Acer</i>	カエデ属	1		1		5	2					8
<i>Aesculus turbinata</i>	トチノキ			2	7	12	10					2
<i>Fraxinus</i>	トネリコ属						1					
<i>Sambucus-Viburnum</i>	ニワトコ属-ガマズミ属						2					
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉											
Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科	1		2	21	37	35		1			26
eguminosae	マメ科											1
Nonarboreal pollen	草本花粉											
<i>Typha-Sparganium</i>	ガマ属-ミクリ属											
Gramineae	イネ科	5	5	7	14	22	15		2			16
Cyperaceae	カヤツリグサ科		3	1	20	2	23	2	1			5
<i>Polygonum sect. Persicaria</i>	タデ属サナエタデ節			1	3	1	3					
<i>Rumex</i>	ギンギシ属							1				
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科						1					3
Cruciferae	アブラナ科				1							
<i>Impatiens</i>	ツリフネソウ属			2		6						
<i>Ampelopsis brevipedunculata</i>	ノブドウ					1						
Umbelliferae	セリ科							2				2
Labiatae	シソ科							2				1
Solanaceae	ナス科											1
Valerianaceae	オミナエシ科											2
Lactucoideae	タンポポ亜科											4
Asteroidae	キク亜科	5	1		2	1	1					7
<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	1	2	11	16	15	13					21
Fern spore	シダ植物孢子											
Monolate type spore	単条溝孢子	20	15	72	48	41	8	5	4		3	5
Trilate type spore	三条溝孢子	2	2	6	2							9
Arboreal pollen	樹木花粉	7	4	60	47	269	245	0	0	0	0	269
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	1	0	2	21	37	35	0	1	0	0	27
Nonarboreal pollen	草本花粉	11	11	22	56	49	68	3	3	0	0	62
Total pollen	花粉総数	19	15	84	124	355	348	3	4	0	0	358
Unknown pollen	未同定花粉	1	0	1	2	4	5	0	0	0	0	5
Fern spore	シダ植物孢子	22	17	78	50	41	8	5	4	0	3	14

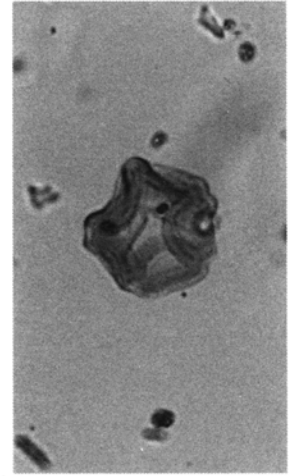
写真3 東長岡戸井口遺跡の花粉・孢子遺体



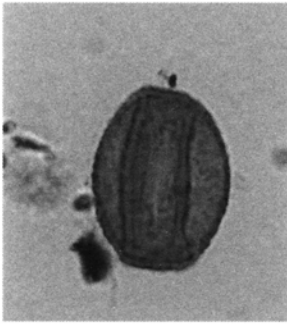
1 ツガ属



2 スギ



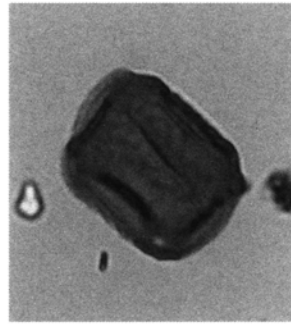
3 ハンノキ属



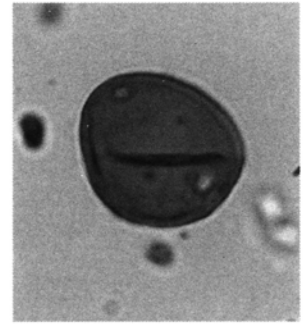
4 コナラ属コナラ亜属



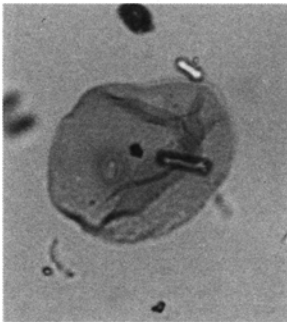
5 コナラ属アカガシ亜属



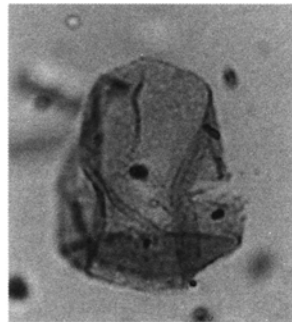
6 ニレ属—ケヤキ



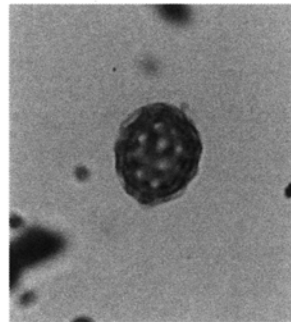
7 エノキ属—ムクノキ



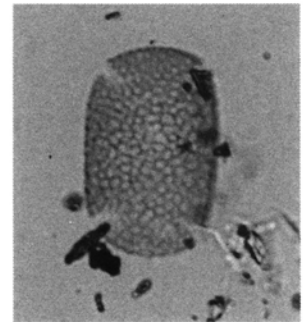
8 イネ科



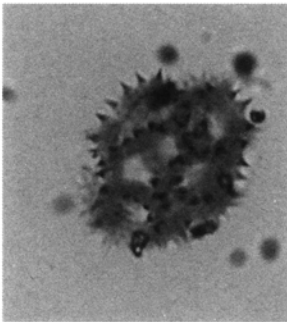
9 カヤツリグサ科



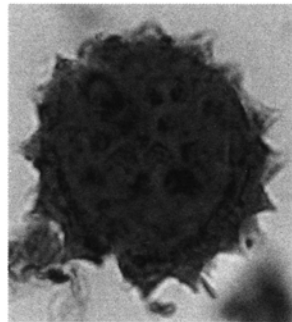
10 アカザ科—ヒユ科



11 ツリフネソウ属



12 タンポポ亜科



13 キク亜科



14 ヨモギ属



16 シダ植物単条溝孢子

45 μm

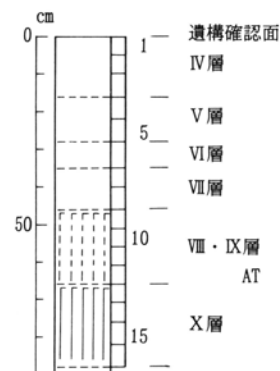


図16 5-4,5-5グリット深堀トレンチの土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

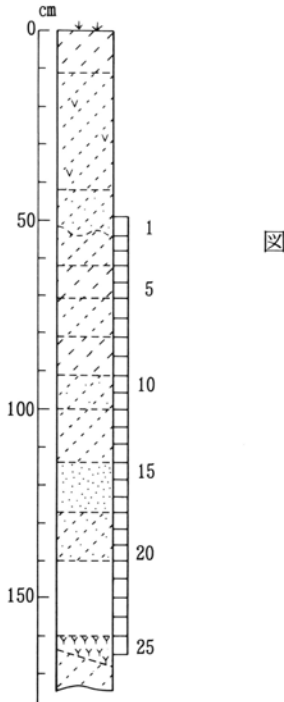


図23 4区26グリットの土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

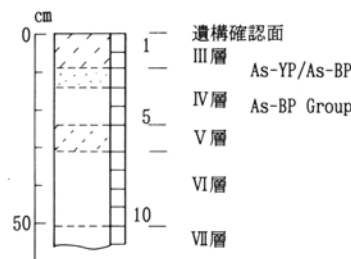


図17 6-369グリット北壁の土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

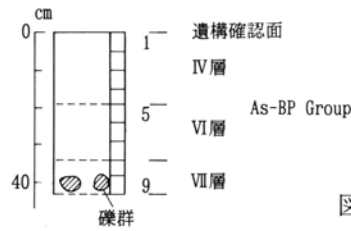


図18 6-366グリット西壁の土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

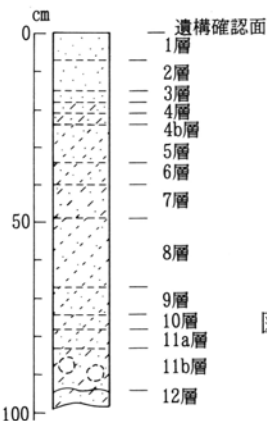


図21 1号堀No.2地点の土層柱状図

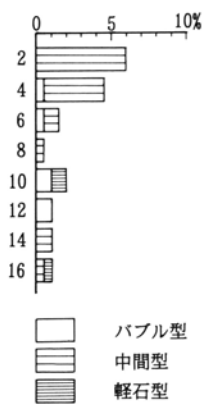


図25 5-4,5-5グリット深堀トレンチの火山ガラス比ダイアグラム

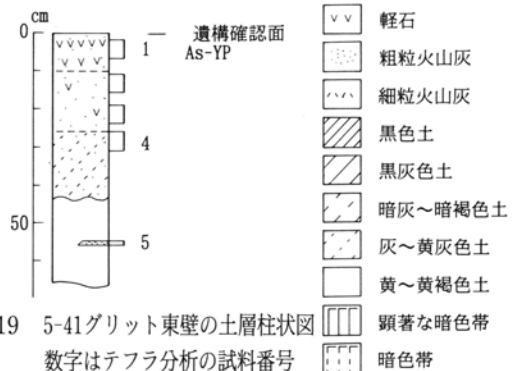


図19 5-41グリット東壁の土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

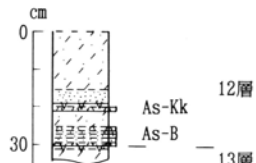


図20 1号堀No.1地点の土層柱状図

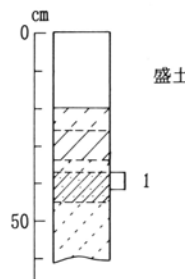


図22 1区96グリットの土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

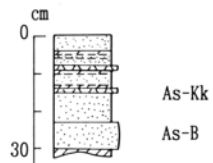


図24 6区276グリットの土層柱状図

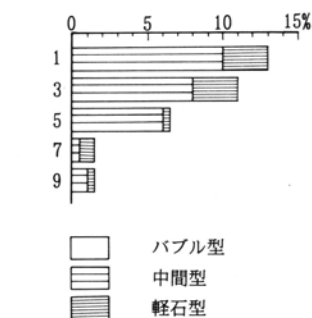


図26 6-366グリット西壁の火山ガラス比ダイアグラム

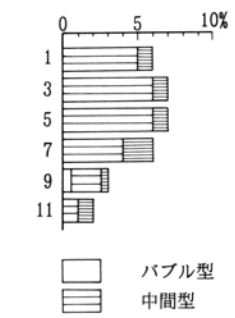


図27 6-369グリット北壁の火山ガラス比ダイアグラム

第3項 植物珪酸体（プラント・オパール）分析

はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸（ SiO_2 ）が蓄積したものであり、植物が枯れたあとも微化石（プラント・オパール）となって土壤中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている（杉山，1987）。また、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査も可能である（藤原・杉山，1984）。

試料

試料は、旧河道第1地点で4点、旧河道第2地点で13点、6-366グリッド西壁で2点の計19点である。試料採取箇所を分析結果の柱状図に示す。

分析法

植物珪酸体の抽出と定量は、プラント・オパール定量分析法（藤原，1976）をもとに、次の手順で行った。

- 1) 試料の絶乾（ 105°C ・24時間）
- 2) 試料約1gを秤量、ガラスビーズ添加（直径約 $40\mu\text{m}$ ・約0.02g）
※電子分析天秤により1万分の1gの精度で秤量
- 3) 電気炉灰化法（ 550°C ・6時間）による脱有機物処理
- 4) 超音波による分散（ 300W ・ 42KHz ・10分間）
- 5) 沈底法による微粒子（ $20\mu\text{m}$ 以下）除去、乾燥
- 6) 封入剤（オイキット）中に分散、プレパラート作成
- 7) 検鏡・計数

同定は、イネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体をおもな対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料1g中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位： 10^{-5}g ）をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。イネ（赤米）の換算係数は2.94、ヨシ属（ヨシ）は6.31、ススキ属型（ススキ）は1.24、ネザサ節は0.48、クマザサ属は0.75である。

分析結果

分析試料から検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を表9および図29～図31に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。なお、旧河道の第1地点と第2地点については、水田跡の検討が主目的であることから、同定および定量はイネ、ヒエ属型、ヨシ属、ススキ属型、タケ亜科（おもにネザサ節）の主要な5分類群に限定した。

〔イネ科〕

機動細胞由来：イネ、キビ族型、ヨシ属、ススキ属型（ススキ属など）、ウシクサ族、ネザサ節型（おもにメダケ属ネザサ節）、クマザサ属型（おもにクマザサ属）、タケ亜科（未分類等）

その他：表皮毛起源、棒状珪酸体（おもに結合組織細胞由来）、未分類等

稲作跡の検討

水田跡(稲作跡)の検証や探査を行う場合、一般にイネの植物珪酸体が試料1gあたりおよそ5,000個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している。ただし、関東周辺では密度が3,000個/g程度でも水田遺構が検出されていることから、ここでは判断の基準を3,000個/gとして検討を行った。

(1) 旧河道第1地点(図1)

As-Kk直上層(試料1)からAs-B直下層(試料4)までの層準について分析を行った。その結果、As-Kkの直上層(試料1)と直下層(試料2)からイネが検出された。密度はいずれも1,000個/g前後と比較的低い値である。

イネの密度が低い原因としては、1)稲作が行われていた期間が短かったこと、2)洪水などによって耕作土が流出したこと、3)土層の堆積速度が速かったこと、4)稲藁が耕作地以外に持ち出されていたこと、5)採取地点が畦畔など耕作面以外であったことなどが考えられる。調査地点は旧河道部に位置していることから、洪水など河川の影響が大きかった可能性が考えられる。

(2) 旧河道第2地点(図2)

1層(試料1)から11b層(試料13)までの層準について分析を行った。その結果、1層(試料1)~10層(試料11)の各層からイネが検出された。このうち、1層(試料1)、5層(試料5)、7層(試料8)では、密度が3,100~3,900個/gと高い値であり、明瞭なピークが認められた。したがって、これらの層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。また、2層(試料2)、3層(試料3)、4層(試料4)、4b層(試料5)、8層(試料9)でも、密度が1,600~2,400個/gと比較的高い値であることから、調査地点もしくはその近辺で稲作が行われていた可能性が考えられる。その他の層では密度が1,000個/g前後と比較的低い値である。

植物珪酸体分析から推定される植生・環境

(1) 1号堀第1地点(図29)

イネ以外では、ススキ属型が比較的多く検出され、ヨシ属やタケ亜科(おもにネザサ節型)なども検出された。おもな分類群の推定生産量(図の右側)によると、全体的にヨシ属が卓越していることが分かる。

以上のことから、As-B直下層からAs-Kk直上層にかけては、おもにヨシ属が生育するような湿地的な堆積環境であり、周辺にはススキ属などが生育する比較的乾いたところも見られたものと推定される。

(2) 第2地点(図30)

イネ以外では、ススキ属型やタケ亜科が多く検出され、部分的にヨシ属も検出された。おもな分類群の推定生産量(図の右側)によると、全体的にススキ属型が優勢であり、部分的にヨシ属も多くなっていることが分かる。

以上のことから、11b層から1層にかけては、ススキ属やタケ亜科などが生育する比較的乾燥した堆積環境が継続されたと考えられ、部分的にはヨシ属が生育するような湿地的なところも見られたものと推定される。

(3) 6-366グリッド西壁(図31)

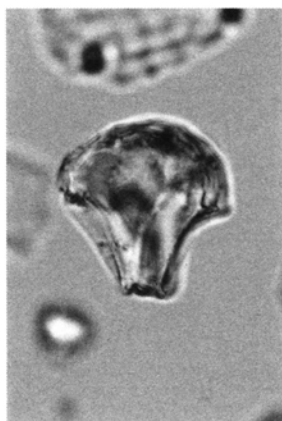
礫群が検出されたVII層(試料2)では、クマザサ属型や棒状珪酸体が多量に検出され、キビ族型やネザサ節型なども少量検出された。As-BP Group混のVI層(試料1)でもおおむね同様の結果である。おもな分類群の推定生産量(図の右側)によると、クマザサ属型が圧倒的に卓越していることが分かる。

以上のことから、礫群が検出されたVII層から約1.9~2.2万年前とされる浅間板鼻褐色軽石群(As-BP

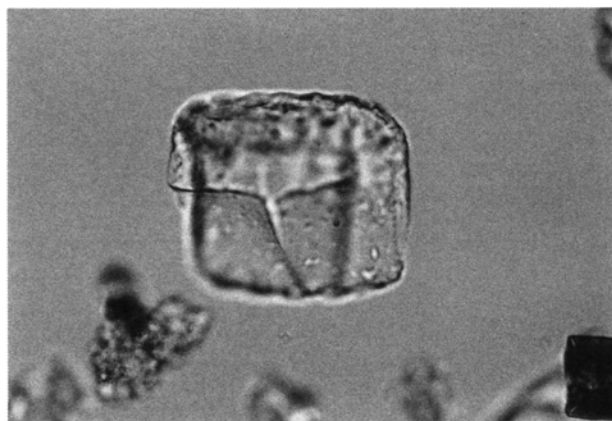
写真 4 植物珪酸体の顕微鏡写真



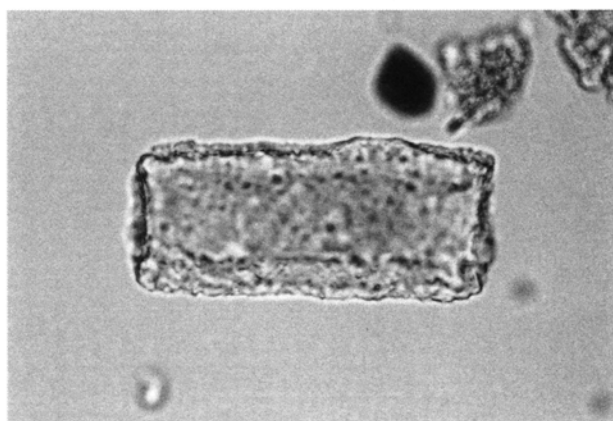
1 イネ (試料名1)



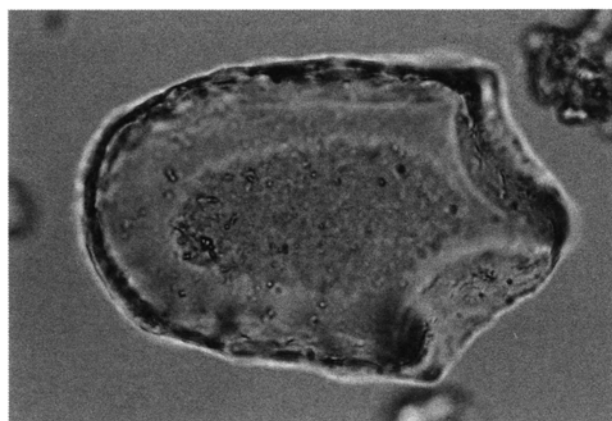
2 イネ (試料名8)



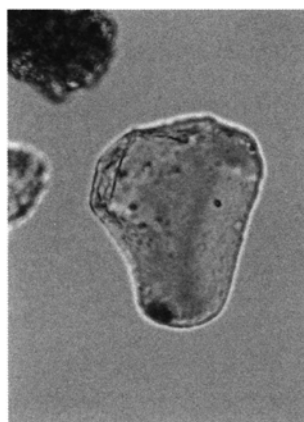
3 イネ (側面) (試料名8)



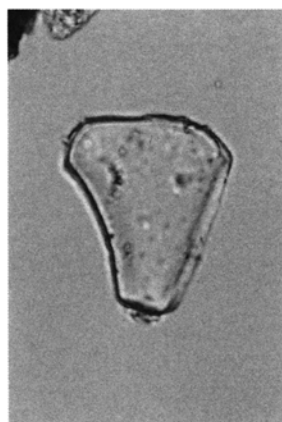
4 キビ族型 (試料名4)



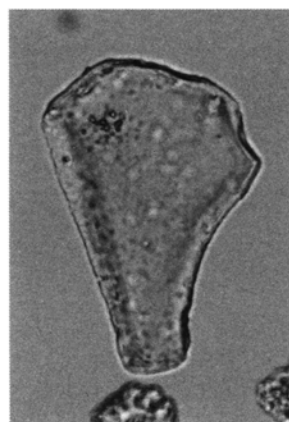
5 ヨシ属 (試料名2)



6 ススキ属型 (試料名8)



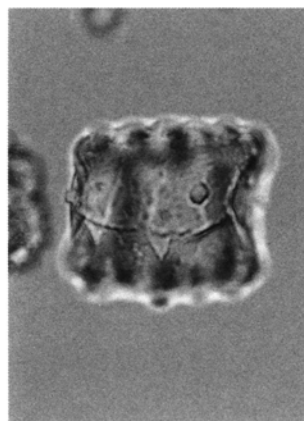
7 ススキ属型 (試料名3)



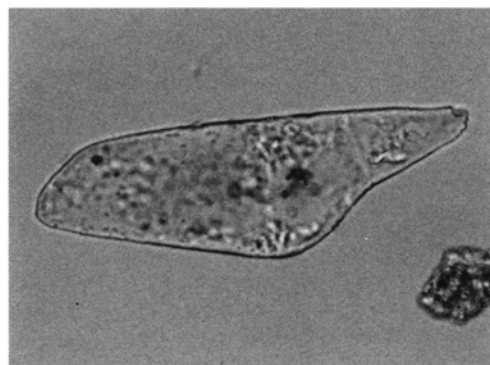
8 ウシクサ族(大型) (試料名5)



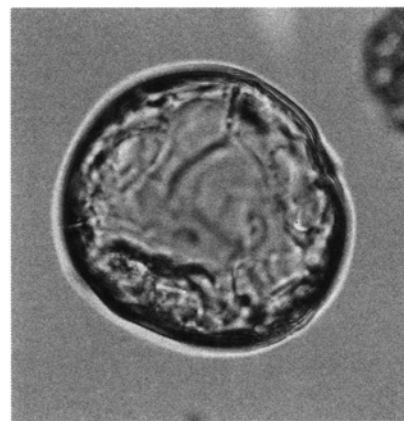
9 シバ属 (試料名3)



10 ネザサ節型 (試料名4)



11 表皮毛起源 (試料名3)



12 不明 (試料名9)

第5章 理科学分析

表9 プラント・オパール分析結果

※主要な分類群に就いて計数
検出密度 (単位: ×100個/g)

分類群\試料	1号堀No.1				1号堀No.2												
	1	2	3	4	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
イネ	15	8			39	24	23	16	16	31	8	38	22	8	8		
ヨシ属	15	15	24	23					16	23	8		7		16		
ススキ属型	54	46	110	53	55	40	86	39	71	46	24	61	37	53	48	39	67
タケ亜科		53	8	30	63	103	62	55	183	100	95	107	45	84	56	78	135

推定生産量 (単位: kg/m²・cm)

イネ	0.46	0.22			1.16	0.70	0.69	0.46	0.47	0.90	0.23	1.12	0.66	0.22	0.23		
ヨシ属	0.98	0.96	1.49	1.44					1.00	1.46	0.50		0.47		1.00		
ススキ属型	0.67	0.57	1.37	0.66	0.69	0.49	1.06	0.49	0.89	0.57	0.29	0.76	0.46	0.66	0.59	0.49	0.84
タケ亜科		0.26	0.04	0.15	0.30	0.50	0.30	0.27	0.88	0.48	0.45	0.51	0.22	0.40	0.27	0.38	0.65

※試料の仮比重を1.0と仮定して算出。

Group)混のVI層にかけては、クマザサ属が繁茂する状況が継続されたものと推定される。このように、最終氷期の最寒冷期とされる約1.8万年前頃にクマザサ属のピークが見られる事例は、群馬県内をはじめ関東周辺の他の遺跡でも一般に認められている(杉山ほか, 1992)。クマザサ属は氷点下5°C程度でも光合成活動をしており、雪の中でも緑を保っていることから、大半の植物が落葉または枯死する秋から冬にかけてはシカなどの草食動物の重要な食物となっている(高槻, 1992)。気候条件の厳しい氷期にクマザサ属が豊富に存在したことは、当時の動物相を考える上でも重要である。

まとめ

分析の結果、旧河道第2地点の1層、5層、7層ではイネが多量に検出され、稲作が行われていた可能性が高いと判断された。また、旧河道第1地点のAs-Kk直上層と直下層および旧河道第2地点の2層~4b層、6層、8層~10層でもイネが検出され、稲作が行われていた可能性が認められた。

礫群が検出されたVII層から約1.9~2.2万年前とされるAs-BP Group混じりのVI層にかけては、クマザサ属が繁茂する状況が継続されたものと推定される。

参考文献

- 藤原宏志 (1976) プラント・オパール分析法の基礎的研究 (1) - 数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法 -, 考古学と自然科学, 9, p.15-29.
- 藤原宏志・杉山真二 (1984) プラント・オパール分析法の基礎的研究 (5) - プラント・オパール分析による水田址の探査 -, 考古学と自然科学, 17, p.73-85.
- 杉山真二 (1987) 遺跡調査におけるプラント・オパール分析の現状と問題点, 植生史研究, 第2号, p.27-37.
- 杉山真二・前原豊・大工原豊 (1992) 植物珪酸体(プラント・オパール)分析による遺跡周辺の古環境推定, 日本文化財科学会第9回大会研究発表要旨集, p.14-15.
- 高槻成紀 (1992) 北に生きるシカたち - シカ、ササそして雪をめぐる生態学 -, どうぶつ社.

表10 植物珪酸体分析結果

検出密度 (単位: ×100個/g)

分類群\試料	6-336グリッド	
	1	2
イネ科		
キビ属型	8	7
ヨシ属	8	7
ウシクサ族	8	7
タケ亜科		
ネザサ節型	23	29
クマザサ属型	566	679
未分類等	241	409
その他のイネ科		
表皮毛起源		15
棒状珪酸体	317	569
未分類等	468	555
植物珪酸体総数	1,638	2,270

主な分類群推定生産量 (単位: kg/m²・cm)

ヨシ属	0.48	
ネザサ節型	0.11	0.14
クマザサ属型	4.24	5.09

※試料の仮比重を1.0と仮定して算出。

第4項 放射性炭素年代測定結果

1. 試料と方法

表11

試料名	地点・層準	種類	前処理・調整	測定方法
No.1	縄文時代後期 遺物包含層	腐食質土壌	酸洗浄 石墨調整	加速器質量 分析(AMS)法
	縄文時代前～中期 遺物包含層	腐食質土壌	酸_アルカリ_酸洗浄 石墨調整	加速器質量 分析(AMS)法

2. 測定結果

表12

試料名	^{13}C 年代 (年 BP)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	補正 ^{14}C 年代 (年 BP)	暦年代 (交点: 1σ)	測定No. (Beta)
No.1	3800±50	-25.7	3790±50	BC2195 (BC2350~2035) (BC2290~2135)	95354
No.2	5760±50	-27.0	5720±50	AD4540 (BC4705~4460) (BC4605~4490)	95355

 ^{14}C 年代測定値

試料の $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比から、単純に現在(1950年 AD)から何年前(BP)かを計算した値。 ^{14}C の半減期は5,568年を用いた。

 $\delta^{13}\text{C}$ 測定値

試料の測定 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比を補正するための炭素安定同位体比($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)。この値は標準物質(PDB)の同位体比からの千分偏差(‰)で表す。

補正 ^{14}C 年代値

$\delta^{13}\text{C}$ 測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ の測定値に補正値を加えた上で算出した年代。

暦年代

過去の宇宙線強度の変動による大気中 ^{14}C 濃度の変動を補正することにより算出した年代(西暦)。補正には年代既知の樹木年輪の ^{14}C の詳細な測定値を使用した。この補正は10,000年 BPより古い試料には適用できない。暦年代の交点とは、補正 ^{14}C 年代値と暦年代補正曲線との交点の暦年代値を意味する。 1σ は補正 ^{14}C 年代値の偏差の幅を補正曲線に投影した暦年代の幅を示す。したがって、複数の交点が表記される場合や、複数の 1σ 値が表記される場合もある。

第5項 出土木製品の樹種同定

松葉礼子 (パレオ・ラボ)

はじめに

群馬県にある東長岡戸井口遺跡から出土した縄文時代～20世紀に相当すると考えられている木製品計140点に付いて調査した(内4点は舞台遺跡出土)。これらは、遺構の年代から大まかに6時期に分けられるが、19・20世紀の試料が最も多く82点を占める。これらの木製品の樹種を明らかにすることで、群馬県内では少ない中世以降の木材利用を明らかにする事を目的として、樹種を同定した。

方法と記載

同定には、木製品から直接片歯剃刀を用いて、木材組織切片を横断面(木口と同義・写真図版a)、接線断面(板目と同義・写真図版b)、放射断面(柾目と同義・写真図版c)の3方向作成した。これらの切片は、ガムクロラルにて封入し、永久標本とした。樹種の同定は、これらの標本を光学顕微鏡下で観察し、現生標本との比較により樹種を決定した。これらの内、各分類群を代表させる標本については写真図版を添付し、同定の証拠とするとともに同定根拠を後述する。結果は、表1示す。なお、作成した木材組織プレパラートは、(株)パレオ・ラボで保管されている。

同定根拠

モミ属 *Abies* PINACEAE

写真図版 1 a～1 c : 139

水平・垂直両樹脂道を持たない針葉樹。早材から晩材の移行は緩やかで、年輪界は明瞭。放射組織は柔細胞のみからなり単列。その水平壁には単穿孔が多く数珠状を呈す。分野壁孔はきわめて小型で、1分野に1～4個程度。

以上の形質より、マツ科のモミ属の材と同定した。いずれも、常緑高木の針葉樹である。

カラマツ属 *Larix* PINACEAE

写真図版 2 a～2 c : 114

水平・垂直両樹脂道を共に持つ針葉樹材。樹脂道の周囲には8～9個のエピセリウム細胞がある。早材から晩材への移行は急で、年輪界は明瞭。早材部仮道管は、薄壁で大きく有縁壁孔は、2列対列状に並ぶ。放射組織は、放射柔細胞と放射仮道管と放射樹脂道からなり、単列のものと紡錘形のものがある。放射組織の上下端に放射仮道管があり、放射柔細胞の垂直壁には単穿孔が数珠状を呈す。分野壁孔はきわめて小型のトウヒ型で、1分野に2～4個。放射仮道管の内壁は通常平滑で断面形は丸い。

以上の形質により、マツ科のカラマツ属の材と同定した。日本に自生するカラマツ属は、カラマツのみである。カラマツは、落葉高木の針葉樹である。

アカマツ *Pinus densiflora* Sieb.et Zucc. PINACEAE

写真図版 3 a～3 c : 64

水平・垂直両樹脂道をともに持つ針葉樹。樹脂道の周囲にはエピセリウム細胞が見られる。早材から晩材への移行はやや急で、年輪界は明瞭。放射組織は、放射柔細胞と放射仮道管と放射樹脂道からなり、単列と紡錘形のものがある。放射組織の上下端に放射仮道管があり、水平壁には鋭角な鋸歯状の肥厚が著しい。分野壁孔は大型の窓状で、1分野に1～2個。

以上の形質から、マツ科のアカマツの材と同定した。常緑高木の針葉樹で、北海道～屋久島の温帯～暖帯にかけて分布する。クロマツとの区別が曖昧、もしくは保存が悪い製品に付いては、マツ属複維管束亜属とした。

スギ *Cryptomeria japonica* (L.fil.) D.Don TAXODIACEAE

写真図版 4 a～4 c : 15

水平・垂直両樹脂道を持たない針葉樹材。早材から晩材にかけての移行は急で、年輪界は明瞭。樹脂細胞

が早材部から晩材部にかけて接線方向に散在する。放射組織は放射柔細胞のみからなり単列。分野壁孔は、大型のスギ型で、通常一分野あたり2個存在する。

以上の形質により、スギ科のスギの材と同定した。スギは、常緑の針葉樹で、本州～屋久島の温帯～暖帯、太平洋側に多く存在している。

ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* (Sieb. et Zucc.) Endl. CUPRESSACEAE 写真図版5 a～5 c : 16
水平・垂直両樹脂道を持たない針葉樹。早材から晩材への移行はやや急で、年輪界は明瞭。樹脂細胞が早材部と晩材部の境に接線状に散在しており、水平壁は結節状に肥厚している。放射組織は、放射柔組織のみからなり、単列。分野壁孔は中型のトウヒ～ヒノキ型で、一分野に1～3個。

以上の形質から、ヒノキ科のヒノキの材と同定した。ヒノキは、常緑高木の針葉樹で、福島県～屋久島の温帯に分布する。ヒノキ、サワラ両者の区別が曖昧なものについてはヒノキ属と同定した。

サワラ *Chamaecyparis pisifera* (Sieb. et Zucc.) Endl. CUPRESSACEAE 写真図版6 a～6 c : 71
水平・垂直両樹脂道を持たない針葉樹。早材から晩材への移行はやや急で、年輪界は明瞭。樹脂細胞が早材部と晩材部の境に散在しており、水平壁は結節状に肥厚している。放射組織は単列同性。放射柔組織からなり、単列同性。分野壁孔は中型のヒノキ～スギ型で、1分野に1～3個存在する。

以上の形質から、ヒノキ科のサワラの材と同定した。サワラは岩手県以南～九州の山地に主に分布する。

カヤ *Torreya nucifera* (L.) Sieb. et Zucc. TAXACEAE 写真図版7 a～7 c : 37
水平・垂直両樹脂道を持たない針葉樹材。樹脂細胞はなく、放射組織は放射柔細胞のみからなり単列。分野壁孔は小型のヒノキ～トウヒ型。仮道管内壁に、顕著な対列状の螺旋肥厚がある。

以上の形質により、イチイ科のカヤの材と同定した。カヤは、宮城県～屋久島まで分布する常緑高木の針葉樹。種子から油が取れる。

クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. FAGACEAE 写真図版8 a～8 c : 35
年輪の始めに、やや放射方向に伸びた大型の丸い管孔が一行に並ぶ環孔材。晩材部では、小型で、薄壁の角張った管孔が、火炎状から放射状に配列する。道管の穿孔は単一。木部柔組織は、晩材部で接線状から短接線状。放射組織は単列同性で、道管との壁孔は、対列状を呈す。

以上の形質より、ブナ科のクリの材と同定した。クリは、北海道～九州までの温帯～暖帯にわたって広く分布する落葉性高木、あるいは中高木である。

ブナ属 *Fagus* sp. FAGACEAE 写真図版9 a～9 c : 4
小型で丸い管孔が年輪界に向けて徐々に径を減じながら散在する散孔材。道管の穿孔は単一、もしくは横棒の少ない階段状。放射組織は巾の広い複合状と単列のものがあり同性。

以上の形質により、ブナ科のブナ属の材と同定された。ブナ属には、北海道～九州の温帯に分布するブナと本州（岩手県以南）～九州の中間温帯に分布するイヌブナとが含まれる。

コナラ属クヌギ節 *Quercus* Sect. *Cerris* FAGACEAE 写真図版10 a～10 : 140
年輪のはじめに丸い大道管が一行に並び、晩材部では徐々に径を減じた丸い道管が放射方向に配列する環孔材。道管の穿孔は単一、放射組織は、複合放射組織と単列同性の物からなり、道管との壁孔は柵状。木部柔組織が、接線方向にほぼ帯状に分布する。

以上の形質により、ブナ科のコナラ属クヌギ節の材と同定した。クヌギ節は、いずれも落葉高木のクヌギ（岩手県以南～琉球）とアベマキ（山形県以西～九州）が含まれる。

コナラ属コナラ節 *Quercus* Sect. *Prinus* FAGACEAE 写真図版11 a～14 c : 130

第5章 理科学分析

大型で丸い道管が単独、時に複合して年輪界に一直列に並ぶ環孔材。晩材部では急激に径を減じた多角で薄壁の道管が散在し火炎状を呈し、木部柔組織は接線状に配列する。放射組織は単列と大型の複合放射組織からなり、同性。道管放射組織間壁孔は楕円形の対列状～柵状。

以上の形質により、ブナ科のコナラ節の材と同定した。コナラ節には、カシワ、ミズナラ、コナラ、ナラガシワ等が含まれ、いずれも落葉高木である。

ヤマグワ *Morus australis* Poir. MORACEAE

写真図版12 a～12 c : 136

年輪の始めに、大道管がならび、そこから順次径を減じた小道管が接線状～斜め接線状に配列する傾向を持つ環孔材。道管の穿孔は単一で、時にチロースを含む。小道管は螺旋肥厚をもち、木部柔組織は周囲状。放射組織は異性で、1～5細胞幅程度である。

以上の形質により、クワ科のヤマグワの材と同定した。ヤマグワは、高さ3～10mほどになる落葉低木で、北海道～琉球に分布し、温帯～亜熱帯の低山地の林内に生える。

ケヤキ *Zelkova serrata* (Thunb.) Makino ULMACEAE

写真図版13 a～13 c : 34

年輪の始めに大型で丸い管孔が一直列に並ぶ環孔材。晩材部で、薄壁の多角形的小道管が多数集合して接線方向～斜め接線方向に配列する。道管穿孔は単一、小道管内部には螺旋肥厚を持つ。木部柔組織は、周囲状～連合翼状を呈し、放射組織は1～8列程度の異性で、その上下端は時に大きめの結晶細胞が見られる。

以上の形質により、ニレ科のケヤキの材と同定した。ケヤキは、本州～九州の暖帯～温帯の谷あい、斜面などの適潤な肥沃地に広く分布する。

モクレン属 *Magnolia* MAGNOLIACEAE

写真図版14 a～14 c : 65

小型の比較的丸い道管が単独、あるいは放射方向に数個複合して散在する散孔材。道管の穿孔は単一、もしくは階段状で、時にチロースを含む。放射組織は2列、同性に近い異性で、道管相互壁孔は階段状。

以上の形質より、モクレン科のモクレン属の材と同定した。日本に自生するモクレン属には、ホオノキを含み6種があり、いずれも落葉の高木または低木である。

ウツギ *Deutzia crenata* Sieb. et Zucc. SAXIFRAGACEAE

写真図版15 a～15 c : 93

小型の道管が、均一に散在する散孔材で、道管の穿孔は多くの横棒からなる階段穿孔。放射組織は異性で、1～4細胞幅程度で極めて背が高く大型の不定形な細胞からなる。

これらの形質から、ユキノシタ科のウツギの材と同定した。ウツギは、北海道～九州の路傍・崖等の日当たりのよい場所に一般的に見受けられる落葉低木である。

サクラ属 *Prunus* ROSACEAE

写真図版16 a～16 c : 1

小型の丸い道管が、単独あるいは数個放射方向に複合して散在する散孔材。道管の穿孔は単一で、内壁には明瞭な螺旋肥厚をもつ。放射組織は1～5細胞幅程度で、同性に近い異性。

以上の形質から、バラ科のサクラ属の材と同定した。日本のサクラ属は、落葉・常緑の低木～高木の25種知られている

ナシ亜科 Subfam. Maloideae ROSACEAE

写真図版17 a～17 : 84

小型で丸い管孔がほぼ単独で散在する散孔材。道管の直径は年輪界に向け、やや減少する。道管の穿孔は単一。放射組織は同性で1～3細胞幅程度。

以上の形質により、バラ科のナシ亜科の材と同定した。ナシ亜科には、ナナカマド属、カナメモチ属、ザイフリボク属、リンゴ属、ナシ属が含まれる。

アカメガシワ 根 *Mallotus japonicus* (Thunb.) Muell. Arg. Root EUPHORBIACEAE

写真図版18a～18c : 83

年輪の始めに厚壁で大型の丸い道管が、単独または放射方向に複合して並ぶ環孔材。晩材部では、そこから順次径を減じた厚壁の小管孔が、散在する散孔材。道管の穿孔は単一。放射組織は単列異性で、構成細胞が大きい。

以上の形質により、トウダイグサ科のアカメガシワの根材と同定した。幹材では、晩材部の道管が放射方向に一列に並ぶ事が特長であるが、今回の標本には見受けられなかった。しかし、他の特徴がアカメガシワと一致しており、根材は道管配列が変化することから、アカメガシワの根材と考えた。アカメガシワは、宮城県・秋田県～琉球の暖地の平野や山野に普通に生える落葉高木である。

ヤマウルシ *Rhus trichocarpa* Miq. ANACARDIACEAE

写真図版19a～19c : 70

中型で丸い道管が、数列年輪のはじめに並び、年輪界に向かって徐々に径を減じた道管が単独もしくは数個複合して散在する環孔材。道管穿孔は単穿孔、内壁には時に螺旋肥厚が見られる。木部柔組織は周囲状。放射組織は1～2細胞幅程度の外形のいびつな異性である。道管放射組織間壁孔は階段状である。

以上の形質から、ウルシ科のヤマウルシの木材と同定した。ヤマウルシは北海道～九州の暖帯～温帯に分布する落葉高木。

カエデ属 *Acer* ACERACEAE

写真図版20a～20c : 119

中型の丸い道管が単独もしくは複合して年輪内に均一に散在する散孔材。道管の穿孔は単一で、内壁には微細な螺旋肥厚が見受けられる。放射組織は単列同性で、1～4細胞幅。木部柔組織はしばしば年輪界付近で結晶を持つ。

以上の形質により、カエデ科のカエデ属の材と同定された。カエデ属は、日本に28種自生する。亜熱帯性のものを除けば落葉広葉樹である。

ケンボナシ属 *Hovenia* RHAMNACEAE

写真図版21a～21c : 98

年輪界に中～大型の道管が並び、晩材部では厚壁の道管が単独もしくは2～数個放射方向に複合して散在する散孔材。道管穿孔は、単穿孔。木部柔組織は周囲状～連合翼状。放射組織は異性で1～4細胞幅程度比較的外形は滑らかである。

以上の形質からクロウメモドキ科のケンボナシ属の材と同定した。日本に自生するケンボナシ属には、ケンボナシ（北海道～九州）とケケンボナシ（本州～四国）が含まれ、いずれも落葉高木である。

クマノミズキ類 *Cornus* cf. *brachypoda* C.A.Meyer CORNACEAE

写真図版22a～22c : 63

小型で丸い道管がほぼ単独で散在する散孔材。道管の穿孔は、20～30本程度の横棒からなる階段状。放射組織は、異性で2～4細胞幅程度。上下に直立細胞を持つ紡錘形の物と、直立細胞のみからなる単列のものからなる。

以上の形質により、ミズキ科のクマノミズキ、もしくはヤマボウシの材と同定された。ミズキとは、道管が複合しない事から区別される。

カキノキ *Diospyros kaki* Thunb. EBENACEAE

写真図版23a～23c : 102

中型で丸いや厚壁の管孔が単独あるいは2～3個放射方向に複合してまばらに散在する散孔材。道管の穿孔は単一で、木部柔組織は短接線状及び周囲状。放射組織は異性で2細胞幅、背は比較的低く、きれいな階層状に配列する。

以上の形質により、カキノキ科のカキノキの材と同定した。カキノキは、本州（西部）～九州に分布する落葉高木であるが、本州～九州に普通に栽培される。

第5章 理科学分析

エゴノキ属 *Styrax* STYRACACEAE

写真図版24 a～24 a : 96

小型で丸い道管が年輪界に向けて徐々に径を減じながら、単独もしくは放射方向に3個ほど複合して散在する散孔材。道管の穿孔は横棒の少ない階段状。木部柔組織は晩材部で接線状を呈し、放射組織は異性で、1～4細胞幅程度。

以上の形質から、エゴノキ科のエゴノキ属の材と同定した。エゴノキ属には、エゴノキ、ハクウンボク、コハクウンボクが含まれ、いずれも落葉小高木。

ハイノキ属 *Symplocos* SYMPLOCACEAE

写真図版25 a～25 a : 125

小型の道管がほぼ単独でややまばらに均一に散在する散孔材。道管の直径は、晩材部でやや減少する。道管の穿孔は30～40本ほどの横棒からなる階段状、放射組織は異性で2細胞幅程度、背の高い翼部を持つ。

以上の形質により、ハイノキ科のハイノキ属の材と同定した。日本産するハイノキ属は10種が含まれる。

トネリコ属 *Fraxinus* OLEACEAE

写真図版26 a～26 c : 122

大型の道管が、年輪の始めに並ぶ環孔材で、晩材部では厚壁の小型の管孔が単独あるいは放射方向に複合して散在する。木部柔組織は周囲状あるいは連合翼状に分布し、道管の穿孔は単一。放射組織は同性で、1～3細胞幅。

以上の形質により、モクセイ科のトネリコ属の材と同定された。トネリコ属には、9種が含まれ、琉球に分布するシマトネリコを除けば落葉高木～小高木である。

広葉樹材 broadleaf tree

写真図版27 a～27 b : 6

大型の道管が、年輪界に並ぶ環孔材。晩材部では、薄壁の道管が密集して分布している。道管の穿孔は、単一。放射組織は、1～4列程度の不定形の同性。

つる性の植物に近似しているが、同定までは至らなかった。

考 察

今回調べた木材は、縄文時代、古代、9世紀中葉、15・16世紀、18世紀、19・20世紀の製品である。これらを時期別に集計したのが、表2になる。各時代ごとに特徴的な傾向を追う事により、本遺跡の特徴を捉える事とする。

縄文時代では、カラマツ属が11点確認されている。カラマツは、現在の分布域は極めて狭く本州中部の温帯上部から亜高山帯の標高1,000～1,500mに自生し、北限は宮城県蔵王山、南限は静岡県千頭(せんず)・水窪(みさくぼ)、西限は石川県白山に分布し、富士山、八ヶ岳、日光などに天然林が見られる。群馬県内には長野県境付近に確認される。標高が高い場所でのみ確認されるため、縄文時代にカラマツ属の製品が出土することは無く、この時期にまとまった点数が確認される事自体極めて珍しい。前橋市総社町の前橋泥炭層の植物化石群集の調査では13,130±230y.B.P. (Arai 1964)の年代を示す木材化石を最上部に含む層前後でカラマツ属の花粉、大型植物化石が多く見つかった(辻他1985)。この傾向は関東地方では、一貫して見られ、局地的なものではない。本遺物は、出土状況等を検討しないと分からないが、これらの泥炭層からの再堆積か、山間部からの流れ込みによる流入と考えた方が妥当である。

9世紀中葉では、クヌギ節の鎌の柄とヒノキの曲物が確認されている。農具にクヌギ節が利用されるのは、新保遺跡で確認されて以来、群馬県内では多く確認されている傾向である(山田1993他)。

15・16世紀では、曲物にヒノキが使用され、椀にブナ属、調度品、加工木にアカマツが確認されている。群馬県内では、中世の木製品の調査点数が県立文書館遺跡や小川城址で確認される以外知られていなかったが(高崎市史編纂室1996)、近年下植木壺町田遺跡や高田屋敷遺跡で樹種同定がされ、判明してきた部分も多

い(松葉a印刷中, 松葉b印刷中)。曲物は、やはりヒノキが使用される事例が多く、挽物である椀も、ブナ属、トネリコ属、サクラ属といった均質な材質を持つ数種類の樹種が使用されるのが一般的である。新たにアカマツが出現しているが、遺跡周辺に増えてきた樹種であるので(辻ほか1986)、手に入りやすい為利用されたと考えられる。下植木壱町田遺跡や高田屋敷遺跡では、本遺跡とは異なりクリ材が大量に使用されているが、他県にも局地的に中世にクリ材が多く使用される事例があり、植林やハタケなど人口な植生の影響が示唆されており、この差は問題ではない(松葉b印刷中)。

19・20世紀の遺物で目を引くのは、製品として桶が多く確認されている事と、針葉樹が増加する事である。群馬県内は、中世以降アカマツの2次林が広がっていたと考えられているが(辻他1986)、今回アカマツの木材が確認された点数はそれほど多くない。その要因は、第1に、近世以降桶・曲物のようなスギ・ヒノキが適した製品が広まった事、第2に広域の流通により在地の植生が影響しにくくなった事が考えられる。利根川で運搬されていた荷物の記録には、「桶木」「下駄歯」など半製品が江戸に向けて出荷されていた記録があり、相当数の半製品が移動していたと考えられる(丹治1984)。江戸城周辺の都市部で見られていた、針葉樹材(ヒノキ・サワラ・スギ)の消費が19・20世紀では、生活の都市化が進んだ群馬県内でも広まっている様子が伺われる。

引用文献

- 辻誠一郎・吉川昌伸・吉川純子・能城修一, 1985. 前橋台地における更新世末期から完新世初期の植物化石群集と植生, 第4紀研究, 23, 263-269 pp.
- 辻誠一郎・南木睦彦・小杉正人, 1986. 茂林寺沼及び低地湿原調査報告書 第2集 館林の池沼群と環境の変遷史. 館林市教育委員会, 110pp.
- 山田昌久, 1993. 日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成—用材から見た人間・植物関係史. 植生史研究, 特別一号: 242pp.
- 高崎市史編纂室編, 1996. 新編 高崎市史 資料編3 中世I. 高崎市, 627pp.
- 松葉礼子, 印刷中. 高田屋敷遺跡出土木材の樹種同定. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団.
- 松葉礼子, 印刷中. 下植木壱町田遺跡の樹種同定. (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団.
- 丹治健蔵, 1984. 関東河川水運史の研究. (財)法政大学出版局, 450pp.

表13 樹種同定結果一覧表(1)

No.	整理No.	遺構	挿図	製品名	樹種	時期	No.	整理No.	遺構	挿図	製品名	樹種	時期
1	169	1号堀	7-8	加工木	サクラ属	古代	9	19-7	6-1井	507-6	桶 側板	ヒノキ属	19C
2	17	3-1井	498-6	椀	ブナ属	15C後	10	19-3	6-1井	507-7	桶 側板	ヒノキ	19C
3	138-1	3-1井	498-7	椀	ブナ属	15C後	11	19-2	6-1井	507-8	桶 側板	ヒノキ	19C
4	138-2	3-1井	498-8	椀	ブナ属	15C後	12	19-4	6-1井	508-1	桶 側板	ヒノキ属	19C
5	139	3-1井	498-10	曲物	ヒノキ	15C後	13	19-5	6-1井	508-2	桶 側板	ヒノキ	19C
6	141	3-1井	498-11	加工木	広葉樹	15C後	14	146	6-1井	508-3	桶 側板	ヒノキ	19C
7	19-1	6-1井	507-4	桶 側板	ヒノキ属	19C	15	145	6-1井	508-4	桶 底板	スギ	19C
8	19-6	6-1井	507-5	桶 側板	ヒノキ	19C	16	144	6-1井	508-5	桶 底板	ヒノキ	19C

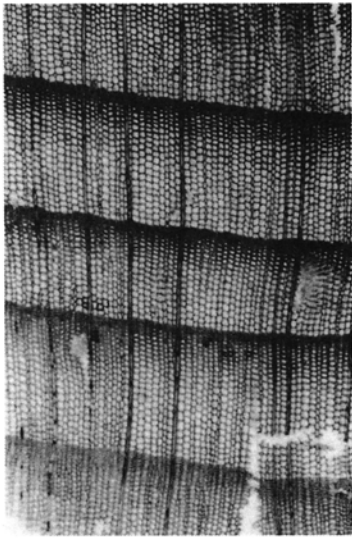
第5章 理科学分析

表14 樹種同定結果一覧表(2)

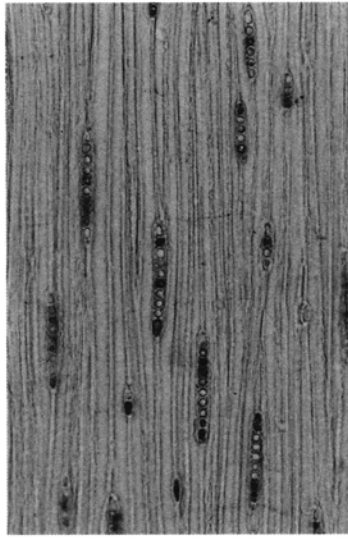
No.	整理No.	遺構	挿図	製品名	樹種	時期	No.	整理No.	遺構	挿図	製品名	樹種	時期
17	18	6-1井	509-1	桶 底板	ヒノキ	19C	77	80	9-11井	577-2	加工木	ヒノキ属	19・20C
18	143	6-1井	509-2	桶 底板	ヒノキ属	19C	78	75	9-11井	577-3	加工木	ヒノキ?	19・20C
19	32	6-2井	510-1	桶 側板	ヒノキ	19Cか	79	102	9-11井	578-1	加工板	ヒノキ	19・20C
20	22-1	6-2井	510-2	桶 側板	ヒノキ	19Cか	80	78	9-11井	578-2	加工木(杭)	ヒノキ	19・20C
21	40	6-2井	510-3	桶 側板	ヒノキ	19Cか	81	101	9-11井	578-3	建築部材か	ヒノキ	19・20C
22	30	6-2井	510-4	桶 側板	ヒノキ	19Cか	82	112	9-23井	585-1	鎌柄	クスギ節	9C中
23	33	6-2井	510-5	桶 側板	スギ	19Cか	83	117	9-23井	585-2	棒状加工木	アカメガシワの根?	9C中
24	34	6-2井	510-6	桶 側板	スギ	19Cか	84	113	9-23井	585-3	加工	ナシ亜科	9C中
25	31	6-2井	510-7	桶 側板	スギ	19Cか	85	119-2	9-24井	587-5	曲物	ヒノキ	9C中
26	27	6-2井	510-8	桶 側板	スギ	19Cか	86	119-1	9-24井	587-6	曲物	ヒノキ	9C中
27	37	6-2井	510-9	桶 側板	ヒノキ	19Cか	87	119-3	9-24井	587-7	曲物	ヒノキ	9C中
28	28	6-2井	510-10	桶 側板	ヒノキ属	19Cか	88	119-4	9-24井	587-8	曲物	ヒノキ	9C中
29	38	6-2井	510-11	桶 側板	スギ	19Cか	89	120	10-2井	590-12	加工木	針葉樹	室町か
30	39	6-2井	510-12	桶 側板	スギ	19Cか	90	121	10-6井	590-18	包丁柄	ヒノキ属	不詳
31	41	6-2井	510-13	桶 側板	スギ	19Cか	91	14	低地	719-11	自然木	スギ	縄文
32	21	6-2井	511-1	まな板か	アカマツ	19Cか	92	156	9-表土	747-7	杭	広葉樹	不詳
33	42-2	6-2井	511-2	加工木	サワラ	19Cか	93	125	不詳	749-7	加工木(杭)	ウツギ	不詳
34	42-1	6-2井	511-3	加工木	ケヤキ	19Cか	94	126+127	不詳	749-8	加工木(杭)	ウツギ	不詳
35	24	6-2井	513-1	桶 把手	クリ	19Cか	95	129+130	不詳	749-9	加工木(杭)	アカマツ	不詳
36	23-3	6-2井	513-6	桶 底板か	ヒノキ	19Cか	96	173	不詳	749-10	加工木(杭)	エゴノキ属	不詳
37	25	6-2井	513-11	加工板	カヤ	19Cか	97	172	不詳	749-11	加工木(杭)	トネリコ属	不詳
38	23-2	6-2井	513-12	加工板	カヤ	19Cか	98	174	不詳	750-1	加工木	ケンボナシ属	不詳
39	153	6-2井	513-10	加工木	クリ	19Cか	99	171	不詳	750-2	加工木	クリ	不詳
40	23-5	6-2井	513-14	加工板	スギ	19Cか	100	45	6-3井	試料	建築部材か	スギ	19・20C
41	22-2	6-2井	513-15	加工木	ヒノキ	19Cか	101	108	9-11井	試料	建築部材か	アカマツ	19・20C
42	23-1	6-2井	513-16	加工板	ヒノキ	19Cか	102	158	6-2井	試料	加工木	カキノキ	19Cか
43	20	6-2井	514-1	椀	ブナ属	19Cか	103	23-4	6-2井	試料	加工木	ヒノキ	19Cか
44	184	6-2井	514-6	加工木	サワラ	19Cか	104	24	6-2井	試料	加工木	クリ	19Cか
45	52	6-3井	536-1	加工木	アカマツ	19・20C	105	29	6-2井	試料	加工木	ヒノキ	19Cか
46	51	6-3井	536-2	加工木	スギ	19・20C	106	35	6-2井	試料	加工木	スギ	19Cか
47	154	6-3井	536-3	加工木	スギ	19・20C	107	36	6-2井	試料	加工木	スギ	19Cか
48	155	6-3井	536-4	加工木	アカマツ	19・20C	108	1	低地	試料	自然木	カラマツ属	縄文
49	46	6-3井	536-5	加工木(棒状)	針葉樹	19・20C	109	2	低地	試料	自然木	カラマツ属	縄文
50	49	6-3井	536-6	加工板	スギ	19・20C	110	3	低地	試料	自然木	カラマツ属	縄文
51	48	6-3井	536-7	加工板	マツ属複雑管束亜属	19・20C	111	4	低地	試料	自然木	カラマツ属	縄文
52	47	6-3井	536-8	桶 底板	ヒノキ	19・20C	112	5	低地	試料	自然木	カラマツ属	縄文
53	159	6-4井	537-3	桶 側板	スギ	19Cか?	113	6	低地	試料	自然木	カラマツ属	縄文
54	167	6-4井	537-4	加工木	ウツギ	19Cか?	114	6-1	低地	試料	自然木	カラマツ属	縄文
55	163	6-4井	537-5	加工木	トネリコ属	19Cか?	115	6-2	低地	試料	自然木	カラマツ属	縄文
56	160	6-4井	537-6	桶 側板	ヒノキ	19Cか?	116	7	低地	試料	自然木	カラマツ属	縄文
57	161	6-4井	537-7	桶 側板	スギ	19Cか?	117	8	低地	試料	自然木	カラマツ属	縄文
58	162	6-4井	537-8	桶 側板	針葉樹	19Cか?	118	9-1	低地	試料	自然木	カラマツ属	縄文
59	164	6-4井	537-9	桶 側板	針葉樹	19Cか?	119	9-2	低地	試料	自然木	カエデ属	縄文
60	170	6-4井	538-1	加工木	モミ属	19Cか?	120	10	低地	試料	自然木	カエデ属	縄文
61	64	6-15井	546-9	調度品か	アカマツ	15C中	121	11	低地	試料	自然木	トネリコ属	縄文
62	65	6-15井	546-10	加工木	アカマツ	15C中	122	12	低地	試料	自然木	トネリコ属	縄文
63	68	6-15井	546-11	加工木	クマノミズキ類	15C中	123	13	低地	試料	自然木	針葉樹	縄文
64	72	9-4井	559-6	加工木	アカマツ	15C中	124	50	6-3井	試料	加工木	カラマツ属	19・20C
65	107	9-11井	574-2	椀	モクレン属	19・20C	125	53	6-3井	試料	加工木	ハイノキ属	19・20C
66	99	9-11井	574-5	桶 側板か	スギ	19・20C	126	69	6-15井	試料	加工木	マツ属複雑管束亜属	15C中
67	103	9-11井	574-6	加工木	ヒノキ	19・20C	127	73	9-4井	試料	加工木	アカマツ	18C
68	79	9-11井	574-7	加工板	スギ	19・20C	128	123	9-4井	試料	加工木	マツ属複雑管束亜属	18C
69	77	9-11井	575-1	部材か	ヒノキ属	19・20C	129	124	不詳	試料	加工木	アカマツ	不詳
70	106	9-11井	575-18	錐柄か	ヤマウルシ	19・20C	130	128	不詳	試料	加工木	コナラ節	不詳
71	98	9-11井	576-1	建築部材か	スギ	19・20C	131	131	不詳	試料	加工木	クリ	不詳
72	104	9-11井	576-2	建築部材か	スギ	19・20C	132	132	不詳	試料	加工木	ヤマウルシ	不詳
73	76	9-11井	576-3	鴨居	アカマツ	19・20C	133	137	不詳	試料	加工木	ウツギ	不詳
74	97	9-11井	576-4	建築部材か	スギ	19・20C	134	142	不詳	試料	加工木	ヒノキ	不詳
75	105	9-11井	576-5	建築部材か	スギ	19・20C	135	175	不詳	試料	加工木	エゴノキ属	不詳
76	96	9-11井	577-1	建築部材か	クリ	19・20C	136	66+67	6-15井	試料	加工木	ヤマグワ	15C中

写真 5 東長岡戸井口遺跡出土木材組織顕微鏡写真

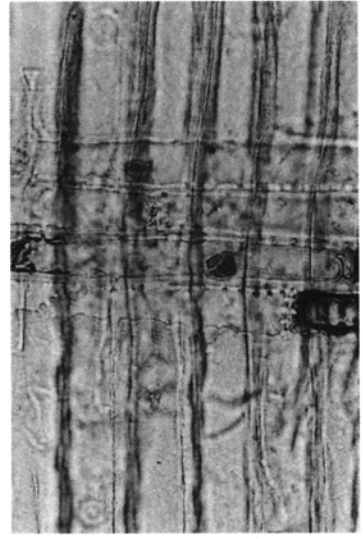
Bar: 



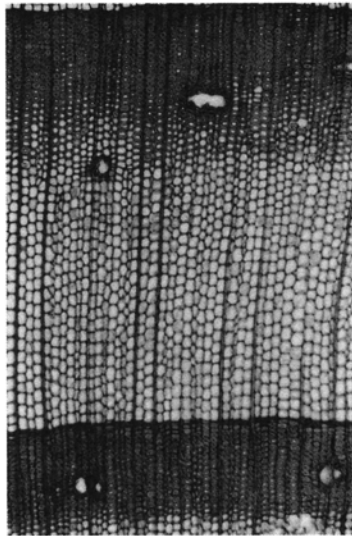
1a モミ属 bar: 1mm



139 1b 同 bar:0.4mm



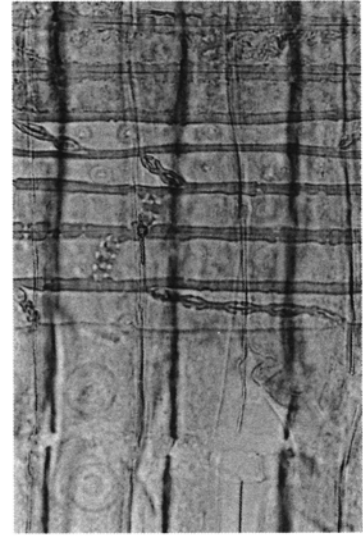
1c 同 bar:0.1mm



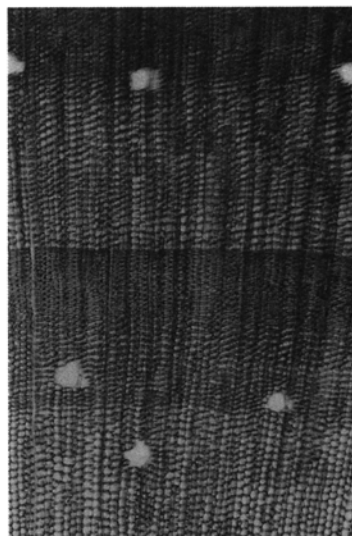
2a カラマツ属 bar: 1mm



114 2b 同 bar:0.4mm



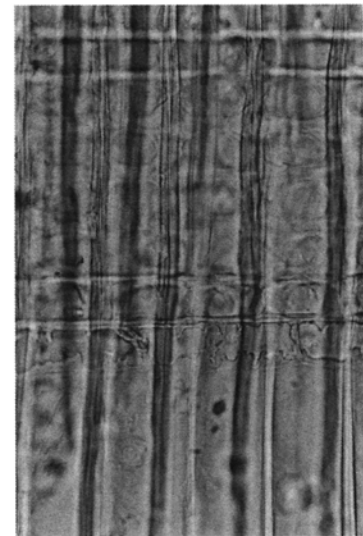
2c 同 bar:0.1mm



3a アカマツ bar: 1mm



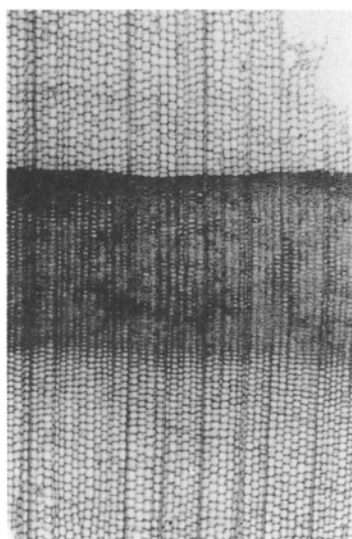
64 3b 同 bar:0.4mm



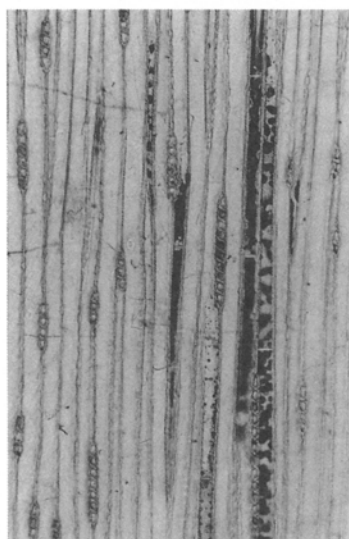
3c 同 bar: :0.1mm

写真 6 東長岡戸井口遺跡出土木材組織顕微鏡写真

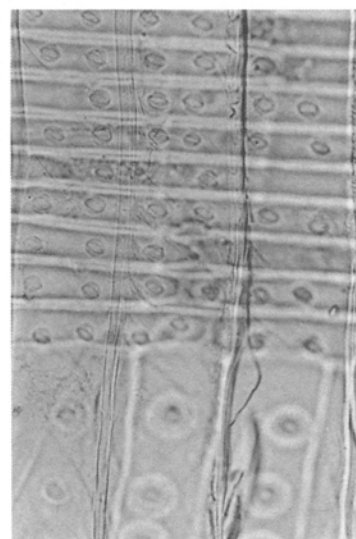
Bar: 



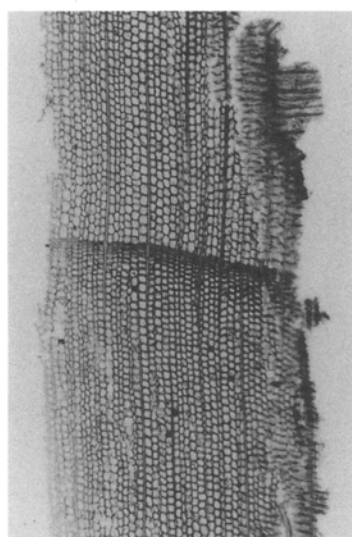
4a スギ bar: 1 mm



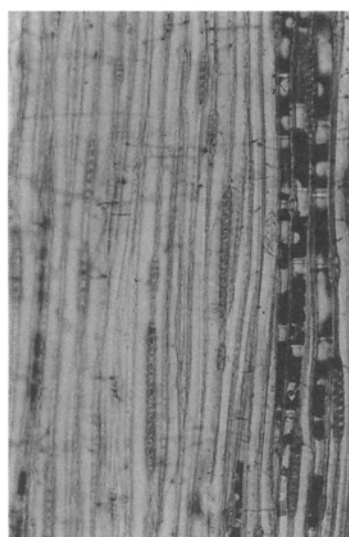
15 4b 同 bar:0.4mm



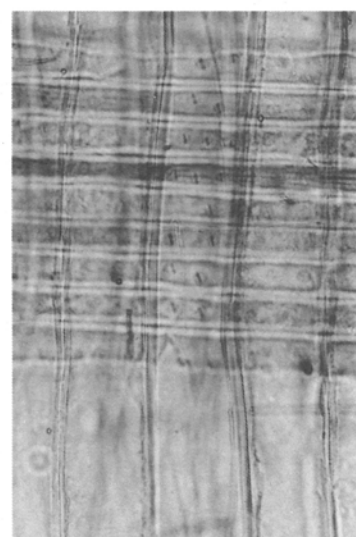
4c 同 bar:0.1mm



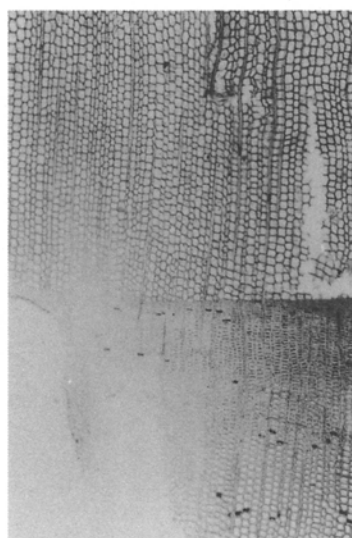
5a ヒノキ bar: 1 mm



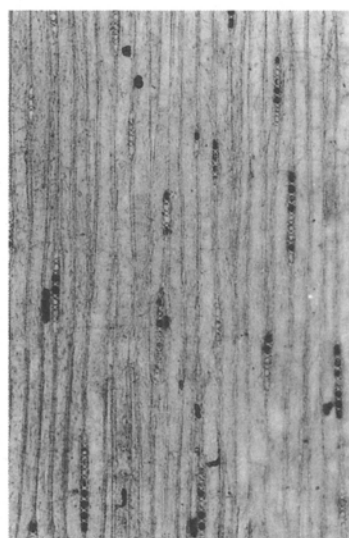
16 5b 同 bar:0.4mm



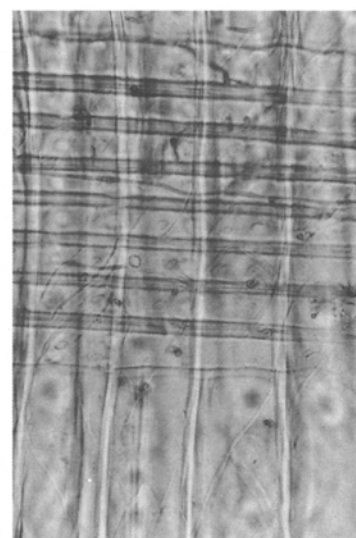
5c 同 bar:0.1mm



6a サワラ bar: 1 mm



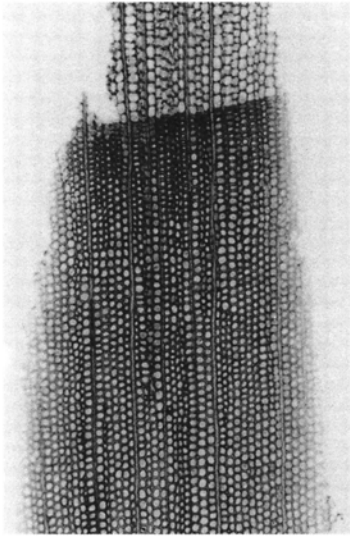
71 6b 同 bar:0.4mm



6c 同 bar:0.1mm

写真 7 東長岡戸井口遺跡出土木材組織顕微鏡写真

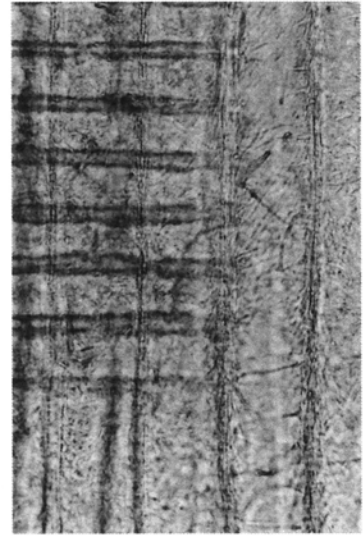
Bar: 



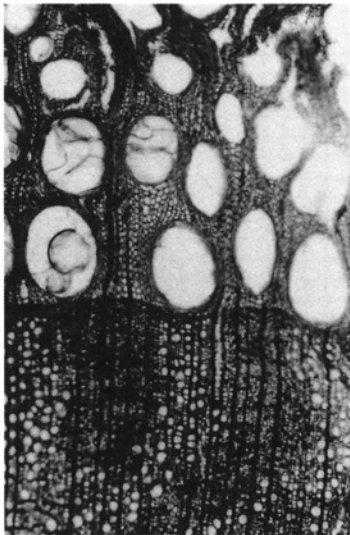
7a カヤ bar: 1mm



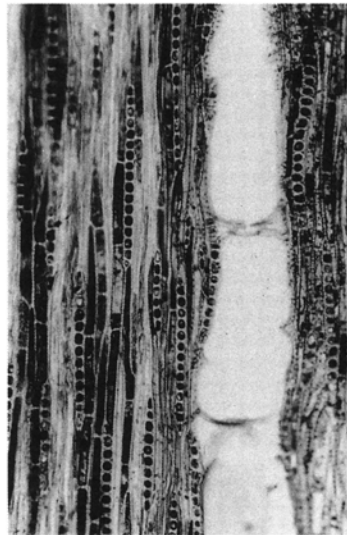
37 7b 同 bar:0.4mm



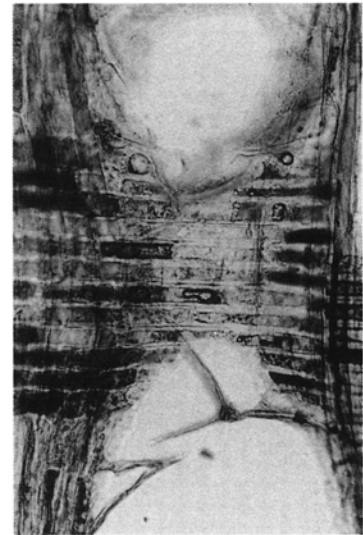
7c 同 ba:r0.1mm



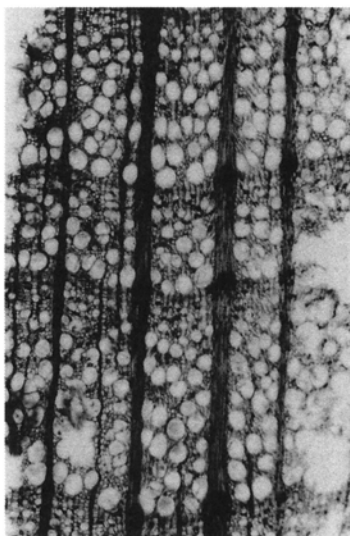
8a クリ bar: 1mm



35 8b 同 bar:0.4mm



8c 同 bar:0.2mm



9a ブナ属 bar: 1mm



4 9b 同 bar:0.4mm



9c 同 bar:0.2mm

写真 8 東長岡戸井口遺跡出土木材組織顕微鏡写真

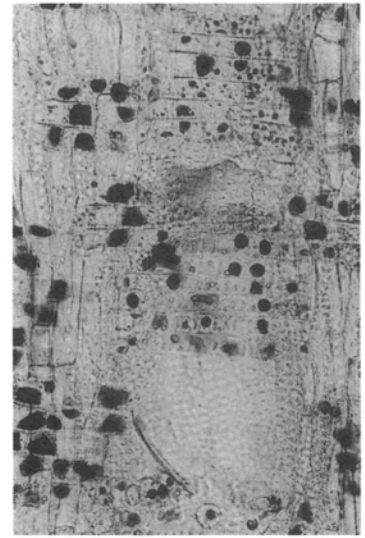
Bar: 



10a クヌギ節 bar: 1mm



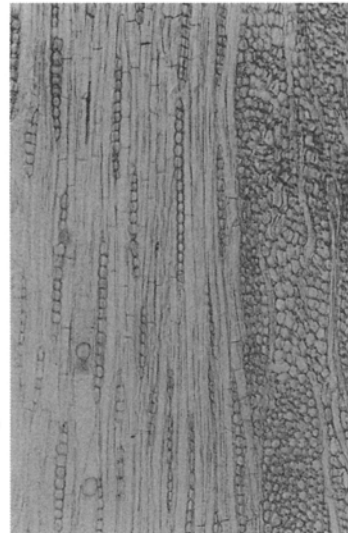
140 10b 同 bar:0.4mm



10c 同 bar:0.2mm



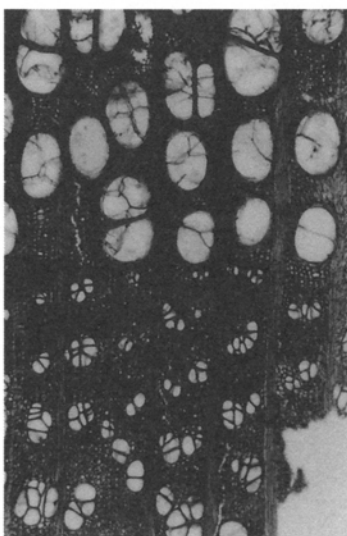
11a コナラ節 bar: 1mm



130 11b 同 bar:0.4mm



11c 同 bar:0.2mm



12a ヤマガウ bar: 1mm



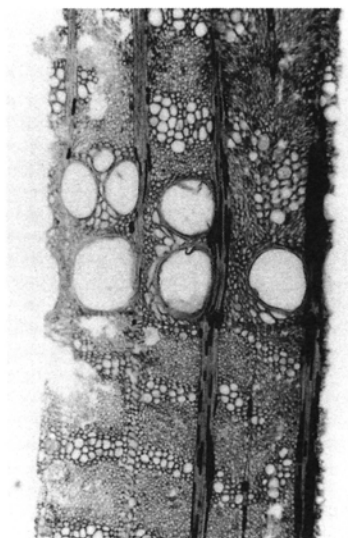
136 12b 同 bar:0.4mm



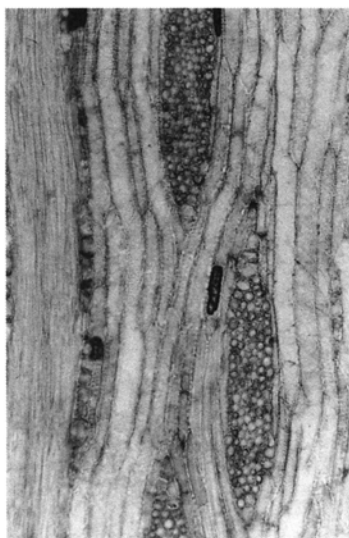
12c 同 bar:0.2mm

写真 9 東長岡戸井口遺跡出土木材組織顕微鏡写真

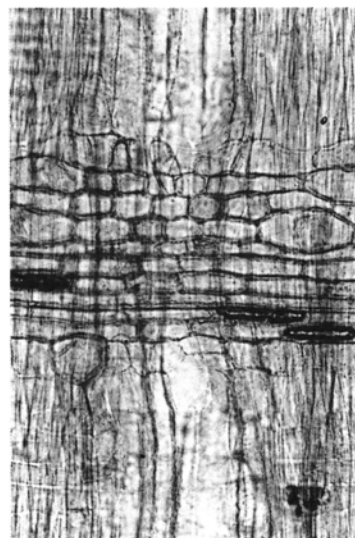
Bar: 



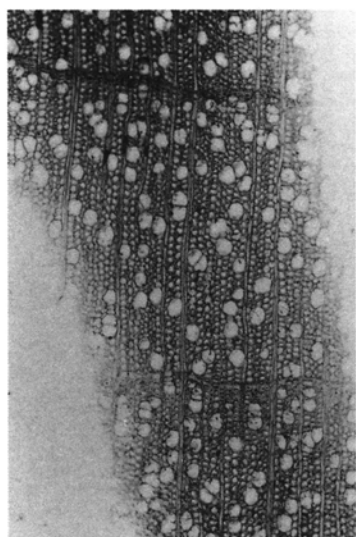
13a ケヤキ bar: 1mm



34 13b 同 bar:0.4mm



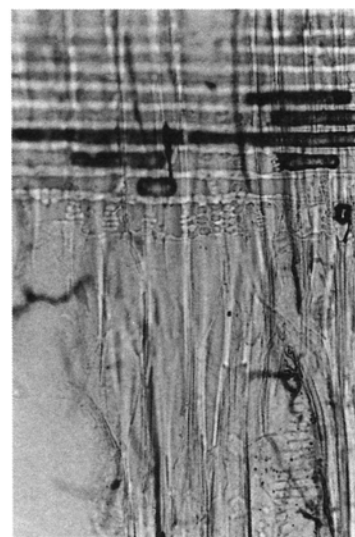
13c 同 bar:0.2mm



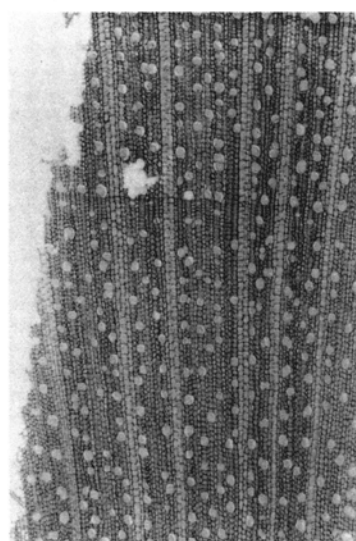
14a モクレン族 bar: 1mm



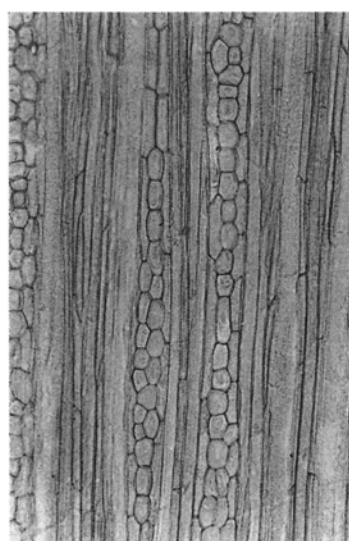
65 14b 同 bar:0.4mm



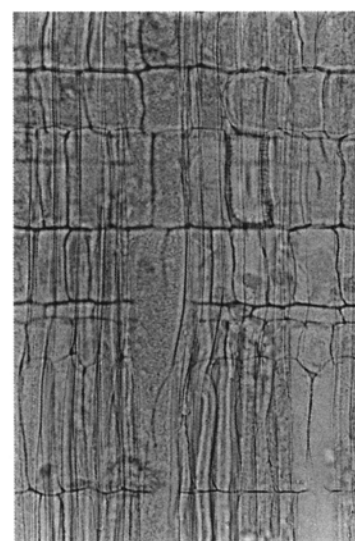
14c 同 bar:0.2mm




15a ウツギ bar: 1mm

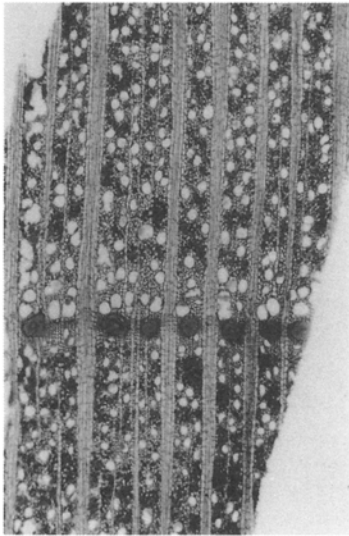


93 15b 同 bar:0.4mm

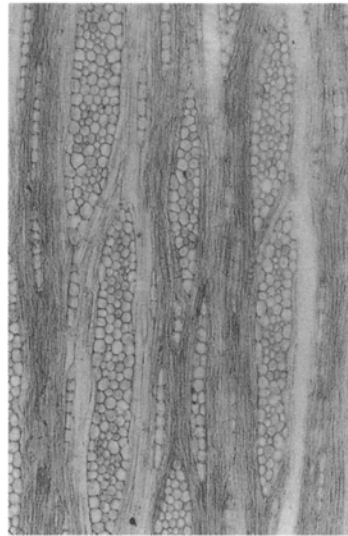


15c 同 bar:0.2mm

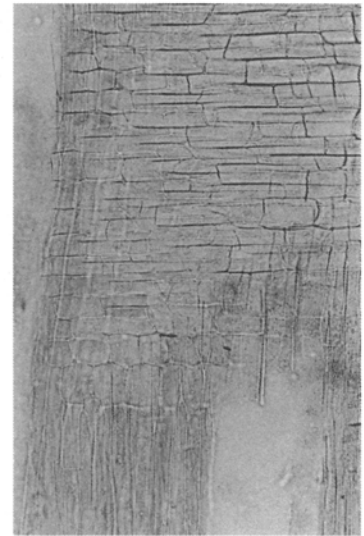
写真 10 東長岡戸井口遺跡出土木材組織顕微鏡写真 Bar: 



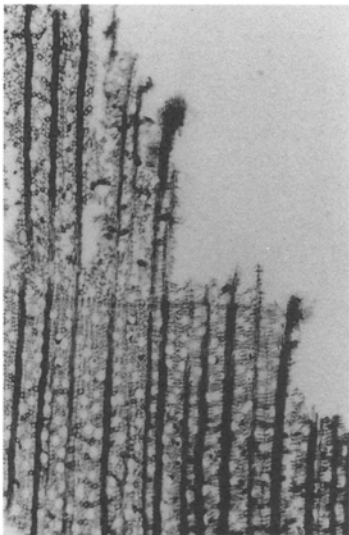
16a サクラ属 bar: 1mm



1 16b 同 bar:0.4mm



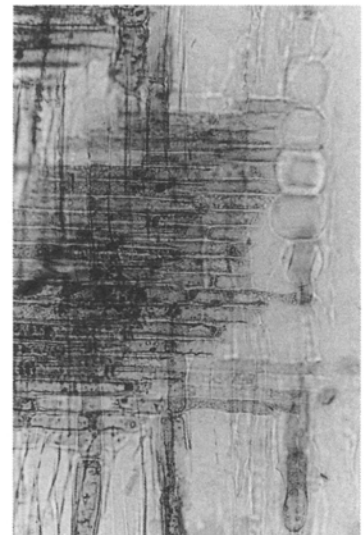
16c 同 bar:0.2mm



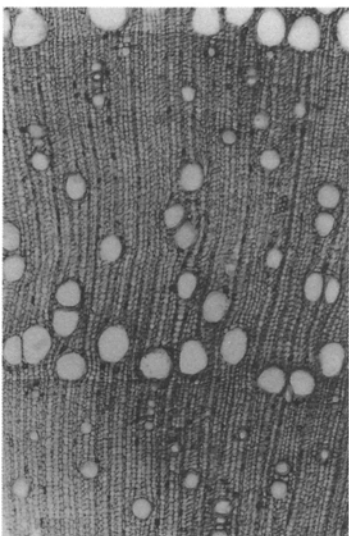
17a ナシ亜科 bar: 1mm



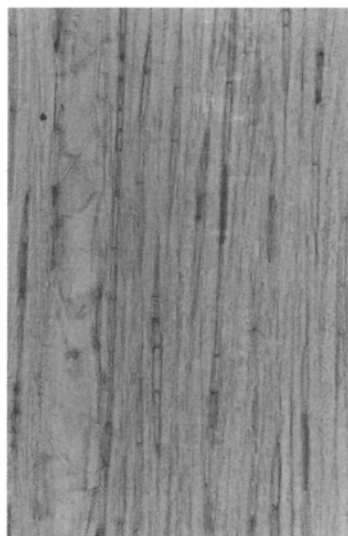
84 17b 同 bar:0.4mm



17c 同 bar:0.2mm




18a アカメガシワの根? bar: 1mm

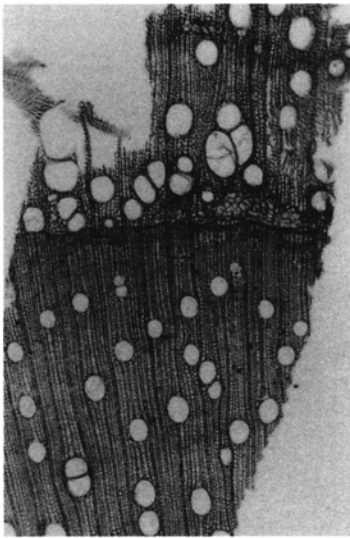


83 18b 同 bar:0.4mm

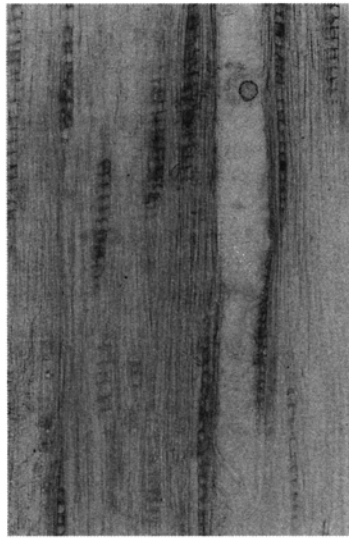


18c 同 bar:0.2mm

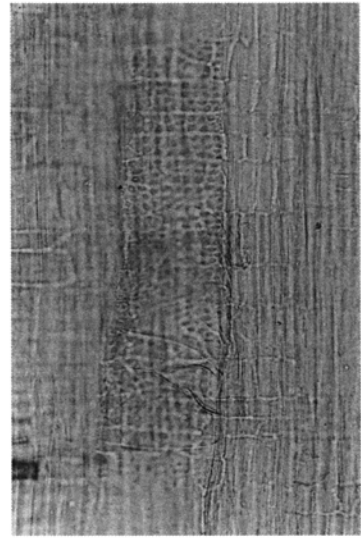
写真 11 東長岡戸井口遺跡出土木材組織顕微鏡写真 Bar: 



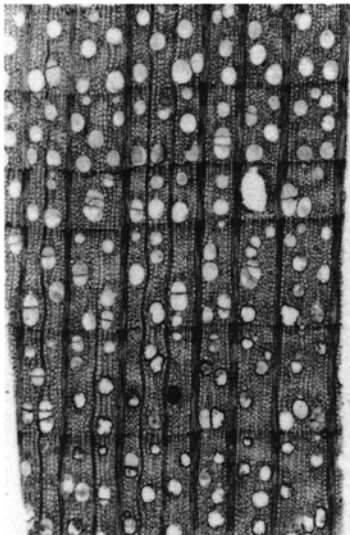
19a ヤマウルシ bar: 1mm



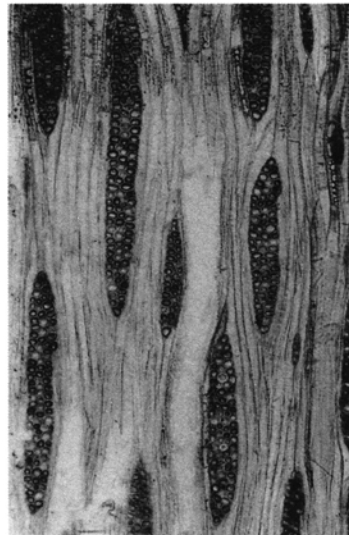
70 19b 同 bar:0.4mm



19c 同 bar:0.2mm



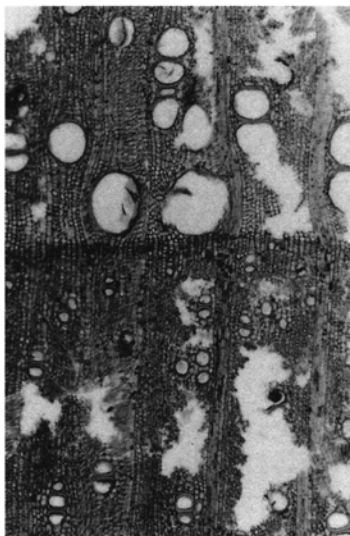
20a カエデ属 bar: 1mm



119 20b 同 bar:0.4mm



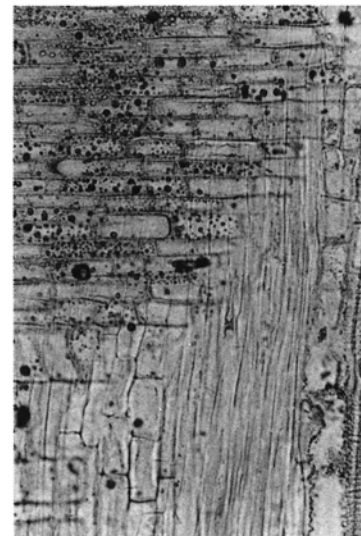
20c 同 bar:0.2mm




21a ケンボナシ属 bar: 1mm

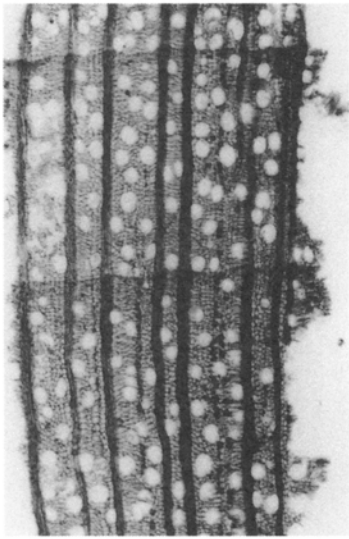


98 21b 同 bar:0.4mm



21c 同 bar:0.2mm

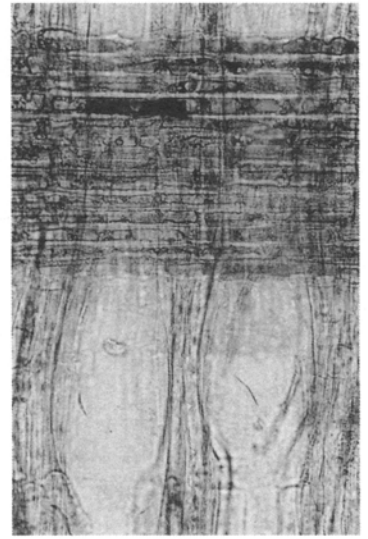
写真 12 東長岡戸井口遺跡出土木材組織顕微鏡写真 Bar: 



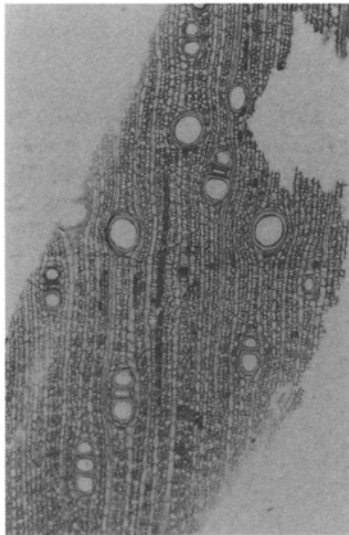
22a クマノミズキ類 bar: 1 mm



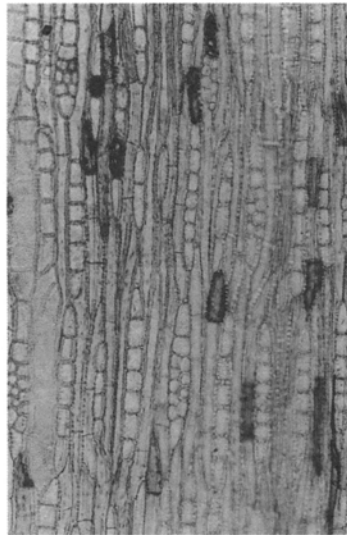
63 22b 同 bar: 0.4 mm



22c 同 bar: 0.2 mm



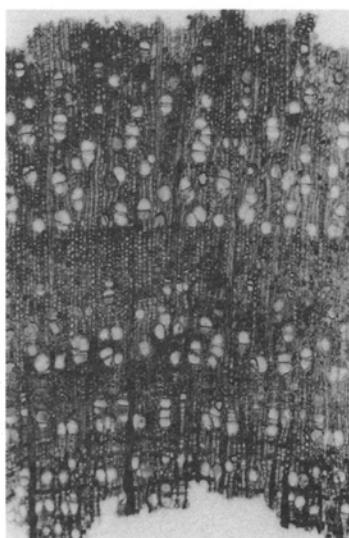
23a カキノキ bar: 1 mm



102 23b 同 bar: 0.4 mm



23c 同 bar: 0.2 mm




24a エゴノキ属 bar: 1 mm

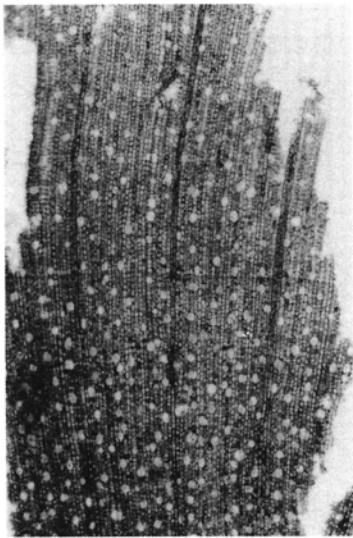


96 24b 同 bar: 0.4 mm

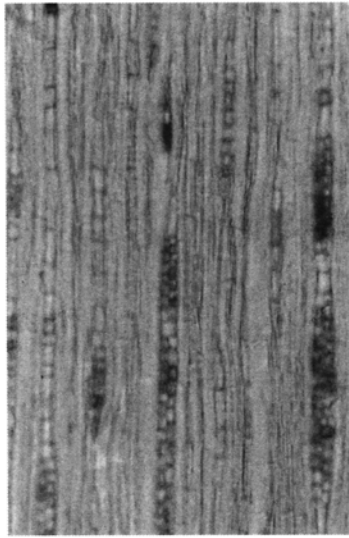


24c 同 bar: 0.2 mm

写真 13 東長岡戸井口遺跡出土木材組織顕微鏡写真 Bar: 



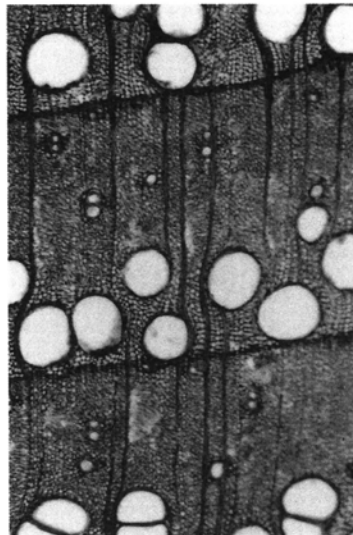
25a ハイノキ属 bar: 1 mm



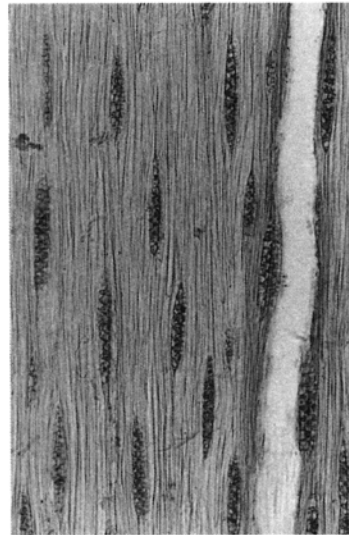
125 25b 同 bar:0.4mm



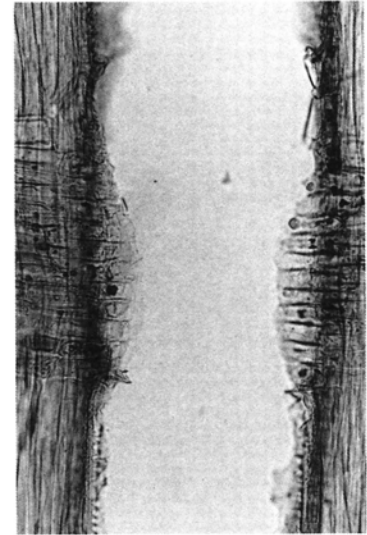
25c 同 bar:0.2mm



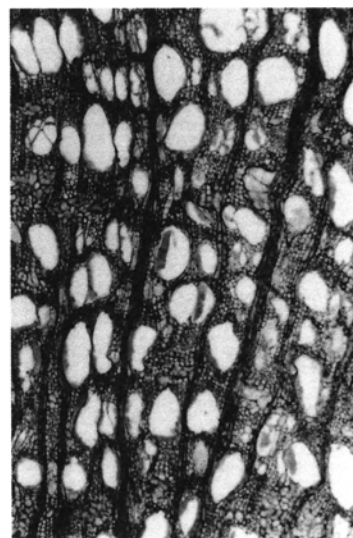
26a トネリコ属 bar: 1 mm



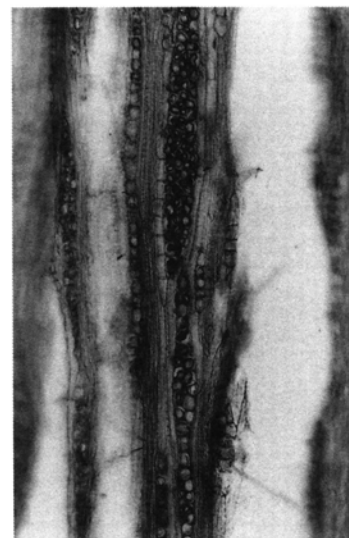
122 26b 同 bar:0.4mm



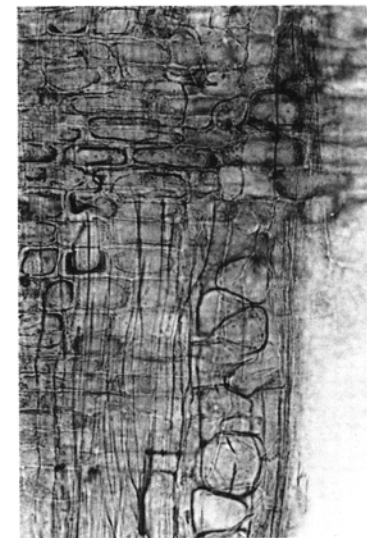
26c 同 bar:0.2mm



27a 広葉樹1 bar: 1 mm



6 27b 同 bar:0.4mm



27c 同 bar:0.2mm

第6項 石器石材の産出地について

群馬地質研究会 飯島静男

東長岡戸井口遺跡から出土した石器石材を同定した。概ね16種類に分類された。これらの石材は渡良瀬川の礫としてみられるものが大半であるが、そうでないものもある。以下、岩石ごとに若干の説明を加え、産出地について考える。

粗粒安山岩

粗粒の輝石安山岩である。河川礫の形状（円礫～垂円礫）のものは、渡良瀬川に普通に見られる種類である。赤城山や袈裟丸山などに安山岩は広く分布する。それらに由来するものと思われる。石造物・石臼・石塔などは、赤城山または榛名山等の岩石に似ており、その方面から採取された可能性がある。

角閃石安山岩

粗粒の角閃石の目立つ、新鮮な安山岩であり、榛名山二ツ岳の噴火活動によってできた岩石に同定される。同噴火活動による火砕流堆積物は利根川の中流域にまで分布しており、この遺跡出土の岩石がどこで採取されたかは、今後の検討課題である。

溶結凝灰岩

石造物（臼？）と大きいブロックに用いられているものは、灰白色～淡褐灰白色で、やや緻密、粗粒の石英、中粒の黒雲母等を含むなど、特徴的であり、金山溶結凝灰岩に同定される。同岩は太田・金山のほか、八王子丘陵の一部に分布する。その近傍より採取したものであろう。

河川礫状の溶結凝灰岩は、緻密堅硬であること、粗粒の石英ほか、斑晶あるいは岩片に富むことなどから、いわゆる奥日光流紋岩類のものに同定される。同岩類は渡良瀬川上流域から奥日光にかけて広く分布し、河床礫としては渡良瀬川を特徴づける岩石のひとつである。

ホルンフェルス

ごく普通の黒色のホルンフェルスである。石器の中には表面の風化状態などからみて、あまり堅硬でないものもあるのではないかと思われた。ホルンフェルスは沢入（そおり）かこう岩体周縁の接触変成帯中に分布し、分布域そのものはそれほど広いわけではないが、緻密で砕けにくいいためか、渡良瀬川の下流などでもよく見られる。しかし下流域のものは相当硬いので、上述のような一見して加工し易い、それほど堅硬でない石器は、その原石が原産地付近から採取された可能性がある。

変珪岩

接触変成帯中のチャートを原岩とする岩石は、見かけがホルンフェルスに似ているものもあり、また熱変成岩として一括した名称としてホルンフェルスと呼ばれることがある。しかし、明らかに糖晶質であり、とくに白色～灰白色のものはホルンフェルス（黒い緻密な角のような石の意）の名に値しない。今回観察した中にもこれがあり、変珪岩と本来の名称を付した。

砂 岩

緻密堅硬のアレナイト質のものが大半である。一部に硬質ではあるが、前者ほど緻密ではなく、やや粗粒、凝灰質ではないかと思われるものが、砥石に用いられている。後者は、新第三紀層産と思われ、恐らく鐮川流域において採取されたものと考え。前者は足尾山地に広く分布し、渡良瀬川の礫に普通に見られる。

砥沢石・デイサイト・流紋岩

砥沢石は群馬県甘楽郡南牧村砥沢産の変質デイサイトである。斑晶・石基ともに変質して軟岩化し、とくに斑晶は骸晶化して、硬質粗粒子を含まない岩石になっている。帯緑灰白色ないし淡褐色。これとは別に石

英斑晶を含むデイサイト製砥石があるが、産地は不詳である。流紋岩製砥石は水上産に類似するが、断定はできない。

デイサイト質凝灰岩ブロック

いわゆる藪塚石、すなわち藪塚温泉北西地区に分布する、滝の入凝灰岩層の岩石によく似ている。しかしチャートその他の小岩片ならびに石英の粗い粒子を多数含み、滝入凝灰岩の主岩相とはやや異なる。主岩相は本質的（エッセンシャル）な軽石凝灰岩で、斑晶としては長石を含むが、異質岩片は少ない。資料の一部には、軽石の外形が潰されているなど、人為的に練った疑いのあるものがみられた。

雲母石英片岩および緑色片岩

足尾山地および太田周辺には産しない。岩質的にみて、多野山地方の結晶片岩である。

チャート

足尾山地に広く分布する。同山地より流れる河川に多く見られる。また強戸付近に分布する礫層の中にも含まれる。

珪質粘板岩

普通の岩石分類では、珪質頁岩である。ここでは、新第三紀層の珪化した頁岩と区別するために、仮に珪質粘板岩と呼んだ。この岩石は足尾山地の各所に産する。この遺跡の出土資料では、おもに砥石と硯に用いられている。京都方面に類似の石材があるが、それとの異同識別は困難である。

凝灰質砂岩

硯の内1点のみ凝灰質砂岩のものがあるが、あまりみかけない岩質で、筆者（飯島）ではその産地が分からない。なお、同様な硯が栃木県足利市内で出土している。

黒色頁岩

三国峠周辺、主として新潟県側に多く産出する。新第三紀の黒色頁岩で、軽度に珪化している。

変質安山岩

水上地方から吾妻地方にかけて広く分布している。この遺跡の岩石が、その方面のものかはわからない。

かこう岩

渡良瀬川の礫。沢入かこう岩体由来する岩石である。

大間々扇状地の地下には礫層があり、同地を流れる現在の河川の礫に、その礫層から再食されたとみられる礫が含まれる。これらの礫は、渡良瀬川の礫種とほぼ同様である。また八王子丘陵の北東側から金山にかけての山脚部に段丘礫層が堆積している。したがって渡良瀬川の河床礫関連の岩石は、渡良瀬川の川原以外にもそれらの場所において採取が可能である。

第6章 鑑定結果の検討

第1節 東長岡戸井口遺跡出土材に就いて

1. 群馬県における中世以前の木材と建築事情

群馬県は年間降雨量約1,200mmであり、全国平均の約1,800mmより、さらに600mmも下回る。加えて、県中央部には吸水力のある赤城山・榛名山などの火山灰土が広がり、その地帯中の植生は、ナラ・クヌギなど落葉樹に適性があり、年間2,000mm以上の降雨量を必要とするという建築材としてのスギ・ヒノキの生育には不適な土地柄である。中世以前の木材加工に針葉樹材を主として展開した割木技法は必須の条件であったが出土・伝存材からそれを見る限り、平安時代以前に曲物材を除くとスギ・ヒノキ材は微弱で、在来と考えられるが曲物の底板にはカヤ・モミ材がやや多く認められ、平安時代後期から末期の、木彫仏にヒノキ材が複数であり、他にカヤ・カツラが用いられているため、それらなどが在来と考えられる。中世においても、13・14世紀に盛期のある高崎市村東館跡の樹種同定結果が依然として少ないことを伝えている。在来スギの上限については貫前神社の俵杉（俵藤太伝承）は樹齢1200年（枯）とも、赤城神社の俵杉は1000年とも、榛名神社の矢立杉は800年ともいい、およその時期が示唆され、生育地は神社域など特定な場所でもあったようである。中世末期の天正年間（1585年頃）和田信業が総社の高井氏にあった杉・桧を5本所望したことが「高井文書」に見え、ようやく植樹の状況がうかがえるものの、杉・桧の取り合わせからまだ貴重な材であったことがわかる。マツについては樹種同定された個体数は少なく、江戸時代中期以降の民家建築に多用されたような植林状況にはなっかたと考えられる。木材の搬入について具体的には中世末期の高崎市「興禅寺境内絵図」中にいかだば筏場（現常盤町）の地名称が烏川沿いに見え、おそらく上流域からケヤキ材を、また、高崎市綿貫町にはまげし曲師という中世前半の曲物師の存在を示唆する中世史料にも見える地名称があり、曲物生産がおこなわれていたとすれば、東海地方以西から、曲物生産の拠点地域に向けヒノキ材の筏が遡上したことを思わせる。東長岡戸井口遺跡の北西には松山と知られる旧御用林の金山が存在している。現在一部で杉・桧・松が植木されているが、ある程度旧時の面影をとどめていると考えられる。明治時代初期の休泊亭古久三版引札に金山の松山の南半が、安政年間の館林藩「封内経界図誌」に東長岡村が石高1450石3斗併せて村域が描かれ、村落と神社地に松・杉・柳か枝垂れ桜状の樹木が表現されて見え、19世紀代的一端を垣間見る。

資料上に見える建築関連の具体性のある内容は、永禄6年（1563）12月24日には武田氏が貫前神社に向け、信濃から杉材と推測される板の運搬について所役を免じ同7年1月11日に同社に対し過所を下し、番匠、糧物の運搬を認めている。それらの点から中世末期の武田氏影響下の西上州においては、和組よる本格的な建築を行う工匠数は充足されていたように見えないこと、板材の搬入は、木材生産の計画的な管理が西上州では進んでいなかったか、それを必要とするほどの建築事情になっていなかったことが推測される。

2. 出土材と樹種からみて

木製遺物に関し、先ず図表現について次のとおりである。外形は実線で、欠損部は細線で、推定延長は破線で、削目を一点鎖線で、摩耗部を長目の破線で、年輪界及び放射状組織から生ずる割れなどを程度により細線から同長目の破線状にして表現した。トーンは炭化部で、タガなど色調の変化部は細かなギザギザ状の細線で表現した。しかし、実測は木器班3名による複数人員差があり、担当自身が同一仕様となるべく再度、遺物と実測図との付き合わせを行ったが時間的都合で実測図個人差を取り除くことができなかった。そのため読者は写真図版と併せた形で参照されたい。観察表は実測時に半分程、残りを整理の終了直前で行ったた

め、少し、粗雑な個所もある。観察表中の樹種は、同定依頼できない場合も考慮して広葉樹・針葉樹の見目の2大別を行ったが同定結果と異なる個所もある、その場合は同定結果が正しい。拓影図の持つ意味は、質感を出すためであるが、特に針葉樹の成長は西日本と比べ狭年輪の個体が多く、遠地の例と比較した場合に役立たせるつもりで貼付し、あえて観察表中にも年輪数を加えた。全体的に木製遺物を見た時遺存状態は表面の消耗が大きく、削目は不明瞭であったがもともとの削目が少ない訳ではない。

次に同定結果を踏まえ地域事情と考え合わせたい。縄文時代以前は第5章第1節によられたい。

9世紀代として9-23・24井例があり、クヌギ節の鎌柄、ヒノキの曲物側板がある。古代鎌柄は県内2例目の出土で惰性力で雑るか静かに引ける用法がその重みと形状から感じられる。曲物のヒノキ材は搬入材と考えられる。なお利根郡・勢多郡の山里に曲師の地名称が各々残され、今後、存在が推定されるのか、製造時期はいつであるのかなど検討したい。同井戸出土第114-5があり、マツの樹皮に見える。

15世紀中頃の例に6-15井の例にヤマグワがあり、既出としては古例である。ヤマグワは近世では畑界などに植られ、桑育成不順時などの際、代替桑として用いられ、天蚕には必要樹であったという。中世史料には上州での絹生産が見える。15・16世紀であるか不正確であるが、10-2井から針葉樹材の木葉片こっぱがあり、樹木の倒木時か荒い加工時に生じたと察せられた。

18世紀後半代として3-1井例があり、ブナ属の椀3個体がある。第498図6は肉厚で中世後半以来の在来の形状を思わせ、同図7・8は体部下半に稜立ちがあり、江戸時代前半の様式を思わせる。ブナは県内では山地帯に生育し、木地師椀の地方量産も考えたくもなるが、この頃の上州は会津塗器流通圏内となっていた。

19世紀として6-1井から桶の側板にヒノキと少数のスギが、6-2井の桶の側板にヒノキ・スギ材があり、複数でスギ桶材があり、在地材として示唆的である。この頃、天保8年「巡見日記」⁽²⁾の絵図では、県内各地で杉が群落状に描かれ、植林の広がり示している。

19・20世紀として、9-11井から鴨居材にアカマツが、民家の床材と思われる例に9-11井のスギ・クリ・アカマツが、6-3井にスギが同定されている。群馬県地域の大型民家建築は、サス組を小屋とした掘立柱建物から小形礎石を用いた民家建築に18世紀代に移行したと推定される。前出の床材は板長が短く敷居の痕跡が薄く、表面摩耗の多さ、裏面に根太関連の横木痕が色調変化となって見られ、礎石使用の民家でも古出の時期に、あるいは掘立柱建物の時期に使用されたとも思える。その場合は、伝世した材となる。

樹種同定報告中の指摘点にクリの多用と、アカマツの存在がある。クリは指定近世民家建築の材として多用された材で、地域の落葉広葉樹中では割裂性があり、柱、板など縦挽可能材として有用材であった。そのクリについては本鑑定と同時に行われた下植木壱町田遺跡で中世椀にクリが確認され、挽物の一般種ではないとの指摘を受けた。同遺跡の存在する赤城山南面地域ではケヤキを除き挽物に有用なホウ・カツラなどの散孔材やブナ材は、人里付近では少なく、ブナ材は標高800m付近から見られ、先の曲師の地名称のある勢多郡宮城村大前田・善・鼻毛石の山林に接する付近では得られなかったのではないだろうか。挽物に有用なケヤキは塗りを施さなければ吸水時に割れやすい性質があるものの同遺跡付近には伏流水位も深くはなく旧時に存在してもよい条件にある。しかし、大前田付近の伏流水は深い位置と推測され、浅根のケヤキにとって不利な条件にある。ホウ材は刳物に有用材であり、近世には江戸に向け有力産地となっていた。

参考文献 (拙著略)

(1) 青木 裕『版画に見る上州』上毛文庫14 1988

(2) あかぎ出版 『上州の絵図』1997

第7章 まとめ

今次の東長岡戸井口遺跡の発掘調査の概略、並びに、発見された諸遺構・遺物の概略に就いては既述の通りであるが、個別の遺構・遺物の調査・整理所見に就いては、その殆どに就いて未既述のままである。終止この遺跡に携わった者として遺憾の念に禁じ得ない。この頁では、既述の遺構・遺物、特に、古代に係わる部分に就いてまとめる形で記述をしてみたい。

問題点の所在

問題点の所在＝当該遺跡の性格は何か。この問題点を内的に求め、解決する可きの主たる素材は、古代の遺構で当該遺跡を特徴づける掘立群であろう。この掘立群は4時期に亘る群構成が在ることが窺知されたが、果たしてこれらがどの様な性格の遺構群なのか、という問題が残っている。また、この掘立群は、共存する状態で発見された、住居跡との具体的な双方の関係も問題であり、この問題の解決が、当該掘立群の存在意義を分明にする答えを内包している筈である。他方、同様に出土遺物も具体的な検証手段の証拠物件である。

県内の当該期の遺跡で、発見される遺構の大きな特徴として、西毛地区では掘立の発見例が少ない事に対して、東毛地区では、比較的多く掘立の発見があることが特徴付けられる。換言すれば、掘立の発見量の多さが西毛地区の特徴として挙げられる。しかし、実際にはこのことを短絡的に直ぐ「官衛・郡衛」等の名称が先立ち、具体的な遺跡内での内的検証を無くして道を外している例が散見される。

当遺跡の場合、先述した、69号住の規模（一辺8mの正方形？）と32号掘立の規模がほぼ一致することは、69号住の規模の点での特殊性が32号掘立に継続された可能性を記したが、大規模住居跡と掘立の占有面積ほぼ近い事が特徴として挙げられる。このことは、双方が時期的に併存する事から、双方の使い分けが有ったことを示唆している。この使い分け＝使用区分は、掘立の配置が、「コ」字様な状況を示すものの、宮都城・官衛等の配置とは明確に状況は異なる。また、住居跡の規模が同時期で相違することは、その「共同体」（集落等）内での構成員の質差を想定するに易いが、時折、出土遺物が想定を逆転させる場合も有り、一概に断定はしかねるものの、具体性の有る説明でもある。当遺跡の場合、やはり、その質差を以て想定させておきたい。具体的には、共同体の首長層の居住用が専らであったことが類推される。

そして、この掘立居住様式の採用は、当遺跡での初期段階より一時期降った段階から開始される。しかし、当該遺跡は、5世紀以降継続的に営まれた遺跡では無く、8世紀後半以降に、恐らく外的要因により形成が開始される。この外的要因は山田郡乃至上野国の意志の反映であろう。この現象を前提に捉えるならば、掘立の居住者は、山田郡の官吏級か富豪層級をして想定される。このことは、墨書土器の多さが示唆的で、識字率の高さが居住者の質差を示していると考えられる。又、幢竿支柱を想定させる遺構の存在は、この遺跡の存在を強調する施設として捉えることも出来よう。

一方住居跡は、第1号堀により東限があり、堀は住居に併存することが判然とする。また、堀の西壁下の出土遺物から、8世紀後半頃に何らかの改修を思わせる。そして、同時に住居の構築が再開される。これらことから、堀の管理乃至堀の開削等のために、計画設置が有り、9世紀に至り、更に管理体制が再構築され、この掘立群の形成が開始されたことを想定しておきたい。則ち、官衛の可能性も含まれる。

上述してきたことから、当該遺跡は第1号堀の管理機構の一部の性格を想定しておきたい。だが、堀は、水位の低下・洪水起源の埋没等、不足の要因により、堀の存在意義の低下と共に10世紀末に遺跡は終焉する。紙数の関係上詳述が出来なかったが、掲載図には整理担当の限界以上の努力を注いだ事でご容赦願いたい。

遺構計測値・土層説明

遺構計測値・土層説明

溝状遺構

第1号堀

1. 暗褐色 粒状R混。2. 暗褐色 粒状R混 (1より発色明)。3. 暗褐色 粒状R混 (粒状R 1より少、発色1より暗)。
 4 a. 暗褐色 (砂質) 粒状R混 (河川の氾濫起源か)。4 b. 赤茶褐色 鉄分の凝集層。5. 灰褐色 (粘質) 6. 4 b同質。
 7. 暗灰褐色 (粘質) 粒状R混 (鉄分かマンガン粒が粒状に堆積)。
 8 a. 茶灰褐色 (粘質) 粒状R混 (鉄分かマンガン粒が粒状に堆積)。8 b. 鉄分凝集層。9. 8層とローム土の混土。10. 8近質。
 11. 8近質。12. 砂層。12 a. 黒色 (砂質) 灰暗褐色混・粒状R含。12 b. 黒色 (砂質) 灰暗褐色混。12 c. 黒色 (砂質) 灰暗褐色多。
 12 d 黒色 (砂質) 灰暗褐色少。12 e. 黒色 (砂質)。13 a. 黒色 (砂質)。13 b. 灰褐色 (砂質)。13 c. 灰褐色 (砂質) 粘性有り。
 13 d. 黒色 (粘質) とRBの混土。14. 暗褐色 粒状R多。15. 暗褐色 粒状R多、粘性有り。16. 暗褐色 RB多。
 17. 暗褐色 地山黄色シルト混。

第1号溝状遺構

1. 濁黒灰褐色 粒状R混。2. 黒褐色 粒状R、白色軽石細粒含。3. 黒褐色 炉内黒色含、粒状R少。4. 黒褐色 RB混。
 5. 暗褐色 炉内黒色少。6. 黒褐色 粒状R少。7. 黒色・粒状R・RB・塊状粘土の混土。8. 褐色 RB少。
 9. 褐色 粒状R混。10. 黒褐色 粒状R、RB含。11. 黒褐色 粗粒状R混 (1近質) 12. 7近質。
 13. 黒褐色 粒状R混 (5より多い)。14. 黒褐色 RB混。15. 暗褐色 粒状R混。16. 暗褐色 RB混。17. 褐色 粒状R含。

第2号溝状遺構

- 第9図 1. 黒褐色 粒状R少。2. 黒褐色 RB混。3. 灰褐色 粘土含。4. 褐色 RB混。
 第17図 14. 暗褐色 (砂質) 粒状R多。15. 暗褐色 粒状R多。16. 暗褐色 粒状R混。17. 黒褐色 粒状R混。
 18. 暗褐色 粒状R多 (軟質)。19. 褐色 RB主。20. 褐色 RB斑状。21. 19近質。22. 暗褐色 RB混。

第3号溝状遺構

1. 黒褐色 粒状R混。2. 黒褐色 RB混。3. 黒褐色 粒状R・RB混。

第4号溝状遺構

1. 濁暗褐色 粒状R混。
 2期 2. 暗黄褐色。3. 暗褐色 粒状R少。4. 1近質。5. 3近質。6. 暗褐色 RB多。
 1期 7. 暗褐色 粒状R含・RB混。8. 褐色 RB主。9. 暗褐色 粒状R多。10. 青灰褐色粘土 RB混。11. 暗褐色 RB多。
 12. 青灰褐色粘土 RB少。13. 暗褐色 (粘質) RB混。

第7号溝状遺構

1. 黒褐色 粒状R・白色軽石細粒混。2. 黒褐色 粒状R多。3. 黒褐色 粒状R混。4. 黄褐色 RB一括埋土。

第9号溝状遺構

1. 暗褐色。2. 黒褐色 塊状シルト (粒状R混)。3. 褐色 灰黄褐色シルト多。4. 灰黄褐色 シルト (水性堆積)。
 5. 褐色 ソフトローム土 (上層で広域に分布)。6. 暗褐色 粒状R・白色軽石細粒混。7. 黒褐色 粒状R混。
 8. 黒褐色 粒状R多。9. 暗褐色 RB含。10. 暗褐色 RB混。

第15図

1. 暗褐色 RB少 2. 4同質。3. 暗褐色 (粘質)。4. 暗褐色 粒状R微。他。

第10号溝状遺構

1. 黒褐色 粒状R混。2. 黒褐色 RB混。

第12号溝状遺構

1. 暗褐色 RB混。

第13号溝状遺構

1. 暗褐色 粒状R少。

第14号溝状遺構

1. 暗褐色 粒状R混 (軟質)。

第15号溝状遺構

1. 暗褐色 粒状R混 (軟質) (第14号溝状遺構覆土に近質)。

第16号溝状遺構

1. 暗褐色 白色軽石細粒微。2. 暗褐色 RB少。3. 暗褐色 RB混。

第17号溝状遺構

1. 暗褐色 粒状R多。2. 暗褐色 粒状R混。3. 黒褐色 粒状R混。

第18号溝状遺構

1. 暗褐色 粒状R混。

第19号溝状遺構

1. 黒褐色・暗褐色の混土。2. 褐色。3. 1同質。4. 暗褐色・RB混土。5. 暗褐色 RB混。

上位の無名溝状遺構 暗褐色・RB混土。

第20号溝状遺構

1. 暗褐色 粒状R混。2. 暗褐色・RBの混土。3. 黒褐色 粒状R混。4. 暗褐色 粒状R多。5. 暗褐色 4近質。
 6. 暗褐色 RB主。7. 暗褐色 RB多。

第21号溝状遺構

1. 暗褐色・黒褐色の混土。2. 暗褐色・黒褐色の混土 (黒褐色多)。3. 暗褐色 粒状R多。

第22号溝状遺構

1. 暗褐色 粒状R少。2. 暗褐色 粒状R混。

第23号溝状遺構

1. 黒色 粒状R極微。2. 黒色 粒状R含。3. 黒色 粗粒状R若。4. 黒色 粗粒状R多。5. 黒色 粗粒状R含。6. 黒色 RB混。
 7. 黒色 粗粒状R若。9. 黒色 粒状R混。10. 粒状R混・RB若。11. 黒色 粒状R混・RB混。

第26号溝状遺構

1. 黒色 粒状R少。2. 暗褐色 粒状R混。

遺構計測値・土層説明

- 第29号溝状遺構**
1. 暗褐色 粒状R少。
- 第30号溝状遺構**
1. 暗褐色 粒状R混。
- 第32号溝状遺構**
1. 褐色 RB・粒状R多。2. 暗褐色。
- 第31号溝状遺構**
類表土群 1. 褐色(ローム質) 砂礫含。2. 塊状黄褐色。3. 明褐色。4. 濁黒褐色 砂礫多・木葉混。
2期 5. 褐色(ローム質) 砂礫少。6. 暗褐色 砂礫混。7. 暗茶褐色 砂礫少。8. 黒褐色 砂礫含・斑状鉄分斑状混入。
1期 9. 黒褐色・砂礫の混土(土塁崩壊土層か)。10. 砂礫・黒褐色の混土(土塁崩壊土層か)。
11. 10同質、10より砂礫多斑状鉄分含。12. 10同質、砂礫主体。
- 第33号溝状遺構**
1. 濁暗褐色(旧表土)。2. 1近質。3. 濁黒褐色。4. 濁暗褐色。5. 褐色。6. 濁黒褐色。7. 暗褐色 粒状R混。
- 第34号溝状遺構**
a・b. 旧表土。1. 濁黒褐色。2. 濁暗褐色。3. 褐色。4. 褐色 粒状R混。
- 第35号溝状遺構**
a・b. 旧表土。1. 濁暗褐色 粒状R多。2. 褐色。
- 第36号溝状遺構**
1. 濁褐色。2. 濁暗褐色。3. 褐色(水性堆積)。4. 黄褐色。
- 第37号溝状遺構**
1. 濁暗褐色。2. 濁褐色。
- 第40号溝状遺構**
1. 暗褐色 粒状R混。2. 黒褐色 粒状R混。3. 黒褐色 粒状R多。
- 第41号溝状遺構**
1. 暗褐色。2. 黒褐色。3. 黒褐色 粒状R含。4. 褐色。5. 暗褐色(砂質)。6. 暗褐色 粒状R混。7. 黒褐色。
- 第5区A号溝状遺構** 暗褐色 粒状R混。 **第5区B号溝状遺構** 暗褐色 粒状R多。
第5区C号溝状遺構 1. 暗褐色 粒状R少。2. 暗褐色 RB混。
第5区D号溝状遺構 暗褐色 RB・粒状R多。 **第5区E号溝状遺構** 暗褐色 粒状R混。
- 第15図** a. 黒色 粒状R混。 b. 黒色 粒状R多。 c. 暗褐色 粒状R多。 e. 茶褐色 粒状R多。 f. 暗褐色 粗粒状R含。
g. 暗褐色 RB混。
- 第44号溝状遺構**
1. 暗褐色 粒状R混。2. 黒灰褐色。3. 黒褐色 粒状R多。4. 黒褐色 粒状R含。5. 黒褐色 3近質。6. 黒褐色 粒状R混。
7. 黒褐色 RB混。8. 黒褐色 RB・粒状R混。
- 第45号溝状遺構**
1. 黒褐色 粒状R混。2. 黒褐色 RB混。3. 黒褐色 RB含・粒状R混。4. 黒褐色 粒状R含。5. 黒褐色 RB含。
6. 黒褐色 粒状R多。7. 砂層(水性堆積様)。8. 黒褐色 粒状R多。粗粒状R混。
- 第46号溝状遺構**
1. 暗褐色 粒状R混。2. 褐色粒状R混。
- 第50号溝状遺構**
1. 濁黒褐色 粒状R少。2. 濁黒褐色 RB混。
- 第51号溝状遺構**
1. 濁黒褐色 粒状R若。2. 濁黒褐色 粒状R混。
3. 濁黒褐色 粒状R多。4. 濁黒褐色 粒状R多・RB多。
- 第51B号溝状遺構**
1. 濁暗褐色 現代の整地層。2. 濁褐色(硬質) ローム質。3. 濁暗褐色 1近質。4. 濁暗褐色。5. 黄褐色 RB混。
6. 暗褐色 RB混。7. 褐色 RB多。8. 砂礫。9. 砂質褐色 砂礫混。10. 9同質。11. 黒色。12. 褐色 砂礫混。
13. 5近質。14. 黄褐色 RB主。15. 黒褐色 RB・砂礫混。16. 褐色 砂礫含。17. 褐色 RB混。18. 褐色 RB少。
19. 11同質。20. 13近質。
- 第52号溝状遺構**
1. 暗褐色 粒状R混。2. 暗褐色 粒状R含・鉄分の沈着した粒子を含む。3. 黒褐色 粒状R混・鉄分の沈着した粒子を含む。
- 第54号溝状遺構(第15図)**
A号 25. 暗褐色 RB混。26. 暗褐色 粒状R混。27. 暗褐色 RB多。 B号 23. 黒色 RB少。24. 暗褐色(粘質)。
C号 33. 暗褐色(やや粘質)。34. 暗黄褐。 D号 32. 暗褐色。
E号 35. 暗褐色 粒状R少・白色軽石細粒混。36. 暗褐色 白色軽石細粒少。37. 暗褐色(やや粘性) 白色軽石細粒少。
38. 暗褐色(粘性) RB混。39. 暗褐色(粘性) 白色軽石細粒混。40. 暗灰褐色(還元気味)。41. 40近質(強粘性)。
他 28. 暗褐色 粒状R混。29. 暗褐色 粒状R混(1より発色明)。30. 28近質。
31. 暗褐色 粒状R混(粒状R1より少、発色1より暗)。
- 第2区A号溝状遺構**
1. 暗褐色 粒状R混。2. 暗褐色 粒状R多。3. 黒褐色 粒状R混。4. 黒褐色 粒状R多。
- 第2区号溝状遺構**
1. 暗褐色 粒状R混。2. 暗褐色 RB混。
- 第2区C号溝状遺構**
1. 暗褐色 粒状R混。
- 第2区F号溝状遺構**
1. 暗褐色 粒状R多。2. 暗褐色 粒状R少。
- 第2区G号溝状遺構**
1. 暗褐色 粒状R多。2. 暗褐色 粒状R少。3. 黒褐色 粒状R少。
- 第2区H号溝状遺構**
1. 暗褐色 粒状R含・砂礫含。
- 第63号溝状遺構**
1. 黒褐色 砂礫含。2. 黒褐色 砂礫少。3. 黒褐色 砂礫主体。
- 第64号溝状遺構**
1. 暗褐色 粒状R混。2. 暗褐色 粒状R少。3. 黒褐色 粒状R少。4. 暗褐色 粒状R含。5. 黒褐色 粒状R含。
6. 暗褐色 粒状R混・粗粒状R少。7. 灰褐色 RB多。8. 灰褐色 粘性有り。9. 灰褐色 粘性強。
- 第65号溝状遺構**
1. 黒褐色 粒状焼土含・粒状R多。2. 黒褐色 粒状焼土若・粒状R少。3. 黒褐色 粗粒状R少。4. 粒状R多・RB多。
- 第66号溝状遺構**
1. 暗褐色 粒状R若。暗褐色・RB混土。

第66号溝状遺構（3期は70溝の可能性ある。2期は近世土。3期は中世土）

- 3期 1. 暗褐色 粒状R少。2. 褐色。3. 暗褐色 塊状褐色土含。4. 黄褐色。5. 黒褐色 塊状褐色土斑状。
 2期 6. 褐色 RB含。7. 褐色粗粒状R混。8. 暗褐色 粗粒状R多・粒状R多。9. 暗褐色 RB多・粒状R混。
 1期 10. 黒褐色 粒状R混。11. 黒褐色 RB混・粒状R多。12. 黒褐色 RB含・粗粒状R含。13. 黒褐色 粗粒状R多。
 14. 黒褐色 RB含・粒状R多。15. 黒褐色 粒状R少。16. 黒褐色。17. 暗褐色。18. 黒褐色 RB・粒状R斑状。

第69号溝状遺構

1. 暗褐色 粒状R多。2. 暗褐色 粒状R混・RB含。3. 暗褐色 粒状R含。4. 暗褐色 粒状R少。5. 暗褐色 RB少。
 6. 4近質。

第70号溝状遺構

1. 暗褐色 粒状R混。2. 暗褐色 粒状R少。

第80号溝状遺構

- 1期 1. 黒褐色 粒状R多。2. 黒褐色 粒状R少・粒状炭化物少。3. 黒褐色 粗粒状R多・小RB含・粒状R多・粒状炭化物多。
 4. 黒褐色 RB多。5. 黒褐色 粒状R含。6. 黒褐色 小RB多斑状・粗粒状R多。
 2期 7. 黒褐色 粗粒状R多。
 3期 8. 黒褐色 粒状R少・粗粒状R若。15. 黒褐色 粗粒状R多・粒状R混。16. 黒褐色 粒状R混。
 4期 9. 黒褐色 粒状R含。10. 黒褐色 粒状R少。11. 黒褐色 粗粒状R含。12. 黒褐色 粗粒状R少。13. 黒褐色 粒状R少。
 17. 黒褐色 RB多斑状。18. 黒褐色 粒状R含。

第81号溝状遺構

1. 暗褐色 RB含。2. 暗褐色 粒状R若・粒状炭化物含。3. 暗褐色 粗粒状R含。

第82号溝状遺構

1. 黒褐色 粒状R混。2. 黒褐色 粒状R含。3. 黒褐色 RB少。4. 1近質。5. 黒褐色 RB少。6. 黒褐色 RB含。
 7. 黒褐色 粒状R混。8. 黒褐色 RB混。

第83号溝状遺構

1. 黒褐色 粒状R少。2. 黒褐色 粒状R混。3. 黒褐色 RB混。

第84号溝状遺構

1. 暗褐色 粒状R多。

第85号溝状遺構

1. 暗褐色。2. 暗褐色 粒状R含。3. 暗褐色 黒褐色 粒状R含。4. 黒色（粘質土） 粒状R混。5. 黒褐色 RB含。
 6. 黒褐色 粒状R含。7. 暗褐色。8. 暗褐色 粒状R混。9. 暗褐色 RB・粒状R多。10. 3近質。11. 7近質。
 12. 黒褐色 RB多。13. 暗褐色 RB少。14. 6近質。15. 7近質。16. 8近質。17. 暗褐色 粒状R混。18. 9近質。

第86号溝状遺構

1. ピット覆土（黒褐色 RB混）。2. 暗褐色 粒状R混。3. 黒褐色 粒状R混。4. 黒褐色 RB混。5. 黒褐色 粒状R混。
 6. 暗褐色 粒状R含。7. 暗褐色。8. 暗褐色 RB混。9. 黒褐色 粒状R含・白色軽石細粒含。

第87号溝状遺構

1. 黒褐色 粒状R含。2. 黒褐色 RB・粒状R含。3. 褐色。

第88号溝状遺構

1. 黒褐色。2. 黒褐色 RB・粒状R混。

第89号溝状遺構

1. 黒褐色 RB・粒状R混。2. 黒褐色 粒状R含。3. 黒褐色 RB混。4. 暗褐色。5. 黒褐色 RB多。6. 粒状R少。
 7. 黒褐色 RB含・粒状R含。

第90号溝状遺構

1. 暗褐色 RB・粒状R含。2. 黒褐色 粒状R含。

第91号溝状遺構

- 3期 1. 暗褐色 RB・粒状R混。2. 暗褐色。3. 暗褐色 RB多。4. 暗褐色 RB混。5. 暗褐色 RG含。
 2期 6. 粒状R含。7. 暗褐色 粒状R少。
 1期 8. 暗褐色 RB・粒状R多。9. 暗褐色 RB混。

第92号溝状遺構

1. 暗褐色 RB混。2. 暗褐色 粒状R混。3. 暗褐色（砂質）。4. 暗褐色 粒状R含。

第93号溝状遺構

1. 暗褐色 RB・粒状R多。2. 暗褐色（砂質）。3. 暗褐色 粒状R混。

第94号溝状遺構

1. 暗褐色 粒状R多。2. 暗褐色 粒状R含。3. 暗褐色 粒状R混。4. 褐色。5. 黒褐色。6. 黒褐色 RB混。

第95号溝状遺構

1. 暗褐色 粒状R少。2. 暗褐色 粒状R多。3. 暗褐色 RB多。

第96号溝状遺構

1. 暗褐色 粒状R含。2. 暗褐色 粒状R少。3. 暗褐色 粒状R多。

第97号溝状遺構

1. 暗褐色（砂質） 粒状R・白色軽石細粒混。2. 暗褐色 粒状R混。3. 黒色（砂質）。4. 黒褐色 粒状R混。
 5. 黒褐色 粒状R含。7. 暗褐色 RB含。8. 1近質。9. 暗褐色 粒状R混。10. 暗褐色（硬質気味）粒状R混。
 11. 暗褐色（砂質）。12. 暗褐色（粘性）13. 暗褐色 粒状R混・RB少。

第101号溝状遺構

1. 濁黒褐色 粒状R微。

第104号溝状遺構

1. 黒褐色 粒状R混・黒色の混土。

第105号溝状遺構

1. 濁黒褐色 RB微。

第106号溝状遺構

1. 濁黒褐色 RB主。

第107号溝状遺構

1. 濁黒褐色 粒状R混。

第117号溝状遺構

1. 濁暗褐色 粗粒状R含・粒状R少・細粒状R多・粒状炭化物含。

第118号溝状遺構

1. 濁暗褐色 粒状R微。

第119号溝状遺構（古代）

1. 暗褐色 粒状R微。

第120号溝状遺構

1. 暗褐色 粒状R多。2. 暗褐色 粒状R混。3. 暗褐色 粒状R少。

遺構計測値・土層説明

第121号溝状遺構

1. 暗褐色 粒状R混。2. 暗褐色 粒状R混。3. 暗褐色 粒状R少。

第124号溝状遺構

1. 暗褐色 粒状R少。2. 暗褐色 粒状R混。3. 暗褐色 粒状R多。4. 暗褐色 RB斑状。5. 暗褐色 粒状R含・RB少。

第126号溝状遺構

第127号溝状遺構

第128号溝状遺構

1. 暗褐色 粒状R多。2. 褐色。 1. 暗褐色 RB混。 1. 褐色。2. 暗褐色 粒状R多。

第2号館跡

A-A

第102号溝状遺構一濁茶褐色

第73号溝状遺構

第74号溝状遺構一濁茶褐色

1. 粗大RB含。2. RB多。 3. 濁茶褐色 粗大RB含。 4. RB含。5. 塊状暗色帯多。

第75号溝状遺構

6. 濁黒褐色 塊状黒褐色多。7. 濁茶褐色 小塊状黒褐色含。8. 濁暗褐色 塊状黒褐色含。9. 6近質。10. 5近質(5層の崩落か)。

第103号溝状遺構

11. 茶褐色 RB・塊状暗色帯の混土。12a. RB・灰褐色土の互層。12b. RB。12c. 灰褐色。

第104号溝状遺構

13. 塊状粗粒砂礫・塊状暗茶褐色(鉄分染色)砂層の混土。

第72号溝状遺構

2期 14. 暗茶褐色 RB含。15. 暗茶褐色 RB混。

1期 16. 灰暗褐色(水性堆積の互層)。17. 黄褐色 RB主。

B-B'

第102号溝状遺構一濁茶褐色

1. RB主・塊状濁黒褐色少。2. RB含。3. RB・塊状濁黒褐色混。4. 粒状R混・粗粒状R混。5. RB若・塊状黒褐色若。

6. RB若・塊状黒褐色混。7. RB多・塊状黒褐色少。8. RB少・塊状黒褐色若。9. RB少・塊状濁灰褐色含。

10. RB少・塊状濁灰褐色少。11. 塊状濁灰褐色(シルト質)。12. 11同質。

第103号溝状遺構

13. 濁灰褐色 シルト質。14. 灰褐色 黄褐色RB含。15. 灰褐色 RB若。

第72号溝状遺構

2期 16. 暗灰砂礫主・RB含。17. 暗灰砂礫。

1期 18. 茶褐色 RB微。19. 濁暗灰褐色(砂質気味) RB微。20. 濁暗灰褐色 暗灰砂礫含。

第101号溝状遺構

第76号溝状遺構

21. 濁暗茶褐色 粗粒状R少。22. 茶褐色 粗粒状R含・粒状R含。23. 濁暗褐色 粒状R微。

第68号溝状遺構

2期 24. 茶褐色 粒状R微。25. 茶褐色 粒状R微・粒状炭化物若。26. 茶褐色 塊状濁暗褐色斑状。

1期 27. 茶褐色 RB多。28. 茶褐色 塊状濁暗褐色多。

第77号溝状遺構

28'. 茶褐色 粗粒状R多。

第70号溝状遺構

29. 灰茶褐色 塊状30層含。30. 灰茶褐色 鉄分を含む塊状暗褐色混。32. 30近質。33. 黒灰褐色 鉄分を含む塊状暗褐色含。

第78号溝状遺構

34. 茶褐色 粒状R微・粗粒状R含。

第79A号溝状遺構

35. 茶褐色粒状R微。36. 茶褐色RB若。

第79B号溝状遺構

37. 茶褐色 RB若・塊状濁暗褐色混。38. 茶褐色 粗粒状R若・小粒状RB微。

性格不明落ち込み

39. 茶褐色 大RB含・RB含・粒状R多。40. 茶褐色 塊状明黄褐色少・粒状R少。41. 茶褐色 粒状R微。

C-C'

第102号溝状遺構

1. 濁黒褐色。2. 濁黒褐色 RB少。3. 茶褐色(ロームと黒褐色の攪拌土)RB含。4. 濁黒褐色 RB少・RB含。

5. 茶褐色(ロームと黒褐色の攪拌土)RB含・RB多。6. 茶褐色(ロームと黒褐色の攪拌土)RB含・RB混。

7. 茶褐色(ロームと黒褐色の攪拌土)RB含・RB主。8. 茶褐色(ロームと黒褐色の攪拌土)RB含・RB含。

9. 黒褐色・RBの混土。10. 黒褐色 粗粒状R多・小RB若。

第103号溝状遺構

11. 茶褐色 ローム・黒褐色の混土。12. 茶褐色 ローム・黒褐色の混土11よりロームの含有多。13. 灰黒褐色 水性堆積層。14. 11近質。

15. 茶褐色 粗粒状R多・RB含。16. 茶褐色 粗粒状R含。17. 茶褐色 粗粒状R含・小RB多。18. 灰黒褐色 水性堆積層。

19. 11近質。22. RB主体。23. 18の塊状混入。

第72号溝状遺構

20. 灰黒褐色・暗茶褐色の水性堆積の互層。21. 黄褐色 RB。

性格不明落ち込み

25. 茶褐色 黒褐色・ロームの混土。26. 黒褐色 粒状R極多。27. 黒褐色 粒状R極多・RB含。

28. 黒褐色 粒状R含・RB少・褐色土攪拌混入。29. 黒褐色 粒状R含・RB若。

D-D'

第68号溝状遺構

1. 濁暗褐色 RB含。2. 濁暗褐色 粒状R含。3. 濁暗褐色 RB含・粗粒状R少。4. 濁暗褐色 粗粒状R含・粒状R混。
5. 濁暗褐色 RB主。粒状R多。6. 濁黒褐色

第70号溝状遺構

8. 暗褐色 RB含・粒状R混。9. 暗褐色 RB混・粒状R含。10. RB斑状・粗粒状R含。

第71号溝状遺構

33. 黄褐色 RB主。34. 濁黒褐色 粗粒状R少・RB少。35. 濁暗褐色 RB含・粒状R多。

第102号溝状遺構

13. 濁暗褐色 RB含。14. 濁黒褐色 水性堆積層。15. 濁暗褐色 RB含・粒状R混。16. 濁黒褐色 14近質。34. 濁黒褐色 (砂質)。

第103号溝状遺構

17. 暗褐色 RB少・粒状R含。18. 濁黒褐色 RB少・粒状R多。19. 暗褐色 RB含。20. 濁黒褐色 (やや砂質気味) 粒状R少。
21. 濁黒褐色 大RB混。22. 濁黒褐色 (砂質気味) 粒状R含。23. 濁暗褐色 RB少・粗粒状R少。24. 21近質。
25. 暗褐色 粗粒状R少・RB混。27. 21近質。28. RB主。29. 暗褐色 粒状R多。30. 褐色 RB混。31. RB多・粒状R多。

第72号溝状遺構

32. 黒褐色 RB含・粒状R多。

名称未設定溝状遺構

7. 黄褐色 RB含。11. 濁暗褐色 RB混。12. 濁暗褐色 RB混・粗粒状R含・粒状R多。

住居跡

第1号住居跡

位置 6-210・211・230・231・250・251グリッド。形状 正方形基調。規模 6.45m×6.74m。

構築基準辺 南壁。主軸 北-42度-東。基準線標高値42.80m。

第2号住居跡

位置 6-249・250・269・270グリッド。形状 正方形。規模 4.86m×4.86m。構築基準辺 南東壁。主軸 北-38度50分-東。

層序 (基準線標高値42.80m) 1. 黒褐色 RB斑状。2. 黒褐色 RB多。3. 黒褐色 RB斑状。4. 黒褐色 粗粒R斑状。

5. 赤褐色被熱層。6. 浅黄褐色被熱層

第3号住居跡

位置 6-325・326グリッド。形状 胴張長方形。規模 2.5+ α m×2.65+ α m。構築基準辺 不詳。主軸 北-135度-南。

層序 (基準線標高値42.80m) 1. 黒褐色 RB混。2. 黒褐色 RB多。3. 黒褐色 RB斑状。4. 黒褐色 粗粒R斑状。

5. 赤褐色被熱層。6. 浅黄褐色被熱層。

第4号住居跡

位置 5-1・2・21・22グリッド。形状 楕円。規模 7.04m×6.04m。主軸 北-33度-東。

層序 (基準線標高値42.80m) 1. 暗褐色土 粒状R・RB少。2. 暗褐色土 粒状R若。3. 黒褐色 粒状焼土・粒状炭化物少。

第5号住居跡

位置 2-20グリッド。形状 矩形。規模 3.44m×2.95m。構築基準辺 西壁。主軸 北-8度25分-西。

層序 (基準線標高値42.80m) 1. 黒褐色 RB少。2. 黒褐色 粒状焼土少。3. 黒褐色 塊状焼土・粒状焼土多。

4. 黒褐色 塊状焼土混。5. 掘り方埋土 RB主体・粒状R混。6. 掘り方埋土 RB含・粒状R多。

第6号住居跡

位置 6-306・307・326・327グリッド。

層序 (基準線標高値42.90m) (6埋壜) 1. 暗褐色 草木根の攪乱顕著。2. 茶褐色。3. 暗褐色。

(14坑) 1. 暗褐色 粒状R混・粒状焼土・塊状焼土混。2. 暗褐色 粒状焼土・塊状焼土多。

第7号住居跡

位置 5-200・220グリッド。

層序 (基準線標高値43.00m) 1. 黒褐色 粒状R混。2. 黒褐色+暗褐色土の混土。3. 暗褐色土 RB混・塊状焼土・粒状焼土混。

第8号住居跡

位置 5-260グリッド。層序 (基準線標高値42.90m) 1. 暗褐色土 粒状R混・粒状焼土・炭化物多。2. 褐色 粒状焼土多。

3. 暗褐色土 RB混・粗粒焼土多。

第9号住居跡

位置 5-276・277・296・297グリッド。層序 (基準線標高値42.80m) 1. 黒褐色+暗褐色土の混土 RB混。

第10号住居跡

位置 8-203・204・223・224グリッド。形状 円形。規模 6.5m。

層序 (基準線標高値43.30m) 1. 暗褐色土 塊状明褐色斑状。2. 暗褐色土 粒状焼土少。3. 暗褐色土 RB少・粒状R少。

4. 褐色 RB混。5. 暗褐色土 粒状R混。6. 暗褐色土 褐色土混。7. 貼り床 RB+暗褐色の混土。

8. 暗褐色土 粒状R・炭化物少。9. 暗褐色土 粗粒R多・炭化物少。

第11号住居跡

位置 8-163・164・183グリッド。形状 縦長方形。規模 3.8m×2.96m・カマド軸長0.9m・壁部幅1.1m・燃焼部幅0.84m。

構築基準辺 西壁。主軸 北-11度50分-西。

層序 (基準線標高値42.70m) 1. 黒褐色 粒状R・粒状焼土混。2. 黒褐色 粒状R・粒状焼土含。3. 黒褐色 粒状R多。

4. 黒褐色 RB混。5. 黒褐色 塊状焼土含。6. 暗褐色土 塊状焼土混。7. 黒褐色 粒状R・粒状焼土混。8. 黒褐色+RBの混土。

遺構計測値・土層説明

9. 黒褐色 粒状焼土多。10. 黒褐色+RBの混土。11. 10近質。15. 10同質。

第12号住居跡

位置 8-143・144グリッド、形状 縦長方形、規模 3.25m×2.65m・カマド軸長0.95m・壁部幅0.85m・燃烧部幅0.65m。

構築基準辺 西壁か、主軸 北-90度-東。

層序(基準線標高値42.80m) 1. 黒褐色 粒状焼土多。2. 黒褐色 粒状焼土多・塊状焼土多・小RB混。3. 暗褐色土 粒状R混。4. 暗褐色土 RB混。

第13号住居跡

位置 8-125・145グリッド、形状 横長方形、規模 3.6m×2.25m・カマド軸長0.79m・壁部幅1.28m・燃烧部幅0.5m。

構築基準辺 南壁、主軸 北-2度-西。

層序(基準線標高値42.70m) 1. 黒褐色+RB混土。2. 1+塊状焼土。3. 黒褐色 粒状焼土・粒状R多。

4. 黒褐色 粒状R・粒状焼土多・小塊状灰混。5. 黒褐色+RBの混土。

第14号住居跡

位置 8-144・145・164・165グリッド、形状 横長方形、規模 3.70m×3.0m・カマド軸長0.92m・壁部幅1.25m・燃烧部幅0.5m。

構築基準辺 西壁、主軸 北-100度50分-南。

層序(基準線標高値42.70m) 1. 黒褐色 RB斑状多。2. 黒褐色 RB多。3. 黒褐色 粒状焼土多・炭化物多。

4. 暗褐色土 塊状焼土・RB混。5. 灰・炭化物・粒状焼土多(貼床)。6. RB(貼床)。7. 黒褐色 RB多斑状・粒状R多。

第15号住居跡

位置 8-125グリッド、形状 矩形、規模 3.3m×2.8m・カマド軸長1.0+ α m・壁部幅1.0m・燃烧部幅0.42m、構築基準辺 西壁。

主軸 北-5度-西。

層序(基準線標高値42.70m) 1. 黒褐色 粒状R・粒状焼土混。2. 黒褐色 RB・粒状焼土混。3. 黒褐色 RB多。

4. 黒褐色 粒状焼土多。5. 褐色 RB・粒状R含。6. 5同質。7. 黒褐色 粒状R・粒状焼土混。8. 3同質。

9. 暗褐色土 RB混・炭化物含。10. 暗褐色土 粒状R混。11. 暗褐色土 粒状焼土多。15. 11同質。

13. 暗褐色土 粒状焼土多・炭化物含。14. 黒褐色 RB含。15. 暗褐色土 RB多・粒状R多。16. 黒褐色+小RBの混土。

17. 黒褐色+RBの混土。

第16号住居跡

位置 8-101・124・125グリッド、形状 矩形、規模 3.75m×2.96m・カマド軸長1.22m・壁部幅1.12m・燃烧部幅0.52m。

構築基準辺 北壁、主軸 北-79度50分-東。

層序(基準線標高値42.70m) 1. 黒褐色 RB混。2. 黒褐色 RB多。3. 黒褐色 RB混(1近質)。

4. 黒褐色 粒状R・粒状焼土混。5. 黒褐色 塊状焼土・塊状粘土多。6. 黒褐色 塊状焼土多。7. 暗褐色土 塊状焼土・RB多。

8. 黒褐色 RB多。9. 黒褐色 RB斑状多。

第17号住居跡

位置 8-123・124・143・144グリッド、形状 正方形、規模 3.2m×3.15m・カマド軸長1.18m・壁部幅1.20m・燃烧部幅(0.5)m。

構築基準辺 南壁、主軸 北-84度-東。

層序(基準線標高値42.80m) 1. 黒褐色+RBの混土。2. 黒褐色 粒状焼土多・RB含。3. 黒褐色 塊状焼土含・粒状焼土混。

4. 黒褐色 RB多。

第18号住居跡

位置 8-223・224・233グリッド、形状 矩形、規模 2.84m×2.5m・カマド軸長0.96m・壁部幅1.03m・燃烧部幅0.56m。

構築基準辺 北西壁、主軸 北-55度-東。

層序(基準線標高値42.80m) 1. 黒褐色 粒状R混。2. 黒褐色+RBの混土。3. 暗褐色土 粒状R少。4. 黒褐色 RB混。

5. 黒褐色 粒状R多。6. 暗褐色土 粒状焼土多。7. 暗褐色土 粒状焼土多・炭化物含・RB含。8. 黒褐色 RB多。

第19号住居跡

位置 8-100・120グリッド、形状 矩形、規模 2.9m×2.48m・カマド軸長0.54m・壁部幅0.8m・燃烧部幅0.46m、構築基準辺 北壁

主軸 北-87度-東。

層序(基準線標高値42.80m) 1. 黒褐色 RB混。2. 黒褐色 塊状焼土混。3. 黒褐色+RBの混土。

第20号住居跡

位置 5-79・98・99グリッド、形状 矩形、規模 3.3m×2.6m・カマド軸長0.84m・壁部幅1.16m・燃烧部幅0.36m。

構築基準辺 南東壁、主軸 北-56度-東。

層序(基準線標高値42.90m) 1. 黒褐色 粒状R・粒状焼土多。2. 黒褐色 細粒・粗粒R多。3. RB+黒褐色の混土。4. 2近質。5.

2近質。6. 3近質。7. 暗褐色土 粒状焼土少。8. RB+黒褐色の混土。

第21号住居跡

位置 5-119グリッド、形状 横長方形、規模 2.2m×2.88m・カマド軸長0.89m・壁部幅0.95m・燃烧部幅0.29m、構築基準辺 東壁

主軸 北-87度25分-東。

層序(基準線標高値42.90m) 1. 黒褐色 RB多。2. 黒褐色 粒状R・粒状焼土多。3. 黒褐色 RB混・粒状焼土多。

4. 黒褐色 粒状R混・粒状焼土多。5. 黒褐色 粗粒R混・粒状焼土多。6. 黒褐色 RB・粗粒多。

第22号住居跡

位置 8-126・127グリッド、形状 縦長方形、規模 3.5m×2.65m・カマド軸長0.9m・壁部幅1.08m・燃烧部幅0.5m。

構築基準辺 北壁、主軸 北-113度-東。

層序(基準線標高値42.70m) 1. 黒褐色 粒状R・粒状焼土少。2. 黒褐色 粒状R少。3. 黒褐色 塊状焼土混。

4. 黒褐色 粒状焼土多。5. 暗褐色土 RB多。6. 黒褐色+RB混土。7. 6近質。8. 黒褐色 粒状焼土多。

9. 黒褐色 粒状R混・粒状焼土混。

第23号住居跡

位置 8-126・127・146・147グリッド、形状 縦長方形、規模 3.3+ α m×3.0m・カマド軸長1.34m・壁部幅1.62m・燃烧部幅0.6m。

構築基準辺 南壁か、主軸 北-120度-東。

層序(基準線標高値42.80m) 1. 黒褐色 粒状R少。2. 黒褐色 RB多斑状。3. 黒褐色 粒状焼土混・粒状R混。
4. 黒褐色 粒状R多。5. 黒褐色 塊状焼土少・灰混。6. 黒褐色+RBの混土。7. 暗褐色土+黒褐色の混土。8. 黒褐色 RB多。
9. 黒褐色 RB少。10. 硬質RB。11. RB+黒褐色の混土。

第24号住居跡

位置 8-203・204・223・224グリッド、形状・規模等 不詳。

層序(基準線標高値42.90m) 1. 暗褐色土 褐色土混。2. 暗褐色土 RB混・粒状焼土混。3. 暗褐色土 RB混・粒状焼土微。

第25号住居跡

位置 5-78グリッド、形状 矩形、規模 3.3m×2.9+αm・カマド詳細不詳、構築基準辺 西壁、主軸 北-94度50分-東。

層序(基準線標高値42.90m) 1. 黒褐色+RBの混土。

第26A・B号住居跡

位置 8-104・105・124・125グリッド、形状 楕円、規模 5.43m×4.78m、主軸 北-80度-東。

層序(基準線標高値42.70m) 覆土=暗褐色土 細粒状R含。

第27A号住居跡

位置 5-128・129・148・149グリッド、形状 円、規模 径3.4m。

層序(基準線標高値42.70m) 1. 暗褐色土 粒状R混。2. 暗褐色土 粒状・RB混。3. 褐色土 粒状R含。

第27B号住居跡

位置 5-128・148グリッド、形状 円、規模 径3.2m。

第28号住居跡

位置 5-208・209グリッド、形状 楕円、規模 3.82m×2.88m、主軸 北-115度-南。

層序(基準線標高値42.80m) 1. 暗褐色土 RB含・粒状R混。2. 暗褐色土 粗粒R混。

第29号住居跡

位置 5-285・305・306グリッド、形状 台形、規模 軸長3.9m・北西壁2.2m・南東壁3.4m、主軸 北-43度50分-西。

層序(基準線標高値43.00m) 1. 暗褐色土 粗粒R混。

第30号住居跡

位置 5-327・347・グリッド、形状・規模 詳細不詳。

層序(基準線標高値43.00m) 覆土=暗褐色土 粒状R含。

第31号住居跡

位置 1-19・20・39・40グリッド、形状 円形基調、規模 3.46m×3.63m、主軸 北-65度50分-西。

層序(基準線標高値42.80m) 1. 暗褐色土 RB多斑状。

第32号住居跡

位置 4-6・7・26・27グリッド、形状 台形基調、規模 軸長5.0m×北壁3.39m・南壁4.14m、主軸 北-27度50分-西。

層序(基準線標高値43.00m) 1. 暗褐色土 粒状R混。2. 暗褐色土 粒状R多・粒状炭化物微。3. 2近質。

4. 暗褐色土 RB混・粒状炭化物少。

第33号住居跡

位置 5-380・381グリッド、形状 台形、規模 軸長5.14m×南西壁4.46m・北東壁2.93m、主軸 北-45度-東。

層序(基準線標高値42.80m) 1. 黒褐色 粒状R少。2. 黒褐色 粒状R含。3. 黒褐色 粒状R含。4. 黒褐色 RB少・粗粒状R混。

5. 黒褐色 小RB少。6. 黒褐色 粗粒状R混。

第34号住居跡

位置 5-363・364・383・384グリッド、形状 円形か、規模 7.48m?×2.92?m、主軸 北-20度-東。

層序(基準線標高値42.90m) 1. 黒褐色 粒状R少・粒状焼土含。

第35号住居跡

位置 1-54・55・74・75グリッド、形状 柄鏡形か、規模 径6.0m程か、主軸 北-2度-西。

層序(基準線標高値42.70m) 1. 暗褐色土 塊状焼土・粒状焼土混。2. 暗褐色土 粒状焼土混・粒状R含。

第36号住居跡

位置 4-3・4・23・24グリッド、形状 台形、規模 軸長6.8?m×4.0?m、主軸 北-22度50分-西。

層序(基準線標高値42.90m) 1. 暗褐色土 粒状焼土混・炭化物少。2. 暗褐色土 炭化物多。

第37号住居跡

位置 2-373・374グリッド、形状 楕円形、規模 2.97m×2.6m、主軸 北-46度-西。

層序(基準線標高値42.60m) 1. 暗褐色土 RB少。2. 暗褐色土 RB多。3. 暗褐色土 RB含。4. 褐色土 粒状R混・RB含。

第38号住居跡

位置 4-46~48・66~68グリッド、形状 長方形、規模 5.16m×3.82m、主軸 北-65度-東。

第39号住居跡

39・40の2軒と住居跡が40住居跡の1軒としたため、欠番。

第40号住居跡

位置 1-33・34・53・54グリッド、形状 台形、規模 軸長6.34m×北壁3.8m・南壁2.9m、主軸 北-146度-東。

層序(基準線標高値42.70m) 1. 暗褐色 RB多・白色パミス混。2. 暗褐色 RB・白色パミス混。

3. 暗褐色 RB含・白色パミス混。4. 暗褐色 粒状R多・RB混・白色パミス含。

第41号住居跡

位置 5-41・42・61・62グリッド、形状 円形か、規模 径5.2m程か、主軸 北-23度-東。

層序(基準線標高値42.80m) 1. 暗褐色土 炭化物含・粒状焼土微。2. 暗褐色土 粒状R少・粒状焼土少。

遺構計測値・土層説明

第42号住居跡

位置 5-62・63グリッド。形状 不整形。規模 3.1m×2.8m。主軸 北-35度75分-東。
層序 (基準線標高値42.80m) 1. 暗褐色土 粒状R混。2. 暗褐色土 粒状R混・白色微粒子混。

第43号住居跡

位置 グリッド。層序 (基準線標高値42.30m) 1. 黒褐色 A s - B若。

第45号住居跡

位置 5-23・43グリッド。形状 縦長方形。規模 4.5+ α m×3.55m・カマド軸長1.2m・壁部幅1.4m・燃焼部幅0.4m。
構築基準辺 北壁。主軸 北-79度50分-東。
層序 (基準線標高値42.70m) 1. 暗褐色土 RB・粒状焼土混。2. 褐色 粒状焼土混 (壁崩壊土)。3. 焼土層。
4. 暗褐色土 粒状R混。5. 暗褐色土 RB多。6. 褐色 RB・塊状焼土・粒状焼土多。7. 褐色 RB・塊状焼土・粒状焼土混。

第46号住居跡

位置 5-184・185・204・205グリッド。形状 胴張隅丸方形。規模 3.42m×3.23m。主軸 北-44度-東。
層序 (基準線標高値42.70m) 1. 黒褐色 白色微粒子混。2. 暗褐色土 粒状R・白色微粒子混。

第47号住居跡

位置 5-205グリッド。形状 胴張隅丸方形か。規模 2.4+ α m×2.8m。

第48号住居跡

位置 3-357・358・377・378グリッド。形状 横長方形基調。規模 4.1+ α m×3.7+ α m。主軸 北-75度-東程か
層序 中世遺構の攪乱が著しいため、遺存が非常に悪い。覆土は、黒褐色土少礫を含む。

第49号住居跡

位置 3-377・378・397・398グリッド。形状 横長方形。規模 3.8m×2.64m。構築基準辺 西壁。主軸 北-79度-東。
層序 (基準線標高値42.60m) 1. 黒褐色 粒状焼土含・砂礫若。2. 黒褐色 RB多。

第50号住居跡

位置 4-127・128・147・148グリッド。形状 柄鏡形か。規模 軸長8.3m程か・径6.1m程か。主軸 北-5度-西程か。
層序 (基準線標高値43.10m) 1. 黒褐色 粒状焼土混・礫片 (炉石の風化岩片) 混。2. 黒褐色 粒状焼土混・礫片混・炭化物混。
3. 1近質。4. 黒褐色 粒状焼土多・礫片少・灰多。5. 黒褐色 粒状焼土多・塊状焼土含・灰多。
6. 黒褐色 塊状焼土混・小RB混・粒状焼土含。7. 黒褐色 塊状焼土・粒状焼土含。8. 黒褐色 塊状焼土多。
9. 8同質。10. 黒褐色 被熱RB多。

第51号住居跡

位置 4-125・126・145・146グリッド。規模 軸長6.6m・北西壁3.6m・南東壁4.65m。主軸 北-34度-西。
層序 (基準線標高値43.10m) 1. 黒褐色 RB主体・粒状R。2. 黒褐色 RB含・粗粒R混。3. 黒褐色 RB多。
4. 黒褐色 RB混・粒状焼土若。5. 黒褐色 RB混・粗粒R含。6. 暗褐色 粗粒多・粒状R混。7. 黒褐色 RB含・粒状R含。
8. 黒褐色 黒褐色 RB斑状。9. 黒褐色 RB主体・粗粒R混。10. 黒褐色 RB含。11. 黒褐色 RB多・粗粒R混。
12. 暗褐色 RB少・粗粒R少。13. 暗褐色 RB含・粒状R多。14. 黒褐色 RB混・粒状R含・粒状焼土少。15. 10近質。16. 近質。
17. 12近質。18. 13近質。19. 暗褐色 RB含・粒状R混。20. 暗褐色土 RB斑状・粒状R多。21. 暗褐色 粒状R少・炭化物少。
22. 暗褐色 RB混。23. 暗褐色 粒状R混・粗粒R含。

第53号住居跡

位置 4-223・224・243・244グリッド。形状 不整形 (方形基調)。規模 3.5+ α m×3.02+ α m。主軸 北-2度-西。
層序 (基準線標高値43.20m) 1. 黒褐色 塊状褐色土斑状・粒状R混。2. 黒褐色 塊状褐色土・混粒状R含。3. 黒褐色 粒状R含。
4. 黒褐色 RB含。

第54号住居跡

位置 4-222・223グリッド。形状 円形か。規模 径4.2m程か。
土坑層序 (基準線標高値43.10m) 1. 黒褐色 RB含 (242坑)。2. 黒褐色 RB・粗粒R含 (243坑)。
3. 黒褐色 粒状R少・粗粒R含 (243坑)。4. 黒褐色 粒状R・粗粒R含 (275坑)。5. 黒褐色 RB多。
6. 黒褐色 粗粒R含 (275坑)。7. 黒褐色 粗粒R含 (309坑)。8. 黒褐色 塊状褐色土・粗粒R含 (10P)。
9. 黒褐色 RB・粗粒R・粒状R含 (306坑)。10. 黒褐色 RB含・粒状R少 (307坑)。11. 黒褐色 RB多 (320坑)。
15. 黒褐色 RB多 (305坑)。

第55号住居跡

位置 4-164・165・184・185グリッド。形状 柄鏡形。規模 軸長7.34m×4.1m。主軸 北-38度-西。
層序 (基準線標高値43.00m) 1. 黒褐色 粒状焼土少・粒状R若干。2. 黒褐色 RB+褐色土の混土。3. 黒褐色 粒状R若。
4. 黒褐色 粒状R混。5. 黒褐色 粒状R混・RB少。6. 黒褐色 RB含。7. 暗褐色 RB混・粒状R多・炭化物多。
8. 暗褐色 粒状R含・炭化物含。9. 暗褐色 粒状R含・炭化物若。10. 暗褐色 粒状R少。11. 暗褐色 細粒R微・粒状焼土少・灰多。
15. 灰暗褐色 灰多。13. 暗褐色 粒状焼土混・炭化物含。14. 暗褐色 粒状焼土多・炭化物含・灰混。15. 赤橙褐色 ローム土の被熱。
16. 未注記

第56号住居跡

位置 4-182・183グリッド。形状・規模 詳細不詳。
土坑層序 (基準線標高値43.10m) 1. 暗褐色 RB含。2. 暗褐色 大RB多。3. 暗褐色 RB含・塊状褐色土多。(278坑)
1. 暗褐色 粒状R多。2. 暗褐色 粗粒R含。3. 暗褐色 塊状褐色土多。(280坑) 1. 暗褐色 粗粒R含。(294坑)
1. 暗褐色 RB含。2. 暗褐色 塊状褐色土多。(310坑) 1. 暗褐色 RB含・粗粒R含。(311坑)

第57号住居跡

位置 4-グリッド。形状 台形。規模 軸長7.24m×北壁3.9・南壁(5.5)m。主軸 北-14度25分-東。

第58号住居跡

位置 4-121・122グリッド。形状・規模 詳細不詳。

第59号住居跡

位置 4-122・123・142・143グリッド, 形状 隅丸正方形, 規模 5.46m×5.46m, 主軸 北-41度50分-東,

層序(基準線標高値43.00m) 1. 黒褐色 RB少・粗粒R含・粒状R少(層下にローム土の貼床)。

2. 黒褐色 粒状R若・白色微粒子含。3. 黒褐色 粗粒R含・粒状R若。4. 黒褐色 RB多・粗粒R多・粒状R含。
5. 黒褐色 粗粒R若・粒状R多。6. 黒褐色 RB含・粗粒R含・粒状R少。7. 黒褐色 粒状R多・RB若。8. 黒褐色 粒状R混。
9. 黒褐色 粗粒R微・粒状R微。10. 黒褐色 塊状褐色土多・RB含・粗粒多。11. 黒褐色 粒状R若。
15. 暗灰褐色 RB含・粒状R若・塊状褐色土含。13. 黒褐色 粗粒R若・粒状R多。14. 暗褐色 塊状褐色土多。

第60号住居跡

位置 4-106・107・126・127グリッド, 形状 台形か, 規模 4.4+ α m×3.0+ α m, 主軸 北-57度-西,

土坑層序(基準線標高値43.10m) 1. 黒褐色 RB含・粗粒R含。(123坑) 1. 黒褐色 RB多。(128坑)

1. 黒褐色 RB含・粗粒R含。(131坑) 1. 黒褐色 RB多。(263坑)

第61号住居跡

位置 4-222・223・242・243グリッド, 形状 円形か, 規模 径5.7m程か,

第62号住居跡

位置 4-121・122・141・142・グリッド, 形状 隅丸方形(台形気味), 規模 5.3m×北壁4.2m・南壁5.2m,

主軸 北-22度50分-西,

第63号住居跡

位置 1-78グリッド,

第64号住居跡

位置 4-121・122グリッド, 形状 台形か詳細不詳, 主軸 北-26度-東程か,

第65号住居跡

位置 8-12・13・9-392・393グリッド, 形状 縦長方形, 規模 5.34m×1.4+ α m, 主軸 北-92度-東,

層序(基準線標高値42.50m) 1. 黒褐色 粒状R・塊状焼土・粒状焼土多。2. 暗褐色 粒状焼土・粒状R・白色軽石混。

3. 暗褐色 RB・塊状焼土混。4. 暗褐色 RB混。5. 暗褐色 RJ多。
6. 暗褐色 RB多。7. 暗褐色 粒状R混。8. 暗褐色 RB・粒状焼土混。9. 暗褐色 RB多。10. 暗褐色 粒状R・粒状焼土多。
11. 暗褐色 粒状焼土・粒状粘土混。12. 黒褐色 粒状焼土・粒状粘土混。13. 暗褐色 粒状焼土・粒状R混。
14. 暗褐色 粒状R・粒状焼土含。15. 黒色・RB混土(掘り方埋土)。16. 黒褐色 RB混。17. 暗褐色 粒状R・粒状焼土混。
18. 褐色 RB多。19. 暗褐色 粒状R・粒状焼土混。20. 暗褐色 粒状R・炭化物含。21. 暗褐色 粒状R粒状焼土混(65住居跡)。
22. RB(貼床)。23. 黒色・RB混土(掘り方埋土)。24. 17同質。25. 18近質。26. 23同質。

第66号住居跡

位置 9-372・373・392・393グリッド, 形状 縦長方形, 規模 6.7m×5.36m, 主軸 北-94度50分-東,

第67号住居跡

位置 9-373・374・393・394グリッド, 形状 縦長方形, 規模 5.4m×4.12m, 主軸 北-102度50分-東,

第68号住居跡

位置 9-354~356・374~376グリッド, 形状 縦長方形, 規模 6.73m×4.66m・カマド軸長1.17m・壁部幅1.5m・燃焼部幅0.78m

構築基準辺 南壁, 主軸 北-91度-東

層序(基準線標高値42.40m) 1. 暗褐色 粒状R多・粒状焼土混。2. 黒褐色 塊状焼土・炭化物多。3. 黒褐色 粒状焼土若。

4. 暗褐色 RB含・粒状R混。5. 暗褐色 4同質。6. 69住居跡床(古期)。7. 暗褐色 粒状R・粒状焼土含。
8. 暗褐色 RB多。9. 暗褐色 RB多・粒状R多。10. 暗褐色 RB主体(人為層)。11. 黒色 RB多(人為)。
12. 暗褐色 粒状R・粒状焼土混。13. 暗褐色 粒状R混。14. 暗褐色 粒状焼土多。15. 暗褐色 貼床(上位R・下位黒褐色土)。
16. 暗褐色 14近質(下面古期床)。17. 赤褐色 焼土(カマド崩壊土)。18. 15同質。19. 黒色土 RB多(人為)。
20. 黒色土 RB混(人為)。21. 黒色土 貼床(上位黒色土・下位R)。22. 黒色土 貼床。23. 黒色土 貼床(上位黒色土・下位R)。24.
黒色土・焼土の互層。25. 黒色土 粒状焼土・RB混。26. 赤褐色土 焼土。27. 暗褐色 RB・粒状焼土・炭化物混。
28. 黒褐色 RB多・塊状焼土少。29. 黒色土・焼土の互層。30. 黒色土 RB斑状。31. 黒色土 RB斑状。32. 掘方土。

第69号住居跡

位置 9-355・356・375・376グリッド, 形状 正方形か, 規模 7.0m×7.0m程か, 主軸 北-90度-東程か,

第70号住居跡

位置 9-306・307グリッド, 形状 縦長方形か, 規模 3.45m×2.04+ α m, 主軸 北-81度-東,

層序(基準線標高値43.00m) 1. 黒褐色 RB斑・小RB含・粒状R混(中世)。2. 黒褐色 粒状R少。

3. 黒褐色 RB多・塊状暗褐色含。4. 暗褐色 RB含・粒状R含。5. 暗褐色 RB多・塊状暗褐色含。6. RB。
7. 黒色・RB混土(掘り方埋土)。

第71号住居跡

位置 9-288・289グリッド, 形状 矩形か, 規模 3.1m×2.6+ α m・カマド軸長0.7m・壁部幅1.04m・燃焼部幅0.5m,

軸 北-82度50分-東,

層序(基準線標高値42.50m) 1. 暗褐色 粒状R含・粗粒R含。2. 暗褐色 粒状R多・RB少。

3. 暗褐色 粗粒R・粒状R含・RB少。4. 暗褐色 RB少・粗粒R少。5. 暗褐色 粒状R含・粗粒R少。6. 5同質。
7. 暗褐色 粒状R含・粗粒R若・粒状焼土少。8. 暗褐色 RB含・粒状R混・粗粒R少。
9. 暗褐色 粒状R含・粗粒R若・粒状焼土多。10. 暗褐色 粒状焼土多・炭化物含・粒状R混。11. 暗褐色 粒状R混。
12. 暗褐色 RJR多・粒状焼土少。13. 暗褐色 粒状R・粒状焼土多。14. 暗褐色 粒状焼土多・RB混・粒状R含・炭化物混。
15. 黒色・RB混土(掘り方埋土)。

第72号住居跡

位置 9-265・284・286グリッド, 形状 縦長方形基調, 規模 4.0m×3.54m・カマド軸長0.67m・壁部幅1.2m・燃焼部幅0.28m,

遺構計測値・土層説明

構築基準辺 中軸線上か、主軸 北-80度-東、

層序 (基準線標高値42.60m) 1. 暗褐色 粒状R多・粗粒R含・粒状焼土多・粗粒炭化物含。

2. 暗褐色 粒状焼土多・粒状R含・RB含。3. 暗褐色 粒状焼土多・RB含・炭化物若。

4. 暗褐色 粒状焼土混・粒状R含・炭化物含(2期)。5. 暗褐色 黒褐色・RBの混土(貼床)。6. 暗褐色 粗粒R・粒状R含。

7. 5同質。8. 塊状焼土・RB・塊状暗褐色の混土。9. 黒色・RB混土(掘り方埋土)。伊, 1期掘り方埋土。呂, 2期掘り方埋土。

第73号住居跡

位置 9-281グリッド, 形状 縦長方形, 規模 4.0m×3.4m・カマド軸長1.5m・壁部幅0.59m・燃焼部幅1.25m。

構築基準辺 西壁, 主軸 北-87度-東

層序 (基準線標高値42.70m) 1. 暗褐色 細粒状R多。2. 暗褐色 粒状R多・粗粒R多・RB含。3. 暗褐色 粒状R多・粗粒R含。

4. 暗褐色 粒状R含。5. 暗褐色 粒状R多・粗粒R少。6. 黒褐色 粒状焼土多・粒状R含・粗粒R含(ピット)。

7. 暗褐色 粒状焼土多・粒状R含・粗粒R少。8. 暗褐色 粒状焼土多・粒状R含・粗粒R多・灰多。9. 暗褐色 塊状焼土・炭化物含。

第74号住居跡

位置 7-277・278・297・298グリッド, 形状 縦長方形, 規模 3.78m×2.8m・カマド軸長0.77m・壁部幅1.4m・燃焼部幅0.55m。

構築基準辺 北壁乃至南壁 主軸 北-96度-東

層序 (基準線標高値42.80m) 1. 暗褐色 粒状R混。2. 暗褐色 粒状R・RB多。3. 暗褐色 RB混(硬質)。

4. 暗褐色 粒状R少・粒状焼土少・塊状粘土少。5. 黒色 粒状焼土混粒状R混。6. 褐色 粒状焼土多。

7. 暗褐色 粒状焼土混・炭化物含・RB含。8. 黒色・RB混土(掘り方埋土)。

第75号住居跡

位置 6-256・257・276・277グリッド, 形状 縦長方形, 規模 3.98m×2.94m・カマド軸長0.8m・壁部幅0.86m・燃焼部幅0.54m。

構築基準辺 北壁, 主軸 北-90度-東。

層序 (基準線標高値42.60m) 1. 暗褐色 粒状R混。2. 暗褐色 粒状焼土・粒状R混。3. 暗褐色 粒状R・粒状焼土多。

4. 暗褐色 粒状焼土混。5. 暗褐色 RB多。6. 黒色・RB混土(掘り方埋土)。

第76号住居跡

位置 6-297・298グリッド, 形状 縦長方形, 規模 3.3m×2.8m・カマド軸長1.42m・壁部幅0.85m・燃焼部幅0.42m。

構築基準辺 東壁乃至北壁, 主軸 北-99度50分-東。

層序 (基準線標高値42.80m) 1. 暗褐色 RB斑状多。2. 暗褐色 RB主体。3. 暗褐色 RB主体。4. 暗褐色 RB混。

5. 暗褐色 粒状R多。6. 暗褐色 RB・粒状R多。7. 暗褐色 RB多・粒状焼土少・炭化物微。8. 黒色・RB混土(掘り方埋土)。

第77号住居跡

位置 9-333・334グリッド, 形状 正方形か, 規模 2.6m×3.0m, 主軸 北-90度-東程か。

第78号住居跡

位置 9-334グリッド, 形状 縦長方形, 規模 3.38m×2.9m, 主軸 北-85度-東。

第79号住居跡

位置 9-332~334・352~354グリッド, 形状 縦長方形, 規模 7.06m×5.6m, 主軸 北-90度-東程か。

第80号住居跡

位置 9-332・334グリッド 形状・規模 詳細不詳

層序 (基準線標高値42.50m) 1. 暗褐色 粒状焼土・塊状粘土混。2. 暗褐色 塊状焼土・粒状焼土多。3. 暗褐色。4. 灰層。

5. 黒色・RB混土。

第82号住居跡

位置 9-354~356・374~376グリッド, 形状 縦長方形か, 規模 3.6+ α m×4.0m, 主軸 北-90度-東程か。

第83号住居跡

位置 8-30・50グリッド, 形状 横長方形, 規模 5.0m×3.54m・カマド軸長1.7m・壁部幅1.0m・燃焼部幅0.52m。

構築基準辺 西壁, 主軸 北-90度-東。

層序 (基準線標高値42.90m) 1. 暗褐色 粒状焼土多・粒状R含・炭化物少。2. 暗褐色 粒状R含・粗粒R少。

3. 暗褐色 小RB含・粗粒R混・粒状R多。4. 暗褐色 粒状R少・粗粒R少。5. 暗褐色 粒状R多。6. 褐色 粒状R・粒状焼土多。

7. 塊状焼土・灰の混土。8. 灰層。9. 暗褐色 塊状焼土・RB含。10. 暗褐色 RB多・粗粒R混。

11. 黒色・RB混土(掘り方埋土)。

第84号住居跡

位置 8-46・47・66・67グリッド, 形状 矩形, 規模 3.93m×3.76m・カマド軸長1.3m・壁部幅1.5m・燃焼部幅0.63m。

構築基準辺 北乃至西壁, 主軸 北-94度-東。

層序 (基準線標高値42.70m) 1. 暗褐色 粒状R含・粒状焼土少・小粒状RB若。2. 暗褐色 粒状R混・炭化物若。

3. 暗褐色 粗粒R・粒状R含。4. 暗褐色 粒状焼土若・粒状R含。5. 暗褐色 粒状焼土含。6. 暗褐色 塊状焼土多・RB若。

7. 暗褐色 塊状焼土・粒状焼土少・RB含。8. 黒色 灰層とRBの混土。伊, 2期焚口底面。9. 褐色 粒状R・粒状焼土多。

10. 黒色 粒状焼土・粒状R混。11. 黒色 RB多。呂, 1期焚口底面。12. 黒色 RB・塊状焼土多。13. 黒色・RB混土(掘り方)。

第15号掘立柱建物跡

14. 暗褐色 粗粒R混・小RB微。15. 暗褐色 RB含・粒状R混。16. 暗褐色 粒状R混・粒状焼土少。17. 暗褐色 粒状R多。

18. 暗褐色 粒状R含・粗粒R少。19. 暗褐色 RB含。

第85号住居跡

位置 8-63・83グリッド, 形状 横長方形, 規模 3.1m×2.4m・カマド軸長0.83m・壁部幅0.95m・燃焼部幅0.52m。

構築基準辺 西壁, 主軸 北-96度-東。

層序 (基準線標高値42.70m) 1. 暗褐色 粗粒R・RB多・粒状R混。2. 暗褐色 白色微粒子多・粒状R多。

3. 暗褐色 RB・粗粒R・粒状R多・粒状焼土含。4. 暗褐色 粗粒R多粒状R混。5. 攪乱。6. 暗褐色 粒状焼土含・粒状R含。

7. 暗褐色 炭化物含・塊状焼土多。8. 黒色 RB混・粒状焼土多。9. 黒色・RB混土(掘り方埋土)。

第86号住居跡

位置 8-24・44グリッド、形状 横長方形、規模 4.22m×3.08m・カマド軸長0.89m・壁部幅0.72+ α m・燃焼部幅0.5m、

構築基準辺 不詳、主軸 北-88度-東程か、

層序 (基準線標高値42.70m)

- (第87号住居跡) 1. 暗褐色 細粒状R含・粒状焼土少。2. 暗褐色 粒状R少・粒状焼土若。
3. 暗褐色 粗粒R若・小R B微・粒状R含・粒状焼土若。4. 暗褐色 粒状R混・粒状焼土含。
5. 暗褐色 粒状R少・粒状焼土微・R B若。6. 暗褐色 粒状R混・R B含。7. 暗褐色 粗粒R少。
8. 暗褐色 粗粒状焼土・粒状焼土多。9. 塊状焼土層
(第96号住居跡) 10. 暗褐色 粒状R・粒状焼土多。11. 暗褐色 粒状R・R B少。12. 暗褐色 粒状R混。13. 暗褐色 R B多。
14. 暗褐色 粒状R・R B・粒状焼土混。15. 暗褐色 粒状焼土少。16. 暗褐色 粗粒状焼土・粒状焼土多・塊状焼土含。
17. 暗褐色 灰層。18. 暗褐色 R B・塊状焼土含。19. 暗褐色 粒状R少・粒状焼土微 (古期掘り方)。20. 黒色・R B混土 (掘り方)。

第87号住居跡

位置 5-39・40・59・60グリッド、形状 縦長方形、規模 3.74m×2.73m・カマド軸長0.86m・壁部幅1.18m・燃焼部幅0.56m、

構築基準辺 北壁、主軸 北-81度-東、

層序 (基準線標高値42.70m) 1. 暗褐色 粒状R少。2. 暗褐色 粒状R多・粒状焼土若・粗粒状R含。

3. 暗褐色 R B混・粗粒状R多・粒状R多。4. 暗褐色 粒状R若。5. 暗褐色 粗粒状R若。6. 暗褐色 R B混。
7. 暗褐色 粒状粒状微・粗粒状R少。8. 暗褐色 塊状焼土多。9. 灰・炭化物層。10. 暗褐色 塊状焼土含・R B若。
11. 黒色・R B混土 (掘り方埋土)。

第88号住居跡

位置 38・39・59グリッド、形状 縦長方形、規模 4.4m×3.24m・カマド軸長10.8m・壁部幅0.64m・燃焼部幅1.20m、

構築基準辺 南壁、主軸 北-97度50分-東、

層序 (基準線標高値42.80m) 1. 暗褐色 粒状R少・粒状焼土少。2. 暗褐色 粒状R若・粒状焼土少。

3. 粒状粒状混・粗粒状粒状少・粒状焼土少。4. 暗褐色 粒状R多・粒状焼土少。5. 暗褐色 粒状R含。6. 暗褐色 粒状焼土混。
7. 暗褐色 塊状焼土含・粒状焼土多。8. 赤橙褐色 被熱層。9. 黒色・R B混土 (掘り方埋土)。

第89号住居跡

位置 5-9・10・19・20グリッド、形状 縦長方形、規模 6.169m×4.38m・カマド軸長1.29m・壁部幅2.08m・燃焼部幅0.68m、

構築基準辺 北壁、主軸 北-92度75分-東、

層序 (基準線標高値42.80m) 1. 暗褐色 細粒状R含・粒状焼土少。2. 暗褐色 粒状R多・粒状焼土含・粗粒状R少。

3. 暗褐色 粒状R微・粒状焼土若・塊状黒色土含。4. 暗褐色 粒状R多・粒状焼土少。5. 暗褐色 粒状R含・粒状焼土少。
6. 暗褐色 粒状R含・粗粒状R含。7. 暗褐色 粒状焼土混・粗粒状R多。8. 暗褐色 粒状焼土・塊状焼土主体。9. 灰層。
10. 暗褐色 粒状焼土・R B含・粒状R多。11. 黒色・R B混土 (掘り方埋土)。

第90号住居跡

位置 8-2・3・9-382・383グリッド、形状 横長方形、規模 5.98m×4.57m・カマド軸長1.23m・壁部幅1.74m・燃焼部幅0.36m、

構築基準辺 北壁、主軸 北-7度50分-西、

層序 (基準線標高値42.70m)

1. 暗褐色 粒状R・R B多。2. 暗褐色 R B少。3. 暗褐色 R B多。4. 暗褐色 粒状R・R B混。
5. 暗褐色 黒色・R B混土。6. 暗褐色 R B多。7. 暗褐色 粒状焼土少・粒状R混・粗粒状R含。
8. 暗褐色 塊状焼土含・粒状焼土混。9. 暗褐色 塊状焼土含・粒状焼土混・炭化物含。
10. 暗褐色 R B少・粗粒状R含・粒状焼土少。11. 黒色・R B混土 (掘り方埋土)。

第91号住居跡

位置 9-322・323グリッド、形状 縦長方形、規模 4.78m×3.00m・カマド軸長1.07m・壁部幅1.20m・燃焼部幅0.43m、

構築基準辺 南壁、主軸 北-82度25分-東、

層序 (基準線標高値42.70m) 1. 暗褐色 粒状R混・粒状焼土少。2. 暗褐色 粒状R多・粗粒状R多・粒状焼土若。

3. 暗褐色 小R B少・粒状R混。4. 暗褐色 粗粒状R混・粒状R混・粒状焼土少。5. 暗褐色 小R B混・粗粒状R多・粒状R混。
6. 暗褐色 粗粒状R混・粒状R混・炭化物小。7. 暗褐色 暗褐色 粒状R混・粒状焼土微。
8. 暗褐色 粗粒状R多・小R B含・粒状焼土混。9. 暗褐色 R B主体。10. 暗褐色 粗粒状焼土・粒状焼土多・粗粒状R多。
11. 暗褐色 粒状焼土多・R B多。12. 暗褐色 粒状焼土混・塊状焼土混。13. 黒色・R B混土 (掘り方埋土)。

第92号住居跡

位置 6-339・358・359グリッド、形状 正方形、規模 5.2m×5.1m・カマド軸長1.05m・壁部幅1.26m・燃焼部幅0.57m、

構築基準辺 南西壁、主軸 北-43度50分-東、

層序 (基準線標高値42.80m) 1. 暗褐色 粒状R混。2. 暗褐色 R B混。3. 暗褐色 粒状焼土混・塊状焼土含。4. 暗褐色 R B主。

5. 暗褐色の被熱層。6. 暗褐色 粒状焼土混。7. 暗褐色 R B混。8. 黒色・R B混土 (掘り方埋土)。

第93号住居跡

位置 6-319・339グリッド、形状 縦長方形、規模 3.7m×2.52m・カマド軸長1.35m・壁部幅1.42m・燃焼部幅0.6m、

構築基準辺 北壁、主軸 北-86度-東、

層序 (基準線標高値42.70m) 1. 黒褐色 粗粒状R含 (近世土坑)。2. 暗褐色 粒状R若。3. 暗褐色 粒状R含・粗粒状R含。

4. 暗褐色 R B少・粒状R少。5. 暗褐色 粒状R少。6. 暗褐色 粒状R少・R B少。7. 暗褐色 粗粒状R含・粒状焼土少。
8. 暗褐色 粒状焼土含・粒状R微。9. 暗褐色 粒状焼土微。10. 暗茶褐色 R B混。11. 暗褐色 粒状焼土混。
12. 黒色・R B混土 (掘り方埋土)。

第94号住居跡

位置 8-6・7・26・27グリッド、形状 縦長方形、規模 4.4m×3.63m・カマド軸長0.96m・壁部幅1.26m・燃焼部幅0.52m、

構築基準辺 北壁か、主軸 北-85度-東、

遺構計測値・土層説明

層序 (基準線標高値42.60m)

- (94住) 1. 暗褐色 粗粒状R混・粒状R少。2. 暗褐色 粒状焼土含・粒状R少。3. 暗褐色 粒状R若・粒状焼土若。
4. 暗褐色 粒状焼土若・粒状R少・炭化物若。5. 攪乱。6. 暗褐色 RB含・粒状R少。7. 暗褐色 粒状R少。
8. 暗褐色 粒状焼土・粒状R混。9. 暗褐色 粒状焼土・RB多。10. 1近質(9層間に灰層)。
11. 暗褐色 塊状焼土含・粒状焼土多・粒状R含。
(98住) 12. 暗褐色 粒状R含・粗粒状R含。13. 暗褐色 RB王・塊状黒色土含。14. 暗褐色 粗粒R含・粒状R少。
15. 暗褐色 粒状R含。16. 暗褐色 RB含・粒状R含。17. 暗褐色 RB多・粒状R少。18. 黒色・RB混土(掘り方埋土)。
19. 暗褐色 塊状焼土・塊状灰混(94住の攪乱顕著)。20. 暗褐色 RB・塊状焼土含。21. 暗褐色 RB多・塊状焼土含。

第95号住居跡

位置 8-6グリッド, 形状 縦長方形, 規模 3.76m×3.10(2.8)m・カマド軸長1.29m・壁部幅1.05m・燃焼部幅0.67m,
構築基準辺 南壁か, 主軸 北-84度一東。

- 層序 (基準線標高値42.60m) 1. 暗褐色 粗粒状R微・粒状R多。2. 暗褐色 粒状R多。3. 暗褐色 粗粒状R多・粒状R多。
4. 暗褐色 粒状焼土若・粗粒状R多。5. 暗褐色 粒状焼土含・塊状焼土含・炭化物少。6. 暗褐色 粒状焼土少・RB多。
7. 暗褐色 小RB含・粗粒状R含・粒状R多。8. 暗褐色 小RB・RB含・粗粒状R含・粒状R多。

第96号住居跡

位置 8-23・24・43・44グリッド, 形状 縦長方形, 規模 5.22m×4.26m・カマド軸長1.00m・壁部幅1.5m・燃焼部幅0.75m,
構築基準辺 北壁, 主軸 北-90度一東。

第97号住居跡

位置 8-5・6・9-385・386グリッド, 形状 縦長方形か,
規模 1.8+αm×3.19m, カマド軸長1.30m・壁部幅1.00m・燃焼部幅0.57m 主軸 北-67度一東程か

- 層序 (基準線標高値42.70m) 1. 暗褐色 粒状R多・粒状焼土少。2. 暗褐色 塊状焼土少・粒状焼土多。

第98号住居跡

位置 8-6・7・26・27グリッド, 形状 矩形, 規模 5.9m×4.4m, カマド軸長1.02m?・壁部幅1.22m・燃焼部幅0.82m?
構築基準辺 北壁 主軸 北-85度一東

第99号住居跡

位置 8-5・6・25・26グリッド, 形状 楕円形, 規模 7.6m×6.1m, 主軸 北-53度一西。

- 層序 (基準線標高値42.70m) 1. 黒褐色 白色軽石少。2. 暗黄褐色。3. 暗黄褐色 2より発色明。4. 暗褐色(粘質)RB少。
5. 黒褐色 RB少。6. 黒褐色 粒状R混・小RB今。7. 暗褐色 RB含・粒状R多。8. 暗褐色 粒状R混。9・10. 未注記。

第100号住居跡

位置 9-221・222・241~246グリッド, 形状 縦長方形, 規模 5.31m×4.01m・カマド軸長1.48m・壁部幅1.34m・燃焼部幅0.67m,
構築基準辺 北西壁乃至南東壁, 主軸 北-25度一東。

- 層序 (基準線標高値42.50m) 1. 暗褐色 細粒状R多。2. 暗褐色 粒状R多・粗粒状R多。3. 暗褐色 細粒状R混。4. 暗褐色 塊状
黒色土多。5. 暗褐色 細粒状R混。6. 暗褐色 塊状焼土・塊状粘土混。7. 暗褐色 塊状焼土多・粒状焼土多。
8. 暗褐色 RB含・粒状焼土混。9. 黒色・RB混土(掘り方埋土)。

第101号住居跡

位置 9-223グリッド, 形状 縦長方形, 規模 3.23m×2.53m・カマド軸長0.94m・壁部幅0.92m・燃焼部幅0.45m,
構築基準辺 西壁乃至北壁, 主軸 北-85度一東。

- 層序 (基準線標高値42.60m) 1. 暗褐色 粒状R混。2. 暗褐色 粒状R含。3. 暗褐色 粒状R多。4. 暗褐色 3同質。
5. 黒色 RB混。6. 暗褐色 RB混。7. 暗褐色 塊状焼土多。8. 暗褐色 粒状焼土小。9. 暗褐色 塊状焼土RB混。
10. 暗褐色 RB・粒状R混。11. 黒色・RB混土(掘り方埋土)。

第102号住居跡

位置 9-223・224グリッド, 形状 正方形, 規模 2.07m×1.93m・カマド軸長0.78m・壁部幅0.8m・燃焼部幅0.44,
構築基準辺 西壁, 主軸 北-71度一東。

- 層序 (基準線標高値42.60m) 1. 暗褐色 粒状R・RB多。2. 暗褐色 粒状焼土小。3. 褐色 RB混・粒状R含。
4. 黒色・RB混土(掘り方埋土)。

第103号住居跡

位置 9-183・184・203・204グリッド, 形状 縦長方形, 規模 4.36m×3.15m・カマド軸長1.37m・壁部幅1.13m・燃焼部幅0.52m,
構築基準辺 北壁, 主軸 北-73度一東。

- 層序 (基準線標高値42.60m) 1. 暗褐色 粒状R混。2. 黒色 RB少。3. 暗褐色 粒状R混。4. 褐色 粒状R・RB多。
5. 暗褐色 RB混・粒状R含・炭化物含。6. 暗褐色 粒状R・RB多。7. 黒色・RB混土(掘り方埋土)。8. 暗褐色 粒状焼土混。
9. 暗褐色 粒状R・粗粒状R多。

第104号住居跡

位置 9-205・224・225グリッド, 形状 縦長方形, 規模 4.6m×2.66m・カマド軸長1.96m・壁部幅1.34m・燃焼部幅0.6m,
構築基準辺 西壁乃至北壁, 主軸 北-78度一東。

- 層序 (基準線標高値42.70m) 1. 暗褐色 粒状R多。2. 暗褐色 RB多。3. 暗褐色 RB多・塊状黒色多。4. 褐色 粒状R多。
5. 褐色 RB多。6. 暗褐色 粒状焼土多・塊状灰褐色粘土多。7. 暗褐色 粒状焼土多。8. 暗褐色 塊状焼土含(改築以前の旧壁)。
9. 暗褐色 塊状焼土混・塊状粘土多。10. 暗褐色 塊状焼土混。11. 黒色・RB混土(掘り方埋土)。

第105号住居跡

位置 9-204・205・224・225グリッド, 形状 正方形か, 規模 5.0m×5.18m, 主軸 北-43度一東。

- 層序 (基準線標高値42.60m) 1. 黒色 白色軽石混。2. 暗褐色 粒状R混。3. 暗褐色 粒状R・RB混。4. 暗褐色 RB混。
5. 暗褐色 粒状R多。6. 暗褐色 3近質。7. 黒色・RB混土(掘り方埋土)。

第106号住居跡

位置 9-226グリッド。形状 縦長方形。規模 3.23m×2.66m・カマド軸長0.9m・壁部幅0.92m・燃焼部幅0.45m。

構築基準辺 北壁か。主軸 北-94度50分-東

層序 (基準線標高値42.60m)

(106住) 1. 暗褐色 粒状焼土含・粒状R少・炭化物少。2. 暗褐色 粗粒状焼土含・粒状R混・炭化物含。3. 暗褐色 粒状R混。
4. 暗褐色 粗粒状焼土少・粒状R若。5. 暗褐色 細粒状焼土若・粒状R微。6. 黒色・RB混土 (掘り方埋土)。
(172住) 7. 暗褐色 粗粒状R含。8. 暗褐色 小RB含・粒状R多。9. 黒色・RB混土 (掘り方埋土)。10. 9同質。
(177住) 11. 黒色・RB混土 (掘り方埋土)。伊, 106住床面。呂, 106住掘り方底面。波, 172住掘り方底面。仁, 172住掘り方底面。
保, 177住掘り方底面。

第107号住居跡

位置 9-227グリッド。形状 横長方形。規模 3.76m×4.23m・カマド軸長1.28m・壁部幅1.10m・燃焼部幅0.5m。

構築基準辺 西壁。主軸 北-92度25分-東。

層序 (基準線標高値42.60m) 1. 暗褐色 粒状R・RB混。2. 暗褐色 粒状焼土少。3. 暗褐色 粒状焼土・塊状焼土混。

4. 暗褐色 粒状焼土混。5. 黒色 RB少。6. 暗褐色 RB混。

第108号住居跡

位置 9-246・267グリッド。形状 正方形。規模 2.75m×2.9m・カマド軸長1.32m・壁部幅0.95m・燃焼部幅0.38m。

構築基準辺 南壁。主軸 北-85度50分-東。

層序 (基準線標高値42.80m) 1. 暗褐色 RB斑状多。2. 暗褐色 粒状R混。3. 暗褐色 RB含・粒状焼土少。

4. 暗褐色 塊状焼土含・粒状焼土混・RB少。5. 暗褐色 黒色・RB混土 (掘り方埋土)。

第109号住居跡

位置 9-187・188・207・208グリッド。形状 横長方形。規模 4.3m×7.2m・カマド軸長0.74m・壁部幅0.65m・燃焼部幅0.93m。

構築基準辺 東壁乃至北壁。主軸 北-86度50分-東。

層序 (基準線標高値42.50m) 1. 黒色・RB混土。2. 暗褐色 粒状R・粒状焼土混。3. 暗褐色 RB混。

4. 暗褐色 粒状R・RB混。5. 暗褐色 RB含。6. 暗褐色 粒状焼土少・塊状粘土混。7. 暗褐色 粒状焼土多・粒状R多。

8. 黒色 塊状焼土多。9. 暗褐色 塊状焼土・RB・粒状R多。10. 暗褐色 粒状焼土多。11. 暗褐色 粒状R・粒状焼土多。

12. 暗褐色 RB多。13. 黒色・RB混土 (掘り方埋土)。

第110号住居跡

位置 9-189・190・209・210グリッド。形状 縦長方形。規模 5.5m×4.28m・カマド軸長1.50m・壁部幅1.10m・燃焼部幅0.6m。

構築基準辺 北壁乃至南壁。主軸 北-76度50分-東。

層序 (基準線標高値42.50m) 1. 黒色 粒状R少。2. 暗褐色 粒状R・RB・塊状黒土多。3. 黒色 RB混。4. 暗褐色 RB混。

5. 暗褐色 粒状R混。6. 暗褐色 粒状焼土混。7. 暗褐色 RB混。8. 暗褐色 粒状R混。9. 黒色・RB混土 (掘り方埋土)。

第111号住居跡

位置 9-229・230・249・250グリッド。

形状 正方形。規模 5.3m×5.25m・カマド軸長1.05m・壁部幅1.01m・燃焼部幅0.52m。主軸 北-41度50分-東。

層序 (基準線標高値42.50m) 1. 暗褐色 粒状R少。2. 黒色 白色軽石混。3. 暗褐色 粒状R多・粒状焼土混。

4. 暗褐色 粒状R混。5. 暗褐色 粒状R・粒状焼土混・塊状灰褐色粘土混。6. 暗褐色 塊状焼土・粒状焼土多。

7. 褐色 (粘質) 粒状R・RB・塊状焼土多。8. 暗褐色 RB少。9. 暗褐色 (粘質) 塊状焼土少・RJ R混。

10. 暗褐色 RB混。11. 黒色・RB混土 (掘り方埋土)。

第112号住居跡

位置 9-210・230グリッド。形状 横長方形。規模 3.52m×3.95+αm・カマド軸長1.15m・壁部幅1.26m・燃焼部幅0.66m。

構築基準辺 北か壁。主軸 北-1度25分-東。

層序 (基準線標高値42.50m) 1. 暗褐色 粒状R混。2. 暗褐色 粒状R・粒状焼土少。3. 暗褐色 RB・粒状R斑状多。

4. 黒色 粒状R混。5. 4同質。6. 暗褐色 粒状焼土・粒状R多。7. 暗褐色 粒状焼土・塊状焼土多。

8. 暗褐色 粒状焼土・粒状R混。9. 黒色・RB混土 (掘り方埋土)。

第113号住居跡

位置 9-149・150・169・170グリッド。形状 隅丸正方形。規模 4.12m×4.37m・カマド軸長0.84m・壁部幅0.92m・燃焼部幅0.56m

構築基準辺 北東壁か。主軸 北-50度50分-東。

層序 (基準線標高値42.40m) 1. 暗褐色 粒状R・粒状焼土少。2. 暗褐色 RB多斑状。3. 黒色 RB多。

4. 暗褐色 RB混粒状・粒状焼土少。5. 暗褐色 粒状R多。6. 暗褐色 粒状R混。7. 暗褐色 RB多。8. 黒色・RB混土。

9. 暗褐色 粒状R多。10. 黒色・RB混土 (掘り方埋土)。伊, 暗灰褐色粘質土 粗粒軟質暗黄色凝灰岩含。呂, 暗褐色 塊状焼土多。

波, 暗褐色 塊状焼土多・塊状黒色含。仁, 暗褐色 塊状焼土多・粒状焼土多。保, 黒色 炭化物混・粒状焼土多。

部, 伊同質。止, 暗褐色 RB多。

第114号住居跡

位置 9-147・148・167・168グリッド。形状 縦長方形。規模 6.38m×3.68m・構築基準辺 南壁。主軸 北-83度-東。

第115号住居跡

位置 9-106・107・126・127グリッド。形状 横長方形。規模 3.39m×4.62m・カマド軸長2.08m・壁部幅0.54m・燃焼部幅1.07m。

構築基準辺 西壁。主軸 北-105度25分-東。

層序 (基準線標高値42.40m)

(12号堅穴状遺構) 1. 黒色 B軽石含・RB多。2. 黒色 B軽石含・粒状R多。3. 黒色 B軽石含・粒状R少。

4. 黒色 B軽石含・粒状R少・粒状焼土若。5. 黒色 B軽石含・RB混・炭化物多。6. 黒色 B軽石含・粒状R多・灰多。

(115住) 7. 暗褐色 粒状R多。8. 暗褐色 粒状R・粒状焼土多。9. 暗褐色 塊状焼土多。10. 暗褐色 RB多。

11. 黒色・RB混土 (掘り方埋土)。

遺構計測値・土層説明

第116号住居跡

位置 9-89・90・109・110グリッド, 形状 矩形, 規模 4.32m×4.17m・カマド軸長1.23m・壁部幅1.06m・燃焼部幅0.65m,

構築基準辺 北壁, 主軸 北-90度一東,

層序(基準線標高値42.40m) 1. 暗褐色 粒状R・RB混。2. 黒褐色 粒状R・RB混。3. 暗褐色 RB混。4. 褐色 粒状R混。5. 4同質。6. 暗褐色 RB混・粒状焼土含。7. 黒色・RB混土(掘り方埋土)。

第117号住居跡

位置 9-78・98・99グリッド, 形状 縦長方形, 規模 4.05m×3.32m・カマド軸長1.19m・壁部幅0.58m・燃焼部幅1.28m,

構築基準辺 北壁, 主軸 北-101度一東,

層序(基準線標高値42.40m) 1. 暗褐色 粒状R混・粗粒状R少・RB若。2. 暗褐色 細粒状R含。3. 暗褐色 RB・粒状R含。4. 暗褐色 粒状焼土含・粗粒状R混。5. 赤褐色 炭化物少・塊状焼土少。6. 暗褐色 塊状焼土混・粗粒多・RB混。7. 黒色・RB混土(掘り方埋土)。

第118号住居跡

位置 9-66・67・86・87グリッド, 形状 横長方形, 規模 3.13m×4.18m・カマド軸長1.14m・壁部幅1.44m・燃焼部幅0.47m,

構築基準辺 北・西壁か, 主軸 北-95度25分一東,

層序(基準線標高値42.60m) 1. 黒褐色 粒状R混。2. 黒褐色 粒状R含。3. 黒褐色 小RB少・粒状R含。4. 暗褐色 粒状焼土混。5. 暗褐色 塊状焼土混。6. 暗褐色 塊状焼土混・白色粘土(カマド材)混。7. 暗褐色 粒状R混。8. 暗褐色 粒状R・粒状焼土混・炭化物含。9. 暗褐色 粒状焼土・RB多。10. 暗褐色 粒状焼土少。11. 赤褐色 被熱焼土層。12. 暗褐色 粒状焼土混。13. 暗褐色 RB主。14. 暗褐色 RB含。15. 暗褐色 炭化物含。16. 暗褐色 塊状焼土・少塊状白色粘土含。17. 暗褐色 暗褐色 塊状焼土混。18. 褐色 粒状焼土多。19. 暗褐色 粒状焼土含。20. 暗褐色 硬質RB混。21. 暗褐色 粒状焼土少。22. 20同質。23. 赤橙褐色 被熱地山層。24. 暗褐色 粒状焼土少。25. 20同層。26. 暗褐色 RB・粒状焼土多(掘り方)。27. 黒色・RB混土(掘り方埋土)。

第119号住居跡

位置 9-47・68グリッド, 形状 縦長方形, 規模 3.93m×3.02m・カマド軸長0.8m・壁部幅1.05m・燃焼部幅0.41m,

構築基準辺 北壁か, 主軸 北-98度一東,

層序(基準線標高値42.50m) 1. 黒褐色 粒状R・粒状焼土混(中世ピット)。2. 黒褐色 粒状R・RB混(中世ピット)。3. 暗褐色 粒状焼土混・塊状焼土・粒状R多。4. 暗褐色 粒状焼土・粒状R・炭化物混。5. 暗褐色 塊状焼土。6. 暗褐色 塊状黒色土・塊状褐色土の混土。

第120号住居跡

位置 9-47・48・67・68グリッド, 形状 横長方形, 規模 2.56m×3.18m・カマド軸長0.94m・壁部幅1.25m・燃焼部幅0.75m,

構築基準辺 南壁, 主軸 北-96度一東,

層序(基準線標高値42.50m) 1. 暗褐色 粒状R・粒状焼土混。2. 暗褐色 粒状R・RB斑状。3. 黒色・RB混土(掘り方埋土)。4. 暗褐色 粒状焼土多・塊状粘土少。5. 暗褐色 粒状焼土少。6. 暗褐色 粒状焼土少・炭化物少。

第121号住居跡

位置 9-27・28・47・48グリッド, 形状 横長方形, 規模 2.93m×3.7m・カマド軸長1.28m・壁部幅0.8m・燃焼部幅0.65m,

構築基準辺 北壁, 主軸 北-107度75分一東,

層序(基準線標高値42.50m)
(515坑) 1. 黒褐色 RB混。2. 黒褐色 粒状R・RB混。3. 黒褐色 粒状R・粒状焼土混。4. 褐色 RB少。
(121住) 5. 暗褐色 粒状R混。6. 暗褐色 粒状R・RB混。7. 粒状焼土少。8. 暗褐色 粒状R・RB混。9. 暗褐色 RB主。10. 暗褐色 塊状焼土含。11. 暗褐色 粗粒状焼土・塊状焼土含・粒状R含。12. 黒色・RB混土(掘り方埋土)。

第122号住居跡

位置 9-8・9・10-388・389グリッド, 形状 縦長方形, 規模 3.7m×3.12m, カマド軸長1.18m・壁部幅1.30m・燃焼部幅0.6m,

構築基準辺 南壁, 主軸 北-98度一東,

層序(基準線標高値42.30m) 1. 暗褐色 粒状R含。2. 暗褐色 1近質。3. 暗褐色 粒状R混。4. 暗褐色 粒状R多。5. 暗褐色 粒状R・RB混。6. 攪乱。7. 暗褐色 粒状焼土微。8. 暗褐色 粒状焼土・粒状R少。9. 暗褐色 RJR微。10. RB・粒状R混。11. 黒色・RB混土(掘り方埋土)。

第123号住居跡

位置 9-9・10・29・30グリッド, 形状 横長方形, 規模 3.41m×5.2m・カマド軸長1.16m・壁部幅1.16m・燃焼部幅0.44m,

構築基準辺 南壁, 主軸 北-16度25分一東,

層序(基準線標高値42.70m) 1. 暗褐色 粒状R・RB混・粒状焼土少。2. 暗褐色 RB混。3. 暗褐色 粒状焼土少。4. 暗褐色 粒状焼土・塊状焼土含。5. 暗褐色 粒状焼土少。6. 黒色・RB混土(掘り方埋土)。

第124号住居跡

位置 9-30グリッド, 形状 縦長方形, 規模 3.64m×3.1m・カマド軸長1.32m・壁部幅0.71m・燃焼部幅0.54m,

構築基準辺 南壁, 主軸 北-113度50分一東,

層序(基準線標高値42.30m) 1. 暗褐色 粒状R混。2. 暗褐色 粒状R・粒状焼土混。3. 暗褐色 2近質。4. 暗褐色 RB混。5. 暗褐色 粒状R・RB含。6. 暗褐色 粒状R少。7. 暗褐色 粒状焼土多。8. 暗褐色 RB主。9. 黒色・RB混土(掘り方埋土)。

第125号住居跡

位置 9-29・30・49・50グリッド, 形状 矩形, 規模 3.61m×4.02m・カマド軸長1.6m・壁部幅(0.72m)・燃焼部幅(0.5)m,

構築基準辺 南壁, 主軸 北-74度50分一東,

層序(基準線標高値42.30m) 1. 暗褐色 粒状焼土少。2. 暗褐色 粗粒状焼土混。3. 暗褐色 塊状焼土主。4. 暗褐色 RB含・粒状R混。5. 暗褐色 RB混・粗粒状R含。

第126号住居跡

位置 9-50・70グリッド、形状 隅丸正方形、規模 2.91m×2.8m・カマド軸長1.05m・壁部幅0.8m・燃焼部幅0.39m。

構築基準辺 南壁乃至東壁、主軸 北-74度50分-東

層序 (基準線標高値42.50m)

1. 暗褐色 粒状R混。
2. 暗褐色 粗粒状R混・粒状焼土含。
3. 暗褐色 粗粒状焼土混。
4. 暗褐色 粗粒状焼土含RB含・粗粒状R多。
5. 黒色・RB混土 (掘り方埋土)。

第127号住居跡

位置 9-50・51グリッド、形状 横長方形、規模 2.92m×3.8m・カマド軸長0.73m・壁部幅0.90m・燃焼部幅0.58m。

構築基準辺 北壁か、主軸 北-83度-東。

層序 (基準線標高値42.40m) 1. 暗褐色 粒状R多。

2. 暗褐色 粒状R・RB多。
3. 暗褐色 粒状R・RB混。
4. 暗褐色 RB多。
5. 暗褐色 粒状R混。
6. 暗褐色 RB混。
7. 暗褐色 粒状R多・RB混。
8. 暗褐色 粒状R多。
9. 暗褐色 粒状R混。
10. 暗褐色 RB・塊状焼土混。
11. 褐色 RB混。
12. 褐色 RB多。
13. 暗褐色 塊状焼土・粒状焼土多。
14. 黒色・RB混土 (掘り方埋土)。

第128号住居跡

位置 9-71グリッド、形状 矩形、規模 (3.85) m×3.6m・カマド軸長1.20m・壁部幅1.25m・燃焼部幅0.5m。

構築基準辺 北壁、主軸 北-90度-東。

層序 (基準線標高値42.40m) 1. 暗褐色 粒状R・RB混。

2. 暗褐色 粒状焼土含・粒状R含。
3. 暗褐色 粗粒状焼土混・塊状焼土含・粒状R混。
4. 暗褐色 塊状焼土混・粒状焼土含・炭化物混。
5. 暗褐色 塊状焼土混。
6. 黒色・RB混土 (掘り方埋土)。

(153住) 7. 暗褐色 粒状R含・RB混。

8. 黒色・RB混土 (掘り方埋土)。

第129号住居跡

位置 9-64・65・84・85グリッド、形状 横長方形、規模 2.4m×3.82m・カマド軸長0.75m・壁部幅0.8m・燃焼部幅0.38m。

構築基準辺 北壁、主軸 北-6度-東。

層序 (基準線標高値42.40m) 1. 暗褐色 粒状R・RB混。

2. 暗褐色 粒状焼土混。
3. 褐色 粒状焼土多。
4. 暗褐色 塊状焼土含・粒状焼土混・RB少。
5. 黒色・RB混土 (掘り方埋土)。

第130号住居跡

位置 9-44・45・64・65グリッド、形状 不詳 (正方形か)、規模 $5.8+\alpha$ m× $4.78+\alpha$ m、主軸 北-35~40度-東程。

第131号住居跡

位置 9-63グリッド、形状 横長方形、規模 2.48m×3.32m・カマド軸長0.82m・壁部幅1.00m・燃焼部幅0.55m。

構築基準辺 北壁、主軸 北-100度-東。

層序 (基準線標高値42.40m) 1. 暗褐色 粒状R含・粒状焼土少。

2. 粒状R混・粗粒状R少。
3. 暗褐色 細粒状R多。
4. 暗褐色 粒状焼土多。
5. 暗褐色 粒状R多・粗粒状R含・RB含。
6. 黒色・RB混土 (掘り方埋土)。

第132号住居跡

位置 9-144・163・164グリッド、形状 縦長方形、規模 4.1m×3.08m・カマド軸長0.92m・壁部幅1.16m・燃焼部幅0.4m。

構築基準辺 南壁、主軸 北-89度50分-東

層序 (基準線標高値42.40m) 1. 暗褐色 粒状R混。

2. 暗褐色 RB多。
3. 暗褐色 粒状R・RB多。
4. 暗褐色 粒状焼土混。
5. 暗褐色 塊状焼土・塊状粘土多。
6. 暗褐色 粒状焼土微・粒状R多。
7. 黒色・RB混土 (掘り方埋土)。

第133号住居跡

位置 9-143・144・163・164グリッド、形状 縦長方形、規模 $3.82+\alpha$ m×3.28m、主軸 北-41度-東

層序 (基準線標高値42.40m) 1. 黒色 粒状R混。

2. 黒色 塊状暗褐色の混土。
3. 黒色・RB混土 (掘り方埋土)。

第134号住居跡

位置 9-141・161グリッド、形状 縦長方形、規模 2.83m×2.2m・カマド軸長0.85m・壁部幅 (0.80) m・燃焼部幅 (0.53) m。

構築基準辺 北壁乃至東壁、主軸 北-115度-東。

層序 (基準線標高値42.50m) 1. 黒色 粒状R少。

2. 黒色 粒状焼土混・粒状R少。
3. 黒色・RB混土 (掘り方埋土)。

第135号住居跡

位置 9-61・62・81・82グリッド、形状 (正方形)、規模 $4.66m\times 3.78+\alpha$ m・カマド軸長1.11m・壁部幅1.10m・燃焼部幅0.54m、構築基準辺 4壁か、主軸 北-25度-東。

層序 (基準線標高値42.30m) 1. 黒褐色 粒状R混。

2. 黒褐色 RB多・塊状粘土多。
3. 鈍黄褐色 塊状焼土含・粒状R少。
4. 赤褐色 塊状焼土主。
5. 4同質。
6. 黒褐色 RB混・塊状焼土多・粒状焼土多。
7. 黒褐色 炭化物・灰多・粒状焼土含。
8. 3同質。
9. 赤褐色 塊状焼土。
10. 暗褐色 塊状焼土・粒状焼土多。
11. 灰黄褐色 灰黄色褐色シルトの被熱。
12. 11同質。
13. 暗褐色 塊状灰黄褐色シルト多。
14. 13同質。
15. 10近質。
16. 暗褐色 RB主。
17. 灰黄褐色シルト。
18. 暗褐色 粒状焼土混。
19. 灰黄褐色 粒状R多・粒状焼土少。
20. 灰黄褐色 11近質。
21. 黒色・RB混土。
- 22~24 21近質。
- 25・26 21同質。
27. 暗褐色 粒状灰黄褐色シルト混 (貼床)。
28. 暗褐色 粒状R含 (貼床)。
29. 暗褐色 RB多。
30. 鈍黄褐色 灰黄褐色シルトの被熱。
31. 暗褐色 粗粒状灰黄褐色シルト多・粗粒状鈍黄褐色シルト多。
32. 黒色・RB混土 (掘り方)。

第136号住居跡

位置 9-208・209・228・229グリッド、形状 縦長方形、規模 4.93m×3.43m・カマド軸長0.6m・壁部幅0.78m・燃焼部幅0.62m、構築基準辺 北壁、主軸 北-100度-東。

層序 (基準線標高値42.50m) 1. 暗褐色 粒状R混。

2. 黒色 粒状R少。
3. 暗褐色 RB混・粒状焼土少。
4. 暗褐色 RB混。
5. 黒色・RB混土 (掘り方埋土)。
6. 暗褐色 塊状焼土少。
7. 暗褐色 塊状焼土・粒状R少。
8. 暗褐色 塊状焼土多。
9. 暗褐色 RB混。

(137住) 10. 暗褐色 RJR混・粒状焼土多。

11. 暗褐色 RB混。

12. 黒色・RB混土 (掘り方埋土)。

(169住) 13. 暗褐色 粒状R・RB混。

14. 暗褐色 粒状R混。

15. 黒褐色 粒状R混。

16. 暗褐色 RB混。

遺構計測値・土層説明

17. 黒色・RB混土（掘り方埋土）。

（ベルト内落ち込み）1. 暗褐色 粒状R・粒状焼土混。2. 暗褐色 RB混。3. 暗褐色 RB多。

第137号住居跡

位置 9-228・229グリッド、形状 不詳、規模 3.63m×0.9+ α m、主軸 北-105度-東。

第138号住居跡

位置 9-209・229グリッド、形状 不詳、規模 3.35m×1.9+ α m。

第139号住居跡

位置 9-10・10-390グリッド、形状 不詳、規模 3.40+ α m×2.08+ α m・北カマド軸長0.93m・壁部幅0.87m・燃焼部幅0.51m、東カマド軸長0.52m・壁部幅0.76m・燃焼部幅0.5。

層序（基準線標高値42.20m）1. 暗褐色 粒状焼土・塊状焼土多。2. 暗褐色 粒状R多・粒状焼土少。3. 1近質。

4. 暗褐色 粒状R・RB混。5. 黒色・RB混土（掘り方埋土）。

第140号住居跡

位置 9-1・2・21・22グリッド、形状 不詳、規模 2.58+ α m×2.46+ α m・構築基準辺 南壁か、主軸 北-110度-東程か。

層序（基準線標高値41.90m）1. 暗褐色 粒状焼土・塊状焼土混。2. 暗褐色 粒状R・RB含。3. 黒色・RB混土（掘り方埋土）。

第142号住居跡

位置 9-270・271・290・291グリッド、形状 縦長方形、規模 5.86m×3.8m・カマド軸長1.27m・壁部幅1.40m・燃焼部幅0.75m、構築基準辺 南壁、主軸 北-93度50分-東

層序（基準線標高値42.60m）1. 暗褐色 粒状R・RB混。2. 暗褐色 粒状R多・炭化物多。3. 暗褐色 粒状R・炭化物混。

4. 褐色 RB混・炭化物含。5. 暗褐色 粒状焼土多。6. 暗褐色 粒状焼土・塊状焼土多（RBで底面貼床）。

7. 暗褐色 粒状R・RB混。8. 黒色・RB混土（掘り方埋土）。

第143号住居跡

位置 9-250・270グリッド、形状 縦長方形、規模 2.75m×1.84m・カマド軸長1.35m・壁部幅0.83m・燃焼部幅0.40m。

構築基準辺 南壁、主軸 北-92度-東

層序（基準線標高値42.60m）1. 暗褐色 粒状R混。2. 暗褐色 粒状R・粒状焼土含。3. 暗褐色 粒状R・RB混。

4. 暗褐色 粒状R・粒状焼土多。5. 暗褐色 粒状R・粒状焼土少。6. 暗褐色 粒状R・RB多。7. 黒褐色 粒状R・RB多。

8. 暗褐色 RB多。9. 暗褐色 塊状焼土多。10. 暗褐色 粒状焼土多。11. 暗褐色 粒状R・RB含。12. 黒色・RB混土（掘り方）。

第144号住居跡

位置 9-250・251・270・271グリッド、形状 矩形、規模 3.09m×3.5m・カマド軸長1.32m・壁部幅1.17m・燃焼部幅0.57m。

構築基準辺 4壁か、主軸 北-94度-東。

層序（基準線標高値42.60m）1. 暗褐色 粒状R・RB多。2. 暗褐色 粒状R多。3. 暗褐色 2近質。

4. 暗褐色 粒状R・粒状焼土少。5. 暗褐色 粒状R少・粒状焼土含。6. 暗褐色 小塊状焼土含・粒状焼土混・粒状R含。

7. 暗褐色 粒状R・RB含。8. 暗褐色 炭化物含・粒状焼土含。9. 暗褐色 小R含。10. 黒色・RB混土（掘り方埋土）。

第146号住居跡

位置 9-252・253・272・273グリッド、形状 矩形、規模 3.9m×3.55m・カマド軸長1.14m・壁部幅1.16m・燃焼部幅0.42m。

構築基準辺 西壁、主軸 北-90度-東。

層序（基準線標高値42.60m）1. 暗褐色 粒状焼土・粒状R混。2. 暗褐色 塊状焼土・RB混。3. 暗褐色 粒状R混。

4. 暗褐色 RB多。5. 暗褐色 粒状R・RB多。6. 暗褐色 粒状焼土混・粒状R多。7. 黒色 粒状焼土多。8. 6近質。

9. 黒色 RB混。10. 暗褐色 RB・粒状焼土混。11. 黒色 粒状R・粒状焼土混。12. 褐色 粒状焼土混塊状焼土含。

13. 暗褐色 粒状R・RB含。14. 黒色・RB混土（掘り方埋土）。

第147号住居跡

位置 9-173・174・193・194グリッド、形状 横長方形、規模 (2.7)m×3.8m・カマド軸長1.98m・壁部幅1.42m・燃焼部幅0.51m。

構築基準辺 北壁、主軸 北-86度50分-東。

層序（基準線標高値42.50m）1. 暗褐色 粒状R少。2. 暗褐色 1近質。3. 暗褐色 粒状R少・RB含。4. 暗褐色 粒状R多。

5. 暗褐色 粒状R少。6. 暗褐色 粒状R少・RB混。7. 黒色・RB混土。8. 黒色 RB・塊状焼土混。9. 暗褐色 粒状焼土多。

10. 暗褐色 RB混。11. 暗褐色 RB多。12. 黒色・RB混土。13. 12同質。14. 暗褐色 塊状焼土混。15. 暗褐色 塊状焼土多。

16. 塊状焼土・灰の混土。17. 暗褐色 粒状R混。

第148号住居跡

位置 9-214・215・234・235グリッド、形状 横長方形、規模 4.1m×6.01m・カマド軸長1.25m・壁部幅1.2m・燃焼部幅0.5m。

構築基準辺 西壁、主軸 北-108度-東。

層序（基準線標高値42.60m）1. 黒褐色 粒状R少。2. 黒褐色 RB少。3. 暗褐色 細粒状R少。

4. 暗褐色 RB少・粗粒状R少・粒状R含。5. 4同質。6. 暗褐色 小RB含・粒状R少。7. 暗褐色 粒状R少。

8. 褐色 塊状焼土含。9. 褐色 塊状焼土多。10. 暗褐色 粒状R・RB含。11. 黒色・RB混土（掘り方埋土）。

第149号住居跡

位置 9-215・216グリッド、形状 横長方形、規模 2.76m×3.25m・カマド軸長1.5m・壁部幅0.6+ α m・燃焼部幅0.45m。

構築基準辺 北壁、主軸 北-112度-東。

層序（基準線標高値42.50m）1. 暗褐色 粗粒状R・RB含・粒状R多。2. 暗褐色 粒状焼土若・粗粒状R少・粒状R含。

3. 暗褐色 粒状焼土微・粒状R混。4. 暗褐色 粒状焼土少・粒状R含。5. 暗褐色 粒状焼土・粒状R含。6. 暗褐色 粒状R多。

7. 暗褐色 粒状焼土少・粒状R含。8. 黒色・RB混土（掘り方埋土）。

第150号住居跡

位置 9-173・174・193・194グリッド、形状 矩形、規模 3.9m×3.4m・カマド軸長0.94m・壁部幅(1.00)m・燃焼部幅0.62m。

構築基準辺 西壁、主軸 北-92度-東。

第151号住居跡

位置 9-197・198グリッド、形状 不詳、規模 3.72m×1.62+ α m、主軸 北-95度-東程か、

層序 (基準線標高値42.40m) 1. 黒褐色 砂質・粒状R少 (119溝)。2. 黒褐色 粒状R多 (中世ビット)。

3. 暗褐色 粒状R・RB混。4. 暗褐色 粒状R多。5. 暗褐色 粒状R・RB含。6. 黒色 粒状R少。7. 1同質。

8. 暗褐色粘質土。9. 暗褐色 RB混。10暗褐色 粒状R・RB混。11. 黒色・RB混土。

第152号住居跡

位置 9-91グリッド、形状 不詳、規模 2.4m×1.7+ α m、主軸 北-50度-西程か、

層序 (基準線標高値42.40m) 1. 暗褐色 粒状焼土微・粒状R微。2. 暗褐色 RB少・粗粒状R・粒状R含。3. 暗褐色 RB含。

4. 黒色・RB混土。

第153号住居跡

位置 9-51・71グリッド、形状 縦長方形か、規模 3.88m×2.57m、主軸 北-92度-東程か、

第154号住居跡

位置 9-297・317グリッド、形状 縦長方形か、規模 3.76m×3.01m、主軸 北-88度-東、

層序 (基準線標高値42.30m) 1. 黒褐色 細粒状R含・粒状焼土・炭化物若。2. 黒褐色 RJR含。

(178住) 3. 暗褐色 粒状R・RB混。4. 暗褐色 RB・粒状焼土多。5. 暗褐色 RB混。6. 暗褐色 粒状R混。

7. 黒色・RB混土 (掘り方埋土)。

(9-468坑) 8. 黒褐色 粒状焼土多・粒状R含。9. 黒褐色 粒状焼土含。10. 黒褐色 粒状焼土・炭化物微。

11. 黒褐色 粒状R少・粒状焼土含。

(179A住) 12. 暗褐色 粒状R少・粒状焼土少。13. 黒色 シルト質。14. 灰褐色シルト (貼床状)。15. 暗褐色 粒状焼土含・粒状R若。

16. 暗褐色 粒状焼土含・粒状R少。17. 15同質。18. 16近質。

(9-553坑) 19. 黒褐色 粒状R・炭化物少。20. 黒褐色 粒状R混。

(9-551坑) 21. 暗褐色 粒状R・粗粒状R・小RB混・塊状灰褐色地山土混。22. 暗褐色 粒状R・炭化物含。23. 暗褐色 粗粒状R含。

24. 552坑との重複部分。調査時は551坑が切る所見。

(179B住) 25. 暗褐色 細粒状R少・炭化物若・粒状焼土若。26. 暗褐色 粒状R微・炭化物含。27. 暗褐色 粒状R含・粒状焼土少。

28. 暗褐色 細粒状R含・粒状焼土少。29. 暗褐色 粒状R含。30. 暗褐色 細粒状R含・粒状焼土少。

31. 暗褐色 粒状R微。3 2. 塊状灰褐色シルト。33. 暗褐色 塊状灰褐色・褐色シルト含・RB少。34. 暗褐色 粒状R少。

(154住) 35. 暗褐色 RB混・粗粒状R混。(179C住) 36. 暗褐色 粒状焼土・細粒状R少。37. 暗褐色 粒状R含・粒状焼土少。

(180住) 38. 暗褐色 粒状R少。39. 暗褐色 粒状R微。40. 暗褐色 粒状R含。41. 暗褐色 粗粒状R多。

42. 暗褐色 粒状R少・塊状灰褐色シルト多。(179D跡) 43. 暗褐色 細粒状R・粗粒状R・RB多。

第155号住居跡

位置 9-255・256・275・276グリッド、形状 縦長方形、規模 4.96m×3.79m・カマド軸長15.4m・壁部幅1.43m・燃焼部幅0.54m、
構築基準辺 北壁、主軸 北-78度50分-東、

層序 (基準線標高値42.50m) 1. 暗褐色 粒状R少・粒状焼土含。2. 暗褐色 粒状R少・炭化物含・粒状焼土少。

3. 暗褐色 小RB少。4. 暗褐色 粒状R多。5. 暗褐色 RB含。6. 暗褐色 粒状焼土少・粒状焼土含。

7. 褐色 粒状焼土・塊状焼土多・RB含。8. 暗褐色 粒状焼土・塊状焼土含・炭化物混。

9. 暗褐色 RB・粗粒状R・塊状焼土混。10. 暗褐色 粗粒状R・炭化物少。11. 暗褐色 粗粒状R・粒状R含。12. 暗褐色 RB多。

13. RB主体。14. 暗褐色 RB多。

第156号住居跡

位置 9-216・217・236・237グリッド、形状 縦長方形、規模 5.5+ α m×4.4m・カマド軸長1.79m・壁部幅1.27m・燃焼部幅0.56m
構築基準辺 北壁、主軸 北-90度-東、

層序 (基準線標高値42.40m) 1. 暗褐色 粒状R少・炭化物若。2. 1同質。3. 暗褐色 粒状R少・炭化物含 (1近質)。

4. 暗褐色 粒状R含・炭化物若。5. 暗褐色 粒状R含・粗粒状R含・小RB少・炭化物若。6. 暗褐色 小RB混・粗粒状R多。

7. 暗褐色 粒状R若。8. 暗褐色 粒状R混。9. 黒色・RB混土 (掘り方埋土)。

第157号住居跡

位置 9-29グリッド、形状 不詳、規模 0.67+ α m×3.2m、

層序 (基準線標高値42.40m) 1. 暗褐色 粒状R多・粗粒状R含。2. 暗褐色 粒状R多。3. 暗褐色 粗粒状R・粒状R含。

第158号住居跡

位置 9-298・299グリッド、形状 横長方形、規模 2.9+ α m×3.06m・カマド軸長0.78m・壁部幅1.15m・燃焼部幅0.35m、
主軸 北-91度75分-東、

層序 (基準線標高値42.40m) 1. 黒褐色 粒状R・RB混。2. 暗褐色 RB・塊状黒色土多。3. 暗褐色 粒状焼土含。

4. 暗褐色 灰褐色シルト混。5. 暗褐色 粒状焼土・粒状R含。6. 黒色・RB混土 (掘り方埋土)。7. 暗褐色 粒状R多。

8. 暗褐色 粒状焼土混。9. 暗褐色 塊状焼土・粒状焼土・粒状R混。

第159号住居跡

位置 9-278・279・297・298グリッド、形状 縦長方形、規模 4.18m×3.46m・カマド軸長1.2m・壁部幅1.0m・燃焼部幅0.77m、
構築基準辺 南壁、主軸 北-86度-東、

層序 (基準線標高値42.40m)

(349坑) 1. 黒色・RB混土 (掘り方埋土)。

(159住) 2. 暗褐色 粒状R・RB・塊状黒色土多。3. 暗褐色 粒状R多。4. 暗褐色 粒状R混粒状焼土含。

5. 暗褐色 RB混。6. 褐色粘質土 RB・粒状焼土混。7. 暗褐色 塊状焼土多。

8. 暗褐色 塊状焼土多・炭化物含。9. 黒色 塊状焼土多・粒状R含。10. 黒色・RB混土 (掘り方埋土)。

第160号住居跡

位置 9-278・279グリッド、形状 縦長方形、規模 4.0m×3.32m・カマド軸長0.83m・壁部幅1.05m・燃焼部幅0.40m、

遺構計測値・土層説明

構築基準辺 北壁、主軸 北-85度50分一東、

層序(基準線標高値42.40m) 1. 暗褐色 粒状R・粒状焼土少。2. 暗褐色 粒状焼土含・塊状焼土微。3. 暗褐色 粒状焼土含。
4. 暗褐色 粗粒状焼土多。5. 暗褐色 炭化物・粒状焼土含。

第161号住居跡

位置 9-278・279・299グリッド、形状 不詳、規模 $3.8+\alpha$ m× $4.0+\alpha$ m・カマド軸長2.61m・壁部幅1.11+ α m・燃焼部幅0.81m、
構築基準辺 4壁か、主軸 北-89度一東、

層序(基準線標高値42.60m) 1. 黒色 粒状焼土混。2. 暗褐色 粒状R混。3. 黒色 粒状R含。4. 暗褐色 RB斑状。
5. 黒色 粒状R少。6. 暗褐色 粒状R・RB混。7. 暗褐色 粒状R多・粒状焼土少。8. 暗褐色 粒状R・RB混。
9. 黒色 粒状R少。10. 暗褐色 粒状焼土・塊状焼土主。11. 灰・粒状焼土の混土層。12. 10近質。13. 灰・炭化物層。
14. 暗褐色 RB多。15. 黒色・RB混土(掘り方埋土)。

第162号住居跡

位置 9-259・260グリッド、形状 矩形、規模 4.0m×3.74m、主軸 北-82度一東、

層序(基準線標高値42.30m)

(162住) 1. 暗褐色 RB多・塊状焼土多。2. 暗褐色 粒状R多・塊状焼土混。3. 暗褐色 粒状焼土多。4. 暗褐色 RB多。
5. 2近質。6. 暗褐色 粒状R・RB多。7. 暗褐色 粒状焼土・塊状焼土混。
(163住) 8. 暗褐色 粒状焼土混。9. 暗褐色 塊状焼土多。10. 黒色 灰多・粒状焼土混。

第163号住居跡

位置 9-259・260グリッド、形状 縦長方形か、規模 不詳・カマド軸長0.9m・壁部幅1.24m・燃焼部幅0.59m、
主軸 北-90度一東程か、

第164号住居跡

位置 9-237・238グリッド、形状 不詳、規模 $2.06+\alpha$ m× $2.13+\alpha$ m、主軸 北-11度50分一東

層序(基準線標高値42.40m) 1. 暗褐色 塊状焼土混。2. 暗褐色 塊状焼土・RB混。3. 暗褐色 塊状焼土多。
4. 暗褐色 塊状炭化物・粒状R・RB混。

第165号住居跡

位置 9-299グリッド、形状 横長方形か、規模 $1.9+\alpha$ m× $1.31+\alpha$ m・カマド軸長1.13m・壁部幅0.54m・燃焼部幅 $0.9+\alpha$ m、
構築基準辺 南東壁か、主軸 北-67度一東程か、

層序(基準線標高値42.30m) 1. 暗褐色 粒状R多。2. 暗褐色 粒状R・粒状焼土混。3. 暗褐色粘土・塊状焼土の混土。
4. 暗褐色 塊状暗褐色粘土混。5. 暗褐色 粒状R・粒状焼土多。6. 灰層。7. 焼土。8. 暗褐色 粒状R混。9. 1同質。
10. 黒色・RB混土(掘り方埋土)。

第166号住居跡

位置 9-29・30・49・50グリッド、形状 横長方形、規模 2.8m×3.9m、カマド詳細不詳、構築基準辺 西壁 主軸 北-94度一東

層序(基準線標高値42.40m) 1. 暗褐色 粒状R混。2. 暗褐色 RB・粒状R混。3. 黒色土とRBの混土。

第167号住居跡

位置 9-31・32グリッド、形状・規模 詳細不詳、

層序(基準線標高値42.80m) 1. 暗褐色 粒状R少。2. 暗褐色 粗粒状R・粒状R多。3. 暗褐色 粒状焼土若・炭化物含。
4. 暗褐色 粒状R含・粒状焼土含。5. 暗褐色 細粒状R含。6. 暗褐色 RB含。7. 暗褐色 粗粒状R少。8. 暗褐色 RB主。

第168号住居跡

位置 6-57・58・77・78グリッド、形状 正方形か、規模 5.22 m× $3.97+\alpha$ m、主軸 北-19度一東、

層序(基準線標高値42.50m) 1. 暗褐色 粒状焼土・粒状R混。2. 褐色 RB主(貼床状)。3. 黒色 塊状焼土多。
4. 暗褐色 粒状R多。5. 黒色・RB混土(掘り方埋土)。

第169号住居跡

位置 9-208・209・9-228・229グリッド、形状 横長方形、規模 3.28 m× 4.1 m、主軸 北-97度50分一東、

第170号住居跡

位置 9-239グリッド、形状 縦長方形、規模 4.6 m× 3.0 m・カマド軸長1.4m・壁部幅 $0.8+\alpha$ m・燃焼部幅 $0.34+\alpha$ m、

構築基準辺 南壁、主軸 北-86度50分一東、

層序(基準線標高値42.30m) 1. 暗褐色 RB混。2. 暗褐色 RB少。3. 暗褐色 粒状R少。4. 暗褐色 粒状R含。
5. 暗褐色 RB多。6. 暗褐色 RB・粒状R粒状焼土混。7. 暗褐色 RB混。8. 暗褐色 RB混。
9. 黒色・RB混土(掘り方埋土)。10. 黒褐色 粒状焼土・粒状R混。11. 黒褐色 RB・塊状粘土・塊状焼土多。

第171号住居跡

位置 9-259・260・279・280グリッド、形状 不詳、規模 2.73 m× $1.03+\alpha$ m、主軸 北-100度一東程か

第172号住居跡

位置 9-226・227グリッド、形状 縦長方形、規模 3.22 m× 2.74 m、主軸 北-90度一東程か、

第173号住居跡

位置 9-225・255グリッド、形状 縦長方形、規模 2.77 m× 2.32 m・カマド軸長1.12m・壁部幅0.34m・燃焼部幅0.8m

構築基準辺 北壁、主軸 北-87度一東、

層序(基準線標高値42.60m) 1. 黒褐色 RB若・粗粒状R含。2. 暗褐色 粒状R含。3. 暗褐色 粒状R多・粗粒状R含。
4. 暗褐色 RB斑状。5. 暗褐色 粒状R混・粗粒状R含。6. 暗褐色 粒状R多・粗粒状R多。7. 暗褐色 粒状焼土・粒状R含。
8. 暗褐色 粒状焼土多・RB混。9. 暗褐色 RB混・粒状焼土・塊状焼土多。10. 黒色・RB混土(掘り方埋土)。

第174号住居跡

位置 9-245・265グリッド、形状 縦長方形、規模 3.9 m× 3.25 m・カマド軸長0.9m・壁部幅1.45m・燃焼部幅0.41m、

構築基準辺 北壁、北-70度50分一東、

層序(基準線標高値42.60m) 1. 暗褐色 粒状R少・小RB微。2. 暗褐色 粒状R少。3. 暗褐色 小RB混。

4. 暗褐色 粒状R・粗粒状R・小RB混。5. 暗褐色 粒状R混・粒状焼土若。6. 暗褐色 粒状R含。7. 暗褐色 小RB含。
 8. 褐色粘土。9. 褐色粘土・粒状焼土・塊状焼土の混土。10. 9近質。11. 褐色 粒状焼土多・塊状暗褐色多。12. 暗褐色 粒状焼土混。
 13. 黒色・RB混土（掘り方埋土）。

第175号住居跡

位置 9-267グリッド、形状 正方形乃至矩形、規模 3.18m×3.01+α m、主軸 北-70度一東。

層序（基準線標高値42.50m）1. 暗褐色 粒状R・RB多。2. 暗褐色 粒状R・RB混。

3. 暗褐色 粒状R混・粒状焼土混・塊状粘土（カマド構造物）少。4. 黒色・RB混土（掘り方埋土）。

第176号住居跡

位置 6-239・240・259~241・280・281グリッド、形状 正方形、規模 5.8m×5.6m・カマド軸長0.81m・壁部幅0.78m・
 燃焼部幅0.44m、構築基準辺 4壁か、主軸 北-25度一東。

層序（基準線標高値42.60m）1. 暗褐色 粒状R含。2. 暗褐色 粗粒状R混。3. 黄褐色粘土（下面は赤褐色に酸化）。

4. 塊状被熱黄褐色粘土主。5. 黒褐色 粒状焼土多。6. 赤褐色 被熱焼土層。7. 黄褐色粘土。8. 7同質。
 9. 黒色・RB混土（掘り方埋土）。10. 暗褐色 RB含・粒状R含。11. 暗褐色 RB含。12. 暗褐色 RB少・粒状R混。
 13. 黒色・RB混土（掘り方埋土）。

第177号住居跡

位置 9-226グリッド、形状 縦長方形、規模 3.36m×3.02m、主軸 北-93度一東程か。

第178号住居跡

位置 9-317・337グリッド、形状 縦長方形、規模 4.5m×3.74+α m、主軸 北-91度50分一東。

第179号住居跡

位置 9-296・297・317グリッド、形状 矩形、規模 5.18m×4.8m、主軸 北-80度一東。

第180号住居跡

位置 9-316・317グリッド、形状・規模 詳細不詳。

第181号住居跡

位置 9-140・160・161グリッド、形状 不詳（正方形か）、規模 4.86+α m×4.22+α m、主軸 北-25度50分一東。

層序（基準線標高値42.50m）

（168坑）1. 黒色 粒状R混。2. 黒色 粒状R多。3. 黒色 粒状R・RB含。4. 黒色・RB混土（掘り方埋土）。
 （104溝）5. 暗黄褐色 粒状R多。

（181住）6. 黒色 粒状R混。7. 暗褐色 粒状焼土多（カマド至近）。8. 黒色・RB混土（掘り方埋土）。

第X住居跡

位置 9-259・260グリッド、形状 不詳、規模 2.2m×0.22+α m。

第Y住居跡

位置 9-259グリッド、形状 不詳、規模 3.0m×1.08+α m。

竪穴状遺構

第1号竪穴状遺構 位置 3-376・377・396・397グリッド、規模 主軸長3.13m・幅2.22m、主軸 北-0度一東

層序（基準線標高値42.50m）1. 黒褐色 砂礫混。

第2号竪穴状遺構 位置 3-398グリッド、規模 主軸長2.54m・幅2.5m、主軸 北-7度一東

第3号竪穴状遺構 位置 9-66・86グリッド、規模 主軸長3.32m・幅2.13m、主軸 北-90度一東？

層序（基準線標高値42.50m）1. 暗褐色 粒状R混。2. 暗褐色 RB多。3. 暗褐色 粒状R・RB混。4. 1近質。
 5. 3近質。6. 2近質。7. 暗褐色 粒状R・RB多。

第4号竪穴状遺構 位置 9-45・46・65・66グリッド、規模 主軸長3.11（3.4）m・幅2.35m、主軸 北-9度80分一東。

層序（基準線標高値42.50m）1. 黒褐色 粒状R混。2. 暗褐色 粒状R混。3. 暗褐色 粒状R多。

4. 暗褐色 粒状R含。5. 灰暗褐色 粒状R混。

第5号竪穴状遺構 位置 9-45・46・65・66グリッド、規模 主軸長5.1m・幅2.55~2.77m、主軸 北-9度一東。

層序（基準線標高値42.40m）1. 暗褐色 粒状R・RB混。2. 暗褐色 粒状R・RB多。

3. 暗褐色 粒状R・RB多（硬質）。4. 黒色とRBの混土。5. 3同質。6. 2近質。

第6号竪穴状遺構 位置 9-122・123グリッド、規模 主軸長3.0m・幅2.52m、主軸 北-2度50分一東。

層序（基準線標高値42.50m）1. 暗褐色 粒状R含・RB少。2. 暗褐色 粗・粒状R多。3. 暗褐色 RB混。

第7号竪穴状遺構 位置 9-213グリッド、規模 主軸長2.84m・幅2.3m、主軸 北-15度50分一東。

層序（基準線標高値42.50m）1. 黒褐色 粒状焼土含・R含・炭化物少。2. 黒褐色 粗・粒状R含・粒状焼土若。

3. 黒褐色 粒状R少・小RB少・粒状焼土若・4. 黒褐色 粗粒状R少。

5. 黒褐色 RB・粒状R含（中世ビット）。

第8号竪穴状遺構 位置 9-192グリッド、規模 主軸長3.33m・幅2.84m、主軸 北-0度一東。

層序（基準線標高値42.50m）1. 黒褐色 粒状R微・焼土若。2. 黒褐色 粒状R若。3. 黒褐色 粗・粒状R・R含。

4. 黒褐色 粒状R少・焼土少。5. 黒褐色 粒状R含。6. 黒褐色 炭化物若。

第9号竪穴状遺構 位置 9-293グリッド、規模 主軸長2.95m・幅2.4m、主軸 北-90度一東

層序（基準線標高値42.60m）1. 暗褐色 粒状R混。2. 暗褐色 RB含。3. 暗褐色 粒状R混・RB少。

第10号竪穴状遺構 位置 9-293・294グリッド、規模 主軸長4.1m・幅2.86m、主軸 北-90度一東

第11号竪穴状遺構 位置 9-171・191グリッド、規模 主軸長3.4?m・幅2.44m、主軸 北-8度50分一東。

層序（基準線標高値42.50m）

遺構計測値・土層説明

- (11堅穴) 1. 暗褐色 白色パミス少。2. 黒褐色 白色パミス含。3. 黒褐色 粒状R少。4. 暗褐色 粒状R少。
 (444坑) 1. 暗褐色 RB含・粗粒状R含・粒状R多。2. 暗褐色 粒状R少。3. 暗褐色 RJR微。
 (514坑) 1. 暗褐色 粒状R多。2. 暗褐色 RB多。3. 暗褐色 RB多・粗粒状R多。
- 第12号堅穴状遺構** 位置 9-127グリッド, 規模 主軸長2.17m・幅1.65m, 主軸 北-3度一東
 層序 (基準線標高値42.40m) 1. 黒色 RB多。2. 黒色 粒状R多。3. 黒色 粒状R少。
 4. 黒色 粒状R少・焼土若。5. 黒色 RB混・炭化物多。6. 黒色 粒状R多・灰多。
- 第13号堅穴状遺構** 位置 9-22グリッド, 規模 主軸長2.2m・幅2.3m, 主軸 北-13度50分一東
- 第14号堅穴状遺構** 位置 6-18グリッド, 規模 主軸長2.44+ α m・幅2.5m, 主軸 北-25度50分一東
 層序 (基準線標高値41.60m) 1. 黒褐色 粒状R少。2. 褐色
- 第15号堅穴状遺構** 位置 9-2・3グリッド, 規模 主軸長2.08m・幅1.9m, 主軸 北-107度75分一東
 層序 (基準線標高値42.00m) 1. 暗褐色 粒状R混。2. 黒色 粒状R混。3. 褐色 RB多。4. 暗褐色 粒状R多。
 5. 黒褐色 RB多。6. 暗褐色 RB混。
- 第16号堅穴状遺構** 位置 3-338・358グリッド, 規模 主軸長2.83m・幅2.0m, 主軸 北-7度一東。
 層序 (基準線標高値42.70m) 1. 黒褐色 砂礫少。2. 黒褐色 砂礫多。3. 黒色 砂礫少。4. 灰黒褐色 砂礫主。
- 第17号堅穴状遺構** 位置 3-377グリッド, 規模 主軸長2.15m・幅1.82m, 主軸 北-15度50分一東。
 層序 (基準線標高値42.50m) 1. 黒褐色 砂礫少。2. 黒褐色 砂礫混。3. 灰黒褐色 砂礫多。
- 第18号堅穴状遺構** 位置 2-17・3-397グリッド, 規模 主軸長4.73m・幅2.41m, 主軸 北-6度50分一東。
 層序 (基準線標高値42.40m) 1. 褐色 塊状黄褐色土混。2. 褐色 塊状黄褐色混砂礫層。3. 褐色 砂礫若。
- 第19号堅穴状遺構** 位置 2-98・99グリッド, 規模 主軸長2.57m・幅1.87m, 主軸 北-105度50分一東。
 層序 (基準線標高値42.20m) 1. 黒褐色 粒状R含。
- 第20号堅穴状遺構** 位置 2-165・166グリッド, 規模 主軸長4.77m・幅2.6m, 主軸 北-98度分25一東。
 層序 (基準線標高値42.30m) 1. 黒褐色 As-B若。
- 第21号堅穴状遺構** 位置 7-338・339グリッド, 規模 主軸長2.8m・幅1.9m, 主軸 北-23度一東。
 層序 (基準線標高値41.60m) 1. 黒褐色 RB少・炭化物少。2. 黒褐色 RB含。3. RB主 (硬質)。
 4. 黒褐色 大RB含・粗粒状R少。5. 黒褐色 無含有。
- 第22号堅穴状遺構** 位置 2-179・199グリッド, 規模 主軸長2.26m・幅2.12m, 主軸 北-9度一東。
 層序 (基準線標高値42.60m) 1. 暗褐色 粒状R若。2. 暗褐色 RB混。3. 暗褐色 粒状R含・RB少。
- 第23号堅穴状遺構** 位置 5-224・225・244・245グリッド, 規模 主軸長2.53m・幅2.36m, 主軸 北-70度50分一西
 層序 (基準線標高値43.00m) 1. 暗褐色 RB含・粒状R混・白色粒子含。2. 暗褐色 粒状焼土含・粒状R混。
 3. 暗褐色 塊状焼土少・粒状焼土含・粒状R含。

掘立柱建物跡

- 第1号掘立柱建物跡**
 位置 6-228~230・6-248~250グリッド, 規模 5間×2間・桁6尺間・梁7尺5寸間, 面積12.5坪 (40.5m²), 主軸 北-8度一東, 挿図内6区16号土坑層序 (基準線標高値42.90m) 1. 暗褐色 粒状R少。2. 暗褐色 粒状R混。
- 第2号掘立柱建物跡**
 位置 6-208・209・228・229グリッド, 規模 2間×1間・桁11尺・梁間8尺, 面積 2.44坪 (7.92m²), 主軸 北-11度一東
- 第3号掘立柱建物跡**
 位置 8-62・63・82・83グリッド, 規模 3間×1間・桁7尺間・梁16尺間分, 面積 9.33坪 (30.24m²), 主軸 北-2度50分一西
 層序 (基準線標高値42.80m)
 P₁ 1. 黒色 粒状R少。2. 暗褐色 RB斑状。 P₂ 1. 黒色 粒状R混。2. 暗褐色 RB混。
 P₃ 1. 黒色 粒状R・RB少。2. 黒色土・RB混土。 P₄ 1. 黒色 粒状R少。 P₅ 1. 黒色 粒状R混。
 P₆ 1. 黒色 RB斑状。 P₇ 1. 暗褐色 粒状R多。2. 黒色 粒状R含。 P₈ 1. 黒色 粒状R混。
 P₉ 1. 暗褐色 粒状R混。
- 第4号掘立柱建物跡**
 位置 8-82・83・102・103グリッド, 規模 3間×2間・桁7尺間・梁7尺間, 面積 8.17坪 (26.46m²), 主軸 北-2度50分一東
 層序 (基準線標高値42.80m)
 P₁ 1. 黒色 粒状R多。2. 暗褐色 RB多。 P₂ 1. 暗褐色 粒状R多。3. 黒色 RB多。
 P₃ 1. 暗褐色 粒状R・RB多。2. 暗褐色 粒状R少。3. 暗褐色 粒状R多。4・5. 黒色 粒状R少。
 6. 褐色 塊状暗褐色含。7. 黒色 RB少。8. 暗褐色 RB多。9. 茶褐色 RB多。
 P₄ 1. 暗褐色 粒状R・RB多。2. 1同質。3. 暗褐色 粒状R混。4. 3近質。5. 暗褐色 粒状R少。
 P₅ 1. 黒色 粒状R混。2. 黒褐色 粒状R混。3. 褐色 粒子黒色多。4. 3近質。5. 2近質。
 P₆ 1. 暗褐色 RB多。2. 暗褐色 粒状R多。 P₇ 1. 黒色 粒状R混。2. 黒色 RB含。3. 黒色 RB多。
 P₈ 1. 暗褐色 粒状R多。2. 黒色 粒状R多。3. 黒色 粒状R混。
 P₉ 1. 黒色 粒状R多。2. 黒褐色 粒状R多。3. 黒色・RB混土。
 P₁₀ 1. 暗褐色 粒状R少。2. 暗褐色・RBの混土。3. 暗褐色 粒状R・粒状焼土多。
 4. 黒色 RB混・粒状焼土多。5. 暗褐色 RB混・SR多。
- 第5号掘立柱建物跡**
 位置 2-214・215・234・235グリッド, 規模 2間×1間・桁7尺間・梁7尺間, 面積 2.72坪 (8.82m²), 主軸 北-8度60分一西

第6号掘立柱建物跡号

位置 5-100・120グリッド、規模 2間×1間・桁7尺・梁12.5尺（北側に7尺×3.5尺で張り出しを備える。）、面積 5.59坪（17.86㎡）主軸 北-0度-南

第7号掘立柱建物跡

位置 2-76・77・96・97グリッド、規模 3間×2間・桁7尺間・梁7尺間・6尺間、面積 7.60坪（24.57㎡）、主軸 北-11度40分-東

第8号掘立柱建物跡

位置 9-287・288・307・308グリッド、規模 3間×2間・桁7尺間・梁7尺間、面積 8.05坪（26.46㎡）、主軸 北-50分-東

挿図内9区40・44・45・46土坑層序（基準線標高値42.60m）40坑 1. 黒褐色+RB+粗粒状Rの混土。

44坑 2. 暗褐色+RBの混土。45坑 3. 黒色 RB少（中世ピット）。4. 1同質。5. 黒褐色 RB含。

46坑 6. 暗褐色 RB多・粗粒状R含。

第9号掘立柱建物跡

位置 9-167・168・187・188グリッド、規模 3間×2間・桁・梁7尺等間、面積 8.05坪（26.46㎡）、主軸 北-9度50分度-西、層序（基準線標高値42.50m）

P₂ 1. 暗褐色 粒状R混。2. 黒色・RB混土。3. 黒色 RB混。4. 黒色 RB斑状。5. 黒色 RB多。

P₄ 1. 暗褐色・RB混土。2. 褐色・黒色混土。3. 黒色。4. 暗褐色・RB混土。5. 黒色 RB混。6. 褐色。7. 褐色・黒色混土。8. 褐色 塊状黒色多。

P₅ 1. 暗褐色 粒状R混。2. 黒褐色 粒状R混。3. 褐色。4. 黒色粒状R混。5. 暗褐色 RB多。6. 褐色。7. 暗褐色RB多。

P₆ 1. 暗褐色 粒状R混。2. 黒色。3. 暗褐色 粒状R混。4. 褐色。5. 黒色 粒状R・RB少。6. 暗褐色 粒状R少。

P₇ 1. 暗褐色 粒状R混。2. 黒褐色 粒状R混。3. 褐色。4. 褐色 RB多。5. 暗褐色 粒状R多。6. 暗褐色 RB混。

P₈ 1. 暗褐色。2. 黒色 RB混。3. 黒色 粒状R少。4. 黒色 RB混。5. 黒色 RB斑状。6. 暗褐色 粒状R・RB混。

P₉ 1. 暗褐色 粒状R混。2. 黒色 粒状R少。3. 黒色 粒状R・RB少。4. 黒色 RB混。5. 褐色。6. 4近質。7. 暗褐色。8. 黒色。9. 黒色 RB混。10. 暗褐色 RB混。

P₁₀ 1. 黒色 粒状R混。2. 黒色 RB混。3. 暗褐色 粒状R混（軟質）4. 1近質。5. 黒色 粒状R多。6. 褐色。7. 4近質。

第10号掘立柱建物跡

位置 8-21・22・41・42グリッド、規模 2間×2間（総柱）・桁・梁8尺等間、面積 7.13坪（23.04㎡）、主軸 北-1度-東。

第11号掘立柱建物跡

位置 6-359・360・379・380グリッド、規模 9間×9間・桁・梁9尺等間、面積 9坪（29.16㎡）、主軸 北-3度50分-東、層序（基準線標高値42.80m）

P₃ 1. 暗褐色 粒状R少。2. 暗褐色 粒状R・粗粒状R・粒状焼土・小RB少。3. 黒褐色 粒状R・粗粒状R少。4. 黒褐色 粒状R少・粒状焼土微。5. 黒褐色 塊状焼土少・炭化物少。

P₄ 1. 暗褐色 粒状R少・粒状焼土少。2. 暗褐色 粒状R混・粒状焼土少。3. 暗褐色 粒状R微・粒状焼土微。4. 暗褐色 黒色・RB混土。

P₆ 1. 暗褐色 RB含。2. 粗粒状R混・小RB混・RB多。3. 暗褐色 粗粒状R多。4. 暗褐色 粗RB少・RB混・粒状R多。5. 黒色・RB混土。6. 暗褐色 RB含。7. 暗褐色 RB主。

117坑 1. 暗褐色 粒状焼土多（竈の痕跡か）。119坑 1. 暗褐色 粒状焼土・粒状R少。2. 暗褐色 粒状R混。

132坑 1. 暗褐色 粒状焼土・粒状R微。133坑 1. 濁黒褐色 粒状R微 2. 濁黒褐色 RB多。

180坑 1. 暗褐色 粒状R・白色粒子混。2. 暗褐色 RB混。3. 暗褐色 RB少。（古代）

第12号掘立柱建物跡号

位置 5-99・100グリッド、規模 2間×3間・桁・梁7尺等間、面積 8.05坪（26.46㎡）、主軸 北-8度-西。

第13号掘立柱建物跡

位置 8-27~29・47~49グリッド、規模 2間×3間・桁8尺間・7尺間・梁8尺間、面積 10.23坪（34.56㎡）、主軸 北-0度-東、層序（基準線標高値42.70m）

P₁ 1. 暗褐色 粒状R混。2. 黒色。3. 暗褐色 粒状R・RB多。4. 黒色・RB混土。

P₂ 1. 暗褐色 粒状R混。2. 暗褐色 粒状R・RB多。3. 暗褐色 粒状R多。4. 黒色。

P₃ 1. 暗褐色 粒状R混。2. 暗褐色 黒色・RB混土。3. 暗褐色 粒状R多。4. 暗褐色 粒状R・RB混。

P₄ 1. 暗褐色 粒状R多。2. 暗褐色 RB多。3. 暗褐色 粒状R多。4. 2同質。5. 暗褐色 粒状R混。6. 3近質。

P₅ 1. 暗褐色 粒状R多。2. 暗褐色 粒状R混。3. 黒色 RB混。4. 黒色 粒状R少。5. 黒色 RB多。6. 暗褐色 粒状R混RB含。7. 黒色 RB少。8. 黒色・RB混土。

P₆ 1. 暗褐色 粒状R混。2. 暗褐色・RB混土。3. 暗褐色 RB主。

P₇ 1. 暗褐色 粒状R・粒状焼土混。2. 暗褐色 RB混。3. 2同質。4. 暗褐色 粒状R混。5. 黒色 RB混。6. 黒色・RB混土。7. 褐色。8. 7近質。

P₈ 1. 暗褐色 粒状R・RB混。2. 暗褐色 粒状R多。3. 黒色 RB多。4. 褐色。

P₉ 1. 暗褐色 粒状R多。2. 黒色 RB混。3. 黒色 RB少。4. 暗褐色・RB少。5. 黒色 RB混。6. 黒色・RB混土。7. 黒色 RB主。8. 黒色。

P₁₀ 1. 暗褐色 粒状R・粒状焼土少。2. 暗褐色 粒状R混。3. 暗褐色 粒状R少。4. 暗褐色 暗褐色 RB混。5. 黒色 RB混。6. 黒色・RB混土。

遺構計測値・土層説明

65溝 1. 暗褐色 粒状R混。2. 暗褐色 RB含。52坑 1. 暗褐色 粒状R少。53坑 1. 暗褐色 RJR含。
54坑 1. 黒褐色 粒状R多。2. 黒褐色 粒状R混。62坑 1. 黒褐色 粒状R含。63坑 1. 黒褐色 粒状R少。
2085P 1. 暗褐色 粒状R・RB混。2088P 1. 暗褐色 粒状R含。2090P 1. 暗褐色 粒状R若。2086P 1. 暗褐色 暗褐色。

第14号掘立柱建物跡

位置 8-25・26・45・46グリッド、規模 2間×3間・桁7尺間・梁7・6・7尺間、面積 7.76坪 (25.2m²)、主軸 北-1度30分-東、
層序 (基準線標高値42.70m)

P₄ 1. 暗褐色 粒状R痕。2. 暗褐色 RB痕。3. 暗褐色・RB混土。4. 暗褐色 RB含 (硬質)。
47坑 1. 黒褐色 RB含。2. 黒褐色 粒状R含・RB混。3. 黒褐色 RB多。72坑 1. 暗褐色。2. 暗褐色 粒状R少。

第15号掘立柱建物跡

位置 8-46・47・66・67グリッド、規模 2間×1間・南面庇・桁・梁尺間8尺、面積 3.55坪 (11.52m²)、主軸 北-3度50分-東、
層序 (基準線標高値42.60m)

P₁ 1. 暗褐色 粒状R・白色パミス混。2. 暗褐色 粒状R・粒状焼土混。3. 黒褐色 粒状R・粒状焼土混。4. 褐色。
P₄ 1. 暗褐色 粒状R・白色パミス混。2. 黒褐色 粒状R・白色パミス混。3. 暗褐色 RB多。
P₃ 1. 暗褐色 粒状R・白色パミス混。2. 暗褐色 粒状R・白色パミス混 (若硬)。4. 暗褐色 粒状R混。
P₆ 1. 暗褐色 RB含・粒状R混。2. 暗褐色 粒状R混・粒状焼土少。3. 暗褐色 粒状R多。
4. 暗褐色 粒状R含・粗粒状R少。5. 暗褐色 RB含。
57坑 1. 暗褐色 粒状R混。
58坑 1. 暗褐色 RB・粒状R多。2. 暗褐色 RB多。3. 黒色・RB混土。4. 2近質。5. 粒状R多。
6. 褐色 7. 5近質。8. 6. 同質。9. 褐色 粒状R多。10. 暗褐色 粒状R多RB含。
59坑 1. 濁黒褐色 粉殻含。2. 濁黒褐色 粒状R混。60坑 1. 濁黒褐色 粉殻含。61坑 1. 暗褐色 粒状R混。

第16号掘立柱建物跡

位置 9-252・253・272・273グリッド、規模 2間×3間・桁8尺間・梁8・7・8尺間、面積 10.23坪 (34.56m²)、
主軸 北-4度50分-西

層序 (基準線標高値42.60m)

P₁ 1. 暗褐色 粒状含・粒状焼土若・炭化物少。2. 暗褐色 粒状R少・粒状焼土少・炭化物含。
3. 暗褐色 粗粒R含・粒状R含・粒状焼土若・炭化物少。4. 暗褐色 粒状R混・粒状焼土少。
5. 暗褐色 RB含。6. 暗褐色 粒状R混・粗粒状R含・粒状焼土若。7. 暗褐色 粒状R含・小RB混・粒状焼土若。
P₂ 1. 暗褐色 粒状R少・粒状焼土少。2. 暗褐色 粒状R含・粗粒状R含。3. 暗褐色 RB若。
4. 暗褐色 RB少。5. 暗褐色 RB多。
P₃ 1. 暗褐色 小RB若・粒状R含・粒状焼土小。2. 暗褐色 粒状R若。3. 暗褐色 粒状R少。4. 3同質。
5. 暗褐色 RB含・粗粒状R含・粒状R含。6. 暗褐色 粒状R少。
P₄ 1. 暗褐色 粒状R含・粒状焼土少。2. 暗褐色 粒状焼土少・粒状R少。
3. 暗褐色 粗粒状R含・粗粒若・炭化物少。
P₅ 1. 暗褐色 粒状R含・粗粒状R若・粗粒微。2. 暗褐色 粗粒状R含。3. 暗褐色 粒状R含・炭化物若。
4. 暗褐色 RB含。5. 暗褐色 RB少。6. 暗褐色 粗粒状R若・粒状R少。7. 暗褐色 RB少。
P₆ 1. 暗褐色 粒状R含・粗粒状R少。2. 暗褐色 RB混・粒状R含。3. 暗褐色 粒状R若。
4. 暗褐色 粒状R少・炭化物少。5. 暗褐色 RB少・粗粒状R含。
P₈ 1. 暗褐色 暗褐色 粒状R含・粗粒状R少。2. 暗褐色 粗粒状R若・粒状R少。3. 暗褐色 粒状R若。
4. 暗褐色 RB少。5. 暗褐色 粒状R若。5. 暗褐色 RB少。
P₉ 1. 暗褐色 粗粒状R含・粒状R混。2. 暗褐色 粒状R含。3. 暗褐色 小RB若・炭化物少。
4. 暗褐色 RB多。
P₁₀ 1. 暗褐色 粒状R微。2. 暗褐色 粒状R少・粗粒状R微。3. 暗褐色 粗粒状R微。3. 暗褐色 粗粒状R混。
4. 暗褐色 RB少・粒状R混。5. 暗褐色 RB多。6. 暗褐色 粒状R含・粗粒状R少。
7. 暗褐色 粒状R少・粗粒状R少。8. 暗褐色 粒状R少・粗粒状R微。

325坑 1. 黒褐色 小RB斑状。326坑 1. 黒褐色 RB主。
432坑を切る落ち込み 1. 黒褐色 粒状R混・粗粒状R含。2. 黒褐色 小RB斑状。
3. 黒褐色 小RB含・粗粒状R多・粒状R多。
432坑 1. 黒褐色 RB少。2. 黒褐色 粗粒状R多・粗粒状含。3. 黒褐色 粗粒状少。
4. 黒褐色 RB多・粒状R多。5. 黒褐色 RB多・粗粒状R含。6. 黒褐色 粒状R少。
7. 黒褐色 RB多。8. 黒褐色 粒状R若・粒状焼土少。

第17・27号掘立柱建物跡

位置 9-258・259・278・279グリッド、規模 3間×3間・17号桁・梁6尺等間、27号桁6尺間・梁7・6・6尺間、
面積 17号 9坪 (29.16m²)・27号 9.5坪 (30.78m²)、主軸 17・27号北-3度50分-西、

層序 (基準線標高値42.40m)

P₁ 1. 暗褐色 粒状焼土少・粒状R含・炭化物含。2. 暗褐色 粒状R・炭化物少。3. 暗褐色 2同質。
4. 暗褐色 小RB多・粗粒状R多。5. 4同質。6. 暗褐色 小RB・粒状R含。7. 6同質。
P₄ 1. 暗褐色 粒状R含・粒状焼土少。2. 暗褐色 RB主体。3・4暗褐色 RB斑状。5. 暗褐色 粗粒状R含。
P₅ 1. 暗褐色 粒状R含。2・3暗褐色 粒状R若。4・5暗褐色 RB・粗粒状R・粒状R多。
6. 暗褐色 小RB・粗粒状R含。
P_{6,13} 1. 暗褐色 小RB・粒状R含・粒状焼土少。2. 暗褐色 RB・粗粒状R含。
P₇ 1. 暗褐色 粒状R含・粒状焼土若。2. 暗褐色 RB主体。
P_{8,14} 1. 暗褐色 RB混・粒状焼土多。2. 黒色・RB混土。3. RB。4. 黒色。5. RB。6. 黒色。

P_{10.16} 1. 暗褐色 RB主体。2. 暗褐色 小RB・粗粒状R多。

P_{11.17} 1. 暗褐色 粒状R混。2. 暗褐色 RB・粒状R多。

P_{12.18} 1. 暗褐色 粗粒状R多。2. 暗褐色 RB斑状。3. 暗褐色 粒状R混・粒状焼土含。

第18号掘立柱建物跡

位置 9-256・257・276・277グリッド、規模 3間×3間・桁6尺間・梁7・6・6尺間、面積 9.5坪 (30.78㎡)、主軸 北-3度50分-西、層序 (基準線標高値42.40m)

348坑 1. 黒褐色 粒状R含。356坑 1. 黒褐色 粒状R含・細粒状焼土少。358坑 1. 黒褐色 粒状R含。

359坑 1. 黒褐色 RB主体。2. 黒褐色 粒状R多。3. 黒褐色 粗粒状R少・粒状R含。4. 黒褐色 粗粒状R含。
5. 黒褐色 粗粒状R少・粒状R含。6. 黒褐色 粗粒状R多・粒状R含。7. 黒褐色 粗粒状R若・粒状R少。
8. 黒褐色 粒状R少。9. 黒褐色 小RB含。10. 黒褐色 小RB多。11. 黒褐色 粒状R含。

413坑 1. 黒褐色 粗粒状R少・粒状R含・粒状焼土少。

第19号掘立柱建物跡

位置 9-269~271・289~291グリッド、規模 3間×2間・桁・梁8尺等間、面積 10.68坪 (34.56㎡)、主軸 北-3度50分-西、層序 (基準線標高値42.50m)

P₁ 1. 暗褐色 細粒状R多。2. 暗褐色 細粒状R微。3. 暗褐色 RB主体。4. 暗褐色 粒状R含。5. 3近質。
6. 暗褐色 粒状R含・RB少。7. 暗褐色 粒状R含・粗粒状R含。

P₂ 1. 暗褐色 粒状R多。2. 暗褐色 粒状R少。3. 黒色 RB混。4. 暗褐色 粒状R多。
5. 黒褐色 粒状R多。6. 4近質。7. 暗褐色 粒状R多・RB多。

P₅ 1. 暗褐色 粒状R少。2. 黒褐色 粒状R多。3. 暗褐色 粒状R多。4. 黒色 RB混。

P₆ 1. 黒色 RB少。2. 粒状R・RB混。3. 黒色・RB混土。

P₇ 1. 暗褐色 RB混・粒状焼土・炭化物含。2. 黒色 粒状R少。3. 黒色 粒状R混。4. 暗褐色 粒状R混。5. 4近質。
6. 黒色 RB少。7. 暗褐色 RB多。8. 暗褐色 粒状R混。9. 黒色 粒状R混。10. 暗褐色 RB多。

P₈ 1. 暗褐色 細粒状R多。2. 暗褐色 粒状R混。3. 暗褐色 粒状R少。4. 暗褐色 粒状R多・粗粒状R含。
5. 暗褐色 RB斑状・粗粒状R多。6. 暗褐色 粗粒状R含。7. 暗褐色 RB少。8. 6近質。

P₉ 1. 暗褐色 粒状R少。2. 暗褐色 RB混。3. 暗褐色 RB混。4. 暗褐色 粒状R多。5. 黒褐色

第20号掘立柱建物跡

位置 9-217・218・238グリッド、規模 2間×2間・桁・梁6尺等間、面積 4坪 (12.96㎡)、主軸 北-14度50分-西、

第21号掘立柱建物跡

位置 9-238・239・258・259グリッド、規模 3間×2間・桁7・6・7尺間・梁6尺間、面積 6.67坪 (21.6㎡)、主軸 北-3度50分-西

第22号掘立柱建物跡

位置 9-198・199・218・219グリッド、規模 2間×3間?・桁・梁8尺等間、面積 10.68坪 (34.56㎡)、主軸 北-10度50分-西、

第23号掘立柱建物跡

位置 9-216・217・236・237グリッド、規模 3間×2間・8桁尺間・6梁尺間、面積 8坪 (25.92㎡)、主軸 北-10度50分-西、

第24号掘立柱建物跡

位置 9-175・176・195・196グリッド、規模 2×3間・桁8.5尺間・梁8・9・8尺間、面積 11.80坪 (38.25㎡)、主軸 北-10度-西、

第25号掘立柱建物跡

位置 9-266・267・286・287グリッド、規模 2間×3間桁・梁8尺等間、面積 10.68坪 (34.56㎡)、主軸 北-3度50分-西、

層序 (基準線標高値42.60m)

43坑 1. 黒褐色 粗粒状R・粒状R多・小RB含。

P₁ 1. 暗褐色 粗粒状R・粒状R多。2. 黒色・RB混土。3. 暗褐色 RB斑状。4. 暗褐色 2近質。

P₂ 1. 黒色・RB混土。2. 暗褐色 RB主体・塊状黒褐色混。3. 暗褐色 RB主体。4. 黒褐色 RB少。
5. 塊状黒褐色。6. 黒褐色・RB混土。

P₃ 1. 暗褐色 粒状R多。2. 暗褐色 粗粒状R・粒状R多。3. 暗褐色 粗粒状R・粒状R多・RB含。

4. 暗褐色 粗粒状R・粒状R多・RB少。5. 暗褐色 RB・粗粒状R・粒状R多。6. 暗褐色 RB主体。
7. 暗褐色 RB・粗粒状R含。

P₄ 1. 暗褐色 粒状R多。2. 暗褐色 RB混。3. 暗褐色 RB多。4. 黒色 RB混。5. 暗褐色 粒状R含。

6. 暗褐色 RB含。7. 黒色 RB混。8. 黒色 RB混 (硬質)。

P₈ 1. 暗褐色 粒状R・RB多。2. 暗褐色 粒状R多。3. 黒褐色 粒状R多。4. 暗褐色 粒状R混。

5. 黒褐色 粒状R混。6. 暗褐色 粒状R多。7. 黒褐色 粒状R多。8. 黒褐色 粒状R含。

9. 黒褐色 粒状R多。10. 8同質。11. 暗褐色 粒状R多。12. 黒褐色 粒状R含。13. 暗褐色 粒状粒状多。

第26号掘立柱建物跡

位置 9-175・176・195・196グリッド、規模 2間×3間・桁・梁8尺等間、面積 10.68坪 (34.56㎡)、主軸 北-7度60分-西

第27号掘立柱建物跡 (第17号掘立柱建物跡を見よ)

第28号掘立柱建物跡

位置 9-269~271・289~291グリッド、規模 3間×2間・桁・梁9尺等間 (建替)・桁・梁8尺等、面積 13.5坪 (43.79㎡)、

主軸 北-3度50分-西

P₁ 1. 暗褐色 小RB微・粒状焼土少・粒状R微。2. 暗褐色 粒状R混。3. 粒状R微・粒状焼土少。4. 小RB少。

P₇ 1. 暗褐色 暗褐色 粒状R混。2. 暗褐色 粒状R少。3. 暗褐色 粒状R含。4. 暗褐色 粒状R・RB少。
5. 3近質。6. 4近質。

P₈ 1. 黒色 RB混。2. 黒色 粒状R含。3. 暗褐色 RB混。4. 暗褐色。5. 4同質。6. 暗褐色 粒状R混。

7. 暗褐色 粒状R多 (硬質)。8. 暗褐色 RB多 (硬質)。

P₉ 1. 黒色・RB混土。2. 暗褐色 粒状R少。3. 暗褐色 RB多。4. 暗褐色 粒状R微。5. 2近質。

遺構計測値・土層説明

第29号掘立柱建物跡

位置 8-11・12・31・32グリッド、規模 2間×3間・桁・梁8尺等間、面積 10.68坪 (34.56㎡)、主軸 北-3度50分-西
層序 (基準線標高値42.50m)

- P₁ 1. 暗褐色 粒状R混・粒状焼土少。2. 黒色 粒状R少。3. 黒色 RB混。4. 暗褐色 RB多。
5. 暗褐色 粒状R少・炭化物少。6. 暗褐色 粒状R少。7. 暗褐色 RB少。8. 暗褐色 RB多。
P₆ 1. 暗褐色 粒状R・粒状焼土含。2. 暗褐色 粒状焼土少。
P₇ 1. 暗褐色 粒状焼土混。2. 暗褐色 粒状焼土・粒状R少。3. 暗褐色 粒状R混。
4. 暗褐色 粒状R・RB混。5. 暗褐色 粒状R混。6. 暗褐色 粒状R多。7. 暗褐色 粒状R・粒状焼土混。
8. 黒褐色 粒状R混。9. 暗褐色 粒状R混。10. 暗褐色 粒状R多。11. 暗褐色 粒状R含。12. 10同質。13. 暗褐色 RB混。
2277P 1. 暗褐色 粗粒状R・粒状R多。2. 暗褐色 粒状R少。3. 暗褐色 粗粒状R含。
4. 暗褐色 粗粒状R少・粒状R含。5. 暗褐色 小RB少。
2278P 1. 暗褐色 粗粒状R少・粒状R含。2. 暗褐色 粗粒状R少・RB含。3. 暗褐色 粒状R含。

第30号掘立柱建物跡

位置 8-11・12・31・32・51・52グリッド、規模 2間×3間(?)・桁・梁8尺等間、面積 10.68坪 (34.56㎡)、
主軸 北-3度50分-西

層序 (基準線標高値42.50m) 65溝 1. 微粒状R多・粒状焼土含。

- P₇ 1. 暗褐色 粒状R含・白色粒子・粒状焼土・炭化物少。2. 暗褐色 粒状R多・粒状焼土若。
3. 暗褐色 粗粒状R多・RB若。4. 暗褐色 RB斑状。5. 4同質。
P₉ 1. 暗褐色 粒状R多・塊状褐色土斑状。2. 暗褐色 RB斑状。3. 暗褐色 粒状R・粒状焼土少。
4. 暗褐色 粗粒状R含。
P₁₀ 1. 黒褐色 塊状褐色土多・粒状R混。2. 暗褐色 塊状褐色多・粒状R多・粗粒状R少。3. 暗褐色 粒状R混。
4. 暗褐色 粒状R若・粒状焼土少。5. 暗褐色 粗粒状R多。6. 暗褐色 RB混・粗粒状R多。
7. 暗褐色 RB含。8. 暗褐色 RB多。

第31号掘立柱建物跡

位置 8-31・32・51・52グリッド、規模 2間(?)×3間(?)・桁・梁8尺等間、面積 10.68坪 (34.56㎡)、主軸 北-1度-東

第32号掘立柱建物跡

位置 9-353・354・373・374グリッド、規模 3間×3間・桁・梁7尺等間、面積 12.25坪 (39.69㎡)、主軸 北-3度50分-西

第33号掘立柱建物跡

位置 9-353・354・373・374グリッド、規模 1間×2間・12桁尺間・梁6尺間、面積 4坪 (12.96㎡)、主軸 北-1度-西

第34号掘立柱建物跡

位置 9-354・355・374・375グリッド、規模 2間×2間・桁7・8尺間・梁8尺間、面積 6.68坪 (21.6㎡)、主軸 北-1度50分-東、

第36号掘立柱建物跡

位置 8-12・9-392グリッド、規模 未完掘のため詳細不詳 桁・梁8尺間(?)、主軸 北-4度-西?。

第37号掘立柱建物跡

位置 8-31・32・51・52グリッド、規模 2間(?)×2間(?)・桁・梁8尺等間(?)、面積 7.13坪 (23.04㎡)、主軸 北-4度50分-東

第38号掘立柱建物跡

位置 9-391・392グリッド、規模・面積・主軸 未完掘より詳細不詳。

第39号掘立柱建物跡

位置 9-355グリッド、規模 2間(?)×2間・桁・梁6尺等間、面積 4坪 (12.96㎡)、主軸 北-5度-東、

第40号掘立柱建物跡

位置 9-394グリッド、規模・面積・主軸 未完掘より詳細不詳。

層序 (基準線標高値42.50m) 第40号掘立柱建物跡 P₁ 暗褐色 RB・粒状R含。

柵跡

- 第1号柵跡 位置 6-326・327・346・347グリッド、規模 径・7.38m、面積 12.77坪 (41.38㎡)、主軸 北-40度-東。
第2号柵跡 位置 6-326・327・346・347グリッド、規模 5.88m×4.55m、面積 6.60坪 (21.40㎡)、主軸 北-30度-東。
第3号柵跡 位置 5-41・61~67・81~88・101~108・121~128・142~148・163~166グリッド、規模 38.6m+α×29m+α、
主軸 北-41度-西。
第4号柵跡 位置 9-335~337グリッド、規模 発見長7.94m・5間分・6尺間、主軸 北-104度-東。
第5号柵跡 位置 9-353~356グリッド、規模 発見長14.24m・7間分・12尺・10尺・8尺・8尺・10尺、主軸 北-91度-東、

地下式土坑

第1号地下式土坑

位置 3-358・359・379グリッド、規模 全長3.25m・主室長1.87m・同幅2.64m・入口部長1.38m・同幅0.8m、

主軸 北-95度50分-東、

層序 (基準線標高値42.80m) 31溝 1. 暗褐色 砂礫混。2. 暗褐色 砂礫混・砂層。

16坑 1. 暗褐色 砂礫含。2. 黄褐砂層 風化地山砂層。3. 暗褐色 1近質。4. 明黄褐砂層 風化地山砂層。

74坑 1. 暗褐色 砂礫混。

本坑 1. 暗褐色 砂礫含・地山黄褐砂混。2. 黄褐砂。3. 黒褐色 砂礫混。4. 明黄褐砂 地山明黄褐砂層。

5. 黒褐色 砂礫微。

第2号地下式土坑

位置 3-317・318・337・338グリッド

規模 全長2.65m・主室長1.54m・同幅1.9m・入口部長1.1m・同幅1.02m, 主軸 北-121度50分-南。

層序(基準線標高値42.40m) 1. 黒褐色 砂礫多・塊状褐色土含。2. 黒褐色 砂礫含。3. ローム塊。4. 砂礫。5. 黒褐色 砂礫多。

第3号地下式土坑

位置 2-119・120・139・140グリッド, 規模 全長2.88m・主室長1.55m・同幅2.39m・入口部長1.28m・同幅1.18m。

主軸 北-172度-南

第4号地下式土坑

位置 10-365・385グリッド, 規模 全長3.25m・主室長2.44m・同幅2.8m・入口部長0.81m・同幅0.9m, 主軸 南-3度-西。

第5号地下式土坑

位置 9-5・6・10-385・386グリッド。

規模 全長4.9m・主室長2.16m・同幅4.75・1.4m・前室長1.04m・同幅2.12m・入口部長2.26m・同幅1.03m, 主軸 北-101度-西。

層序(基準線標高値42.30m)

1. 黒褐色 2. 茶褐色 3. 黒褐色 RB微。4. 黄茶褐色 ソフトローム。5. 暗茶褐色 RB混。
6. 黄褐色 RB主。7. ソフトローム・黒褐色土の混土。8. ソフトローム。9. RB。10. 茶褐色 RB小。11. 茶褐色 RB含。
12. 暗茶褐色 RB混。13. 暗茶褐色 RB少。14. 黒褐色 RB微。15. 茶褐色 黒褐色・RBの混土(RB含)。
16. 茶褐色 黒褐色・RB混土(RB多)。17. 黒褐色 粗粒状R含・RB混。18. 茶褐色 黒褐色・RBの混土(RB主)。
19. 黒褐色 RB含。20. 茶褐色 黒褐色・RBの混土(RB多)。21. 黒褐色 黒褐色・RBの混土(RB含)。22. 黒褐色 RB含。
23. 黒褐色 黒褐色・RBの混土(RB少)。24. 黒褐色 黒褐色・RBの混土(RB多)。25. RB。
26. 黒褐色 黒褐色・RBの混土(RB少)。27. 黒褐色 RB若。28. 茶褐色 小RB少。29. 茶褐色 RB含。30. RB。
31. 黒褐色 RB微。32. 茶褐色 RB若。33. 茶褐色 塊状灰茶褐色多・粒状R含。34. 茶褐色 粒状R少。
35. 茶褐色 RB少・粗粒状R含。36. 茶褐色 RB含・粗粒状R多。37. 36近質。38. 暗茶褐色 RB含。39. RB。
40. 茶褐色 RB斑状。41. 黒褐色 粗粒状R少。42. 黒褐色 少RB微。43. RB。44. 黒褐色 RB微・粒状R含。
45. 黒褐色 粒状R少。46. 黒褐色 RB少・粗粒状R少。47. 黒褐色 RB主。48. 黒褐色 RB含・粒状R多。49. RB。
50. 茶褐色 RB含。51. 茶褐色 粒状R多・RB微。52. 濁褐色 粒状R多・RB微。53. 濁褐色 粒状R少。54. RB。
55. 黒褐色 粒状R含。56. 黒褐色 RB微粒状R含。57. RB。58. 茶褐色 RB斑状。59. 茶褐色 黒褐色・RBの混土(大RB主)。
60. RB主・塊状黒褐色少。

第6号地下式土坑

位置 9-4・5・24・25グリッド, 規模 全長5.52m・主室長3.0m・同幅2.3m・入口部長1.58m・同幅1.4m・坑道長0.94m・同幅0.6

主軸 北-24度-東

層序(基準線標高値42.30m) 1. 暗茶褐色 小RB含・塊状炭化物・粒状焼土若(80溝)。

2. 茶褐色 小RB・粗粒状R混。3. 茶褐色 小RB・粗粒状R微・塊状炭化物微。
4. 茶褐色 粗粒状R含・粒状R混。5. 茶褐色 塊状灰褐色多・小RB含・粗粒状R含。
6. 茶褐色 塊状灰褐色含・小RB少・粗粒状R含。7. 暗茶褐色 粗粒状R含・粒状R多。
8. 暗茶褐色 粗粒状R少・粒状R混。9. 灰暗茶褐色 塊状灰褐色土多・粗粒状R微。
10. 暗茶褐色 RB含・粗粒状R斑状。11. 7同質。12. 10同質。13. 10近質。14. 7同質。
15. 暗茶褐色 粗粒状R極多・粒状R多・塊状茶褐色多。16. 黒褐色 粒状R極多。17. 黒褐色 粒状R多・炭化物含。
18. 灰暗褐色 粒状R多。19. 6近質。20. 6近質。21. 10同質。22. 灰暗褐色 塊状灰褐色多・RB含・粗粒状R含。23. 7同質。
24. 黒褐色 塊状黒褐色層・RB少。25. 暗茶褐色 RB含・粗粒状R含・粒状R少。26. 24同質。27. 25同質。28. 21同質。29. 25同質。
30. 10同質。31. 塊状暗茶褐色。32. RB。33. 黒褐色 RB多・塊状黒褐色多。34. 灰暗褐色 塊状灰褐色含・RB含。
35. 灰暗褐色 塊状灰暗褐色含・RB混。36. 灰暗褐色 塊状灰暗褐色含・RB多。37. 暗茶褐色 粗粒状R多。

第7号地下式土坑

位置 9-25・26・45・46グリッド。

規模 全長7.95m・主室長4.8m・同幅2.2m・前庭部長2.36m・同幅1.95m・坑道長0.79・同幅0.63m, 主軸 北-76度-西。

層序(基準線標高値42.30m) 1. 茶褐色 粒状R含・RB斑状。2. 暗茶褐色 3. 暗茶褐色 RB多斑状。4. 3同質。

5. 暗茶褐色 RB含。6. RB。7. 暗茶褐色 RB主。8. 塊状ローム。9. 明黄褐色ローム。10. RB(天井崩落土)。

第8号地下式土坑

位置 6-19グリッド, 規模 主軸長2.65m・主室長2.03m・同幅2.14・1.6m・入口部長0.62m・同幅0.5m, 主軸 北-22度-東。

層序(基準線標高値41.80m) 1. 黒褐色 粒状R混。2. 黒褐色 粒状R少。3. 黒色 粒状R混。4. 黒褐色 粒状R多。

5. 黒褐色 RB混。6. 黒褐色 RB多。7. 黒色 RB混。8. BR主。

第9号地下式土坑

位置 9-1・21グリッド, 規模 全長3.5m・主室長2.4m・同幅2.5m・入口部長1.1m・同幅1.4m, 主軸 北-2度50分-東。

層序(基準線標高値41.90m) 1. 黒褐色 RB含。2. 黒褐色 粒状R混。3. 黒褐色 RB多。4. 黒褐色 粒状R多。5. 黒色。

6. 黒褐色 RB少。7. 黒色 RB少。8. 7近質。9. 黒褐色 粒状R・RB多。10. RB。

第10号地下式土坑

位置 6-19・20・39・40グリッド。

規模 主軸長3.0m・主室長2.0m・同幅2.04m・入口部長1.0m・同幅0.7m, 主軸 北-4度50分-西。

層序(基準線標高値41.80m) 1. 黒褐色 粗粒状R含(落ち込み)。2. 黒褐色 粒状R含。3. RB主。

4. 黒褐色 粗粒状R含・小RB含。5. 黒褐色 粗粒状R多・小RB多・RB含。6. 黒褐色 RB混。7. 黒褐色 RB多。

8. 黒褐色 粒状R・RB混。9. 黒褐色 大RB多。10. 黒褐色 RB混。11. 灰層。12. 黒褐色 RB多。13. RB(天井崩壊土)。14.

RB・黒色土の互層。15. RB(貼床)。16. RB・黒色土の互層。17. 黒色。18. RB。

遺構計測値・土層説明

第11号地下式土坑

位置 9-21・22グリッド、規模 全長3.4m・主室長2.16・同幅5.36・3.66m・入口部長1.24・同幅0.87m

主軸 北-9度~12度40分-西・北-13度75分-西。

層序(基準線標高値41.90m) 1. 暗褐色 粒状R・RB多(9-567土坑) 2. 褐色 粒状R・RB多。3. 黒褐色 粒状R・RB多。4. 黒色 RB多。5. 黒色・RB混土。6. 4近質。7. 4近質。8. 黒褐色 RB混。9. 4近質。10. 黒色 粒状R混。11. 黒色・RB混土。12. 黒褐色 粒状R・RB多。13. 黒褐色 粒状R・RB混。14. 黒色 RB斑状。15. 黒色 粒状R・RB混。16. 黒褐色 RB多。

第12号地下式土坑

位置 10-385グリッド、規模 主軸長2.5m・主室長1.74m・同幅2.12m・入口部長0.76m・同幅1.5m。主軸 北-16度50分-東

層序(基準線標高値41.90m) a. ローム。b. 暗色帯。c. ローム。d. 砂礫。e. 砂層。f. 灰色シルト。

井戸跡

2区第1号井戸跡 位置 2-197グリッド、規模 長径1.3m・短径0.95m・深度0.9m。

層序(基準線標高値42.10m) 1. 黒色 鉄分多。2. 黒色 粗粒状R多。3. 黒色 粒状R・RB多。

2区第2号井戸跡 位置 2-179グリッド、規模 長径3.6m・短径3.2m・深度3.2m。

層序(基準線標高値42.30m) 1. 濁黒褐色 大礫多。2. 黒褐色 塊状濁黒褐色土混・礫若。3. 濁黒褐色 RB含・礫混。4. 濁黒褐色 礫少。5. 濁黒褐色 礫混。6. 濁黒褐色 礫若。7. 濁黒褐色 RB若。8. 濁黒褐色 大礫混。9. RB。10. 濁黒褐色 RB含。11. 濁黒褐色土と礫を含有する濁黒褐色土の互層。

2区第3号井戸跡 位置 2-18グリッド、規模 長径1.7m・短径1.68m・深度2.08m。

層序(基準線標高値42.20m) 1. 黒褐色 RB多。2. 暗褐色 RB多。3. 暗褐色 RB混。4. 暗褐色 塊状粗シルト混。5. 暗褐色 RB混。6. 褐色 RB混。7. 褐色 RB少。8. 黒褐色。9. 褐色 RB多。10. 黒褐色 RB混。11. 暗褐色 RB混。12. 褐色 RB多。

3区第1号井戸跡 位置 3-398グリッド、規模 長径2.92m・短径2.65m・深度3.15m。

層序(基準線標高値42.70m) 1. 茶褐色 砂礫主。2. 暗茶褐色 砂礫主・塊状褐色土含。3. 1同質。4. 暗茶褐色 砂礫含。5. 茶褐色 砂礫含。6. 暗茶褐色 砂礫含。7. 黒褐色 砂礫少。8. 黒褐色 砂礫含。

3区第2号井戸跡 位置 3-357グリッド、規模 長径1.2m・短径1.2m・深度2.29m。

層序(基準線標高値42.50m) 1. 黒褐色 塊状褐色含・砂礫少。2. 黒褐色 砂礫含。

5区第1号井戸跡 位置 5-43・63グリッド、規模 長径0.95m・短径0.78m・深度2.57m。

層序(基準線標高値42.60m) 1. 黒褐色 粒状R多。2. 黒褐色 粒状R混・粒状焼土・炭化物少。3. 黒褐色 粒状R混。4. 暗褐色 粒状R混。5. 暗褐色・RB混土。6. 黒褐色・RBの混土。7. 黒色。8. 5近質。9. 6近質。a. ローム。b. 赤褐色シルト。c. 砂層(少礫含)。d. 灰色シルト。e. 少礫。f. 粗粒砂。g. 青灰色シルト。h. 砂礫。

5区第3号井戸跡 位置 5-73グリッド、規模 長径0.8m・短径0.76m・深度0.6m。

層序(基準線標高値41.50m) 1. 粘質黒色。2. B軽石起源の2次堆積B軽石層。3. 1同質。4. 2同質。5. 1同質。6. 2同質。7. 灰褐色シルト。8. 黄灰色砂層。9. 1同質。10. 2同質。11. 黒色土。12. 灰黄色シルト。

5区第4号井戸跡位置 5-73・74グリッド、規模 長径0.98m・短径0.91m・深度1.01m。

5区第5号井戸跡位置 5-32・52グリッド、規模 長径1.18m・短径1.04m・深度1.33m。

5区第6号井戸跡位置 5-52グリッド、規模 長径0.84m・短径0.71m・深度0.8m。

6区第2号井戸跡位置 6-266グリッド、規模 長径1.05m・短径0.9m・深度3.87m。

層序(基準線標高値43.30m) 1. 黒褐色 塊状黒色土含。2. 暗褐色 RB多。a. ローム。b. 暗色帯。c. ローム。d. 粗粒砂。e. 灰黄色シルト。f. 灰色シルト。g. 固結灰色シルト。

6区第2号井戸跡位置 6-248グリッド、規模 長径1.03m・短径0.8m・深度5.07m。

層序(基準線標高値42.90m) 1. 暗褐色 粒状R・白色パミス・粒状焼土微。2. 黒褐色 1同。3. 暗褐色 粒状R少。a. ローム。b. 暗色帯。c. ローム。d. 粗粒砂。e. 黄灰色シルト。f. 褐色シルト・灰色シルトの互層。g. 灰色シルト。h. 固結灰色シルト。

6区第3号井戸跡 位置 6-362グリッド、規模 長径0.77m・短径0.68m・深度3.30m。

層序(基準線標高値42.90m) 1. 黒色 白色パミス微。2. 暗褐色 RB少。3. 暗褐色 粒状R混。4. 暗褐色・RB混土。5. 黒褐色 粒状R多。6. 暗褐色 粒状R多。

6区第4号井戸跡 位置 6-361グリッド、規模 長径1.65m・短径1.16m・深度4.13m。

層序(基準線標高値m) 1. 褐色・黒色・RB混土。2. 褐色・RB混土。a. ローム。b. 赤褐色砂礫層。

b層より下位は、赤褐色砂礫・礫層が南側に向かい強い傾斜で互層堆積する。

6区第6号井戸跡 位置 6-255グリッド、規模 長径2.08m・短径1.84m・深度2.37m。

層序(基準線標高値42.60m) a. ローム。b. 暗色帯。c. 黒褐色粗粒砂。d. 灰色砂。

6区第7号井戸跡 位置 6-295グリッド、規模 長径1.4m・短径1.3m・深度2.4m。

層序(基準線標高値42.50m) a. ローム。b. 暗色帯。c. 黒褐色粗粒砂。d. 灰色砂。

6区第8号井戸跡 位置 6-293グリッド、規模 長径1.0m・短径0.9m・深度0.9m。(基準線標高値41.60m)

6区第9号井戸跡 位置 6-293グリッド、規模 長径1.2m・短径1.15m・深度2.1m。(基準線標高値41.60m)

6区第10号井戸跡 位置 6-292グリッド、規模 長径1.1m・短径1.01m・深度1.67m。(基準線標高値41.60m)

6区第11号井戸跡 位置 6-293・313グリッド、規模 長径1.23m・短径1.11m・深度0.71m。

層序(基準線標高値41.60m)

80坑 1. 褐色(砂質)。2. 褐色 RB混。3. 灰褐色(砂質)。4. 灰褐色 小塊状暗褐色シルト含。

5. 灰褐色 塊状暗褐色土(シルト質)多。

6区第12号井戸跡 位置 6-40グリッド、規模 長径0.9m・短径0.87m・深度3.96m。

層序(基準線標高値41.70m) a. ローム。b. ローム。c. 暗色帯。d. ローム。e. 褐灰色砂。f. 黒褐色砂。g. 火灰褐色山灰。h. 黒褐色砂。i. 灰色シルトパミス含。j. 灰褐色シルト。k. 褐灰色シルト。l. 褐色シルト。m. 灰色シルト。

6区第13号井戸跡 位置 6-100グリッド、規模 長径1.26m・短径0.97m・深度2.51m。(基準線標高値41.60m)

6区第14号井戸跡 位置 6-341グリッド、規模 長径1.53m・短径1.3m・深度2.1m。

層序(基準線標高値42.70m) 1. 黒褐色 RB多。2. 黒褐色砂。RB混。3. 黒褐色 2近質。4. 黒褐色 2同質。5. 黒褐色 RB含。6. 黒褐色・RB・砂礫の混土。a. ローム。b. 暗色帯。c. ローム。d. 砂礫。

6区第15号井戸跡 位置 6-78グリッド、規模 長径1.78m・短径1.5m・深度3.29m。

層序(基準線標高値42.40m) 1. 黒褐色。2. 暗褐色 黒色土とRBの混土。3. 暗褐色。4. 黒褐色。a. ローム。b. 暗色帯。c. ローム。d. 灰褐色山灰。e. 灰褐色砂。f. 黒褐色砂。g. 褐色シルト含パミス。h. 暗褐色シルト含白色軟質パミス。i. 褐色シルト。j. 灰色シルト。

6区第16号井戸跡位置 6-20グリッド、規模 長径1.04m・短径1.02m・深度2.53m。

層序(基準線標高値42.60m)

a. ローム。b. 暗色帯。c. ローム。d. 灰褐色砂。e. 黒褐色砂。f. 灰褐色砂。g. 褐灰色シルト。

6区第17号井戸跡位置 6-19・20・グリッド、規模 長径1.9m・短径1.16m・深度3.65m。

層序(基準線標高値41.90m) a. ローム。b. 暗色帯。c. ローム。d. 褐灰色砂。e. 黒褐色砂。f. 褐色シルト含黄褐色軟質パミス。g. 暗褐色シルト。h. 灰褐色シルト。i. 褐色灰色シルト含白色軟質パミス。j. 灰褐色シルト。k. 灰色シルト。

6区第18号井戸跡 位置 6-19グリッド、規模 長径1.1m・短径0.9m・深度2.42m。

層序(基準線標高値41.90m) a. ローム。b. 暗色帯。c. ローム。d. 褐色灰色砂。e. 黒褐色砂。f. 褐色シルト。g. 暗褐色シルト。

7区第2号井戸跡 位置 7-319グリッド、規模 長径2.0m・短径1.52m・深度2.18m。

層序(基準線標高値41.50m) a. ローム。b. 暗色帯。c. ローム。d. 褐灰色砂。e. 黒褐色砂。f. 灰褐色砂。g. 褐灰色シルト。

7区第3号井戸跡 位置 7-379グリッド、規模 長径2.47m・短径2.0m・深度2.9m。

層序(基準線標高値42.70m) a. ローム。b. 暗色帯。c. ローム。d. 褐灰色砂。e. 黒褐色砂。f. 灰褐色砂。g. 褐灰色シルト。

8区第1号井戸跡 位置 8-124グリッド、規模 長径1.36m・短径1.32m・深度1.79m。

層序(基準線標高値42.60m) a. ローム。b. 暗色帯。c. 褐色シルト。d. 灰白色シルト。e. 灰白色砂礫混シルト。

8区第2号井戸跡 位置 8-107グリッド、規模 長径1.12m・短径0.93m・深度2.04m。

層序(基準線標高値42.50m) 1. 黒色 粗粒状R含。a. ローム。b. 暗色帯。c. 褐色シルト。d. 灰白色シルト。e. 灰白色砂礫混シルト。

8区第3号井戸跡 位置 8-86グリッド、規模 長径1.2m・短径1.12m・深度1.74m。

層序(基準線標高値42.60m) 1. 暗褐色 粗粒状R含。2. 暗褐色 RB混。3. 暗褐色 粗粒状R混。a. ローム。b. 暗色帯。c. ローム。d. 灰白色シルト。e. 灰白色砂礫混シルト。

8区第4号井戸跡 位置 8-12・13グリッド、規模 長径 $3.0+\alpha$ m・短径 $2.77+\alpha$ m・深度2.34m。

層序(基準線標高値42.50m) 1. 暗褐色 粒状R混。2. 褐色土・RBの混土。3. 暗褐色・RB・粒状Rの混土。4. 2近質。

5. 3同質。6. 褐色。7. 3近質。8. 6近質。9. 褐色土・RBの混土。10. 黒色土・褐色土RBの混土。a. ローム。b. 暗色帯。c. ローム。d. 灰褐色シルト。

8区第5号井戸跡 位置 8-1グリッド、規模 長径1.19m・短径1.13m・深度1.17m。

層序(基準線標高値42.60m) a. ローム。b. 暗色帯。

9区第1号井戸跡 位置 9-333グリッド、規模 長径1.51m・短径1.38m・深度1.96m。

層序(基準線標高値42.00m) 1. 黒褐色 小RB若・粗粒状R・粒状R多。2. 黒褐色 RB・小RB・粗粒状R・粒状R多。3. 黒褐色 小RB微・粗粒状R・粒状R多。4. 粗粒状R・粒状R多。5. 黒褐色 RB少・小RB少・粗粒状R・粒状R多。6. 6近質。

9区第2号井戸跡 位置 9-45グリッド、規模 長径2.88m・短径2.68m・深度2.5m。

層序(基準線標高値42.60m) 1. 黒色 RB少・粒状焼土少。2. 黒褐色 粒状焼土混。3. 暗褐色 粒状焼土混。

4. 褐色土・黒色土の混土。5. 暗褐色。6. 4近質。7. 暗褐色 RB主。8. 黒色 RB混。9. 黒色土とRBの混土。

9区第3号井戸跡 位置 9-335グリッド、規模 長径1.19m・短径1.16m・深度2.87m。

層序(基準線標高値42.30m) 1. 黒褐色 粒状R・粒状焼土少。2. 暗褐色 RB混。3. 暗褐色 粒状R・粒状焼土少。

4. 暗褐色 RB多。5. 黒色 RB混。6. 暗褐色 粒状R混。

9区第4号井戸跡 位置 9-104・105グリッド、規模 長径1.57m・短径1.3m・深度4.07m

層序(基準線標高値42.50m) 1. 濁黒褐色 粒状R混。2. 濁黒褐色 粗粒浅黄橙粒子主。3. 濁黒褐色 粒状R含(下位層の沈下により、全体に隙間が多い。) 4. 濁黒褐色 大RB含。5. 濁黒褐色 RB少。6. RB。a. ローム。b. 暗色帯。c. ローム。

d. 砂礫。e. 灰色シルト。f. As-K二次堆積。g. 黄色シルト。

9区第5号井戸跡 位置 9-85グリッド、規模 長径1.8m・短径1.72m・深度2.72m。

層序(基準線標高値42.60m) 1. 黒褐色 粗粒状R含。2. 黒褐色 粒状R少。3. 黒褐色 粗粒状R含。4. 黒褐色 粒状R少。

5. 3同質。6. 3近質。7. 黒褐色 RB少。8. 黒褐色 粒状R含。9. 黒褐色 粗粒状R少・粒状R少(陥没に伴う隙間が顕著)。

10. 黒褐色 RB斑状。a. ローム。b. 暗色帯。c. ローム。d. 砂礫。e. 灰色シルト。

9区第6号井戸跡 位置 9-84・85・104・105グリッド、規模 長径2.1m・短径2.0m・深度3.15m。

層序(基準線標高値42.60m) 1. 茶褐色 粗粒状R含。2. 茶褐色・塊状灰褐色シルトの混土。3. RB・塊状灰褐色シルトの混土。

4. RB。5. 茶褐色 RB含。6. RB・塊状黄灰色シルトの混土。4'RB。5'a. 茶褐色・RBの混土。5'b RB少。

5'c. RB。5'd. 茶褐色・RBの混土。a. ローム。b. 暗色帯。c. ローム。d. 砂礫。e. 灰色シルト。

9区第7号井戸跡 位置 9-104グリッド、規模 長径1.46m・短径1.28m・深度2.1m。

層序(基準線標高値42.50m) a. ローム。b. 暗色帯。c. ローム。d. 砂礫。e. 灰色シルト。f. As-K二次堆積。

9区第8号井戸跡 位置 9-82グリッド、規模 長径1.14m・短径1.08m・深度2.28m。(基準線標高値42.00m)

遺構計測値・土層説明

- 9区第9号井戸跡 位置 9-167グリッド, 規模 長径1.2m・短径1.2m・深度2.48m,
層序(基準線標高値42.30m) 1, 黒褐色 白色パミス混。2, 暗褐色 白色パミス混。3, 黒色 白色パミス混。4, 黒色 RB多。
5, 黒色 陥没に伴う間隙が顕著。
- 167坑 1, 黒褐色 RB含。2, 黒褐色 小RB・粗粒状R・黒色土の硬質混土。
a, ローム。b, 暗色帯。c, ローム。d, 砂礫。e, 灰色シルト。
- 9区第10号井戸跡 位置 9-28グリッド, 規模 長径1.55m・短径1.21m・深度2.54m,
層序(基準線標高値42.50m) a, ローム。b, 暗色帯。c, ローム。d, 砂礫。
- 9区第11号井戸跡 位置 9-166・186グリッド, 規模 長径2.24m・短径2.16m・深度2.28m,
層序(基準線標高値42.50m) a, ローム。b, 暗色帯。c, ローム。d, 砂礫。
- 9区第12号井戸跡 位置 9-166グリッド, 規模 長径1.46m・短径1.35m・深度3.22+ α (\approx 1m) m,
層序(基準線標高値52.50m) a, ローム。b, 暗色帯。c, ローム。d, 砂礫。
- 9区第13号井戸跡 位置 9-105グリッド, 規模 長径0.89m・短径0.76m・深度4.64m,
層序(基準線標高値42.40m) a, ローム。b, 暗色帯。c, ローム。d, 砂礫。e, 灰色シルト。f, 砂礫。
- 9区第14号井戸跡 位置 9-103・104グリッド, 規模 長径3.35m・短径2.5m・深度3.06m,
層序(基準線標高値42.50m) a, ローム。b, 暗色帯。c, ローム。d, 砂礫。e, 灰色シルト。f, As-K二次堆積。
- 9区第15号井戸跡 位置 9-201・202グリッド, 規模 長径1.8m・短径1.52m・深度4.05m,
層序(基準線標高値42.80m) a, ローム。b, 暗色帯。c, ローム。d, 灰色シルト(小礫含)。e, 灰色シルト(砂礫混)。
- 9区第16号井戸跡 位置 9-341・321グリッド, 規模 長径1.68m・短径1.65m・深度2.42m,
層序(基準線標高値42.70m) 1, 黒褐色 白色パミス混。2, 暗褐色 白色パミス混。3, 暗褐色 白色パミス・粒状焼土若。
4, 暗褐色 白色パミス・粒状焼土微。a, ローム。b, 暗色帯。c, ローム。d, 砂礫。
- 9区第17号井戸跡 位置 9-342グリッド, 規模 長径1.37m・短径1.35m・深度1.79m,
層序(基準線標高値42.70m) 1, 暗褐色 粒状R混。2, 暗褐色 粒状R多。3, 暗褐色 RB混。4, 暗褐色 粒状R混。
5, 暗褐色 RB・粒状R多。6, 暗褐色 RB主。7, 褐色 地山崩落。a, ローム。b, 暗色帯。c, ローム。d, 砂礫。
- 9区第18号井戸跡 位置 9-228・248グリッド, 規模 長径1.65m・短径1.48m・深度2.07m,
層序(基準線標高値42.50m) 1, 黒褐色 粒状R小。2, 暗褐色 粒状R少。3, 黒色 粒状R混。4, 黒色 粒状R混。
5, 暗褐色 RB多。6, 黒色 RB多。7, 褐色。8, 3近質。9, 301坑覆土。a, ローム。b, 暗色帯。c, ローム。d, 砂礫。
- 9区第19号井戸跡 位置 9-205グリッド, 規模 長径1.2m・短径1.2m・深度1.45+ α m,
層序(基準線標高値4.2.30m) a, ローム。b, 暗色帯。c, ローム。d, 砂礫。
- 9区第20号井戸跡 位置 9-217グリッド, 規模 長径1.39m・短径1.26m・深度0.98m,
層序(基準線標高値42.40m) 1, 暗褐色 粒状R少。2, 暗褐色 塊状焼土多。3, 暗褐色 RB混。4, 黒色砂質土。5, 褐色
6, 4同質。7, 1近質。8, 黒色砂質 RB少。9, 1近質。10, 黒色土とRBの混土。11, 黒色土とRBの混土(RBが多い)。
a, ローム。b, 暗色帯。c, ローム。
- 9区第21号井戸跡 位置 9-296グリッド, 規模 長径1.68m・短径1.38m・深度1.44m,
層序(基準線標高値42.50m) a, ローム。b, 暗色帯。c, ローム。d, 暗褐色シルト。e, 砂礫。
- 9区第22号井戸跡 位置 9-292グリッド, 規模 長径1.46m・短径1.1m・深度2.0m,
層序(基準線標高値42.50m) 1, 黒色土とRBの混土。2, 黒色 RB混。3, 黒色土とRBの混土。4, 黒色 RB少。
5, 暗褐色 RB少。6, 暗褐色 粒状R多。7, 暗褐色。8, 黒色 RB混。9, 7近質。10, 暗褐色 粒状R多。11, 黒色。
a, ローム。b, 暗色帯。c, ローム。d, 砂礫。
- 9区第23号井戸跡 位置 9-295・296・315・316グリッド, 規模 長径2.68m・短径2.63m・深度2.90m,
層序(基準線標高値42.50m) 1, 黒褐色 RB微・粒状R少・粒状焼土含。2, 黒褐色 粒状R少・粒状焼土含・炭化物含。
3, 黒褐色 粒状R多・粒状焼土少。4, 黒褐色 粒状R少・粒状焼土若・炭化物含。5, 黒褐色 粒状R少・粒状焼土少・炭化物若。6,
黒褐色 RB多。7, 黒褐色 RB含。a~c, ローム。d, 暗色帯。e, ローム。f, 褐灰色火山灰砂。g, 黒褐色砂。
h, 暗灰褐色シルト(軟質白色パミス多)。i, 褐灰色シルト。j, 暗灰色シルト。
- 9区第24号井戸跡 位置 9-296・316グリッド, 規模 長径2.08m・短径1.82m・深度3.17m,
層序(基準線標高値42.50m) 1, 黒褐色 粒状R含・粒状焼土少。2, 黄褐色粘土 粗粒状R少・粒状焼土微(下面に薄く青灰色粘土)。
3, 黒褐色 粒状R少。4, 黒褐色 RB多。5, 4近質。6, 黒褐色 粒状R少。7, 黒褐色 RB混。8, 黒褐色 RB少
a~c, ローム。d, 暗色帯。e, ローム。f, 褐灰色火山灰砂。g, 黒褐色砂。h, 暗灰褐色シルト(軟質白色パミス多)。
i, 褐灰色シルト。j, 暗灰色シルト。
- 9区第25号井戸跡 位置 9-204・205・224・225グリッド, 規模 長径1.88m・短径1.40m・深度2.28m,
層序(基準線標高値42.70m) a, ローム。b, 暗色帯。c, ローム。d, 砂礫。
- 9区第26号井戸跡 位置 9-259・260グリッド, 規模 長径1.22m・短径1.11m・深度1.14m,
層序(基準線標高値41.90m) a, ローム。b, 暗色帯。d, ローム。e, 砂礫。
- 9区第27号井戸跡 位置 9-287・267グリッド, 規模 長径1.58m・短径1.35m・深度2.80m,
層序(基準線標高値42.60m) a, ローム。b, 暗色帯。c, ローム。d, 灰褐色火山灰砂。e, 黒褐色砂。f, 褐灰色シルト。
- 9区第28号井戸跡 位置 9-51グリッド, 規模 長径1.76m・短径1.26m・深度1.70m。(基準線標高値42.40m)
- 10区第1号井戸跡 位置 10-321グリッド, 規模 長径0.89m・短径0.82m・深度1.35m,
層序(基準線標高値41.60m) a, 暗色帯。b, ローム。c, 砂礫。
- 10区第2号井戸跡 位置 10-322グリッド, 規模 長径0.88m・短径0.75m・深度1.06m,
層序(基準線標高値41.60m) a, ローム。b, 暗色帯。c, ローム。d, 砂礫。
- 10区第3号井戸跡 位置 10-382・383・9-2グリッド, 規模 長径2.77m・短径1.66m・深度4.02m,
層序(基準線標高値42.00m) a, ローム。b, 暗色帯。c, ローム。d, 褐灰色火山灰砂。e, 黒褐色砂。
f, 褐色シルト(褐色軟質パミス含)。g, 褐灰色シルト。h, 灰褐色シルト(白色軟質パミス含)。i, 灰色シルト。j, 灰色細砂。

10区第5号井戸跡 位置 10-381グリッド、規模 長径1.06m・短径0.83m・深度1.66m。

層序(基準線標高値41.70m) a. ローム。b. 暗色帯。c. 褐灰色砂。d. 砂礫。

11区第1号井戸跡 位置 11-201・221グリッド、規模 長径1.26m・短径1.2m・深度1.45m。

層序(基準線標高値42.30m) 1. 暗褐色 RB混。2. 黒色 3. 1近質。4. 黒色 RB混。5. 黒色 RB少。6. 1近質。7. 暗褐色 RB混・粒状R含。8. 褐色。

火葬跡

第1号火葬跡 位置 3-400グリッド、規模 残存長0.66m・幅0.39m・最大幅0.61m・深度0.04m、軸方位 北-96度一東、

層序(基準線標高値42.90m) 1. 黒褐色 粒状炭化物多・骨片含。

土墳墓

第1号土墳墓 位置 6-351グリッド、形状 不整形、規模 長0.75m・幅0.7m・深度0.45m。

第2号土墳墓 位置 5-10グリッド、形状 長々方形、規模 長0.9m・幅0.43m・深度0.12m、軸方位 北-4度50分一西。

第3号土墳墓 位置 5-135グリッド、形状 長方形、規模 長1.38m・幅0.97m・深度0.64m、軸方位 北-0度一東。

第4号土墳墓 位置 5-154グリッド、形状 楕円形基調、規模 長0.85m・幅0.62m・深度0.09m、軸方位 北-0度一東。

第5号土墳墓(6-33土坑) 位置 6-350グリッド、形状 不整形、規模 長1.3m・幅1.06m・深度0.2m、軸方位 北-0度一東、
層序(基準線標高値43.10m) 1. 暗褐色。

第6号土墳墓(6-32土坑) 位置 6-350グリッド、形状 長方形、規模 長1.12m・幅0.9m・深度0.16m、軸方位 北-20度一東、
層序(基準線標高値43.10m) 1. 暗褐色 RB混。

第7号土墳墓(6-31土坑) 位置 6-349グリッド、形状 矩形、規模 長0.98m・幅0.84m・深度0.17m、軸方位 北-27度一東、
層序(基準線標高値43.10m) 1. 暗褐色 粒状R混。2. 暗褐色。

第8号土墳墓(6-79土坑) 位置 6-371グリッド、形状 長々方形、規模 長1.19m・幅0.59m・深度0.42m、
軸方位 北-13度50分一西。

第9号土墳墓(2-68土坑) 位置 2-159グリッド、形状 長方形、規模 長1.11m・幅0.69m・深度0.15m、軸方位 北-9度一西、
層序(基準線標高値42.10m) 1. 黒褐色 RB含。

第10号土墳墓(2-71土坑) 位置 2-257グリッド、形状 長方形、規模 長1.05m・幅0.64m・深度0.25m、軸方位 北-5度一西、
層序(基準線標高値42.10m) 1. 黒褐色 RB含・粒状R混。

第11号土墳墓(2-102土坑) 位置 2-136グリッド、形状 長方形、規模 長1.12m・幅0.74m・深度0.22m、軸方位 北-5度一西、
層序(基準線標高値42.10m) 1. 黒褐色 RB混。

土坑

9区第161号土坑 位置 9-6・26グリッド、形状 長方形基調、規模 長1.2m・幅0.72m・深度0.08m、軸方位 北-3度一東、
層序(基準線標高値42.40m) 1. 茶褐色 粒状R混・RB含。

9区第530号土坑 位置 9-291グリッド、形状 長々方形、規模 長1.25m・幅0.6m・深度0.16m、軸方位 北-5度一東。

9区第332号土坑 位置 9-295グリッド、形状 長々方形、規模 長1.47m・幅0.85m・深度0.08m、軸方位 北-75度一西。

9区第486号土坑 位置 9-294・295グリッド、形状 方形基調、規模 長0.81m・幅0.80m・深度0.15m、軸方位 北-10度一東(?)。

9区第515号土坑 位置 9-28グリッド、形状 長々方形、規模 長1.64m・幅0.71m・深度0.53m、軸方位 北-7度40分一東、

層序(基準線標高値42.10m) 1. 黒色 粒状R混。2. 黒色 粒状R少。3. 粒状R多・RB多。
4. 黒色 粒状R少。5. 黒色 粒状R多・RB混。

9区第551号土坑 位置 9-296・297グリッド、形状 隅丸長方形、規模 長1.73m・幅1.36m・深度0.21m、軸方位 北-25度一西。

2区第1号炉跡 位置 2-294グリッド、形状 円形基調、規模 長径1.57m・深度0.34m、軸方位 北-6度一西。

層序(基準線標高値41.20m) 1. 暗褐色 粒状炭化物混・粒状焼土含。2. 暗褐色 粒状焼土多・粒状炭化物混・
礫片含。3. 暗褐色 粗粒状焼土多・粒状炭化物多・礫片多。4. 炭化物層。

第1号窯跡

第1号窯跡(基準線標高値42.50)

伊. 黒褐色 RB・焼土の混土。呂. 暗褐色 粒状焼土多。波. 黒色。仁. 暗褐色 塊状焼土多。保. 粒状焼土・塊状焼土・暗褐色の混土。

第32号掘立柱建物跡南東隅ビット

1. 暗褐色 粒状焼土・粒状R混。2. 暗褐色 粒状焼土・塊状焼土・RB多。3. 褐色ローム土。4. 黒褐色 粒状焼土少。
5. RB・塊状焼土・黒褐色混。6. 黒褐色 RB・粒状焼土混。7. 暗褐色 粒状焼土・塊状焼土多。8. 黒褐色・RB混土。

第1号窯跡

9. 黒褐色 粒状焼土・塊状焼土含。10. 黒褐色 粒状焼土混・塊状焼土含。11. 黒褐色 粒状焼土・塊状焼土混・小RB含。

12. 黒褐色・RBの混土・粒状焼土含。13. 粗粒状焼土主体・RB含

溝状遺構一覧表

番号	位置	発見長	時期	摘要	番号	位置	発見長	時期	摘要
1	6区	27.4	近世		71	6・9・10区	21.0	近世	
2	6区	24.4	近世		72	6・9・10区	33.0	中世～近世	
3	6区	7.0	近世		73	6・9・10区	3.0	中世	
4	6区	11.2	近世		74	6・9・10区	3.2	近世	
5	6区	16.0	近世		75	6・9・10区	7.2	近世	
6	6区	9.0	近世		76	6・9・10区	3.6	近世	
7	6区	37.0	近世		77	6・9・10区	4.0	近世	
8	6区	14.0	近世		78	6・9・10区	2.2	近世	
9	5・6区	88.0	8c後半	洪水埋没上面道路化	79	9区	5.6		
10	5・6区	51.0	近世		80	9区	98.0	近世	屋敷の堀
11	6区	5.0	近世		81	9区	74.0	近世	屋敷の堀
12	6区	16.0	近世		82	9区		近世	屋敷の堀
13	6区	2.5	近世		83	9区	12.0	近世	屋敷の堀
14	6区	37.5	近世		84	9・10区	15.0	近世	屋敷の堀
15	6区	18.0	近世		85	9区		近世	屋敷の堀
16	5・6区	11.0	近世		86	9区	63.0	近世	屋敷の堀
17	5・6区	12.5	近世		87	9区	20.0	近世	屋敷の施設の一部？
18	5区	12.0	近世		88	9区	6.0	近世	屋敷の施設の一部？
19	5区	53.0	近世		89	9区	14.4	近世	屋敷の施設の一部？
20	5区	20.0	近世		90	9区	3.6	近世	屋敷の施設の一部？
21	5区	42.0	近世		91	9区		近世	屋敷の堀
22	5・6区	34.2	近世		92	9区	28.8	近世	屋敷の堀
23	5・6区	69.0	近世		93	9区	46.6	近世	
24	6区	4.0	近世		94	9区	25.2	近世	屋敷の堀
25	6区	2.0	近世		95	9区	10.4	近世	屋敷の堀
26	3・6区	8.0			96	9区	22.0	近世	屋敷の堀？
27	6区	2.0			97	9区	34.4	近世	
28	6区	4.0	近世		98	9区	20.0	近世	
29	5・6区	17.0	近世		99	9区	12.0	近世	
30	6区	7.0	近世		100	9区	16.4	近世	
31	2・3区	47.4	中世	1号館城址の外濠	101	9区	11.0	中世？	
32	6区	2.0	近世		102	6・9区		近世	
33	6区	31.5	近世		103	？		？	
34	6区	3.0	近世		104	6・9区	14.6	近世	
35	6区	2.0	近世		105	7区	6.7	近世	
36	6区	2.5	近世		106	7区	7.6	中世	
37	6区	2.0	近世		107	6・9区	17.6	近世	
38	5区	26.0	近世		108	9区	6.0	近世	
39	5区	4.0	近世		109	9区	6.1	中世以前	
40	5・6区	120.0			110	9区	3.6	近世	
41	5・6区	120.0			111	9区	8.6	近世	
42	5・8区	24.6	近世		112	9区	13.0	近世	
43	8区	8.0	近世		113	9区	13.0	近世	
44	2・5・6区	144.4	近世		114	9区	8.0	近世	
45	2・5・6区	158.0	近世		115	9区	11.4	近世	
46	5区	27.7	近世		116	5・6区	33.0	近世	
47	5区	16.5	近世		117	9・11区	17.0	古代	
48	5区	21.0	近世		118	9区	12.0	近世	
49	5区	20.0	近世		119	9区	2.0	近世	
50	2・5区	27.0	近世		120	9区	5.6	近世	
2区E	2・5区		近世		121	6・9区	116.0	近世	
52	2区	9.0	近世		122	9区	9.0	近世	
53	6区	30.0			123	6・9区	7.5	近世	
54	6区	32.0			124	？		近世	
55	2区	21.6	近世		125	6・9区	13.0	近世	
56	2区	20.0	近世		126	6・9区	116.0	近世	
57	2区	10.0			127	6・9区	3.8	近世	
58	5区		近世		128	6・9区	3.6	近世	
59	5区		中世？		129	6・9区	4.0	中世	館址の外濠
60	5区		中世？		130	6・9区	13.0	中世	館址の外濠？
61	4区	55.0	古代		131	6区	17.5	中世	
62	1・4区	60.0	中世～近世	永続的な溝	132	6・9区	9.4	中世	
63	1区	9.7	近世		2区A	5区	19.0	近世	
64	6・9区	114.0	中世～近世	永続的な溝	2区B		4.2	近世	
65	8区	69.0	近世		2区C	2区	12.0	近世	
66	6区	18.4	中世		2区D	2区	11.0	近世	
67	6区	12.0	近世		2区E	2・5区	25.4	近世	
68	6・9区	4.3	近世		2区F	2区	8.6	中世	
69	9・10区	14.0	近世		2区G	2区	22.6	中世	
70	6・9区	39.0	近世		2区H	2区	25.4	中世	

住居跡一覧表

住居跡一覧表(1)

番号	位置	規模	形状	軸指数	時期	番号	位置	規模	形状	軸指数	時期
1	6-231	6.45×6.74	正方形	-38	5世紀後半	59	4-122	5.46×5.46	隅丸方形	-48.10	黒浜
2	6-249	4.86×4.86	〃	-41.5	〃	60	4-107	不詳	台形か	-147	〃
3	6-325	2.5 α ×2.65 α	不詳	+45	5世紀中頃	61	4-243	径5.7?	円形か	-	加曾利E4か
4	5-1	7.04×6.04	楕円	-37	加曾利E3	62	4-121	(4.2+5.2)・5.3	台形気味	-112.50	黒浜
5	2-20	3.44×2.95	矩形	-98.25	8世紀前半	63	1-78	不詳	不詳	不詳	加曾利E4
6	6-306	不詳	不詳	不詳	加曾利E3	64	4-122	不詳	不詳	不詳	加曾利E4か
7	5-200	不詳	不詳	不詳	加曾利E3	65	9-392	5.34×1.4 α	縦長方形か	+2	8世紀後半
8	5-260	不詳	不詳	不詳	加曾利E4	66	9-393	6.7×5.36	縦長方形	+4.50	9世紀前半
9	2-276	不詳	不詳	不詳	加曾利E3	67	9-393	5.4×4.12	〃	+12.50	9世紀後半
10	8-204	径6.5	円形か	不詳	加曾利E3	68	9-355	6.73×4.66	縦長方形	+1	8世紀後半
11	8-163	3.8×2.96	縦長方形	-101.50	8世紀後半	69	9-355	7.0×7.0	正方形か	±0	8世紀後半
12	8-144	3.25×2.65	〃	0	8世紀後半	70	9-307	3.45×2.04 α	不詳	-9	9世紀前半
13	8-143	3.6×2.25	横長方形	-92	8世紀後半	71	9-289	3.48×2.8 α	隅丸正方形か	-7	9世紀後半か
14	8-164	3.7×3.0	〃	+10.50	8世紀後半	72	9-285	4.0×3.54	縦長方形	-10	8世紀中頃
15	8-125	3.8×2.8	矩形	-95	9世紀前半	73	9-261	4.0×3.4	〃	-3	8末~9初
16	8-124	3.75×2.96	〃	-10.50	9世紀前半	74	7-298	3.78×2.8	〃	+6	9世紀中頃
17	8-124	3.2×3.15	正方形	-6	9世紀か	75	6-257	3.98×2.94	〃	±0	9世紀前半
18	8-213	2.85×2.5	矩形	-35	8世紀後半	76	6-297	3.3×2.8	〃	+9.50	8世紀か
19	8-100	2.9×2.448	〃	-5	9世紀後半	77	9-333	2.6×3.0	矩形	±0	9世紀中頃
20	5-99	3.3×2.6	〃	-34	9世紀前半	78	9-334	3.38×2.9	縦長方形	-5	8世紀後半
21	5-119	2.2×2.88	横長方形	-2.75	9世紀後半	79	9-353	7.06×5.6	〃	±0	9世紀中頃か
22	8-127	3.5×2.65	縦長方形	+23	10世紀前半	80	9-352	0.6 α ×4.86 α	縦長方形か	±0程	9世紀前半
23	8-147	3.3 α ×3.0	縦長方形	+30	9世紀中頃	82	9-376	3.6 α ×4.0	縦長方形か	±0程	8世紀中頃
24	8-223	不詳	不詳	不詳	加曾利E3	83	8-30	5.0×3.54	横長方形	±0	8世紀前半か
25	5-78	3.3×2.9 α	不詳	+4.50?	9世紀後半	84	8-67	3.93×3.76	矩形	+5	9世紀後半
26	8-124	5.43×4.78	楕円形	-10	加曾利E3	85	8-83	3.1×2.4	横長方形	+6	10世紀前半
27A	5-149	径3.4	円形	-	〃	86	8-44	3.08×4.22	〃	-2程	9世紀前半
27B	5-128	径3.2	円形	-	〃(?)	87	5-60	3.74×2.73	縦長方形	-9	9世紀前半
28	5-208	3.82×2.88	楕円形	+25	阿玉台か	88	5-39	4.4×3.24	〃	+7.30	9世紀後半
29	5-305	(2.0+3.4)・3.9	台形	-133.50	黒浜	89	5-20	6.16×4.38	〃	+2.75	9世紀中頃
30	5-347	不詳	台形か	不詳	黒浜か	90	8-3	5.98×4.57	横長方形	-7.70	9世紀中頃
31	1-20	3.46×3.63	円形	-	阿玉台	91	9-322	4.78×3.0	縦長方形	-7.75	8世紀後半
32	4-27	(3.39+4.14)・5.0	台形	-117.50	黒浜	92	6-359	5.22×5.1	正方形	-46.50	5世紀後半
33	5-380	(4.46+2.93)・5.14	〃	-45	〃	93	6-318	3.7×2.52	縦長方形	-4	9世紀中頃か
34	5-363	7.5?×6.3?	楕円形か	-70	称名寺	94	8-26	4.4×3.63	〃	-5	9世紀後半
35	1-54	径6.0+ α	柄鏡か	-92	〃	95	8-6	3.76×3.1	〃	-6	9世紀前半
36	4-4	(4.0 α +x)・6.8?	台形か	-112.50	黒浜か	96	8-44	5.22×4.26	〃	±0	9世紀前半
37	2-373	2.97×2.6	不整形	-136	阿玉台	97	8-5	1.8 α ×3.19	縦長方形か	-22.50	9世紀中頃
38	4-48	不詳	不詳	不詳	称名寺	98	8-26	5.9×4.6	矩形	-5	9世紀前半
40	1-54	(2.9+3.8)・6.34	台形	+56	黒浜	99	8-26	7.6×6.1	楕円形	-143	加曾利E3
41	5-61	径5.2?	円形か	-	加曾利E3	100	9-242	5.31×4.01	縦長方形	-65	9世紀前半
42	5-62	3.1×2.8	不整形	-55.25	阿玉台	101	9-223	3.23×2.53	〃	-5	10世紀中頃
43	2-176	(第20号竅穴遺構)			15・16世紀	102	9-244	2.09×1.93	矩形	-19	8世紀中頃
45	5-43	4.5 α ×3.55	縦長方形	-11.10	8世紀後半	103	9-204	4.36×3.15	縦長方形	-17	8世紀後半
46	5-185	3.42×3.23	胴張隅丸方形	-46	阿玉台	104	9-225	4.6×2.66	〃	-12	9世紀前半
47	5-205	2.4 α ×2.8	〃	-25か	〃	105	9-205	5.0×5.18	正方形基調	-47	6世紀初頭
48	3-358	4.1 α ×2.8	横長方形	-15程	8世紀か	106	9-226	3.23×2.66	縦長方形	+4.5	10世紀前半
49	3-398	3.8×2.64	横長方形	-11	8世紀後半	107	9-227	3.76×4.24	横長方形	+2.25	9世紀後半
50	4-147	軸8.3・径6.1程	柄鏡か	-95	称名寺	108	9-246	2.75×2.9	正方形	-4.5	9世紀前半
51	4-146	(3.6+4.65)・6.6	台形	-124	黒浜	109	9-208	4.3×7.2	横長方形	-3.5	9世紀後半
53	4-224	3.5 α ×3.02 α	不整形	-92	黒浜か	110	9-209	5.5×4.28	縦長方形	-13.5	9世紀前半
54	4-223	径4.2?	円形か	-	加曾利E4か	111	9-250	5.3×5.25	正方形	-48.5	5世紀後半
55	4-165	軸7.34×径4.1	柄鏡	-128	称名寺	112	9-230	3.52×3.95	矩形	+1.25	9世紀前半
56	4-184	不詳	不詳	不詳	加曾利E4か	113	9-149	4.12×4.37	隅丸正方形	-39.5	5世紀後半
57	4-203	(3.9+5.5)・7.24	台形	-75.75	黒浜	114	9-148	6.38×3.68	縦長方形	-7	10世紀中頃
58	4-122	不詳	多角形か	不詳	縄文前期か	115	9-127	3.39×4.62	横長方形	+15.25	10世紀前半

遺構計測値・土層説明

住居跡一覽表(2)

番号	位置	規模	形状	軸指数	時期	番号	位置	規模	形状	軸指数	時期
116	9-89	4.32×4.17	縦長方形	±0	9世紀後半	150	9-194	(3.4)×(3.9)	矩形	+2	10世紀後半
117	9-88	4.05×3.32	〃	+11	9世紀後半	151	9-198	3.72×1.62 α	不詳	±+5	8世紀前半
118	9-66	3.13×4.18	横長方形	+5.25	9世紀後半	152	9-91	2.4×1.7 α	不詳	-90.50	8・9世紀
119	9-67	3.93×3.02	縦長方形	+8	10世紀前半	153	9-51	3.88×2.57	縦長方形か	+2か	9世紀前半か
120	9-47	2.56×3.18	横長方形	+6	11世紀前半	154	9-317	3.76×3.01	〃	-2	9世紀中頃
121	9-28	2.92×3.7	〃	+17.75	8世紀後半	155	9-276	4.96×3.79	〃	-1.10	9世紀後半
122	10-388	3.7×3.12	縦長方形	+9	9世紀前半	156	9-217	5.5 α ×4.4	〃	±0	9世紀中頃
123	9-9	3.41×5.2	横長方形	-73.75	9世紀後半	157	9-30	0.67 α ×3.2	不詳	不詳	9世紀前半
124	9-30	3.64×3.1	縦長方形	+23.50	10世紀後半	158	9-299	2.9 α ×3.06	〃	±+1.75	9世紀前半
125	9-30	3.61×4.02	矩形	+17.50	10世紀前半	159	9-298	4.18×3.46	縦長方形	-4	8世紀後半
126	9-50	2.91×2.8	〃	-15.50	8世紀後半	160	9-279	4.0×3.32	〃	-4.10	8世紀後半
127	9-51	2.92×3.8	横長方形	-7	9世紀後半	161	9-298	4.0 α 3.84 α	不詳	±±0	8世紀前半
128	9-71	3.78×3.6	矩形	±0	9世紀中頃	162	9-260	4.0×3.74	矩形か	±-8	10世紀中頃
129	9-85	2.4×3.82	横長方形	-84	10世紀後半	163	9-260	不詳	縦長方形か	±±0	9世紀後半
130	9-65	5.8?×4.78 α	不詳	±-55	5世紀後半	164	9-237	2.06 α ×2.13 α	不詳	±-78.50	10世紀か
131	9-63	2.48×3.32	横長方形	+10	9世紀中頃	165	9-299	1.9×1.31 α	不詳	-23	9世紀前半
132	9-163	4.1×3.08	縦長方形	-0.10	8世紀中頃	166	9-50	2.8×3.9	横長方形	+4	9世紀後半
133	9-164	3.82 α ×3.28	縦長方形か	-49	5世紀後半	167	9-52	不詳	不詳	不詳	10世紀前半か
134	9-141	2.83×2.2	縦長方形	+25	10世紀後半	168	6-58	5.22 α ×3.97 α	正方形か	-71	6世紀前半
135	9-81	4.66×3.78 α	正方形か	-65	6世紀前半	169	9-229	4.1×3.28	横長方形	+7.50	10世紀前半か
136	9-229	4.93×3.73	縦長方形	+10	10世紀前半か	170	9-239	4.6×3.0	縦長方形	-3.50	8世紀後半
137	9-229	3.63×0.9 α	不詳	+15	9世紀後半	171	9-260	2.73×1.03 α	不詳	±±0	9世紀か
138	9-209	不詳	不詳	不詳	9世紀後半か	172	9-226	3.22×2.74	縦長方形	±±0	9世紀前半
139	9-10	3.40 α ×2.08 α	不詳	±+20	8世紀後半か	173	9-245	2.77×2.32	〃	-3	9世紀前半
140	9-22	2.58 α ×2.46 α	不詳	±+20	9世紀	174	9-245	3.9×3.25	〃	-19.50	9世紀前半
142	9-271	5.86×3.8	縦長方形	+3.50	10世紀前半	175	9-267	3.18×3.0 α	矩形か	-20	8世紀か
143	9-270	2.75×1.75	〃	+2	9世紀中頃	176	6-260	5.8×5.6	正方形	-65	5世紀末
144	9-271	3.09×3.5	矩形	+4	8世紀後半	177	9-226	3.36×3.02	縦長方形	+3	8世紀
146	9-252	3.9×3.55	矩形	±0	8世紀後半	178	9-317	4.5×3.74 α	〃	+1.50	9世紀中頃か
147	9-194	(2.7)×3.8	横長方形	-3.10	10世紀前半	179	9-317	5.18×4.8	矩形	-10	9世紀前半
148	9-235	4.1×6.01	〃	+18	10世紀後半	180	9-317	不詳	不詳	不詳	9世紀中頃
149	9-216	2.67×3.25	横長方形	+12	10世紀中頃	181	9-160	4.68 α ×4.22 α	正方形か	-64.50	5世紀末か

竪穴状遺構一覽表

番号	位置	規模(軸長×幅)	軸指数	時期	番号	位置	規模(軸長×幅)	軸指数	時期
1	3-376	3.13×2.22	-90°	14C後半~15C後半	13	9-22	2.2×2.3	-76°30'	14C後半~15C後半
2	3-398	2.54×2.5	-83°	〃	14	6-18	2.44+ α ×2.5	-64°30'	〃
3	9-66	3.32×2.13	0°	12C末~13C前半	15	9-2	2.08×1.9	+17°45'	〃
4	9-45	3.11 (3.4)×2.35	-81°20'	14C後半~15C後半	16	3-338	2.83×2.0	-83°	〃
5	9-45	5.1×2.55~2.77	-81°	中世前半か	17	3-377	2.15×1.82	-74°30'	〃
6	9-122	3.0×2.52	-87°30'	14C後半~15C後半	18	2-17	4.73×2.41	-83°30'	〃
7	9-213	2.84×2.3	-74°30'	〃	19	2-98	2.57×1.87	+15°30'	〃
8	9-192	3.33×2.84	-90°	〃	20	2-165	4.77×2.6	+8°15'	〃
9	9-293	2.95×2.4	0°	9C	21	7-338	2.8×1.9	-67°	〃
10	9-293	4.1×2.86	0°	〃	22	2-179	2.26×2.12	-81°	加曾利 E3
11	9-171	3.4?×2.44	-81°30'	10C	23	5-224	2.53×2.36	-19°30'	阿玉台
12	9-127	2.17×1.65	-87°	14C後半~15C後半					

掘立柱建物跡要目一覧表・井戸跡一覧表

掘立柱建物跡要目一覧表

規模は間数、桁・梁は尺(30cm)、面積は坪(3.3㎡)。

番号	位置	規模	桁	梁	面積	軸指数	群	時 期	番号	位置	規模	桁	梁	面積	軸指数	群	時 期
1	6-229	5×2	36	15	14.72	-82	-	近世(前半か)	22	9-219	3?×2	24?	16	10.47?	-190.50	D	9C後~10C前
2	6-228	2×1	11	8	2.4	-79	-	近世(前半か)	23	9-217	5×2	37	12	12.10	-100.50	D	//
3	8-82	3×2	21	16	9.16	-92.50	D	9C後~10C前	24	9-196	3?×2	24?	17	11.12?	-10	D	//
4	8-82	3×2	21	14	8.01	-92.50	B	9C中~後	25	9-266	3×2	24	16	10.47	-3.50	B	9C中~後
5	2-235	1×2	7	14	2.67	-98.60	-	近世	26	4-47				5.90	-25	-	(縄文)
6	5-120	1×2	12.5	14	4.77	-90	-	近世	27	9-273	3×3	18	20	9.81	-3.50	B	9C中~後
7	2-96	3×2	21	13	7.44	-79.60	-	15・16C	28	9-290	3×2	24	16	10.47	-93.50	B	//
8	9-287	3×2	21	14	8.01	-89.50	-	15・16C	29	8-11	3×2	24	16	10.47	-3.50	B	//
9	9-187	3×2	21	14	8.01	-99.50	D	9C後~10C前	30	8-30	3×2	24	16	10.47	-3.50	B	//
10	8-41	2×2	16	16	6.98	-89	-	中世か	31	8-32	3?×2	24?	16	10.47?	+1	C	9C後
11	6-379	2×2	18	18	8.83	-86.50	-	中世か	32	9-347	3×3	21	21	12.02	-3.50	B	9C中~後
12	8-60	3×2	21	14	8.01	-98	-	中世か	33	9-347	1×2	12	12	3.92	-91	-	近世
13	8-48	3×2	23	16	10.03	-90	A	9C前~中	34	9-375	2×2	16	15	6.54	+1.50	C	9C後
14	8-26	3×2	20	14	7.63	+3.50	B	9C中~後	35	9-393	3×3	24	24	15.70	-3.50	B	9C中~後
15	8-67	2×1	16	8	3.49	-94.50	C	9C後	36	9-392	不詳	不詳	不詳	不詳	+4	C	9C後
16	9-273	3×2	23	16	10.03	-183.50	B	9C中~後	37	9-196	3?×2	24?	16	10.47?	-7.60	D	9C後~10C前
17	9-278	3×3	18	18	8.83	-93.50	B	//	38	8-32	不詳	不詳	不詳	不詳	+4.50	C	9C後
18	9-277	3×3	18	19	9.32	-93.50	B	//	39	9-355	1×2	12	12	3.92	-95	B	9C中~後
19	9-289	3×2	24	16	10.47	-93.50	B	//	40	9-392	不詳	不詳	不詳	不詳	*	?	
20	9-218	2×2	12	12	3.92	-104.50	D	9C後~10C前	41	9-394	不詳	不詳	不詳	不詳	*	?	
21	9-259	3×2	20	12	6.54	-93.50	B	9C中~後									

井戸跡一覧表

区一番号	位置	径(長×短)	深度	底標高	時 期	区一番号	位置	径(長×短)	深度	底標高	時 期
2-1	197	1.3×0.95	0.9	41.18	中世か	9-1	333	1.51×1.38	1.96	40.02	近世
2-2	179	3.6×3.2	3.2	39.15	15C後半	9-2	45	2.88×2.68	2.5	39.92	9C後半
2-3	18	1.7×1.68	2.08	40.05	中世	9-3	335	1.19×1.16	1.87	40.36	8C後半
3-1	398	2.92×2.65	3.15	39.45	15Cか	9-4	104	1.57×1.3	4.07	38.32	19~20C
3-2	357	1.2×1.2	2.29	40.05	中世	9-5	85	1.8×1.72	2.72	39.95	13C初
5-1	43	0.95×0.78	2.57	39.72	近世	9-6	84	2.1×2.0	3.15	39.37	近世
5-3	73	0.8×0.76	0.6	39.92	古代末~中世初	9-7	104	1.46×1.28	2.1	40.24	近世
5-4	73	0.98×0.91	1.01	40.85	中世	9-8	82	1.14×1.08	2.28	39.47	近世
5-5	32	1.18×1.04	1.33	41.42	近世	9-9	167	1.2×1.2	2.48	39.67	5C
5-6	52	0.84×0.71	0.8	41.75	近世	9-10	28	1.55×1.21	2.54	39.9	9C中頃
6-1	266	1.05×0.9	3.87	38.98	19C~20	9-11	166	2.24×2.16	2.28	40.1	19C
6-2	248	1.03×0.8	5.07	37.72	19Cか	9-12	166	1.46×1.35	3.22+ α	39- α	10C前半
6-3	362	0.77×0.68	3.30	39.44	19~20C	9-13	105	0.89×0.76	4.64	37.68	近世
6-4	361	1.65×1.16	4.13	38.62	19C	9-14	103	3.35×2.5	3.06	39.35	13C初
6-6	255	2.08×1.84	2.37	40.12	近世	9-15	201	1.8×1.52	4.05	38.65	19C
6-7	295	1.4×1.3	2.4	39.95	近世	9-16	341	1.68×1.65	2.42	40.15	中世前半
6-8	293	1.0×0.9	0.9	40.67	近世	9-17	342	1.37×1.35	1.79	40.77	古代
6-9	293	1.2×1.15	2.1	39.15	近世	9-18	228	1.65×1.48	2.07	40.4	近世
6-10	292	1.1×1.01	1.67	39.78	近世	9-19	205	1.2×1.2	1.45	40.8	近世
6-11	293	1.23×1.11	0.71	40.78	近世	9-20	217	1.39×1.26	0.98	41.3	9Cか
6-12	40	0.9×0.87	3.96	37.64	19C	9-21	296	1.68×1.38	1.44	40.92	9Cか
6-13	100	1.26×0.97	2.51	38.85	近世	9-22	292	1.46×1.1	2.0	40.45	中~近世
6-14	341	1.53×1.3	2.1	40.57	13C前半	9-23	295	2.68×2.63	2.9	39.45	9C後半
6-15	78	1.78×1.5	3.29	38.43	15C中頃	9-24	296	2.08×1.82	3.17	39.05	9C中頃
6-16	20	1.04×1.02	2.53	39.96	中世	9-25	204	1.88×1.4	2.28	39.78	近世
6-17	19	1.9×1.16	3.65	37.95	14C	9-26	259	1.22×1.11	1.14	40.58	12~13C
6-18	19	1.1×0.9	2.42	39.28	15C	9-27	287	1.58×1.35	2.80	39.65	近世
7-2	319	2.0×1.52	2.18	39.14	中世	9-28	51	1.76×1.26	1.70	39.55	近世
7-3	379	2.47×2.0	2.9	39.58	19C	10-1	321	0.89×0.82	1.35	40.15	中世か
8-1	124	1.36×1.32	1.79	40.62	古代	10-2	322	0.88×0.75	1.06	40.43	15Cか
8-2	107	1.12×0.93	2.04	40.38	古代	10-3	382	2.77×1.66	4.02	37.77	15Cか
8-3	86	1.2×1.12	1.74	40.8	古代	10-5	381	1.06×0.83	1.66	39.9	15Cか
8-4	12	3.0+ α ×2.77+ α	2.34	40.08	8C	11-1	201	1.26×1.2	1.45	40.7	近世か
8-5	1	1.19×1.13	1.17	41.32	奈良・平安						

遺構計測値・土層説明

土坑一覧表1 (1区・2区)

1区土坑表					番号	グリッド	深度(-)	遺物図	時代・時期	番号	グリッド	深度(-)	遺物図	時代・時期
番号	グリッド	深度(-)	遺物図	時代・時期	61	35・36	0.29	597	縄文時代	21	1-12	0.37	〃	縄文時代
1	40	0.05		縄文時代	62	35・55	-	〃	〃	22	354	0.04	〃	〃
2	40	0.19		〃	63	55	0.13	〃	〃	23	295・334	0.19	〃	〃
3	60	0.31	596	〃	64	55	0.32	〃	〃	24	334	0.12	〃	〃
4	39	0.36		〃	65	36	0.18		〃	25	354・355	0.29	〃	〃
5	39	0.19		〃	66	35	0.03		〃	26	395	0.17		〃
6	38・39	0.24		〃	68	55	-	597	〃	27	377・397	0.20		〃
7	38	0.11	596	〃	69	54・55	0.12	597	〃	28	397	0.19	599	〃
8	38	0.14	〃	〃	70	54	0.11	〃	〃	29	357・377	0.06		〃
9	57	0.03	〃	〃	71	55	0.08	〃	〃	30	357	0.23		〃
10	58	0.22		〃	72	54	0.20		〃	31	336・356	0.10	599	〃
11	40	0.05		〃	73	34・35	-	597	〃	33	315・316	0.10	〃	〃
12	19	0.12	596	〃	74	34	0.05		〃	34	315・335	0.20	〃	〃
13	1-19	0.14		〃	75	34	0.15	598	〃	36	355	0.14		〃
14	18	0.20		〃	77	53	0.14	〃	〃	37	355	0.19	600	〃
15	57	0.05	596	〃	78	52・53	0.19	〃	〃	38	335	0.14	〃	〃
16	57・58	0.19	〃	〃	79	2-293	-		〃	39	376	0.09		〃
17	19	0.11		〃	80	14・34	0.06		〃	40	376	0.25		〃
18	18	0.34		〃	81	13	0.27		〃	41	376	0.17		〃
19	18	0.27		〃	82	13	0.27		〃	42	357	0.08		〃
20	60	0.23	596	〃	83	12・13	0.13	598	〃	43	277	0.14	600	〃
21	60	0.12	〃	〃	84	15	0.10		〃	44	258	-	〃	〃
22	58	0.08		縄文時代	85	55	0.35		〃	45	180・237	0.27	〃	〃
23	58	0.13		〃	86	77	0.30		〃	46	238・239	0.09	〃	中世
24	58	0.13		〃	87	20	0.19	598	〃	47	235・255	0.33	〃	縄文時代
25	56	-	596	〃	88	20	0.21	〃	〃	48	159・179	0.18	〃	中世
26	17	0.29	〃	〃	89	12	0.07		〃	49	177	0.54		〃
27	37	0.18		〃	90	14・15	-		〃	50	220	0.31		〃
28	37	0.21		〃	91	12	0.15		〃	51	397	0.35		縄文時代
29	37	0.04		〃	92	12・54	0.42		〃	52	159・179	0.04		中世
30	56・76	0.70	596	〃	93	12	0.50	598	〃	53	217・218	0.12		〃
31	56	0.05		〃	94	77・97	0.31	〃	〃	54	217・237	0.23	600	〃
32	56	0.06		〃	95	54・55	0.12		〃	55	217	0.06	〃	〃
33	56・57	0.08		〃	96	54	0.28		〃	56	219・237	0.03	〃	縄文時代
34	57・77	0.18	596	〃	97	-	-	598	〃	57	217	0.23		中世
35	57	0.08	597	〃	99	119・139	0.16	〃	近世	58	175・195	0.44		近代
36	78	0.74	〃	〃						59	156・176	0.04		中世
37	37	0.06		〃	2区土坑表					61	192	0.10		近世
38	57	0.57	597	〃	番号	グリッド	深度(-)	遺物図	時代・時期	62	212	0.10		〃
39	77	0.53	〃	〃	1	1-18	0.04		縄文時代	63	213・233	0.07		中世
40	98	0.38		〃	2	398	0.04		〃	64	199	0.27		22竪穴
41	38・58	0.19		〃	3	400	0.18		近世	65		0.06		縄文時代
42	39	0.15		〃	4	399	0.27	598	〃	66	180	0.10	600	〃
43	39	0.27	597	〃	5	379	0.28	〃	〃	67	138	0.12		〃
44	39	0.15	597	〃	6	380	-		縄文時代	68	138	0.21		〃
45	39	0.24	〃	〃	7	380	0.05		〃	69	138・158	0.05		〃
46	19	0.04		〃	8	400	0.31	598	〃	70	138	0.09		中世
47	39・40	0.09		〃	9	399	0.11		〃	71	136・157	0.26		〃
48	39・40	0.08		〃	10	1-18	0.25		〃	72	137	0.05		〃
49	79	0.31	597	〃	11	1-17	0.07	599	〃	73	136	0.08		〃
50	100	-		〃	12	397	0.10	〃	〃	74	136・155	0.05		〃
51	99	0.07		〃	13	396	0.17		〃	75	136	0.19		〃
52	19	0.74		〃	14	355	0.10		〃	76	136	0.08		〃
54	16	0.14		〃	15	1-13	0.24	599	〃	77	116	0.07		〃
55	16	0.14	597	〃	16	1-12・392	0.05		〃	78	315	0.17	600	縄文時代
56	16	0.06	〃	〃	17	373	-	599	〃	82	136・137	0.17		〃
57	16	0.10	〃	〃	18	392・393	0.08		〃	83	116・117	0.21	600	中世
58	16	0.09		〃	19	392	0.19		〃	84	118	0.11	〃	〃
59	35・36	0.17		〃	20	391・392	0.25	599	〃	85	118・119	0.08		〃

土坑一覧表

土坑一覧表2 (2区~4区)

番号	グリッド	深度(-)	遺物図	時代・時期	番号	グリッド	深度(-)	遺物図	時代・時期	番号	グリッド	深度(-)	遺物図	時代・時期
86	118・119	0.48		中世	10	378	0.03		中世	75	358	0.18		中世
87	117・137	0.11		〃	12	338・339	0.18		〃	78	357	0.16		〃
88	137・138	0.04		〃	13	359	0.27		〃	79	357	0.15		中世か
89	136	0.12		〃	14	358	0.08		〃	80	377・378	0.20	602	〃
91	119・139	-			15	358・359	0.11		〃	81	-	-	〃	中世
92	117	0.10	600	中世	16	358・359	0.34		中世か	83	358	0.38	〃	古代
93	96・116	0.55			17	359・379	0.51		〃	84	357・358	0.43	〃	中世か
94	117	0.17		中世	18	378・379	0.42		中世	85	340	0.13		中世
95	96・97	0.40	600	〃	19	378・379	0.21		〃	86	360	0.31		近世
96	98・99	0.17	〃	〃	20	378・379	0.24		〃	87	400	0.09		中世
97	99・119	0.47	〃	〃	21	338・339	0.3		〃	88	2-20	0.23		〃
98	99	0.29	601	近世	23	378	0.29		中世	91	377・397	0.19		古代
99	98	0.10		中世	24	397	0.08		近世	92	376	0.08		中世か
100	98	0.05		〃	25	397	0.16		〃	93	376・377	0.08		〃
101	78・98	0.05		〃	26	397	0.39	601	〃	95	358・378	0.16		〃
102	116・136	0.26		〃	27	378	0.11	601・2	〃	4区土坑表				
103	118	0.06	601	〃	28	377	0.43	601	中世					
104	118・138	0.15	〃	〃	29	358	0.15		〃	番号	グリッド	深度(-)	遺物図	時代・時期
105	-	-	〃	〃	30	358	0.04		〃	1	2	0.23		縄文時代
106	99	0.17	〃	近世	32	357・377	0.31	602	〃	2	3	0.38	602	〃
107	98	0.04		中世	33	357	0.34	〃	〃	3	2	0.26		〃
108	98	0.42	601	〃	35	357・358	0.3		中世か	4	3	0.24		〃
109	118	0.28		〃	36	358	0.41	602	〃	5	4	0.43	602	〃
110	118	0.20		〃	37	358	0.12	〃	〃	6	4	0.23		〃
111	119	0.09		〃	38	358	0.19	〃	〃	7	23	0.27		〃
112	155・157	0.59	601	〃	39	358	0.14		〃	8	22	0.80	602	〃
113	157	0.34	〃	〃	40	377	0.27		中世	9	23	0.47	〃	〃
114	76	0.22		〃	41	377	0.26	602	〃	10	44	-		〃
116	96・97	0.50		〃	42	377	-		〃	11	45	0.13	602	〃
118	340	0.16		縄文時代	43	378	0.39		〃	12	45	0.13		〃
119	320・340	0.16	601	〃	44	378	0.08		中世か	13	65	0.20		〃
120	299	0.23	〃	〃	45	358	0.33		〃	14	65	0.20		〃
121	299	0.07		〃	46	398	0.35		中世	15	65	0.31	602	〃
123	7・17	0.21		18竪穴	47	399	0.03		中世か	16	81	0.31	603	〃
124	18	0.20		中世	48	378・398	0.15		〃	17	82	0.42	602	〃
125	18	0.13	601	古代	49	317	0.33		中世	18	61	0.12	〃	〃
126	18	0.04		〃	50	317・337	0.1		〃	19	1-60	0.23	603	〃
127	18	0.04		縄文時代	51	337	0.22		〃	20	22	0.14		〃
128	17・18	0.05			52	337	0.22		〃	21	22	0.10		〃
129	17・18	0.12	601	縄文時代	53	337	0.55		〃	22	62	0.06		〃
130	3-397	0.07		古代	54	337	0.11		〃	23	62	0.09		〃
131	18・19	0.11		中世	55	337・338	0.24		〃	24	66	0.09	603	〃
132	3-398	0.31		〃	56	337	0.17		〃	25	66	0.07	604	〃
133	3-398	0.13		〃	57	337・357	0.14		中世か	26	4-3	0.15	〃	〃
134	3-398	0.04		〃	58	339	0.17		中世	27	1	0.29	〃	〃
135	3-397	0.07		古代	59	338・339	0.05		〃	28	1	0.21	〃	〃
136	3-396	0.37	601	中世	60	357	0.14		中世か	29	41	-		〃
139	17	1.24		中世か	62	357・358	0.29		中世	30	61	0.18		〃
					63	338	0.05		〃	31	4	0.17		〃
					64	357	0.06		〃	32	23	-	604	〃
3区土坑表					65	357	0.10		〃	33	21	0.16	〃	〃
番号	グリッド	深度(-)	遺物図	時代・時期	66	318・338	-	602	〃	35	41・61	1.00	〃	〃
1	338・358	0.54		中世	67	338・339	0.35		〃	36	1	0.22	〃	〃
2	357	0.10		〃	68	318	-		中世か	37	61・62	0.31	〃	〃
3	357	0.43		〃	69	338	0.02		〃	38	7	0.60	605	〃
4	398	0.12	601	〃	70	338	0.08		〃	39	7・27	0.10	〃	〃
5	398	0.03		〃	71	337	0.10		〃	40	27・28	0.39	〃	〃
7	378	0.57		〃	73	377	0.23		中世	41	27・28	0.22	〃	〃
8	358・378	0.18	601	〃	74	358	0.05		〃	42	8・28	0.32	605	〃
9	378	0.2		〃										

遺構計測値・土層説明

土坑一覧表3 (4区)

番号	グリッド	深度(-)	遺物図	時代・時期	番号	グリッド	深度(-)	遺物図	時代・時期	番号	グリッド	深度(-)	遺物図	時代・時期
43	8・28	0.38	〃	縄文時代	104	88	0.16		縄文時代	195	167	0.36		縄文時代
44	81	0.22	〃	〃	105	88	-		〃	196	167	0.38		〃
45	2	0.23		〃	106	88・108	0.08		〃	197	166	-		〃
46	2	0.06		〃	107	109	0.13	610	〃	198	126	0.28		〃
47	63	0.18	605	〃	108	108	0.11		〃	199	166	-		〃
48	46・47	0.10		〃	109	88・108	0.29	610	〃	200	166	0.12		〃
49	47	0.06	605	〃	110	88	0.25		〃	201	166	0.09		〃
50	48	0.04		〃	111	108	0.08	610	〃	202	186	-		〃
51	48	0.04	605	〃	112	87・88	0.42	〃	〃	203	196	-		〃
52	28	0.24	〃	〃	113	88	-		〃	204	186	-		〃
53	28	0.13	〃	〃	114	108・109	0.07		〃	205	186	-		〃
55	6	0.07	606	〃	115	109	0.27		〃	206	186	-		〃
56	6	0.12	〃	〃	116	108・109	0.42		〃	207	186	0.11		〃
57	5	0.68		〃	118	108	0.13		〃	208	186	0.09		〃
58	28	0.34	606	〃	119	107	0.34	610	〃	209	186	0.06		〃
59	47	0.29	〃	〃	120	87	0.44	〃	〃	210	186	0.1		〃
60	25	0.28	〃	〃	121	87	0.31	〃	〃	211	186	0.22		〃
61	28	1.39	607	〃	122	107	0.25	〃	〃	212	186	0.11	611	〃
62	28	0.31	607	〃	123	107	0.09		〃	213	186	-		〃
63	28・48	0.17		〃	124	107	-		〃	214	186	0.17	611	〃
64	48	0.11	607	〃	125	87	0.2		〃	215	144	0.27		〃
65	48	0.14		〃	126	87	0.05	610	〃	216	124	0.32	611	〃
66	48	0.14	607	〃	127	87・107	0.09		〃	217	124	0.16	611	〃
67	48	0.08	〃	〃	128	106・107	0.12		〃	217	142	0.27	〃	〃
68	68	0.04		〃	129	87・88	0.16		〃	218	124	-		〃
69	68	0.07		〃	130	88・89	0.29	610	〃	219	124	0.21		〃
70	68	0.07		〃	131	106	0.11		〃	220	143	0.38		〃
71	48	0.04		〃	132	-	-	610	〃	221	143	0.07		〃
72	2	0.17	607	〃	133	-	-	〃	〃	222	185	0.1	611	〃
73	1	0.24	〃	〃	134	167	0.06	〃	〃	223	185	0.11		〃
74	48	0.06		〃	135	147	-		〃	224	144	0.45	611	〃
75	48	0.13	607	〃	136	167	0.07		〃	225	147	-	〃	〃
76	48	0.06	〃	〃	137	-	-	610	〃	226	147	0.06		〃
77	27・28	0.17	〃	〃	138	167	0.31		〃	227	147	0.09		〃
78	66B	0.31	〃	〃	139	167	0.3	610	〃	228	144	-		〃
79	-	-	608	〃	140	145	0.03		〃	229	144	0.05		〃
81	67	0.08		〃	141	146	0.23		〃	230	144	-		〃
82	61・81	0.14		〃	142	146・166	0.33		〃	231	167	-		〃
83	61・62	0.10		〃	143	-	-	610	〃	232	167	-		〃
84	27	0.13		〃	144	145	0.33		〃	233	147	0.29	611	〃
85	27	0.15	608	〃	145	145	0.07		〃	234	167	0.38		〃
86	27	0.46	〃	〃	146	145	0.14		〃	235	167	0.32		〃
87	27	-		〃	147	145	0.21	611	〃	236	124	0.1	611	〃
88	148	0.08		〃	148	145	0.19		〃	237	124	0.31		〃
89	148	0.07		〃	149	145	0.06		〃	238	125	0.43	611	〃
90	148	0.09	608	〃	150	144・145	0.17		〃	239	108	-		〃
91	128・148	0.05		〃	151	144	0.46		〃	240	108	0.33		〃
92	128	0.16	608	〃	152	144	0.14		〃	241	202	0.24	611	〃
93	147	0.17	〃	〃	153	124・144	0.33	611	〃	242	243	0.06		〃
94	-	-	〃	〃	154	145	0.19		〃	243	243	0.23	611	〃
95	147	-	〃	〃	186	146	-		〃	244	-	0.12		〃
96	148	0.16	〃	〃	187	166	0.1		〃	245	243	0.27	611	〃
97	147	0.35		〃	188	147	-	611	〃	246	108	0.22		〃
98	147	0.15	608	〃	189	166	0.03		〃	247	107	0.48		〃
99	146・147	0.25	〃	〃	190	166	-		〃	248	88	-		〃
100	147	0.16	610	〃	191	166	0.23		〃	249	144	0.25		〃
101	147	0.09		〃	192	166	0.37	611	〃	249	144	0.25		〃
102	147・167	0.36	610	〃	193	166	0.22	〃	〃	250	-	-	611	〃
103	147	0.27	〃	〃	194	166	0.16		〃	252	144	-		〃

土坑一覧表

土坑一覧表4 (4区・5区)

番号	グリッド	深度(-)	遺物図	時代・時期	番号	グリッド	深度(-)	遺物図	時代・時期	番号	グリッド	深度(-)	遺物図	時代・時期
253	144	0.17		縄文時代	311	183	0.21	〃	縄文時代	377	204	0.25	〃	縄文時代
254	144	-		〃	312	203	-		〃	378	204	0.24		〃
255	144	0.11		〃	313	203	0.2	612	〃	379	184	0.29	615	〃
256	144	0.06		〃	314	203	0.14		〃	380	184	0.33		〃
257	204	-		〃	315	203	0.54	612	〃	381	184	0.11		〃
258	205	-		〃	316	141	0.23	613	〃	382	164	0.11		〃
259	205	-	612	〃	317	141	0.09		〃	383	164	0.11		〃
260	205	-	〃	〃	318	161	0.34	613	〃	384	143	-	615	〃
261	205	-		〃	319	161	0.11	〃	〃	385	143	0.15		〃
262	205	-		〃	320	222	0.16	〃	〃	386	143	0.1	615	〃
263	107	0.09		〃	321	222	0.09	〃	〃	387	143	0.13		〃
264	108	0.22		〃	322	243	0.33	〃	〃	388	143	0.09	615	〃
265	205	-		〃	323	263	0.28		〃	5区土坑表				
266	205	-	612	〃	324	263	0.15		〃					
267	205	-		〃	325	263	0.26		〃	番号	グリッド	深度(-)	遺物図	時代・時期
268	205	-	612	〃	326	263	0.12	613	〃	1	5・6	0.15		近世
269	205	-	〃	〃	327	183	0.13		〃	3	24	0.4		近世
270	205	-		〃	328	184	0.07	613	〃	4	26・46	0.11	615	中世か
271	205	-	612	〃	329	184	0.07		〃	5	25	0.1		〃
272	205	-	〃	〃	330	203	0.27		〃	7	5	0.22		近世
273	204	0.28	〃	〃	331	244	0.08		〃	8	6	0.11	615	〃
274	224	0.3	〃	〃	332	203	0.07	613	〃	9	22	0.21		〃
275	223	0.31	〃	〃	333	203	-		〃	10	22	0.34	615	〃
276	183	0.17		〃	334	203	0.02	613	〃	12	22	0.33	〃	縄文時代
277	183	0.28		〃	335	223	0.17	〃	〃	13	29	0.15	616	古代か
278	183	0.2		〃	336	203	0.1	〃	〃	15	297	0.12		近世
279	183	0.14		〃	337	1-160	0.21	613	〃	16	216・217	0.09		縄文時代
280	183	0.29	612	〃	338	1-140	0.5		〃	17	217・237	0.2	616	近世
281	142	0.14		〃	339	141	0.18	613	〃	18	239・259	0.12	616	近代
282	121	0.27	612	〃	340	243	0.19	〃	〃	19	180	0.15		古代か
283	108	0.43		〃	342	1-140	0.1	〃	〃	20	157	0.19		縄文時代
284	124	0.34		〃	343	1-140	0.19	〃	〃	21	179・199	0.03		古代か
285	108	0.44		〃	344	1-140	0.45	〃	〃	22	-	-	616	縄文時代
286	106	-	612	〃	345	1-140	-	614	〃	23	155・156	0.56		古代
287	128	-		〃	346	141	0.19		〃	24	240	0.1		縄文時代
288	108	-	612	〃	347	147	0.18	614	〃	25	138	0.16	616	〃
289	108	0.09		〃	348	145	0.41	〃	〃	26	121・141	0.31		古代
290	144	0.11		〃	349	126	-		〃	27	139・159	0.11		近世
290	183	0.11		〃	350	126	-		〃	28	25・77	0.51		〃
291	148	0.07		〃	351	126	0.24		〃	29	187	0.11		縄文時代
292	167	0.28		〃	353	125	0.82	614	〃	30	187	0.21		〃
293	167	0.28		〃	354	105	-		〃	31	228	0.11	616	〃
294	183	-		〃	355	122	0.12	614	〃	32	245	0.22	〃	〃
295	183	0.14		〃	356	141	0.15	〃	〃	33	270・290	0.44		〃
296	183	0.47	612	〃	357	203	0.12		〃	34	265・266	0.06	616	〃
297	183	0.14		〃	358	126	0.46	614	〃	35	285	0.03	〃	〃
298	183	0.16		〃	359	1-140	0.05	〃	〃	36	285・286	0.13		〃
299	204	0.04		〃	360	105	0.28		〃	37	306	0.16		〃
300	204	0.2		〃	361	-	-	614	〃	38	286・306	0.11		〃
301	223	0.04		〃	362	104	0.16		〃	39	285	0.16		〃
302	223	0.21	612	〃	363	107	0.41	614	〃	40	326・327	0.72	616	〃
303	223	0.4		〃	364	1-160	0.22	615	〃	41	326・346	0.22	〃	〃
304	243	0.06		〃	365	142	0.28	〃	〃	42	325	0.22	〃	〃
305	223	0.04		〃	366	1-140	0.21		〃	43	325	0.13	〃	〃
306	243	0.27	612	〃	367	4-121	0.16		〃	44	326	0.12	617	〃
307	243	0.16	〃	〃	368	122	0.15	615	〃	45	324・344	0.11		〃
308	243	0.45	〃	〃	369	127	0.16	〃	〃	47	307・327	0.14	618	〃
309	242	0.18	〃	〃	370	-	-	〃	〃	48	327	0.17		〃
310	182	0.3	〃	〃	371	-	-	〃	〃	49	346	0.23	618	〃

遺構計測値・土層説明

土坑一覧表5 (5区・6区)

番号	グリッド	深度(-)	遺物図	時代・時期	番号	グリッド	深度(-)	遺物図	時代・時期	番号	グリッド	深度(-)	遺物図	時代・時期
68	227	0.2	〃	縄文時代	110	283	0.06	〃	縄文時代	174	5	0.36	623	縄文時代
69	129	0.35		〃	111	305	0.09	〃	〃	179	5			中世初?
71	306	0.2	618	〃	112	347	0.07		〃	180	5	0.2	623	
72	306・326	0.73	〃	〃	113	305	0.19		〃	181	19	0.56		縄文時代
73	346	0.34		〃	114	364	0.17	619	〃	182	73	0.25		中世
74	129・149	0.21	619		115	364	0.04	〃	〃	183	73	0.51		〃
75	229・249	0.06	〃	近世	116	345	0.13		〃	186	63 (1井戸)			古代
76	169・170	0.09	〃	〃	117	323	0.04		〃	187	19	0.15		
77	366	0.12		縄文時代	118	323	0.03		〃	188	37	-		
78	346	0.16	619	〃	119	323	0.05		〃	218	205	0.08		
79	227	0.12	〃	古代か	120	323	0.19		〃	219	205	-		
80	283・303	0.29	〃	縄文時代	121	323	0.07		〃					
81	365	0.2		〃	122	322	0.26	620	〃	6区土坑表				
82	366・367	0.33	619	〃	123	304	0.23		〃	番号	グリッド	深度(-)	遺物図	時代・時期
83	366・386	0.27	〃	〃	124	283	0.07		〃	2	190・210	0.3		近世
84	386・387	0.37	〃	〃	125	282・283	0.14	620	〃	3	190・191	0.15		〃
85	386・387	0.26	〃	〃	126	303	0.52		〃	4	210・211	0.14		〃
86	386・387	0.26		〃	127			620	縄文時代か	5	210・211	0.18		〃
87	367・387	0.39	619	〃	128	343	0.15		縄文時代	6	210	0.18		〃
88	387	0.06	〃	〃	129	361・381	0.35	620	〃	7	210	0.09	624	縄文時代か
89	387	0.39		〃	130	361・381	-		縄文時代	8	330	0.2		近世
90	367	0.2	619	〃	131	261	-	620	中世	9	210	-		〃
91	367・387	0.26	〃	〃	134	-	-	〃	縄文時代	10	210	0.08		近世
92	367	0.3	619	〃	135	203	0.14		〃	11	209・210	0.19	624	〃
93	305	0.15	〃	〃	136	204・224	0.38	620	〃	12	209	0.05		〃
94	4-2	0.27	〃	縄文時代	137	-	-	〃	〃	13	230	0.23		〃
95	-	-	〃	〃	138	204	1	〃	近世	14	326・327	0.06		〃
96	367	0.27	〃	縄文時代か	139	203	0.12	〃	縄文時代	15	229・230	0.12	624	縄文時代か
97	327・347	0.09		縄文時代	140	104	0.16	〃	〃	16	229・230	0.08		近世
98	327	0.58		〃	141	183	0.14		〃	17	208	0.4		〃
99	364	0.12		〃	142	182・183	0.15		中世	18	247・248	0.26		〃
100	364	0.45	619		143	182・183	0.05		縄文時代	19	248	0.24	624	〃
101	367	0.25	〃	縄文時代	144	162	0.82		〃	20	268・269	0.12		〃
102	263・283	0.11		〃	146	165	0.09		〃	21	209	0.1		〃
103	246	0.14		〃	147	165	0.13		〃	22	210	0.13		近世
104	187	0.14		〃	148	165	0.11		〃	23	210	0.13		〃
105	168	0.06	619	古代か	149	145	0.28	621	〃	24	290・291	0.24		〃
106	269	0.11		縄文時代	150		0.42		〃	25	290	0.14	624	〃
107	270	0.09		〃	151	146	0.24	621	〃	26	270	0.4		〃
108	208	0.1		〃	152	146	0.25	〃	〃	28	310	0.14		〃
109	308	0.52	619	〃	153	145・146	-	〃	〃	30	330	0.36		〃
50	346	0.09	〃	〃	154	145・146	0.07		〃	31	349	0.11		〃
51	346	0.23	〃	〃	155	146	0.12		〃	32	350	0.1		〃
52	303	0.26	〃	〃	156	146	0.05		〃	33	350	0.14		〃
53	287・307	0.32		〃	157	146	0.11		〃	34	350	0.42		〃
54	169	0.11		〃	158	146	0.12	621	近世	35	349	0.34		〃
55	347	0.19	618	〃	159	146	0.1		縄文時代	36	347	0.12		〃
56	347	0.15		〃	160	144	0.09		〃	37	366	0.07		〃
57	347	0.15	618	〃	161	124・144	-		〃	38	367	0.1		〃
58	284	0.17		〃	162	124・125	-		〃	39	387	0.16		〃
59	325	0.17	618	〃	163	124・144	0.39		〃	40	366	0.2		〃
60	343・344	0.24	〃	〃	164	83	0.18	621	〃	41	365・366	0.18		〃
61	345・365	0.27	〃	〃	165	82	0.63	〃	〃	42	365・366	0.11		〃
62	367	0.06		〃	166	386・387	0.11	622	〃	43	385	1	626	古墳
63	367	0.24	618	〃	168	63	-		5-1井戸	47	-	-	〃	近世
64	344	0.24	〃	〃	169	83	0.45		縄文時代	48	209		〃	〃
65	364	0.2	〃	〃	170	83	0.28		〃	49	268	0.18		〃
66	364	0.17		〃	171	185	0.21		〃	51	226	0.21		〃
67	345	0.19	618	〃	173	111	0.25	622	中世	52	226・227	-	627	〃

土坑一覧表

土坑一覧表6 (6区・7区)

番号	グリッド	深度(-)	遺物図	時代・時期	番号	グリッド	深度(-)	遺物図	時代・時期	番号	グリッド	深度(-)	遺物図	時代・時期
53	226・227	0.16		近世	114	99・119	0.06		〃	8	338	0.39	〃	近世
54	245	0.24		〃	115	399	0.13	629	〃	9	359	0.07	〃	〃
55	245	0.13		〃	116	379・380	0.21	〃	古代か	10	339	0.21	〃	〃
56	267・268	0.16		〃	117	380	0.06		古代	11	338	-		〃
57	267・268	0.36		〃	118	380	-		堀立	12	338	-		〃
58	382	0.28	627	〃	119	359・360	0.15		古代	13	358	0.51		〃
59	368	0.3		〃	120			629	堀立	14	360	0.1		〃
60	383	0.45		〃	121	378	0.21	〃	近世	15	338	-		〃
61	362・363	0.31		〃	122	378	0.07		〃	16	358	0.85	630	〃
62	363	0.27		〃	123	376	0.17	629	〃	17	358	0.59	〃	〃
63	-	-	627	〃	124	336	0.31		〃	18	360	0.24	〃	〃
64	364	0.26		〃	125	316	0.19		〃	19	340・360	-		〃
65	364	0.3		〃	126	338	0.19	629	〃	20	340・360	0.33		〃
66			627	〃	127	318・319	0.37	〃	中世	21	360	0.47		〃
67	381	0.11	〃	〃	128	339	0.28	〃	古代か	22	340・360	0.52		〃
68	381	0.2		〃	129	299・319	0.06		〃	23	340	0.3	631・2	〃
70	362・382	0.1		〃	130	299	0.17		近世	24	340	0.3		〃
71	351	0.17		〃	131	320	0.24	629	古代か	25	340	0.33		〃
72	272	0.37		〃	132	379	-		〃	26	340	0.28		〃
73	252	0.22		〃	133	360	0.23	629	古代	27	340	0.31	633	〃
74	252	0.12		〃	137	-	-	〃	〃	28	340	0.37		〃
75	383・384	0.28	627	〃	141	20	0.26	〃	中世	29	339・340	0.44	633	〃
76	382	0.32	〃	〃	142	19・20	0.05	〃	〃	30	319	0.1	634	〃
77	332	0.12		〃	143	19・20	0.46		〃	31	319	0.2		〃
78	371・372	0.28		近世	144	20	0.07		〃	32	318・319	0.25		〃
79	371・372	-	627	縄文時代	145	20	0.03		〃	33	319			〃
80	294	0.44		近世	146	20	0.13		〃	34	298・318	0.2		〃
82	(対標48)	-		〃	147	20	0.22		〃	35	339	0.07	634	〃
83	(対標48)	-		〃	148	20	0.36		〃	36	319・339	0.36		〃
84	6-280	0.24	628	古墳	149	20	0.15		〃	37	339	-		〃
85	280	0.12		近世	150	6-20	0.45	629	〃	38	339・359	0.34		〃
86	280	0.1		〃	151	20	-		〃	39	359	0.36	634	〃
87	280	0.15		〃	152	19	0.11		〃	40	359	0.45		〃
88	280	0.14	628	〃	153	18・19	0.15	629	〃	41	359	0.36		〃
89	260・280	0.43	〃	〃	154	18	0.19		〃	42	359	0.81		〃
90	260・280	0.13	〃	〃	155	18	0.13		〃	43	339・359	0.51	634	〃
91	260	0.29		〃	156	18	0.4	630	〃	44	359	0.09	〃	〃
92	260	0.22	628	〃	157	20・40	-	〃	〃	45	359	0.08	〃	〃
93	259	0.17	〃	古代か	158	200	0.48		近世	46	359・379	0.38		〃
94	279	0.09	〃	近世	159	200	0.27		〃	47	358・359	0.55		〃
95	279	0.5	〃	〃	160	6-220	0.23	630	〃	48	359	0.11	634	〃
96	279・299	0.31	〃	中世	161	-	-	〃	〃	49	358	0.1	〃	〃
97	277	0.19	〃	近世	162	6-180	0.25	〃	〃	50	358	0.22		〃
98	277	0.11		〃	163	6-180	0.22		〃	51	358	0.33		〃
99	298	0.19		近世	164	6-180	0.06	630	〃	52	358	-		〃
100	297	0.38		〃	165	6-180	0.14	〃	〃	53	358	-		〃
101	256・276	0.12	628	〃	166	180	0.1		〃	54	378	0.15		〃
102	255	0.16	〃	中世	167	160・180	0.18	630	〃	55	358・378	0.05		〃
103	276	0.07		近世	168	160・180	0.25		〃	56	358	0.15		〃
104	295・315	0.11		〃						57	378	0.11		〃
105	296・315	0.27		中世	7区土坑表					58	378	0.08		〃
106	316	0.06		〃	番号	グリッド	深度(-)	遺物図	時代・時期	59	378	0.1	634	〃
107	336	0.4		〃	1	320・340	0.23		近世	60	378・398	0.25		〃
108	356・376	0.08		〃	2	340・360	0.52	630	〃	61	378	0.08		〃
109	376	0.06		〃	3	360	0.19	〃	〃	62	398	0.44	634	〃
110	315	0.19		〃	4	340	0.08	〃	〃	63	378・398	0.22	〃	〃
111	296	0.07		近世	5	359・360	0.3	〃	〃	64	378・379	0.14		〃
112	316	0.32		〃	6	360	-		〃	65	378・379	0.21	634	〃
113	120	0.16		〃	7	340	0.22	630	〃	66	398	0.19		〃

遺構計測値・土層説明

土坑一覧表7 (7区～9区)

番号	グリッド	深度(-)	遺物図	時代・時期	番号	グリッド	深度(-)	遺物図	時代・時期	番号	グリッド	深度(-)	遺物図	時代・時期
67	399	0.19	634	近世	127	339・340	0.39			38	31・51	0.44		
68	399	0.11		〃	128	360	0.12			39	51	0.3		
69	399	0.21		〃	129		0.33			40	30	0.26	638	
70	379	0.75		〃	130	400	0.08	636		41	1・2	0.35	〃	古代
71	379	0.48		〃	131	400	0.18			42	22	0.06		〃
72	379	0.14		〃	132	6・20	0.12	636		43	23・42	0.14	638	中世
73	379	0.16		〃	133	400	0.08	〃		44	23・43	0.15	〃	〃
74	379・380	0.27		〃	134	400	0.14			45	43	0.06	〃	〃
76	379	0.12		〃	135	400	0.09	636		46	25・45	0.15	〃	〃
77	379	0.24		〃	136	400	0.02	〃		47	46	0.28	〃	古代
78	359・379	0.36		〃	137	400	0.14	〃		48	3	0.08		〃
79	379	0.63	635	〃	138	10-381				49	22	0.14		近世か
80	380	0.32		〃	139	400	0.12	636		50	-	-	638	縄文時代
81	380	0.3	635	〃	140	398	0.26			52	48	0.08		
82	360・380	0.07		〃	141	398	0.46	636		53	28	0.13		
83	380	0.1	635	〃	142	398	0.43	〃		54	48	0.22	638	近世
84	380	0.5		〃	143	398	-	〃		55	7・27	0.15		中世
85	380	0.09		〃	144	398	-			56	47	0.09		中世か
86	380	0.12		〃	145	400	0.28			57	67	0.06	638	古代
87	380	0.11		〃	146	399	0.28	636		58	66	0.24		〃
88	380	0.44		〃	147	399	0.12			59	66	0.1		現代
89	380	0.29		〃	148	378	0.27			60	66	0.1		近世
90	360	0.14		〃	149	379	-			61	66・67	0.14		縄文時代
91	380	0.24		〃						62	28	0.07		
92	380	-	635	〃	8区土坑表					63	27・28	0.07		
93	400	-		〃	番号	グリッド	深度(-)	遺物図	時代・時期	64	2	0.16		
94	400	0.08		〃	1	5-181	0.28		古代	65	84	0.2	638	古代
95	400	0.51		〃	2	162	0.07	636	近世	66	85	0.11		縄文時代
96	399・400	0.25	635	〃	3	161	0.18		〃	67	6・7	0.21	638	近世か
97	399・400	0.21	〃	〃	4	125	0.75		古代	68	6	-	639	〃
98	379・399	0.04	〃	近世	5	127	0.08		近世か	69	7	0.2	〃	〃
99	379	-		〃	6	127	0.09		〃	70	7	0.09		古代
100	399	-		〃	7	88	0.16	636	古代	71	26	0.5	639	縄文時代
101	399	0.1		〃	8	141・161	0.07	〃	近世	72	25	0.42	〃	〃
102	399	0.1		〃	9	144	0.16		古代	75	43・44	-	〃	近世
103	399	-		〃	10	145	0.06	637	縄文時代	78	32	0.44	〃	近世
104	399	0.15		〃	11	107	0.12		古代	79	32・52	0.6		〃
105	399	0.06		〃	12	87	0.12	636	〃	80	52	0.12		
106	399	0.21	635	〃	13	87	0.15		〃	81	52	0.1		
107	398・399	0.23	〃	〃	14	81・82	0.55	636	縄文時代	82	12	0.35		
108	340	0.32		〃	15	66	0.28		〃					
109	339	0.12		〃	16	65	0.09		〃	9区土坑表				
110	318	0.2		〃	17	65	0.13		〃	番号	グリッド	深度(-)	遺物図	時代・時期
111	319	0.1		〃	18	67・87	0.4		古代	1	394	0.21		古代
112	319	0.37		〃	19	66・86	0.67		〃	2	394	0.22		〃
113	319	0.12	635	〃	20	61・62	0.17	637	古代	3	394	0.18	640	〃
114	338	0.36		〃	21	5-80	0.3		縄文時代	4	374	0.35		古代
115	359	0.17		〃	22	68・69	0.07	638	〃	5	374	0.29	640	32堀立
116	298・318	0.09		〃	23	126・127	0.05		縄文時代	6	374	0.62	〃	古代
117	318	-	635	〃	24	83	0.15	638	中～近世	7	374	0.35	〃	32堀立
118	320	0.13		〃	25	61	0.03		縄文時代	8	354・374	0.44		〃
119		0.26		〃	27	-	-	638	近代	9	354	0.16	640	近世か
120	359・360	0.1		〃	30	31	0.14	〃	古代	10	354	0.07	〃	古代
121	380	0.47		〃	31	30・31	0.26	〃	近世	11	354	0.37		32堀立
122	379	0.13		〃	32	31	0.16	〃	〃	12	334・354	0.28	640	古代
123	399	0.08		〃	34	51	0.13	〃	古代	13	355	0.19	〃	〃
124	399	0.14		〃	35	-	-	〃	中世	14	335・355	0.1		近代
125	399	0.15		〃	36	31	0.4		古代	15	335	0.1	640	古代
126	380・400	0.32	635	〃	37	31	0.32		〃	16	336	0.08		

土坑一覧表

土坑一覧表 8 (8区・9区)

番号	グリッド	深度(-)	遺物図	時代・時期	番号	グリッド	深度(-)	遺物図	時代・時期	番号	グリッド	深度(-)	遺物図	時代・時期
75	43・44	-	〃	近世	54	284・304	-	641	近世	115	109	0.11		
78	32	0.44	〃	近世	55	284	0.23	〃	〃	116	89	0.07	646	中世
79	32・52	0.6		〃	56	284・304	0.22	〃	中世か	117	90・91	0.27		〃
80	52	0.12			57	283	0.16	〃	中世	118	9	0.1	646	〃
81	52	0.1			58	283	0.05	〃	古代	119	51	0.08	〃	近世
82	12	0.35			59	263・283	0.13	〃	中世	120	30	0.12		中世
9区土坑表					60	263	0.23		古代	121	70・90	0.41	646	近世
					61	263	0.33	641	中世	122	70・71	0.25		中世
					62	263	0.35		〃	123	51			
番号	グリッド	深度(-)	遺物図	時代・時期	63	381・382	0.3	641	〃	124	51			
1	394	0.21		古代	64	261・262	0.21	〃	〃	125	49	0.11		
2	394	0.22		〃	65	241・261	0.26	〃	〃	126	48	0.19	646	古代
3	394	0.18	640	〃	66	261	0.37		〃	127	67・68	0.32	〃	中世
4	374	0.35		古代	67	381	0.08	644	近世	128	67・68	0.15	〃	近世
5	374	0.29	640	32堀立	68	331	0.17		近世	129	68	0.1		〃
6	374	0.62	〃	古代	69	332	0.44	644	古代か	130	67	0.19		中世
7	374	0.35	〃	32堀立	70	263	0.33		〃	131	67	0.24	646	中世
8	354・374	0.44		〃	71	311・312	0.27	644		132	87	0.11	〃	〃
9	354	0.16	640	近世か	72	355・375	-		近世	133	88	0.12	〃	
10	354	0.07	〃	古代	73	144	-		〃	134	87・88	-		
11	354	0.37		32堀立	74	144	-		〃	135	88	0.1		近世
12	334・354	0.28	640	古代	75	144	0.1	644	〃	136	87	0.16	646	中世
13	355	0.19	〃	〃	76	124	0.37	〃	〃	137	87	0.16	〃	近世
14	335・355	0.1		近代	77	124	0.34	〃	〃	138	87	0.38		〃
15	335	0.1	640	古代	78	124	0.37	〃	〃	139	87	0.3	646	〃
16	336	0.08			79	124	0.36	642・3	近世か	140	68	0.2		〃
17	336・356	0.2	640	古代	80	124・125	0.2	644	近世	141	150	0.47		
19	-	-	〃	〃	81	82・102	0.13	〃	〃	142	249	0.12	646	近世
20	354	0.24		32堀立	82	82	-		〃	143	248・249	0.37		〃
21	312	0.03		古代	83	65	0.16	644	中世	144	249	-		
22	312	0.16	640		85	86・106	0.1	〃	〃	145	248	0.17		近世
23	312・332	0.15	641	近世	86	124	0.19	〃	近世	146	247	0.74	646	25堀立
24	331	0.15	〃	〃	87	124	0.14	645	〃	147	247	0.07	〃	近世
25	331・332	0.1	〃	〃	88	24	-	〃		148	206・226	0.14	〃	古代
26	331・332	0.06	〃		89	24	-	〃		149	206・226	0.27	〃	〃
27	311	0.03		近世	90	104	0.09		近世	150	226	0.23	〃	〃
28	332・352	0.13	641	〃	91	84	0.27	645	〃	151	26	0.19		近世
29	-	-	〃	〃	92	103	0.07	〃	中世	152	206・207	0.08	647	中世
30	331	0.15	〃	中世	93	123	0.14		近世	153	185・205	0.07		〃
31	290・310	0.26	〃	〃	94	103・123	-	645	中世	154	186	0.28		近世
32	310	0.05		近世	95	123	0.7			155	7	0.16		中世
33	289・309			28堀立	96	122	0.28		近世	156	8	0.22	647	近世
34	309	0.11	641	近世	97	142	0.05		〃	157	8	0.29	〃	中世
35	289・309	0.61	〃		98	142・162	0.05	645	〃	158	7・8	0.08		〃
36	309	0.13	〃	中世	99	142・162	0.12		〃	159	7・8	0.13	647	〃
37	330・331	0.08	〃	〃	100	141	0.31		中世	160	7	0.23	〃	〃
38	330	0.09		古代	101	141	0.33		近世	161	6・26	0.16	〃	〃
39	308	0.22	641		102	141	0.22		〃	162	7・27	0.18	〃	〃
40	287	0.25	〃	中世	103	121・122	0.36	645	近代	163	161	-		〃
43	287	0.3		近世	104	122	0.13		近世	164	166	0.27		近世
44	287	0.11		中世	105	122	0.2		〃	165	147	0.17	647	〃
45	287	0.23		〃	106	121	0.42	645	〃	166	166・167	0.13	〃	
46	287・306	0.14		古代	108	121	0.12			167	167	0.13		古代
47	286	0.56		25堀立	109	6-140	0.09	645	近世	168	8	0.26	647	〃
48	266	0.08			110	228	0.22	〃	〃	169	7・27	0.23	〃	〃
49	286	0.54		25堀立	111	101	0.09		〃	170	8・28	0.28	〃	〃
50	286	0.48		〃	112	101	0.22		〃	171	8・28	0.31	〃	〃
51	266	0.2		近世	113	101	0.09		〃	172	8・28	0.3	〃	〃
52	285	0.15	641	中世	114	108・128	0.56	646		173	28	0.18		〃
53	306	0.05		近世										

遺構計測値・土層説明

土坑一覧表 8 (9区)

番号	グリッド	深度(-)	遺物図	時代・時期	番号	グリッド	深度(-)	遺物図	時代・時期	番号	グリッド	深度(-)	遺物図	時代・時期
174	28	0.28		古代	234	206	0.14	651	近世	297	322	0.36	653	近代
175	8・28	0.29	648	〃	235	206	0.15		〃	298	381	0.31	〃	
176	28	0.31		〃	236	206	0.16		〃	299	230	0.37	〃	近世
177	28				237	181	0.19		〃	300	210・230	0.17	〃	古代
178	48・49	-	648	近世	238	181	0.25		〃	301	-	-	〃	〃
179	47	0.5	〃	〃	239	181	-		〃	302	269	0.6		
180	67	0.23		近世	240	181	0.12		〃	303	27	0.62		
181	46	-		〃	242	202	0.11		〃	304	27	0.68		9堀立
182	26	0.26	648	〃	243	202	0.1		〃	305	27	0.69		古代か
183	48・68	0.14	〃	中世	244	202	0.2		〃	306	270・290	-		〃
184	49・69	0.27	〃	〃	245	202	0.16		〃	307	271	0.71		16堀立
185	66・86	0.36	〃	近世	246	182	0.39	651		308	271・291	0.35	653	〃
186	66	0.23	〃	古墳	247	63・64	0.22	〃		309	291・292	0.27	〃	中世
188	44・45	0.2		近世	248	222・242	0.12	〃		310	-	-	〃	〃
189	44	0.19	648	〃	249	222	-			311	292	0.51	〃	近世
190	44	0.11	〃	中世	250	221・222	0.06	651	近世	312	272	0.7	〃	
191	64	0.3	〃	近世	252	165		〃	近代	313	272	0.7		16堀立
192	63・83	0.15		〃	253	202・222	0.34		近世	314	272	0.58		〃
193	85	0.16		近世	254	306・326	0.32	652	中世	315	272	0.52	653	古代か
194	106	0.13	648	〃	255	326	0.3		〃	316	272	0.17	〃	〃
195	106・126	0.15	649		256	326	0.3	652	中世	317	272	0.62	654	28堀立
196	106・126	0.09	〃	近世	257		0.06			318	272・273		〃	近世
197	127	0.2	〃	〃	258	325・326	0.06		中世	319	273	0.53		16堀立
198	145	0.19			259	326・345	0.23	652	〃	320	273	0.67	654	〃
199	145	0.18		近世	260	345	0.13		〃	321	273	0.67		〃
200	145	0.1		〃	261	325	0.36		〃	322	273・274	0.2		近世
201	45	0.1	649	〃	262	305	-		近世	323	274	0.2	654	〃
202	125	0.27	〃	〃	263	305	-	652	〃	324	273	-		16堀立
203	125	0.19	650	〃	264	304・305	-		〃	325	253・273	0.63	654	中世
204	126	0.12		〃	265	325	0.09	652	中世	326	253・273	0.59	〃	〃
205	126	0.04		〃	266	325	0.21		〃	327	274	0.76	〃	16堀立
206	107	-	650	〃	267	324・325	0.24		〃	328	294	0.21	〃	中世
207	29	0.55		〃	268	324	0.3	652	〃	329	294・314	-		
208	8	0.28		〃	269	304	-	〃	中世か	330	294・314	0.18		
209	106	0.35		〃	270	303・323	-	〃	〃	331	295	0.15	654	古代
210	248	0.37	650	〃	271	303	0.1		近世	332	295	0.07	〃	〃
211	247・248	0.3	〃	〃	272	303	0.1	652	〃	333	295	0.07	〃	〃
212	46・47	0.37	〃	〃	273	303	-	〃	中世	334	315	-	〃	
213	164・165	0.31	〃		274	301	0.55	〃	近世?	335	295	0.14	〃	古代
214	26・27	0.35		古代	275	321	0.38	〃	中世	336	295	0.08	〃	近世
215	105	0.21	650	近世	276	321・341	0.07	〃	〃	337	295	0.13		古代
216	9	0.1	〃	古代	277	321	-	〃	近世か	338	295	0.2	654	近世
217	9	0.21		近世	278	323・324	0.14		中世	339	295	0.27	〃	〃
218	144	0.1		〃	279	324・343	0.12		〃	341	296	0.14	〃	古代
219	144	0.27			280	345	0.26	652	〃	342	296・297	0.11	〃	中世
220	144・145	0.05		中世	281	364	0.04		古代	343	297	0.19	〃	〃
221	125・126	0.29		近世	282	364	0.23	652	中世	344	277・297	0.15		古代か
222	45	-	650	古墳	283	363	0.23		古代	345	277	1.02		古代
223	183	0.21		近世	284	342・343	0.22	652	中世	346	277	0.7		〃
224	183	0.14		〃	285	322・342	0.13		〃	347	277・297	0.33		近世
225	183	0.29		〃	286	381	0.21	652	古代	348	277	0.17	654	〃
226	183	0.21		〃	287	382	0.08		古代か	349	278・298	0.25	〃	〃
227	182	-		〃	288	361	0.13		古代	350	278	0.77		17・27堀立
228	182	0.18		〃	289	361	0.19		近世	351	278	-		27堀立
229	182	0.43		〃	290	342	0.11		中世	352	278	-		17堀立
230	183	0.57		〃	291	283・303	0.15	652	近世	353	257	0.43		
231	207	0.27	651	古代	293	206	0.26			354	258・278	0.57		17堀立
232	182	0.1		近世	294	365	0.19	653	古代	355	257・277	0.4	655	
233	206	0.15		〃	295	365	0.2		近世か	356	257・258	0.16	〃	中世